

提出第 8 号

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等を報告する書類の提出について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定により、令和 3 年度教育委員会活動の点検及び評価報告書を別紙のとおり提出する。

令和 4 年 11 月 29 日提出

京丹後市教育委員会

令和3年度

教育委員会活動の点検及び評価報告書

令和4年11月

京丹後市教育委員会

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会においては、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第二十六条の規定に基づき、令和3年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

京丹後市教育委員会委員名簿（令和3年度末現在）

| 職名 | 氏名 |
|----------|-------|
| 教育長 | 松本明彦 |
| 教育長職務代理者 | 野木三司 |
| 委員 | 久下多賀子 |
| 委員 | 田村浩章 |
| 委員 | 安達京子 |

目 次

○自己点検・評価について

○教育に関する学識経験者の意見

| | |
|---|-----|
| I 教育委員会の活動状況 | |
| 1. 教育委員会の開催状況 | 1 |
| 2. 教育委員会委員の主な活動 | 5 |
| II 施策評価・進捗管理調査 | |
| 【重点目標1】就学前の子どもの教育・保育環境を充実します | 7 |
| ① 就学前教育の環境整備 | |
| ② 保育所、認定こども園及び小学校の連携強化 | |
| 【重点目標2】確かな学力・生き抜く力を育みます | 17 |
| ① 小中一貫教育の推進 | |
| ② 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上 | |
| ③ 確かな学力の育成 | |
| ④ 社会を生き抜く力の育成 | |
| 【重点目標3】子どもを健やかに育む教育環境を充実します | 30 |
| ① 子どもの安全・安心の確保 | |
| ② 学校施設環境等の整備充実 | |
| ③ 個に応じた支援体制の充実 | |
| ④ ボランティアによる学習支援の推進 | |
| ⑤ 教職員が子どもと向き合える環境づくりの推進 | |
| 【重点目標4】豊かな人間性・社会性を育みます | 50 |
| ① 人を思いやり、尊重する社会性の育成 | |
| ② 生徒指導体制、教育相談体制の充実 | |
| ③ 家庭・地域の教育力の向上 | |
| ④ 文化芸術を通じた豊かな感性、情緒の育成 | |
| 【重点目標5】生涯にわたる豊かな学びを支援します | 63 |
| ① 生涯学習の体制づくり | |
| ② 人権教育の推進 | |
| ③ 社会教育施設等の整備充実 | |
| 【重点目標6】歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます | 75 |
| ① 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実 | |
| ② 地域の文化財の総合的な保存と活用 | |
| ③ 資料館施設等の整備充実 | |
| ④ 文化芸術活動の推進 | |
| 【重点目標7】たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツを推進します | 84 |
| ① 健康な体づくり | |
| ② 食育の推進 | |
| ③ 地域スポーツ活動の推進 | |
| ④ 競技力の向上 | |
| ⑤ 社会体育施設等の整備充実 | |
| ⑥ スポーツ観光のまちづくり | |
| III 学校評価自己評価 | |
| 学園毎評価・学校評価自己評価 | |
| 1. 学園小中一貫、こども園、学校評価自己評価報告一覧 | 95 |
| 2. 学園小中一貫教育報告書 | 98 |
| 3. 学校評価自己評価報告（こども園、小・中学校） | 122 |

令和3年度の教育活動を振り返って

令和3年度の教育行政は、京丹後市教育振興計画の基本理念に基づき、京丹後市が目指す教育「心豊かにたくましく 幸福な未来を切り拓く力を育む教育」「ふるさとへの愛着と誇りを持ち 新しい価値を創り出す力を育む教育」の実現に向け、さまざまな教育施策を推進してきました。

令和元年度から3年度にかけての新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の一斉臨時休業や行事などの延期や中止を余儀なくされましたが、一方で行事の規模縮小など感染対策に努めながら教育活動を進めました。

平成28年度より全市展開となりました京丹後市の最も大きな教育振興策である「小中一貫教育」は、令和2年度から「保幼小中一貫教育」と名称を変更し、「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、6つの学園が特色を生かしながら、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指す教育活動に取り組みました。

今年度は、「保幼」の教育・保育を発信するため、峰山こども園において京丹後市教育フォーラムを実施しました。保育参観を行ったあと、「乳幼児期の教育・保育の研究・実践について」と題し実践報告を行い、幼児教育の大切さや10年間ではぐくみたい力をめざし、一貫教育を進めていることを市内に広めることができました。

子育て支援関係では、公営の保育所、幼保連携型認定こども園で、保育業務の負担軽減や、保護者の利便性向上を目的に、保育業務支援システムを導入しました。また、放課後児童クラブは継続して10か所開設し、子どもたちの安全・安心な放課後の健全な育成に取り組むとともに、令和2年11月から峰山放課後児童クラブで開始しました日曜日・祝日の開設を通年で実施しました。市内8か所に設置している子育て支援センターでは、子育て相談・交流・ふれあいの場として、身近な地域で子育て支援を実施している一方、網野地域子育て支援センターでは、旧保育所を活用し、登録者のクラス分けをすることなく自由に利用できる環境を整備し、子育て支援の充実を図っています。さらに、市内の事業所等が行う授乳用設備等の整備に要する経費を助成し、子育て支援環境の充実に努めました。

学校教育関係では、令和2年度まで10年間にわたって実施してきた京丹後市学校再配置基本計画について、計画期間後においても複式学級の発生が見込まれる学校があることから、この計画を引き継ぎ、今後10年間を見据えた計画と策定すべく、対象となる地域・保護者に対して説明会・意見交換会を開催し、計画に対する理解を深める取組を行い、京丹後市学校適正配置基本計画を策定しました。また、語学力の向上及び国際的視野を持った人材の育成を目的に、平成28年度から取り組んでいる

「中学生海外派遣事業」は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により現地派遣は中止となりましたが、他国の文化や言語に触れ国際的視野を持てるよう「オンラインホームステイ」を実施し、15人の生徒それぞれがオンラインによりフィリピンホストファミリーと交流を深めながら貴重な成果等を得ることができました。学習環境の整備では、網野北・島津小学校の2校のトイレ洋式化事業が完了するとともに、「新しい生活様式」を踏まえ、6中学校の特別教室空調化事業が完了するなど教育環境の整備に努めました。また、国のGIGAスクール構想に基づき、全小中学校に整備した高速校内LAN環境及び、児童・生徒・教職員1人1台のタブレット端末の活用を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による学校の学年・学級閉鎖時にオンライン授業を実施するなど、学びの保障の取組を実施しました。

今後もGIGAスクール構想の実現に向けたICT環境の利活用を着実に実施していきます。

社会教育関係では、新型コロナウイルス感染症拡大で計画どおりの事業実施が困難な状況でしたが、地域公民館を中心に乳幼児から高齢者まで各世代を対象とした学習機会の確保に努めることができました。また、図書館事業では、Wi-Fi接続サービスや図書除菌機の導入など新たな取組により、利用者数がコロナ禍前の水準に回復しました。社会体育関係でも感染症拡大による事業の中止や縮小を余儀なくされましたが、はごろも陸上競技場での「市民陸上記録会」の実施や久美浜湾カヌーセンターを活用した東京2020オリンピックのスペイン及びポルトガル代表チームの事前合宿受入などスポーツのまちづくりを進めることができました。

文化財保護関係では、今後の文化財の保存・活用の方向性を示すものとして、京丹後市文化財保存活用地域計画の策定を進めました。また網野銚子山古墳の整備に向け市史跡整備検討委員会及び文化庁等の指導を受け、実施設計及び環境整備工事を実施しました。

このように、令和3年度は、保幼小中一貫教育の推進、子どもの放課後対策や子育て支援、学校適正配置の取組、国際交流事業の推進、学習環境の整備、スポーツ振興の推進、文化財保存活用の検討、施設の改修整備など本市の懸案となっている課題の解消に向けてさらなる取組を進めてきました。本市教育振興計画の「京丹後市が目指す教育」の達成に向け、今後もさまざまな教育活動を推進していきます。

令和4年11月

京丹後市教育委員会

教育に関する学識経験者の意見

- 1 外部評価者 職名 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授
氏名 竺沙 知章
令和4年10月20日（評価を行った日）

2 序論

令和3年度では、前年度に引き続き、京丹後市教育振興計画の基本理念に基づき、京丹後市が目指す教育「心豊かにたくましく 幸福な未来を切り拓く力を育む教育」「ふるさとへの愛着と誇りを持ち 新しい価値を創りだす力を育む教育」の実現に向け、さまざまな教育施策が推進されてきた。京丹後市の将来を見据えた施策が展開されている。

また新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、その対応に苦慮した一年であったと思う。コロナ禍において、感染対策を万全にしながら、いかにして、教育の目標を達成していくか、その工夫が重要であったと思う。

本意見書では、「教育委員会活動の点検及び評価報告書」（以下、「報告書」）を主として分析し、また各種の資料や教育委員会会議や総合教育会議の議事録も参照しながら、中長期的な視点から策定されている京丹後市の教育振興計画の基本理念がどのように実現されようとしているか、その視点から意見を述べるとともに、新型コロナウイルス感染症への対応について、適切に点検評価がなされているかという視点からも意見を述べることにしたい。

3 主な施策等の成果と課題

(1) 教育委員の活動について

コロナ禍で制約がある状況においても、教育委員会会議、総合教育会議、管内視察、研修会など教育委員として必要な活動が活発に適切に展開されていたと評価することができる。

教育委員会会議は、12回の定例会議と5回の臨時会議が開催されていた。臨時会議が、必要な時に、負担を厭わず開催されていることは、重要事項を迅速に意思決定することにつながり、大切なことだと思う。7月の定例会議では教職員の働き方改革について、11月の定例会議では学校適正配置基本計画について、2月の臨時会議では予算や共同学校事務室などについて、議題となり、ていねいで、活発な審議がなされていたことが印象に残る。

また、総合教育会議は2回開催されていた。第1回（7月18日）では、いじめ・不登校について、GIGAスクール構想の進捗状況について、第2次京丹後市総合計画「基本計画」について、教育大綱について、第2回（10月28日）では、いじめ・不登校について、令和4年度当初予算について、教育大綱について、議題として取り上げられ、活発な意見交換がなされていた。いじめ・不登校の問題、教育大綱については、2回とも議題となっており、関心の高さが伝わってくる。

教育委員会は合議制の行政機関であることから、市にとって重要な課題について、じっくりと協議、意見交換を行い、意思決定していくことが重要である。京丹後市の教育委員会は、制度の理念をしっかりと実現している自治体であると思う。

(2) 重点目標に関する活動について

1) 保幼小中一貫教育の推進について

「保幼小中一貫教育」と名称変更されて、2年目となる令和3年度においては、教育フォーラムが峰山こども園において開催され、こども園の公開保育と乳幼児期の教育・保育の取り組みの紹介がされたことが注目される。こども園の実践に、小学校、中学校の教職員が直接触れ、その取り組みについて共に学ぶ機会が設けられたことになり、こども園と小学校、中学校とのつながりを強化することになったものと思われる。就学前のこども園と小・中学校との交流、協議がさらに深まっていくことが望まれる。このことは、報告書の「重点目標1 就学前の子どもの教育・保育環境を充実します」の今後の施策展開の考え方において、「保幼小の情報共有や教職員の交流と相互理解を深めるなど、小学校教育への円滑な接続を図るための取り組みの充実を図る」と適切に述べられている。

また、令和3年度は、学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとして本格的に活動を始めた年でもあった。各学園において、学校、家庭、地域が連携して、「保幼小中一貫教育」を推進する体制が、制度として整備されたことになる。各学園の評価報告書を見ると、軌道に乗り、成果を上げているところもあれば、コロナ禍の影響も受け、予定通り活動できなかったところもあったようで、学園間で差異が見られるようである。各学園の地域の特色も大切にしつつ、相互に情報交換もしながら、進めていただければと思う。教育委員会

と同様に、各学園においても、学校運営協議会の仕組みの中で、学校、家庭、地域の関係者の間の質の高い熟議が行われることが期待される。

2) 社会を生き抜く力の育成について

目標指標値の「将来の夢や目標を持っている生徒の割合<中学生>」が、令和元年度以降、若干ではあるが、低下しており、90%の目標達成ができるのか、懸念される状況のように思われる。「丹後学」、GIGA スクール情報機器整備、国際交流事業など、京丹後市の特色ある取り組みが着実に取り組まれているので、それらをさらに充実させていくことが必要であろう。その点で、令和4年度の予算で、STEAM 教育の推進を図るグローバル人材育成事業が注目される。短期的に成果が生まれる取り組みではないことから、性急に成果を求めることなく、着実に取り組んでいただきたい。

また「将来の夢や目標を持っている生徒」を育てようとするならば、教員自身が夢や目標を持っているか、ということも問われるように思う。

3) 生徒指導体制、教育相談体制の充実について

いじめ・不登校の問題は、総合教育会議で常に議題とされており、市の重要な課題として認識されている。

不登校の出現率は、計画策定時と比べると、かなり上昇している。全国的傾向であるが、京丹後市特有の問題もあると思われることから、しっかりと向き合い、取り組むことが求められる。不登校は、あくまで学校に通えないという現象を示しているだけであり、何が問題なのか、問題そのものを捉えた概念ではない。したがって、学校としては、何が問題なのか、じっくりと探ることが必要となる。個人の問題でもあることは確かであるが、不登校になっている児童・生徒への個別対応だけでなく、むしろそれ以上に、学校教育全体の問題として取り組んでいくことが求められる。各学校の評価報告書を見ると、例えば、「魅力ある学校づくりを行うとともに、誰もが自他の笑顔があふれることを願いつながることができる取組を充実させることにより、全員登校5割以上を目指す」という記述があり、特定の児童・生徒への個別的な支援を超えた教育の課題として認識されていることが読み取ることができ、重要な視点である。

いじめの認知件数、認知率は、令和2年度と比較して、令和3年度は増加した。コロナ禍による学校生活の制約の影響が表れていることも考えられる。児童・生徒は、ストレスを感じているため、些細なことがいじめと認知してしまうということも考えられる。児童・生徒が、お互いを思いやり、安心して、楽しく学校生活を送ることができるように、そのような集団、仲間を作ることができる力を育成していくことが必要となる。教員には、実態の把握や、集団を形成する力量の育成のための指導力が求められるであろう。

いじめ防止に関わっては、いじめ防止啓発推進事業やいじめ防止対策等運営事業により、いじめ防止のための市の体制が適切に整備されている。いじめ相談専用電話や子ども SNS (LINE) 相談窓口が設置され、子どもの悩みに、市が直接応える体制が整備されていることが注目される。このような窓口を通して、子どもの実態把握の質が高まることが期待できる。事業の成果・課題において、教員の指導力や学校の対応力の向上があげられており、引き続き、適切な対応が進められると思う。

4 総括

保幼小中一貫教育を核として、GIGA スクール構想の実現、国際交流として中学生の海外派遣事業など、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて活動に制約を受けながらも、その趣旨を実現するための工夫を重ね、着実に取り組みがなされていると評価できる。学園、こども園、小学校、中学校それぞれの点検・評価も、ていねいに、具体的に報告書が作成されており、それぞれの特色、成果と課題が明確に示されていると思う。

5 総合評価

京丹後市では、重要な課題については、しっかりと議論を行ったうえで、計画を策定し、中長期の展望を持ちながら、継続して、組織的に取り組む体制が整っていると言える。令和3年度においては、「教職員の働き方改革実行計画」の改定、「京丹後市学校適正配置基本計画」の策定が行われた。いずれも関係者と時間をかけて議論してまとめられた計画である。こうした諸計画をもとに、目標、課題を共有しながら取り組む体制となっていることから、点検・評価も適切に実施することが可能となっていると思われる。引き続き、熟議を大切に、教育委員会、学校、地域、家庭が連携して、教育の充実を図り、まちづくりを進展していただきたいと思う。

教育に関する学識経験者の意見

1 外部評価者 職名 京都文教大学 総合社会学部総合社会学科 教授
氏名 澤 達大
令和4年10月23日（評価を行った日）

2 序論

令和3年度『教育委員会活動の点検及び評価報告書』、ならびに関係部署が発行する各資料に基づき、自己点検評価の点検を行った。新型コロナウイルス感染症は教育施策にも多くの影響を与えたが、感染防止に努めながら従来の活動を取り戻す動きが社会全体で見られた。各部署において、報告書には表れない陰の努力を膨大に積み重ねたものと察する。関係各位のご尽力に敬意を表したい。

一方で、コロナ禍を契機に、自治体によっては従来ルーティンとして行ってきた社会教育事業等を改めて見直す動きもみられる。必要と判断される事業は継続しつつも、「これまで問題がなかったから今後もこのままで良い」という姿勢ではなく、より一層PDCAサイクルを働かせ、社会の変化や住民のニーズ等に合わせた事業の見直しも必要と思われる。そのような観点も含め、以下のとおり意見を論じる。

3 本論

(1) 教育委員会の活動状況

定例会・臨時会は例年どおり18回開催され、各種事業の展開に必要な議案が審議されたことが伺える。「押印に関する見直し・整理等」の議案も見受けられたが、行政機関は依然として紙文化の残るものの、形式的な文書の簡略化やDX化が今後進むものと期待できる。

活動の中でも京丹後市教育フォーラムについて、別紙のフォーラムまとめを拝読すると、参加者アンケートも満足度が非常に高いだけでなく、フォーラムの成果と課題、今後の展開に関する方向性が検討されている点は高く評価できる。また、研修会への参加の内容で「非認知能力」や「脳科学の知見を活かした教育」は、すべての教員や家庭が知り指導や子育てに生かす内容である。研修で得られた情報等を、参加委員が現場に伝え、意識の変化をもたらすことを期待したい。

p. 5-6のうち、小・中学校の入学式・卒業式を報告者は気がかりにしている。自治体によって学校運営協議委員等の紹介や教育委員会告示に時間を費やす例が散見される。コロナ禍で式典が縮小・簡略化したことを契機に、教育委員会側からも児童・生徒が主人公の式典の在り方を検討していただきたい。

(2) 施策評価・進捗管理調書

重点目標5, 6, 7における施策進捗状況の自己評価は▲（少し遅れている）であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりやむを得ない。むしろ予算縮小等を恐れて評価を高く見積ることがない点で適切といえる。前述のとおり従来の事業等の見直しを図るチャンスと捉え、今後も住民のニーズ把握をしながら事業を展開していただきたい。以下、重点目標1, 2, 3, 5, 7について述べる。

<重点目標1 就学前の子どもの教育・保育環境の充実>

少子高齢・人口減少の社会において、子育て環境の充実は若年層の定着につながる。京丹後は地域で子育てを支えていることが報告書から伺えた。テレワークに伴う若年層の移住人口を獲得する潜在能力が京丹後市にはある。今後は、事業を展開する中で、子育て世代の声を関係各部署に届ける任務もあるものと考えられ、部署間の連携を図ることが求められる。

<重点目標2 確かな学力・生き抜く力の育成>

目標指標の中で、授業時間以外の自宅での学習時間が目標値まで達していない状況は懸念される事項である。少子化により高校・大学とも全入時代となった現在、児童・生徒に対しては、この学習がどのような力を身に付け、将来何に役立つのかを明示し、動機付けを図る

必要がある。また、将来の夢や希望を持ってない生徒の割合が高いことも懸念事項である。生きる力の資質・能力の柱の1つである「学びに向かう力・人間性」と関係するが、自らの人生を振り返り、今後の生き方を考えるキャリア教育を充実させる必要がある。これは、重点目標4 豊かな人間性・社会性を育む(p.53)とも関連する内容である。

京丹後市は地域を素材にした豊かな教育を展開できる地であり、「丹後学」はまさに1つのコンテンツである。各校にタブレット等のICT機器が配置されたが、ドリル学習はタブレットを活用することで、教科書的な基礎学力の定着とともに、教員の採点業務の軽減や児童・生徒のつまづきのデータ獲得にもつながる。その分、授業時間は思考力を重視する取組みに転換するなど、大胆な改善が求められる。

<重点目標3 教育環境の整備>

安全・安心の確保については、ハード・ソフト両面から展開されていることが伺えた。一方で、別資料の通学路等安全推進会議「通学路等交通安全プログラム」を拝読すると、せっかくの貴重な情報が組織内に埋もれているように感じた。具体的には、対策一覧で詳細な場所を記しているものの、写真がなく現場感がつかめず、巻末地図も縮尺が大きく地域の詳細まで把握できない。地域住民が、子どもの安全確保の視点を持つことは重要で、広く情報を周知し、地域から情報を収集するための工夫の必要性を感じた。

<重点目標5 生涯にわたる豊かな学びの支援>

生涯学習は高齢社会の中で、独居で地域とつながりを持ってない高齢者の閉じこもり防止の観点から、健康長寿福祉部との連携も重要である。教養講座の参加者数も報告されているが、常連客だけに留まらない事業展開を期待したい。事業の中で、図書館の貸出冊数の減少は精査する必要がある。コロナ禍以外にインターネットからの情報入手の増加など、様々な要因が考えられるが、スマートホン普及による子育て時の読み聞かせの減少や、若年層の活字離れが原因とするならば、読解力の欠如に伴う学力低下に直結する課題になりうる。解決策として学校図書館との連携による図書活用も検討すべき事項と思われる。

<重点目標7 たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツの推進>

東京2020オリンピック・パラリンピックについては、計画どおり実施できなかった事業もあり、残念だったかと思う。一方で今後スポーツは、地域振興のコンテンツとして重要になることが予想される。市民の健康促進を優先させながらも、地域が活性化しスポーツ・体づくりへの取組みを促す事業の展開を期待したい。

(3) 学校評価自己評価

小中一貫教育にとどまらず、保・幼との連携も行うことで、1人ひとりの子どもの成長が見え、それぞれの段階の教育の見直しにもつながっている印象を受けた。それぞれの段階で包み隠さず情報交換することにより、よい教育が展開されるものと思われる。

4 総括

教育委員会活動の点検及び自己評価について、参考となる客観的資料が多く、内容も整理されており、非常にわかりやすい点は、関係各位の努力の賜物と感じられる。一方、膨大な資料作成に時間を取られるあまり、本来の業務遂行に支障をきたさないよう、常に改善の視点をもち続けることも必要に思われる。

5 総合評価(意見等)

地域外の人材が地域づくりの担い手となる「関係人口」の重要性が近年認識されている。教育委員会が関係人口増加に貢献できることとして、学校教育では「ふるさと・京丹後の魅力」を生徒が認識すること、社会教育ではジオパークや文化財等の観光資源の整備やスポーツ大会誘致等を図ることなどが挙げられる。市民向けの地道な通常業務とともに、市の将来に関わる事業を積極的に推進することを期待したい。

I 教育委員会の活動状況

I 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会の開催状況（令和3年4月～令和4年3月）

教育委員会議は、毎月1回「定例会」を、また必要に応じて「臨時会」を開催し、令和3年度は合計18回開催しました。

- (1) 教育委員会定例会・・・ 12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・ 6回

○令和3年度 教育委員会審議案件等一覧

| 年月日 | 会議名 | 議案番号 | 議案件名 |
|-----------|-------|-------|--|
| 令和3年4月1日 | 4月定例会 | | 教育長職務代理者の指名について |
| | | 33 | 京丹後市立学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について |
| | | 34 | 京丹後市立こども園・保育所内科医、歯科医及び薬剤師の委嘱について |
| | | 報告3号 | 京丹後市スクールガード・リーダーの委嘱について |
| 令和3年5月6日 | 5月定例会 | 35 | 京丹後市社会教育委員の解嘱及び委嘱について |
| | | 36 | 京丹後市図書館協議会委員の解任及び任命について |
| | | 37 | 一般社団法人京丹後青年会議所5月例会 共に学び、つながる～地域学習にズームイン～の開催に係る後援について |
| | | 38 | 第1回海の京都KIDS・U-13陸上競技大会の開催に係る後援について |
| | | 39 | 第54回北丹陸上競技選手権大会の開催に係る後援について |
| | | 40 | 第22回京都府北部小学生クラブ陸上記録会の開催に係る後援について |
| | | 報告4号 | 京丹後市奨学金選考・検討委員会委員の委嘱について |
| | | 報告5号 | 京丹後市立学校評議員の委嘱について |
| | | 報告6号 | 京丹後市学校運営協議会委員の委嘱について |
| | | 報告7号 | 京丹後市史跡整備検討委員会委員の委嘱について |
| 令和3年5月17日 | 5月臨時会 | 報告8号 | 京丹後市教育委員会事務局職員に係る苦情申立書への対応について |
| 令和3年6月1日 | 6月定例会 | 41 | 京丹後市保幼小中一貫教育研究推進協議会委員の委嘱について |
| | | 42 | 京丹後市史跡整備検討委員会委員の委嘱について |
| | | 報告9号 | 京丹後市教育支援委員会委員の委嘱について |
| | | 報告10号 | 京丹後市学校給食献立作成委員会委員の委嘱について |
| | | 報告11号 | 京丹後市学校運営協議会委員の委嘱について |
| | | 報告12号 | 公文書部分公開決定等に係る審査請求について |
| | | 報告13号 | 市立幼稚園におけるパワーハラスメントを起因とする損害賠償請求訴訟に係る判決について |
| 令和3年6月18日 | 6月臨時会 | 報告14号 | 京丹後市立湊小学校旧校舎解体撤去等工事に係る工事請負契約の締結について |

| 年月日 | 会議名 | 議案番号 | 議案件名 |
|-----------|--------|-------|--|
| 令和3年7月1日 | 7月定例会 | 43 | 京丹後市教職員の働き方改革実行計画の改定について |
| | | 44 | 京丹後市野村克也杯学童野球大会開催事業補助金交付要綱の制定について |
| | | 45 | 一般社団法人京丹後青年会議所7月例会オンライン防災脱出ゲーム～家族みんなで災害から逃げ切ろう！～の開催に係る後援について |
| | | 報告15号 | 京丹後市教育振興計画進捗管理について |
| 令和3年8月2日 | 8月定例会 | 46 | 京丹後市文化芸術振興審議会委員の委嘱について |
| | | 報告16号 | 京丹後市奨学金選考・検討委員会委員の委嘱について |
| | | 報告17号 | 公益財団法人京都府丹後文化事業団の経営状況について |
| | | 報告18号 | 公益財団法人京丹後市公園緑化事業団の経営状況について |
| | | 報告19号 | 公文書部分公開決定等に係る審査請求の裁決について |
| 令和3年8月25日 | 8月臨時会 | 47 | 令和4年度使用京丹後市立小学校教科用図書の採択について |
| | | 48 | 令和4年度使用京丹後市立中学校教科用図書の採択について |
| | | 49 | 京丹後市文化芸術振興計画の策定に係る諮問について |
| 令和3年9月1日 | 9月定例会 | 50 | 京丹後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業保育料徴収条例施行規則の一部改正について |
| | | 51 | 京丹後市定住促進奨学金返還支援補助金交付要綱の一部改正について |
| 令和3年10月1日 | 10月定例会 | 52 | 京丹後市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例施行規則の一部改正について |
| | | 53 | 京丹後市文化財保存活用地域計画策定協議会設置要綱の制定について |
| | | 報告20号 | 公文書部分公開決定等に係る審査請求について |
| 令和3年11月4日 | 11月定例会 | 54 | 京丹後市文化財保存活用地域計画協議会委員の委嘱について |
| | | 55 | 令和2年度教育委員会活動の点検及び評価報告書について |
| | | 56 | 京丹後市学校適正配置基本計画の策定について |
| | | 報告21号 | 個人情報部分開示決定及び個人情報不存在決定に係る審査請求について |
| | | 報告22号 | 京丹後市子ども未来まちづくり審議会からの答申について |
| 令和3年12月1日 | 12月定例会 | 57 | 京丹後市文化国際交流アドバイザー就任記念事業田中彩子京丹後公演及び子ども達との交流会の開催に係る後援について |
| | | 58 | 地域愛で育む無限の未来の子どもたちへの開催に係る後援について |
| | | 59 | AAR JAPAN チャリティ公演 モノオペラ『ガラシャ』の開催に係る後援について |
| | | 報告23号 | 京丹後市立湊小学校旧校舍解体撤去等工事請負契約の変更について |
| | | 報告24号 | 公文書部分公開決定等に係る審査請求の裁決について |
| | | 報告25号 | 個人情報不訂正決定等に係る審査請求について |
| 令和4年1月4日 | 1月定例会 | 1 | 京丹後市定住促進奨学金返還支援補助金交付要綱の一部改正について |
| | | 2 | 京丹後市文化財保存活用地域計画策定協議会設置要綱の一部改正について |

| 年月日 | 会議名 | 議案番号 | 議案件名 |
|-----------|---------------------------|----------|---|
| 令和4年1月4日 | 1月定例会 | 3 | 欠番 |
| | | 4 | 令和4年度全国学力・学習状況調査の実施について |
| | | 報告1号 | 京丹後市教育委員会の不適正事務等に対する審査請求について |
| 令和4年2月1日 | 2月定例会 | 5 | 専決処分の承認について（令和3年度京丹後市青少年健全育成会 平田オリザ講演会の開催に係る共催について） |
| | | 6 | 京丹後市立学校ハラスメント防止等要綱の一部改正について |
| | | 7 | 社会福祉法人よさのうみ福祉会40周年記念わがまちのアーティスト展の開催に係る後援について |
| | | 報告2号 | 個人情報不訂正決定等に係る審査請求の裁決について |
| | | 報告3号 | 公文書部分公開決定等に係る審査請求について |
| | | 報告4号 | 令和4年度以降の京丹後市成人式の在り方について |
| 令和4年2月14日 | 2月臨時会 | 8 | 令和4年度教育委員会関係予算について |
| | | 9 | 令和4年度「学校教育指導の重点」について |
| | | 10 | 令和4年度「社会教育推進の重点」について |
| | | 11 | 京丹後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について |
| | | 12 | 京丹後市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について |
| | | 13 | 京丹後市放課後児童健全育成事業実施条例の一部改正について |
| | | 14 | 京丹後市放課後児童健全育成事業実施条例施行規則の一部改正について |
| | | 15 | 京丹後市立学校管理運営規則の一部改正について |
| | | 報告5号 | 欠番 |
| | | 報告6号 | 個人情報不訂正決定等に対する審査請求について |
| | | 令和4年3月1日 | 3月定例会 |
| 17 | 京丹後市教育委員会事務局組織規則の一部改正について | | |
| 報告7号 | 個人情報不開示決定等に係る審査請求の裁決について | | |
| 報告8号 | 個人情報不訂正決定に係る審査請求について | | |
| 令和4年3月14日 | 3月臨時会 | 18 | 令和4年度京丹後市立学校教職員の一般職人事異動内申について |
| | | 19 | 京丹後市奨学金条例施行規則及び京丹後市峰山林業総合センター条例施行規則の一部改正について |
| | | 20 | 京丹後市高等学校全国募集入学生応援補助金交付要綱及び京丹後市定住促進奨学金返還支援補助金交付要綱の一部改正について |
| | | 報告9号 | 個人情報部分訂正決定に係る審査請求の裁決について |
| | | 21 | 京丹後市放課後児童健全育成事業実施条例施行規則の一部改正について |
| | | 22 | 京丹後市学校体育施設等の利用等に関する条例施行規則及び京丹後市社会体育施設条例施行規則の一部改正について |
| | | 23 | 京丹後市久美浜湾カヌーセンター条例施行規則の一部改正について |

| 年月日 | 会議名 | 議案番号 | 議 案 件 名 |
|-----------|-------|-------|------------------------------|
| 令和4年3月23日 | 3月臨時会 | 24 | 令和4年度京丹後市教育委員会事務局職員の人事異動について |
| | | 25 | 申請、届出等の押印見直しに伴う関係規則の整理について |
| | | 26 | 申請、届出等の押印見直しに伴う関係告示の整理について |
| | | 27 | 京丹後市子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について |
| | | 報告10号 | 個人情報不訂正決定に係る審査請求について |

2. 教育委員会委員の主な活動

- (1)管内視察実施状況 5回箇所(久美浜湾カヌーセンター、丹後地域公民館、丹後小学校、大宮第一小学校、網野地域子育て支援センター)
 所管施設を訪問し、各施設の参観や職員と懇談の中で、教育委員会の施策が十分反映されているか、今課題となっている事項等状況把握に努めました。
- (2)管外視察実施状況 2箇所(兵庫県あかし市民図書館、兵庫県養父市文化会館)
 ・兵庫県あかし市民図書館(複合施設への移転後の運営状況及び効果と課題、施設概要及び見学)
 ・兵庫県養父市文化会館(建設後の管理運営形態に係る効果と課題、施設概要及び見学)
- (3)教育委員協議会開催状況 3回
 京丹後市学校適正配置基本計画(案)について
 令和3年度全国学力・学習状況調査結果について
 京丹後市立網野学校給食センター整備基本計画(案)について
- (4)総合教育会議 2回
 第2次京丹後市総合計画「基本計画」、教育大綱について、京丹後市いじめの現状及び令和4年度当初予算編成における検討事項等について市長と協議・意見交換を行いました。
- (5)各種研修会・視察の参加 5回
 文部科学省、京都府教育委員会連合会等が主催する研修会等(オンライン開催含む)にも積極的に参加し、教育行政の諸課題について情報提供を受けました。

| 月 | 月 日 | 件 名 | 場 所 |
|-----|-----------|--|-----------------------|
| 4月 | 3. 4. 5 | 市内保育所入所・進級式 | 市内各保育所 |
| | 3. 4. 6 | 市内認定こども園入園・進級式 | 市内各認定こども園 |
| | 3. 4. 7 | 市内小学校入学式 | 市内各小学校 |
| | 3. 4. 8 | 市内中学校入学式 | 市内各中学校 |
| | 3. 4. 14 | 第1回校(園)長、保育所長会議 | アグリセンター大宮 |
| 5月 | 3. 5. 17 | 令和3年度丹後地方教育委員会連合会定期総会 | ※書面開催 |
| | 3. 5. 28 | 令和3年度京都市町村教育委員会連合会定期総会 | ※書面開催 |
| 7月 | 3. 7. 8 | 教育委員任命通知書交付式(安達京子委員) | 京丹後市役所 |
| 10月 | 3. 10. 20 | 丹後地方教育委員会連合会教育委員等研修会 演題『学力テストで測れない非認知能力を伸ばすために』 講師 岡山大学全学教育・学生支援機構 准教授 中山芳一氏 | 宮津市福祉・教育総合プラザ |
| | 3. 10. 21 | 令和3年度京丹後市教育フォーラム 研究主題『乳幼児期の教育・保育からつなぐ遊びの中の学び』 ～一人一人がキラリと輝く瞬間を大切に～ | 京丹後市立峰山こども園 |
| | 3. 10. 27 | 京丹後チャレンジデー2021 | 京丹後市内 |
| 11月 | 3. 11. 1 | 令和3年度近畿市町村教育委員会研修大会 (1) 基調講演 演題『脳科学の知見を活かした教育』 講師 東北大学大学院 教授 川島隆太氏 (2) 実践発表 演題『川島隆太先生と創る小野市の「夢と希望の教育」』 講師 小野市教育委員会学校教育部長 藤原正伸氏 | 兵庫県尼崎市 尼崎市総合文化センター |
| | 3. 11. 12 | 京都府内市町(組合)教育委員会研修会 (1) 講演『教職員・子ども達の頑張りを生かすためのヒント』 ～国際的な視点からの振り返り～ 講師 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課 教育制度改革室長 白井 俊氏 (2) 講演『子どもの育ちと学びをつなぐ幼少接続の推進』 講師 京都教育大学 教授 古賀 松香氏 | 大宮庁舎 (オンライン開催) |

| 月 | 月 日 | 件 名 | 場 所 |
|-----|--------|--|-------------------|
| 12月 | 3.12.8 | 令和3年度いじめ防止講演会 テーマ『不登校、いじめについての理解を深めるために』 ～30余年、不登校の子どもたちの教育に携わる中で～ 講師 聖母の小さな学校（京都府教育委員会認定フリースクール） 梅澤 良子氏 | アグリセンター大宮 |
| 2月 | 4.2.10 | 令和3年度市町村教育委員会オンライン協議会 分科会テーマ「第1分科会：地域と学校の連携・協働について」 「第2分科会：学校における働き方改革について」 「第3分科会：教育の情報化について」 | 大宮庁舎 (オンライン開催) |
| 3月 | 3.3.12 | 京丹後市立中学校卒業式 | 市内各中学校 |
| | 3.3.21 | 令和4年京丹後市成人式 | 京都府丹後文化会館 |
| | 3.3.23 | 京丹後市立小学校卒業式 | 市内各小学校 |
| | 3.3.24 | 京丹後市立認定こども園卒園式 | 市立各認定こども園 |
| | 3.3.27 | 京丹後市立保育所修了式 | 市立各保育所 |

Ⅱ 施策評価・進捗管理調書

京丹後市教育振興計画 施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

| | |
|--------|-------|
| 担当課 | 担当課長 |
| 子ども未来課 | 蒲田 幸宏 |

| | | |
|-------|---|-----------------------|
| 重点目標 | 1 | 就学前の子どもの教育・保育環境を充実します |
| 基本の方針 | 就学前の子どもの健やかな育ちを確保するため、保育ニーズに応じた保育環境の整備はもとより、保育士や教員の資質向上及び専門性を高めるために研修機会を設けるとともに、教育・保育を総合的に提供できる環境づくりに取り組みます。また、小学校への円滑な接続を図るため、保育所・認定こども園及び小学校の連携を強化します。 地域や家庭で安心して子育てができるよう、地域の実情や保護者のニーズを的確に把握しサービス情報の周知徹底を図るとともに、子育てや就学前教育についての情報交換や気軽に相談する場の確保に努めます。 | |

1. 施策の方向性

PLAN

| | |
|-------------------------|---|
| 1. 就学前教育の環境整備 | ①保護者の就労状況等や家庭環境に関わらず、就学前の教育・保育を総合的に提供できる環境整備を進め、待機児童ゼロの継続を目指します。 ②子育て家庭の子育ての不安に寄り添いサポートする体制の強化を図ります。 ③職員自身の自主的な資質向上を促すため、保育所・認定こども園の全職員を対象とした研修や担任会、公開保育の実施、職員の交流機会の充実を図ります。 ④保育所の民営化に伴い、長時間保育や休日保育の実施などサービスの拡充を行っています。今後も需要の高まりが想定できることから、さらなる民営化を検討していきます。 |
| 2. 保育所・認定こども園及び小学校の連携強化 | ①「京丹後市小中一貫教育幼小接続モデルプラン」を参考に、各学園(中学校区)の接続プランを充実させて、就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図るための取組みを一層進めます。 |

【参考】施策に関連するその他の計画

| 計画名称 | 計画概要 | 策定年月 | 計画期間 | 備考 |
|-------------------|---|---------|---------------|--------------------------------------|
| 第2次京丹後市総合計画 | 市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」 | 平成27年3月 | 平成27年度～令和6年度 | |
| 京丹後市保育所再編等推進計画 | 将来にわたり子どもたちにとってより良い保育を保障するため、地域の特性に配慮しながら、小規模保育所等の統廃合及び社会福祉法人への運営委託等を具体的に進めるために策定 | 平成23年3月 | 平成23年度～平成27年度 | 第2次京丹後市保育所再編等推進計画を策定(平成29年度～令和3年度) |
| 京丹後市子ども・子育て支援事業計画 | 市における子どもの健やかな育ちと保護者の子育てを社会全体で支援する環境づくりを一層進めるため策定 | 平成27年3月 | 平成27年度～令和元年度 | 第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画を策定(令和2年度～令和6年度) |

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

| 1. 就学前教育の環境整備 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|---|---|------------|---------|---------|---------------|------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① 保護者の就労状況等や家庭環境に関わらず、就学前の教育・保育を総合的に提供できる環境整備を進め、待機児童ゼロの継続を目指します。 ② 子育て家庭の子育ての不安に寄り添いサポートする体制の強化を図ります。 ③ 職員自身の自主的な資質向上を促すため、保育所・認定こども園の全職員を対象とした研修や担任会、公開保育の実施、職員の交流機会の充実を図ります。 ④ 保育所の民営化に伴い、長時間保育や休日保育の実施などサービスの拡充を行っています。今後も需要の高まりが想定できることから、さらなる民営化を検討していきます。 | | | | | | |
| 1 | 保育所管理運営事業 児童の健康管理や会計年度任用職員の雇用を行うほか、給食調理業務、幼児送迎業務等を実施し、円滑な保育所運営を行う。 | 子ども未来課 | 162,493 | 165,631 | 200,162 | 縮小 |
| 2 | 保育所管理運営事業【繰越】 体温計や空気清浄機の整備等、新型コロナウイルス感染症対策を実施し、円滑な保育所運営を行う。 | 子ども未来課 | 163 | - | - | / |
| 3 | 保育業務委託事業 保育ニーズに対応するため、民間保育所等に保育業務を委託することで、効率的に子育て支援を推進する。 | 子ども未来課 | 507,370 | 511,434 | 440,228 | 現状維持 |
| 4 | 保育所保育事業等補助金 民間保育所等が行う事業に対して補助金を交付し、円滑な運営実施のための体制づくり等を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び保育士等の処遇改善を図る。 | 子ども未来課 | 32,447 | 32,144 | 52,540 | 現状維持 |
| 5 | 保育所保育事業等補助金【繰越】 民間保育所が行う事業に対して補助金を交付し、保育所における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図る。 | 子ども未来課 | 1,602 | - | - | / |

| 1. 就学前教育の環境整備 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|--|--|------------|-----------|-----------|---------------|---------------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 6 | 子育て支援センター事業 地域の子育て支援の拠点として市内8か所に子育て支援センターを設置し、育児相談や子育て情報の提供等、在宅で子育てをしている保護者とその子どもたちを支援する。 | 子ども未来課 | 19,604 | 20,805 | 25,204 | 現状維持 |
| 7 | 保育支援事業 保護者の疾病等の理由により家庭での養育が一時的に困難となった児童や、病気の回復期にある児童を一時的に保育し、保護者の子育てと就労を支援する。 | 子ども未来課 | 4,796 | 4,064 | 5,959 | 拡大 |
| 8 | 子育て環境整備事業 市内の事業所等に対して授乳やおむつ替え等設備の整備に要する経費を助成するほか、市有施設の多目的トイレを改修(おむつ交換台設置)し、市内の子育て支援環境の充実を図る。 | 子ども未来課 | - | 1,181 | 6,200 | 拡大 |
| 9 | 認定こども園教育利用管理運営事業 児童の健康管理や会計年度任用職員の雇用により、円滑な認定こども園(1号認定児)運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。 | 子ども未来課 | 47,053 | 54,728 | 82,643 | 現状維持 |
| 10 | 認定こども園保育利用管理運営事業 児童の健康管理や会計年度任用職員の雇用により、円滑な認定こども園(2号・3号認定児)運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。 | 子ども未来課 | 674,789 | 706,983 | 902,518 | 拡大 |
| 11 | 保育利用管理運営事業【繰越】 体温計や空気清浄機の整備等、新型コロナウイルス感染症対策を実施し、円滑なこども園運営を行う。 | 子ども未来課 | 605 | - | - | |
| 2. 保育所、認定こども園及び小学校の連携強化 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ①「京丹後市小中一貫教育保幼小接続モデルプラン」を参考に、各学園(中学校区)の接続プランを充実させて、就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図るための取組みを一層進めます。 | | | | | | |
| 12 | 保幼小中一貫教育推進事業 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育の推進に向け、協議会及び専門部会で調査研究並びに教員の授業力と学級経営力を高めるための研修を実施し、指導の一貫性を通じて確かな学力、豊かな心を育成する。 | 学校教育課 | (144) | (189) | (899) | 現状維持 |
| 上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 |
| 13 | 保育所整備事業 令和元年度開設予定の網野こども園への移行をスムーズに行うため、網野みなみ保育所の環境整備工事を実施する。また、統廃合により空き施設となっている老朽化した旧保育所施設について2施設を解体する。 | 子ども未来課 | | | | 休止 |
| 14 | 保育所施設管理事業 適切な維持管理のもと、施設を利用する児童、職員が安全かつ快適に過ごすことができるよう必要な点検・整備を実施する。 | 子ども未来課 | 7,165 | 10,857 | 5,465 | 拡大 |
| 15 | 認定こども園施設管理事業 適切な維持管理のもと、必要な点検・整備を実施し、施設を利用する児童、職員が安全かつ快適に過ごすことができる環境を整える。 | 子ども未来課 | 8,602 | 15,876 | 7,919 | 現状維持 |
| 16 | 保育所等環境整備事業 公設公営保育施設における保育業務の負担軽減及び保護者の利便性の向上を図るため、保育業務支援システムを導入する。 | 子ども未来課 | - | 34,191 | - | 拡大 |
| 17 | ファミリーサポートセンター事業 子どもの預かり等の援助を受ける方、援助を行う方からなる会員同士の援助活動を調整し、概ね生後2か月から小学校3年生までの子どもを持つ家庭の子育て支援を図る。 | 子ども未来課 | 59 | 62 | 70 | 現状維持 |
| 18 | 子ども未来まちづくり審議会事業 すべての子どもが健康で幸せに暮らせるまちづくりの推進及び子ども・子育て支援事業計画、保育所再編等推進計画、特定教育・保育施設の利用定員の設定等について審議する。 | 子ども未来課 | 46 | 119 | 139 | 現状維持 |
| 計 | | | 1,466,794 | 1,558,075 | 1,729,047 | |

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

| | | | | | | | | |
|-----------|--|----|-------|---------------|---------|----|-----|----|
| 基本的方針 | 就学前の子どもの健やかな育ちを確保するため、保育ニーズに応じた保育環境の整備はもとより、保育士や教員の資質向上及び専門性を高めるために研修機会を設けるとともに、教育・保育を総合的に提供できる環境づくりに取り組みます。また、小学校への円滑な接続を図るため、保育所、認定こども園および小学校の連携を強化します。 地域や家庭で安心して子育てができるよう、地域の実情や保護者のニーズを的確に把握しサービス情報の周知徹底を図るとともに、子育てや就学前教育についての情報交換や気軽に相談する場の確保に努めます。 | | | | | | | |
| 主な目標指標 | 目標指標 | 単位 | 計画作成時 | | 実績値(現状) | | 目標値 | |
| | | | 年度 | | 年度 | | 年度 | |
| | 病後児保育の実施事業所数 | か所 | 0 | H25 | 1 | R3 | 1 | R6 |
| | 子育て支援センター数 | か所 | 7 | H25 | 8 | R3 | 8 | R6 |
| | 一時預かり実施事業所数 | か所 | 6 | H25 | 10 | R3 | 10 | R6 |
| | 保育所・こども園職員の全体研修数 | 回 | 3 | H25 | 3 | R3 | 5 | R6 |
| | 保育所・こども園待機児童数ゼロの継続 | 人 | - | H25 | 0 | R3 | 0 | R6 |
| 民営化保育所設置数 | か所 | - | H25 | 4 (公設民営含む) | R3 | 6 | R6 | |

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK **ACT**

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------------|----|--|
| ◎ 予定以上に進んでいる | ○ | <p>《病後児保育の実施事業所数》 保護者の就労支援のため、子どもが病気の後であっても安心して預けられる環境が整えられている。課題としては、特に子育て世代に、この制度の存在を伝える広報活動の推進がある。</p> <p>《子育て支援センター数》 市内8か所で開設しており、子育て相談に対応するとともに、子育て世代間の友達づくり、情報共有など居場所を提供することができた。スペースの関係で児童の年齢に応じたクラス編成により、利用の曜日を決めるという調整をせざるを得ない点が課題となっていることから、網野地域子育て支援センター(旧浅茂川保育所)において、市内他地域からの受け入れも行っている。</p> <p>《一時預かり実施事業所数》 平成28年度から、大宮北保育所とこうりゆう保育所を公設民営に移行させたことに伴い、両施設とも一時預かりを開始して、サービスの向上を図ることができている。</p> <p>《保育所・こども園職員の全体研修数》 新型コロナウイルス感染防止対策のため、オンラインでの開催も含め多くの職員が研修を受ける体制がとれた。職員の資質向上は、教育・保育を提供する上で課題でもあり、担任会や園長・所長研修、園内研修など身近なところで研修の機会を設けて研鑽している状況である。</p> <p>《保育所・こども園待機児童数ゼロの継続》 保育所、こども園への入所・入園率が高くなっている状況の中、保育従事者が不足している状況ではあるが、体制を整備し、待機児童ゼロを継続することができた。</p> <p>《民営化保育所設置数》 現在4施設で民営化しており、今後2か所の民営化を検討しているが、保育従事者の不足から受託法人がない状態であることから、状況を見極めながら推進していきたい。</p> |
| ○ 予定どおり進んでいる | | |
| ▲ 少し遅れている | | |
| × 大幅に遅れている | | |

5. 今後の施策展開の考え方(令和4年～令和6年度までの主な取組)

ACT

| 区分 | No. | 具体的内容 |
|----------|-----|--|
| 施策展開の考え方 | 1 | 保育所の利用において、0～2歳の低年齢児の利用は継続的なニーズがあることから、このニーズに応える保育所の運営を続けるとともに、令和2年3月に策定した第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画と整合性を図りつつ、今後も子育て支援の施策の充実を図る。 |
| | 2 | 「京丹後市小中一貫教育保幼小接続モデルプラン」を参考に、各学園で保幼小の情報共有や教職員の交流と相互理解を深めるなど、小学校教育への円滑な接続を図るための取組みの充実を図る。 |

| 予算科目 | 03 民生費 | | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------------------------------|--|----------|-----------|--|---|-----------|---|----------|
| | 02 児童福祉費 | | 165,631千円 | 167,834千円 | 2,203千円 | 98.6% | | |
| | 04 保育事業費 | | | | | (参考)当初予算額 | | |
| | 02 保育所管理運営事業 | | | | | 191,486千円 | 課 | 子ども未来課 |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | | |
| 目的 | 児童の健康管理や会計年度任用職員の雇用を行うほか、給食調理業務、幼児送迎業務等を実施し、円滑な保育所運営を行う。 | | 主な財源 | 負担金 | 保育認定児保育料、日本赤十字振興財団-保護者負担金 | 15,170千円 | | |
| | | | | 国補 | 子ども・子育て支援体系構築総合推進事業費補助金(1/2)、保育所児童福祉施設整備事業費補助金(1/2) | 1,075千円 | | |
| | | | | 国補 | 保育士等処遇改善臨時特例交付金(10/10) | 365千円 | | |
| | | | | 府補 | 第3子以降保育料無償化事業費補助金 | 2,172千円 | | |
| | | | | 府補 | 新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金(10/10) | 800千円 | | |
| | | | | 諸収入 | 延長保育料、延長保育間食負担金、職員給食費ほか | 4,108千円 | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○健康管理実施経費 | | 2,544千円 | (参考)京丹後市内の保育所(R4.3.31現在) | | | | |
| | ・医師報酬・費用弁償、児童検診委託料、大腸癌等検査手数料等 | | | ・公立(公設公営):鳥渡、たちばな、宇川、久美浜 | | | | |
| | ○会計年度任用職員任用経費(50人) | | 103,487千円 | ・公立(公設民営):大宮北 | | | | |
| | ・共済費(社会保険料等)、報酬等、手当、傷害保険料 | | | ・私立:あみの夢保育園、こうりゅう虹保育園、ゆうかり乳児保育所 | | | | |
| | ○職員研修実施経費 | | 155千円 | 計8施設 | | | | |
| | ・報償費(研修講師謝金)、職員旅費、研修参加負担金 | | | | | | | |
| | ○給食調理業務経費 | | 18,279千円 | | | | | |
| | ・調理業務委託料(鳥渡、たちばな、宇川) | | | | | | | |
| | ○保育所送迎車両関連経費(4台) | | 8,020千円 | | | | | |
| | ・業務委託経費、修理費、重量税等 | | | | | | | |
| ○入所児童の保育に要する経費 | | 18,140千円 | | | | | | |
| ・保育材料費、膳料費、医薬材料費 | | | | | | | | |
| ○保育所運営に要する経費 | | 11,612千円 | | | | | | |
| ・光熱水費、通信運搬費、備品購入費、ピアノ調律等 | | | | | | | | |
| ○新型コロナウイルス感染症対策関連経費 | | 2,250千円 | | | | | | |
| ・備品購入費(空気清浄機1台、エアコン2台、おもちゃ殺菌保管庫2台等) | | | | | | | | |
| ・消耗品費(手指消毒液等) | | | | | | | | |
| ○その他必要経費(共通物品、保育協会負担金等) | | 1,144千円 | | | | | | |
| 成果・課題 | | | | ○職員確保、児童・職員の健康管理、給食提供、送迎バスの運行管理などの業務を適切に行うことにより、円滑な保育所運営を行うことができた。 ○衛生物品の購入、空気清浄機、エアコンの設置等により、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図った。 ○保育士等の処遇改善に係る国からの協力要請を受け、国の交付金を活用し、会計年度任用職員の保育士等の処遇改善を行った。(2、3月分) ○乳児利用の増加に対応するため、職員の確保が必要である。 | | | | |

| 予算科目 | 03 民生費 | | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|--------------------------|--|-----------|-----------|--|------------------------|-----------|---|----------|
| | 02 児童福祉費 | | 511,434千円 | 512,773千円 | 1,339千円 | 99.7% | | |
| | 04 保育事業費 | | | | | (参考)当初予算額 | | |
| | 03 保育業務委託事業 | | | | | 559,056千円 | 課 | 子ども未来課 |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | | |
| 目的 | 保育ニーズに対応するため、民間保育所等に保育業務を委託することで、効率的に子育て支援を推進する。 | | 主な財源 | 負担金 | 保育認定児保育料 | 33,565千円 | | |
| | | | | 国負 | 子どものための教育・保育給付交付金(1/2) | 143,477千円 | | |
| | | | | 国補 | 子ども・子育て支援交付金(1/3) | 214千円 | | |
| | | | | 府負 | 子どものための教育・保育給付交付金(1/4) | 58,910千円 | | |
| | | | | 府補 | 子ども・子育て支援交付金(1/3) | 214千円 | | |
| | | | | 繰入金 | ふるさと応援基金繰入金 | 70,000千円 | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 民間認可保育所の「ゆうかり乳児保育所」に2か月児から2歳児まで、「あみの夢保育園」、「こうりゅう虹保育園」に6か月児から5歳児までの保育を委託し、また、市立保育所のうち「大宮北保育所」の運営を社会福祉法人に委託することにより、産休明け・育休明けの保育所利用、保育時間の延長や休日保育等、保護者の保育ニーズに対応した。 | | | ○広域入所委託料 | | | | |
| | ○乳児保育委託料 | | 67,780千円 | 里帰り出産等で京丹後市以外の施設を利用した児童数:6人 | | | | |
| | ・ゆうかり乳児保育所 | | | [委託先] | | | | |
| | 定員30人 令和4年3月末入所児童数:36人 | | | ・のだがわこども園(公立・与謝野町 1人) 59千円 | | | | |
| | | | | ・港島幼稚園(公立・神戸市 2人) 65千円 | | | | |
| | | | | ・花園保育園(私立・福知山市 2人) 892千円 | | | | |
| | | | | ・松ヶ崎保育ルーム(私立・京都市 1人) 411千円 | | | | |
| | ○公立保育所運営委託料 | | 208,403千円 | | | | | |
| | ・大宮北保育所 | | | | | | | |
| | 定員230人 令和4年3月末入所児童数:226人 | | | | | | | |
| ○保育所運営委託料 | | 233,824千円 | | | | | | |
| ・あみの夢保育園 | | | | | | | | |
| 定員90人 令和4年3月末入園児童数:94人 | | 106,163千円 | | | | | | |
| ・こうりゅう虹保育園 | | | | | | | | |
| 定員120人 令和4年3月末入園児童数:139人 | | 127,661千円 | | | | | | |
| 成果・課題 | | | | ○保育業務を市内民間事業者に委託することで、保育時間の延長や休日保育など保護者のニーズに対応した保育を実施し、保護者の子育てと仕事の両立支援につなげることができた。 ○保育業務を他の自治体や市外民間事業者に委託することで、保護者の里帰り出産等のニーズに対応した。 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------------------|--|-------------------------|-----------------------------------|---|---------|-----------|---------------|
| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 |
| | 項 | 02 児童福祉費 | 32,144千円 | 32,145千円 | 1千円 | 99.9% | |
| | 目 | 04 保育事業費 | | | | (参考)当初予算額 | |
| 事業 | 04 保育所保育事業等補助金 | | | | | 32,217千円 | 課 子ども未来課 |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | |
| 目的 | 民間保育所等が行う事業に対して補助金を交付し、円滑な運営実施のための体制づくり等を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び保育士等の処遇改善を図る。 | 主な財源 | 国補 | 子ども・子育て支援交付金 (1/3) | | 3,546千円 | |
| | | 国補 | 保育対策総合支援事業費補助金 (1/2) | | 1,415千円 | | |
| | | | 国補 | 保育士等処遇改善臨時特別交付金 (10/10) | | 2,675千円 | |
| | | | 府補 | 子ども・子育て支援交付金 (1/3) | | 3,546千円 | |
| | | | 府補 | 保育対策総合支援事業費補助金 (10/10) | | 800千円 | |
| | | | 府補 | 新型コロナウイルス感染症対策事業費補助金 (10/10) | | 1,100千円 | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○私立保育所保育事業補助金 | 25,169千円 | ○保育所等新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策事業補助金 | 4,300千円 | | | |
| | ・ゆうかり乳児保育所 | 2,640千円 | ・ゆうかり子ども園 (AI顔認証タブレット型非接触温度測定装置等) | 700千円 | | | |
| | 延長保育事業 (人件費、光熱水費、おやつ代等) | 240千円 | ・ゆうかり乳児保育所 (低濃度オゾン発生装置等) | 550千円 | | | |
| | 障害児保育事業 (加配職員の人件費) | 2,400千円 | ・大宮北保育所 (AI顔認証タブレット型非接触温度測定装置等) | 700千円 | | | |
| | ・あみの夢保育園 | 2,204千円 | ・あみの夢、こうりゅう虹保育園 (IPJ・自動水栓付手洗器等) | 1,400千円 | | | |
| | 延長保育事業 (人件費、光熱水費、おやつ代等) | 300千円 | ・丹後中央病院たぶの木保育所 (除菌脱臭機等) | 400千円 | | | |
| | 一時預かり事業 (配置保育士の人件費) | 122千円 | ・ばんびへのばんびな保育園 (除菌脱臭機等) | 550千円 | | | |
| | 障害児保育事業 (加配職員の人件費) | 1,782千円 | ○保育士等処遇改善臨時特別補助金 | 2,675千円 | | | |
| | ・こうりゅう虹保育園 | 10,069千円 | ・ゆうかり子ども園 (対象保育士等 55人) | 668千円 | | | |
| | 延長保育事業 (人件費、光熱水費、おやつ代等) | 300千円 | ・ゆうかり乳児保育所 (対象保育士等 20人) | 290千円 | | | |
| 一時預かり事業 (配置保育士の人件費) | 337千円 | ・大宮北保育所 (対象保育士等 55人) | 768千円 | | | | |
| 障害児保育事業 (加配職員の人件費) | 7,164千円 | ・あみの夢保育園 (対象保育士等 26人) | 427千円 | | | | |
| 通所バス運行費補助金 (189千円×12月) | 2,268千円 | ・こうりゅう虹保育園 (対象保育士等 35人) | 522千円 | | | | |
| ・ゆうかり子ども園 | 10,256千円 | | | | | | |
| 延長保育事業 (人件費、光熱水費、おやつ代等) | 3,328千円 | | | | | | |
| 一時預かり事業 (配置保育士の人件費) | 792千円 | | | | | | |
| 障害児保育事業 (加配職員の人件費) | 6,136千円 | | | | | | |
| | | | 成果・課題 | ○延長保育、一時預かり及び障害児保育等を推進し、子育て支援と仕事の両立支援を図った。 ○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための支援を行った。 ○保育士等の処遇改善に係る国からの協力要請を受け、保育士等の処遇改善を支援した。(2、3月分) | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|-----------|--------------------|---------------------------|--|-----------|---------------|
| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 |
| | 項 | 02 児童福祉費 | 20,805千円 | 21,181千円 | 376千円 | 98.2% | |
| | 目 | 02 子育て支援費 | | | | (参考)当初予算額 | |
| 事業 | 03 子育て支援以外事業 | | | | | 23,171千円 | 課 子ども未来課 |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | |
| 目的 | 地域の子育て支援の拠点として市内8か所に子育て支援センターを設置し、育児相談や子育て情報の提供等、在宅で子育てをしている保護者とその子どもたちを支援する。 | 主な財源 | 国補 | 子ども・子育て支援交付金 (1/3) | | 5,930千円 | |
| | | 府補 | 子ども・子育て支援交付金 (1/3) | | 5,930千円 | | |
| | | | 諸収入 | 網野地域子育て支援センター光熱水費等負担金 | | 12千円 | |
| 主要な事務・事業の概要 | 保育所及びこども園の入所、入園前の子どもを持つ家庭のため、保護者の育児相談・交流の場及び子ども同士の間ふれあいの場として、8か所の支援センターを設置し、地域に密着した子育て支援を推進した。 10月29日、11月8日に開催した子育て交流会は、保護者75人、子ども81人、計156人の参加があった。 | | | ○会計年度任用職員任用経費 (18人分) | | 15,884千円 | |
| | ○支援センター利用人数 (延べ人数) | | | ○通信運搬費 (電話代) | | 247千円 | |
| | | | | ○光熱水費 | | 752千円 | |
| | | | | ○網野地域子育て支援センター浄化槽維持管理業務委託 | | 233千円 | |
| | | | | ○支援センター運営委託料 (こうりゅう虹保育園) | | 2,330千円 | |
| | | | | ○その他経費 (消耗品費等) | | 1,359千円 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | 成果・課題 | 保育所及びこども園の入所、入園前の子育て家庭のため、子育て相談や遊びの場を提供することにより、子育てに対する不安の解消や保護者同士のコミュニケーションの促進を図ることができた。 | | |
| | ○なかよし広場 (毎月1回、峰山総合福祉センターで実施) ※新型コロナウイルス感染症対策のため令和3年度は未開催 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|--|-----------|--|--|-------------------------|-----------|---|----------|
| | 項 | 02 児童福祉費 | | | | 87.8% | | |
| 事業 | 目 | 02 子育て支援費 | 4,064千円 | 4,627千円 | 563千円 | (参考)当初予算額 | 課 | 子ども未来課 |
| | 事業 | 04 保育支援事業 | | | | 8,299千円 | | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | | |
| 目的 | 保護者の疾病等の理由により家庭での養育が一時的に困難となった児童や、病気の回復期にある児童を一時的に保育し、保護者の子育てと就労を支援する。 | | 主な財源 | 国補 | 子ども・子育て支援交付金 (1/3) | 1,049千円 | | |
| | | | | 国補 | 子育てのための施設等利用給付交付金 (1/2) | 444千円 | | |
| | | | | 府補 | 子ども・子育て支援交付金 (1/3) | 1,049千円 | | |
| | | | | 府補 | 子育てのための施設等利用給付交付金 (1/4) | 222千円 | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>家庭での養育が一時的に困難となった児童（小学4年生まで）や、病気やけがの回復期にあり、集団保育や登校が困難な児童（小学6年生まで）を一時的に保育・看護し、保護者の子育てと就労を支援する事業を、社会福祉法人みねやま福祉会に委託した。</p> <p>○委託料 3,170千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て短期支援事業委託料 (延べ利用児童数等) 206千円 <ul style="list-style-type: none"> ・0、1歳児 生活保護・ひとり親非課税世帯 13人 非課税・ひとり親課税世帯 2人 その他の世帯 0人 ・2歳児以上 生活保護・ひとり親非課税世帯 13人 非課税・ひとり親課税世帯 0人 その他の世帯 1人 <p>・病後児保育事業委託料 2,964千円 (延べ利用児童数) 5人 (1歳：2人、2歳：1人、5歳：2人)</p> | | <p>○認可外保育施設等給付費 888千円</p> <p>[認可外保育施設 (こどもの森保育園 与謝野町)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給児童数 2人 (2世帯) ※5歳児 (2号認定児)、4歳児 (2号認定児) ・支給期間 令和3年4月～令和4年3月 (12か月) ・支給額 一人当たり444千円 (37千円/月×12か月) <p>○日用品費等援助費 6千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給児童数 2人 (2世帯) ※5歳児 (1号認定児)、4歳児 (2号認定児) ・対象費用 教材費・行事費等 | | | | | |
| | 成果・課題 | | | <p>○保護者の育児負担の軽減など一時的な利用があり、養育を必要とする児童及びその家庭の福祉向上につなげることができた。</p> <p>○病気の回復期にある児童の子育てと保護者の就労の両立を支援することができた。</p> <p>○認可外保育施設等の利用費を対象者に給付し、幼児教育・保育無償化に対応した。</p> <p>○低所得世帯の教材費、行事への参加に要する費用等の一部を助成することで、対象家庭の経済的負担を軽減した。</p> | | | | |

| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|---|--------------|---------|--|------|-----------|---|----------|
| | 項 | 02 児童福祉費 | | | | 98.8% | | |
| 事業 | 目 | 02 子育て支援費 | 1,181千円 | 1,195千円 | 14千円 | (参考)当初予算額 | 課 | 子ども未来課 |
| | 事業 | 05 子育て環境整備事業 | | | | 2,200千円 | | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | | |
| 目的 | 市内の事業所等に対して授乳やおむつ替え等設備の整備に要する経費を助成するほか、市有施設の多目的トイレを改修（おむつ交換台設置）し、市内の子育て支援環境の充実を図る。 | | 主な財源 | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○子育て環境支援設備整備事業補助金 (5事業所) 994千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助対象者 市内に子育て世帯が利用することが想定される事業所又は店舗を有する者 ・補助対象経費 <ul style="list-style-type: none"> ①授乳用設備 (授乳用机・椅子等) の整備経費 ②おむつ替え設備 (おむつ交換台等) の整備経費 ③トイレ内ベビーキーパー設備の整備経費 ④ベビースペース用設備 (キッズブロック等) の整備経費 ・補助金額 補助対象経費の10/10以内の額 (上限1施設200千円) <p>○久美浜庁舎多目的トイレおむつ交換台設置 (1台) 187千円</p> | | 成果・課題 | <p>○市内5事業所のおむつ替え設備等の整備を支援したほか、久美浜庁舎の多目的トイレにおむつ交換台を設置し、市内の子育て支援環境の充実を図った。</p> <p>○子育て世帯が安心して外出できる環境整備を進めるため、事業所等が行う子育て支援環境の充実に向けた施設整備等に対する支援が引き続き必要である。</p> | | | | |

| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
|-------------|---|---------------------|---|-------|--|---------|---|----------|----------|------|-------|---|--------|
| | 項 | 02 児童福祉費 | | | | | | 54,728千円 | 54,822千円 | 94千円 | 99.8% | 課 | 子ども未来課 |
| | 目 | 04 保育事業費 | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 06 認定こども園教育利用管理運営事業 | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | 主な財源 | 負担金 | 教育認定児保育料 | 1,920千円 | | | | | | | |
| 目的 | 児童の健康管理や会計年度任用職員の利用により、円滑な認定こども園(1号認定児)運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。 | | | 国負 | 子どものための教育・保育給付交付金(1/2) | 6,716千円 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 健康管理実施経費 | 924千円 | 医師・薬剤師報酬、児童検診委託料、幼児健康診断票印刷代等 | 国補 | 保育対策総合支援事業費補助金(1/2)、保育士等処遇改善臨時特別交付金(10/10) | 106千円 | | | | | | | |
| | 会計年度任用職員任用経費(12人分) | 34,897千円 | 共済費(社会保険料等)、報酬等、手当 | 府負 | 子どものための教育・保育給付交付金(1/4) | 5,742千円 | | | | | | | |
| | こども園運営に要する経費 | 120千円 | 備品購入費(絵本) | 諸収入 | 教育認定児預かり保育料 | 1,405千円 | | | | | | | |
| | 日本スポーツ振興センター負担金 | 26千円 | | | | | | | | | | | |
| | 認定こども園施設給付費 | 18,723千円 | ゆうかり子ども園:3歳以上児の幼児教育業務(1号認定児) 定員12人 令和4年3月末入園児童数:10人 | | | | | | | | | | |
| | 新型コロナウイルス感染症対策関連経費 | 38千円 | 消耗品費(手指消毒液等) | | | | | | | | | | |
| | | | | 成果・課題 | <p>(参考)京丹後市内の幼保連携型認定こども園(R4.3.31現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立:峰山、大宮、網野、丹後、弥栄、かぶと山 ・私立:ゆうかり子ども園 <p>○職員確保、児童・職員の健康管理などの業務を適切に行うことにより、円滑なこども園運営を行うことができた。</p> <p>○保育士等の処遇改善に係る国からの協力要請を受け、国の交付金を活用し、会計年度任用職員の保育士等の処遇改善を行った。(2、3月分)</p> | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
|-------------|--|---------------------|---|-------|---|--|---|-----------|-----------|---------|-------|---|--------|
| | 項 | 02 児童福祉費 | | | | | | 706,983千円 | 710,518千円 | 3,535千円 | 99.5% | 課 | 子ども未来課 |
| | 目 | 04 保育事業費 | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 07 認定こども園保育利用管理運営事業 | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | 主な財源 | 負担金 | 保育認定児保育料 | 65,292千円 | | | | | | | |
| 目的 | 児童の健康管理や会計年度任用職員の利用により、円滑な認定こども園(2号・3号認定児)運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。 | | | 国負 | 子どものための教育・保育給付交付金(1/2) | 63,857千円 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 健康管理実施経費 | 4,618千円 | 医師報酬・費用弁償、児童検診委託料、大腸菌等検査手数料等 | 国補 | 子ども・子育て支援交付金(1/3)、保育対策総合支援事業費補助金(1/2)ほか | 8,354千円 | | | | | | | |
| | 会計年度任用職員任用経費(186人) | 391,488千円 | 共済費(社会保険料等)、報酬等、手当 | 府負 | 子どものための教育・保育給付交付金(1/4) | 27,350千円 | | | | | | | |
| | 職員研修実施経費 | 41千円 | 職員旅費等 | 府補 | 子ども・子育て支援交付金(1/3)第3子以降保育料無償化事業費補助金ほか | 14,575千円 | | | | | | | |
| | 給食調理業務経費 | 28,423千円 | 調理業務委託料(大宮、かぶと山) | 諸収入 | 広域入所児童受託保育料、一時預かり事業利用料、職員給食費ほか | 16,212千円 | | | | | | | |
| | こども園送迎車両関連経費(17台) | 27,689千円 | 業務委託経費、修理費、重量税等 | | | | | | | | | | |
| | 入園児童の保育に要する経費 | 76,343千円 | 保育材料費、助材料費、医薬材料費 | | | | | | | | | | |
| | こども園運営に要する経費 | 42,773千円 | 光熱水費、通信運搬費、備品購入費(おもちゃ殺菌保管庫等)、廃家電処理等 | | | | | | | | | | |
| | 新型コロナウイルス感染症対策関連経費 | 3,792千円 | 備品購入費(検温サーモグラフィカメラ6台、おもちゃ殺菌保管庫3台等) 消耗品費(手指消毒液等) | | | | | | | | | | |
| | | | | | 成果・課題 | <p>○認定こども園施設給付費 130,239千円</p> <p>ゆうかり子ども園:6か月児~5歳児の保育業務(2号及び3号認定児) 定員138人 令和4年3月末入園児童数:166人</p> <p>○その他必要経費 1,577千円</p> <p>共通物品(コピー用紙等の事務消耗品)、日本スポーツ振興センター負担金、全園公立幼稚園・こども園長会負担金</p> <p>○職員確保、児童・職員の健康管理、給食提供、送迎バスの運行管理などの業務を適切に行い、円滑なこども園運営を行うことができた。</p> <p>○衛生物品の購入、検温サーモグラフィカメラの設置等により、新型コロナウイルス感染症対策を図った。</p> <p>○保育士等の処遇改善に係る国からの協力要請を受け、国の交付金を活用し、会計年度任用職員の保育士等の処遇改善を行った。(2、3月分)</p> <p>○乳児利用の増加に対応するため、職員体制の確保や、より適切な保育環境の整備が必要である。</p> | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 |
|----------------------------|--|------------------------|----------------------|---|-------------------|-----------------------|----------|
| | 項 | 10,857千円 | | 11,051千円 | 194千円 | 98.2% | |
| | 目 | 10,857千円 | | 11,051千円 | 194千円 | (参考)当初予算額 11,807千円 | 課 |
| | 03 民生費 | | | | | | 教育委員会事務局 |
| | 02 児童福祉費 | | | | | | |
| | 04 保育事業費 | | | | | | |
| | 05 保育所施設管理事業 | | | | | | 子ども未来課 |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | |
| 目的 | 適切な維持管理のもと、施設を利用する児童、職員が安全かつ快適に過ごすことができるよう必要な点検・整備を実施する。 | | 主な財源 | 負担金 | 保育認定児保育料 | 623千円 | |
| | | | | 府補 | 第3子以降保育料無償化事業費補助金 | 52千円 | |
| | | | 市債 | 児童福祉施設整備事業債（過疎対策債） | 4,300千円 | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○報償費 | 3千円 | ○使用料及び賃借料 | 106千円 | | | |
| | 土地使用謝金（たちばな保育所園庭入口） | | 土地賃上料（たちばな保育所駐車場等用地） | 10千円 | | | |
| | ○需用費 | 1,947千円 | 清掃用具賃上料 | 96千円 | | | |
| | 消耗品費 | 107千円 | ○工事請負費 | 5,763千円 | | | |
| | 施設修繕費 | 1,840千円 | 宇川保育所遊戯室空調機更新工事 | 1,188千円 | | | |
| ○役務費 | 559千円 | 島津保育所調理室・0歳児保育室空調機更新工事 | 505千円 | | | | |
| 貯水槽法定検査、浄化槽法定検査等手数料 | 32千円 | 島津保育所下水道接続及び浄化槽解体撤去工事 | 4,070千円 | | | | |
| 火災保険料（12施設分）※旧施設含む | 527千円 | | | | | | |
| ○委託料 | 2,479千円 | | | | | | |
| 施設整備、グリストラップ収集・処理、浄化槽維持管理等 | 2,219千円 | | | | | | |
| 島津保育所下水道接続及び浄化槽撤去工事監理委託料 | 260千円 | | | | | | |
| | | | 成果・課題 | ○老朽化等に伴う施設の修繕及び工事を実施し、施設の安全管理を適切に行うことができた。 ○施設や設備が老朽化していることから、大規模な改修等が必要となるものがあり、計画的に行っていく必要がある。 | | | |

| 予算科目 | 款 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 |
|----------------------------|--|----------|-----------------|--|----------|-----------------------|----------|
| | 項 | 15,876千円 | | 16,104千円 | 228千円 | 98.5% | |
| | 目 | 15,876千円 | | 16,104千円 | 228千円 | (参考)当初予算額 16,832千円 | 課 |
| | 03 民生費 | | | | | | 教育委員会事務局 |
| | 02 児童福祉費 | | | | | | |
| | 04 保育事業費 | | | | | | |
| | 08 認定こども園施設管理事業 | | | | | | 子ども未来課 |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | |
| 目的 | 適切な維持管理のもと、必要な点検・整備を実施し、施設を利用する児童、職員が安全かつ快適に過ごすことができる環境を整える。 | | 主な財源 | 負担金 | 保育認定児保育料 | 860千円 | |
| | | | | 負担金 | 教育認定児保育料 | 353千円 | |
| | | | 府補 | 第3子以降保育料無償化事業費補助金 | 84千円 | | |
| | | | 市債 | 児童福祉施設整備事業債（過疎対策債） | 8,300千円 | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○需用費 | 2,940千円 | ○工事請負費 | 8,006千円 | | | |
| | 消耗品費 | 164千円 | 丹後こども園屋外プール設置工事 | 8,006千円 | | | |
| | 修繕費 | 2,776千円 | | | | | |
| | ○役務費 | 887千円 | | | | | |
| | 貯水槽法定検査、浄化槽法定検査等手数料等 | 38千円 | | | | | |
| 火災保険料（6施設分） | 849千円 | | | | | | |
| ○委託料 | 3,832千円 | | | | | | |
| 施設整備、グリストラップ収集・処理、自動ドア保守点検 | 3,502千円 | | | | | | |
| 消防設備点検、自家用電気工作物保安管理、害虫駆除等 | | | | | | | |
| 丹後こども園屋外プール設置工事監理委託 | 330千円 | | | | | | |
| ○使用料及び賃借料 | 211千円 | | 成果・課題 | ○突発的な事案に伴う施設の修繕等を実施し、施設の安全管理を適切に行うことができた。 ○老朽化した施設もある中、大規模な改修等が必要となるものがあり、計画的に行っていく必要がある。 | | | |
| 清掃用具賃上料 | 211千円 | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|------|---|---------------|-------------|----------------------|---|-----------|-------|--|----------|
| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
| | 項 | 02 児童福祉費 | 34,191千円 | 34,192千円 | 1千円 | 99.9% | | | |
| | 目 | 04 保育事業費 | | | | (参考)当初予算額 | | | |
| | 事業 | 09 保育所等環境整備事業 | | | | 31,534千円 | 課 | 子ども未来課 | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | 国補 | 保育対策総合支援事業費補助金(1/2) | | | | 4,785千円 | |
| 目的 | 公設公営保育施設における保育業務の負担軽減及び保護者の利便性の向上を図るため、保育業務支援システムを導入する。 | | 国補 | 新型3D付体感染症対応地方創生臨時交付金 | | | | | 13,000千円 |
| | | | 市債 | 児童福祉施設整備事業債(過疎対策債) | | | | | 14,500千円 |
| | | | 主要な事務・事業の概要 | | <p>○無線LAN構築経費(保育所・こども園10施設) 14,876千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本設計委託料 291千円 工事委託料 14,289千円 工事監理委託料 296千円 <p>○備品購入費 14,915千円</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末 103台、バーコードリーダー15台、管理用PC端末 1台 <p>○保育業務支援システム導入経費 4,400千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報通信機器等設置委託料 導入システム名: コドモン 運用期間: 令和4年4月1日~令和9年3月31日(5か年) | | 成果・課題 | <p>○保育所等施設に無線LAN環境を整備するとともに、正職員にタブレット端末を整備した。また、保育業務支援システムを導入し、保育業務のICT化を図った。</p> <p>○保育業務の負担軽減及び保育の質の向上が図られるよう、保育業務支援システムの十分な活用を進める必要がある。</p> | |

| | | | | | | | | | |
|------|---|---------------------|-------------|-------------------|--|-----------|-------|--|------|
| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
| | 項 | 02 児童福祉費 | 62千円 | 73千円 | 11千円 | 84.9% | | | |
| | 目 | 02 子育て支援費 | | | | (参考)当初予算額 | | | |
| | 事業 | 01 ファミリー・サポートセンター事業 | | | | 73千円 | 課 | 子ども未来課 | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | 国補 | 子ども・子育て支援交付金(1/3) | | | | 20千円 | |
| 目的 | 子どもの預かり等の援助を受ける方、援助を行う方からなる会員同士の援助活動を調整し、概ね生後2か月から小学校3年生までの子どもを持つ家庭の子育て支援を図る。 | | 府補 | 子ども・子育て支援交付金(1/3) | | | | | 20千円 |
| | | | 主要な事務・事業の概要 | | <p>新規及び登録済みのまかせて会員を対象に、援助活動に必要な専門的な知識の取得やスキルアップを目的とした講習会を実施した。</p> <p>■実施事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規登録会員及び登録更新会員講習会 参加者 6人 <p>■会員数(令和4年3月末) 前年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 依頼(おねがい)会員 42人 39人 援助(まかせて)会員 16人 16人 両方会員 1人 1人 ※活動延べ件数 61件 1件 ※利用者実人数 おねがい会員: 4人 1人 まかせて会員: 6人 2人 <p>○事業費 62千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 役員費(補償保険料) | | 成果・課題 | <p>○援助会員の新規・更新講習会で、受講者に小児看護の知識や子どもの保育について再確認する機会を提供し、援助技能の向上を図った。</p> <p>○より一層円滑に運営するためには、制度の周知と援助会員の確保が課題である。</p> | |

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

| 担当課 | 担当課長 |
|-------|-------|
| 教育総務課 | 溝口 容子 |
| 学校教育課 | 川村 義輝 |

| | |
|-------|--|
| 重点目標 | 2 確かな学力・生き抜く力を育みます |
| 基本的方針 | <p>小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。</p> <p>一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化や情報化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。</p> <p>少子化の進行による学校の小規模化が予想されるなか、取り組んできた学校再配置の評価・検証を行い、今後の学校の適正配置を検討します。</p> |

1. 施策の方向性

PLAN

| | |
|--------------------------|--|
| 1. 小中一貫教育の推進 | <p>①学校教育改革構想に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む小中一貫教育を推進します。</p> <p>②学園(中学校区)を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学校園の教育活動を一層進めます。</p> <p>③小中一貫教育等について保護者や地域の理解を深めるとともに連携を強化するため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供・共有の機会を拡充します。</p> <p>④学識経験者や市民、保護者及び学校園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。</p> <p>⑤小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校・学園評価の充実に努め、地域とともにある学校・学園づくりを推進します。</p> |
| 2. 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上 | <p>①子どもの発達や学習の特性等に応じた系統的で一貫性のある教育課程により、すべての学校園で就学前から中学校卒業までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。</p> <p>②新学習指導要領に求められる教職員の資質・能力を育成するため、授業実践力や本市の児童生徒の現状を踏まえた生徒指導力を高める研修を充実します。</p> <p>③加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。</p> <p>④京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇りを高めるとともに、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協働と参画により、すべての小中学校で実施します。</p> <p>⑤子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学校園と家庭が連携した取り組みを充実します。</p> <p>⑥学校園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域の教育環境づくりを推進します。</p> <p>⑦地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」を推進します。</p> <p>⑧放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制づくりを進めます。</p> |
| 3. 確かな学力の育成 | <p>①小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間を見通した学習指導を充実します。</p> <p>②全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を概ね上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的に進めます。</p> <p>③すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実を位置付け、系統的・継続的な指導を行います。</p> <p>④「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。</p> <p>⑤主体的に学びに向かう力や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学校園に普及します。</p> <p>⑥家庭学習が定着するよう、学校園と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。</p> <p>⑦学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校と高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。</p> |
| 4. 社会を生き抜く力の育成 | <p>①子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方・働き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。</p> <p>②「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。</p> <p>③児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲と学習効果を高めるとともに、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成するため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。</p> <p>④小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。</p> <p>⑤国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成するため、多文化共生社会の視点に立ち、諸外国の文化や伝統を理解し興味・関心を深める国際理解教育を推進します。</p> <p>⑥環境の保全や主体的に環境に働きかける実践的態度・能力を育成するため、身近な環境に関心を持ち人間と環境との関わりについて理解を求める環境教育を推進します。</p> |

| 3. 確かな学力の育成 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|--|--|------------|---------|--------|---------------|--------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 6 | 小学校丹後学等教育活動実践事業 授業改善や教員の指導力向上を図るため、府の研究指定校を受けて教育実践に取り組むとともに、地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。 | 学校教育課 | - | - | (1,895) | 統合(整理) |
| 7 | 中学校丹後学等教育活動実践事業 授業改善や教員の指導力向上を図るため、府の研究指定校を受けて教育実践に取り組むとともに、地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。 | 学校教育課 | - | - | (1,189) | 統合(整理) |
| 3. 確かな学力の育成 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 8 | 小学校教育振興事業 副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導を実践し、学力等の向上を図る。 | 学校教育課 | 21,807 | 14,953 | 23,408 | 現状維持 |
| 9 | 小学校教育振興備品整備事業 授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、児童の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。 | 学校教育課 | 9,763 | 11,010 | 10,516 | 現状維持 |
| 10 | 小学校就学援助事業 要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する児童の保護者等の経済的負担を軽減する。 | 学校教育課 | 20,064 | 19,704 | 25,052 | 現状維持 |
| 11 | 中学校教育振興事業 副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導の実践や部活動、体育大会等への参加を支援し、学力等の向上を図る。 | 学校教育課 | 28,001 | 20,735 | 26,967 | 現状維持 |
| 12 | 中学校教育振興備品整備事業 授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、生徒の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。 | 学校教育課 | 8,232 | 8,418 | 11,106 | 現状維持 |
| 13 | 中学校就学援助事業 要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する生徒の保護者等の経済的負担を軽減する。 | 学校教育課 | 16,349 | 20,348 | 24,489 | 現状維持 |
| 4. 社会を生き抜く力の育成 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| <p>① 子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方・働き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。</p> <p>② 「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。</p> <p>③ 児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲と学習効果を高めるとともに、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成するため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。</p> <p>④ 小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。</p> <p>⑤ 国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成するため、多文化共生社会の視点に立ち、諸外国の文化や伝統を理解し興味・関心を深める国際理解教育を推進します。</p> <p>⑥ 環境の保全や主体的に環境に働きかける実践的態度・能力を育成するため、身近な環境に関心をもち人間と環境との関わりについて理解を求め環境教育を推進します。</p> | | | | | | |
| 14 | 学校情報化推進事業 小中学校の情報通信ネットワークの整備・維持管理を行うとともに、情報管理の徹底と学校情報化を行う。また、ICTを活用した学習環境を推進する。 | 学校教育課 | 30,267 | 42,202 | 59,637 | 現状維持 |
| 15 | 学校情報通信ネットワーク環境施設整備事業【繰越】 児童生徒が1人1台のタブレット型パソコンを利用できる環境を国の補助事業を活用して整備する。 | 学校教育課 | 230,618 | - | - | |
| 16 | GIGAスクール情報機器等整備事業 国のGIGAスクール構想に基づき、児童・生徒1人1台のタブレット端末をはじめ必要な情報機器等の整備を行うとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止等による休校の際に、ICTの活用によりオンラインによる授業などができる環境の整備を行う。 | 学校教育課 | 450,861 | - | - | 統合(整理) |
| 17 | 児童生徒国際交流事業 国際交流事業を推進することにより、語学力の向上はもとより、国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成する。 | 学校教育課 | 218 | 44 | - | 統合(整理) |
| 18 | グローバル人材育成事業 国際感覚を持ち将来グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、市内の小中学校に在籍する児童生徒を中心に、諸外国への興味関心を深め文化や伝統を理解する機会を創設し外国語教育の充実を図るとともに、産学連携のもと新たな可能性を創造するSTEAM教育の推進を図る。 | 学校教育課 | - | - | 13,477 | 現状維持 |
| 19 | 外国語指導助手招致事業 一般財団法人自治体国際化協会(JETプログラム)の斡旋を受け、外国語指導助手(ALT)を招致・任用し、小中学校で授業等の補助を行うことで、外国語教育及び国際理解教育の促進を図る。 | 教育総務課 | 24,027 | 24,805 | 28,221 | 現状維持 |
| 20 | 国際交流員招致事業 一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用して国際交流員を任用し、現代社会のグローバル化に対応する。 | 学校教育課 | 1,910 | 1,883 | 4,438 | 現状維持 |

| 上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|-------------------------|---|------------|---------|---------|---------|---------------|
| 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 |
| 21 | 奨学金事業 経済的に困窮している世帯で勉学意欲のある生徒や学生に対し、奨学金の給付・貸付を行うとともに、定住促進奨学金返還支援を行い、若者の定住及び就業を支援する。 | 教育総務課 | 6,325 | 6,011 | 42,119 | 拡大 |
| 22 | 奨学基金 経済的理由により大学等への修学が困難な者に対し、奨学金を給付することを目的とした奨学基金への積立金 | 教育総務課 | 936 | 895 | 12 | 改善・効率化 |
| 23 | 谷口謙・未来応援基金 経済的理由により大学等への進学及び修学が困難な者に対し、奨学金を貸し付けることを目的とした谷口謙・未来応援基金への積立金 | 教育総務課 | 1,663 | 3,351 | 1,899 | 改善・効率化 |
| 計 | | | 856,278 | 179,764 | 279,526 | |

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

| 基本的方針 | 小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。 一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化や情報化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。 少子化の進行による学校の小規模化が予想されるなか、取り組んできた学校再配置の評価・検証を行い、今後の学校の適正配置を検討します。 | | | | | |
|--------|---|------|--------------------------------|---------------|-----------------------------|------------------|
| | 目標指標 | 単位 | 計画作成時 年度 | 実績値(現状) 年度 | | 目標値 年度 |
| 主な目標指標 | 学校園関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区) | 中学校区 | 0 H25 | 6学園 | R3 | 6(全中学校区で実施) R6 |
| | 学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童の割合<小学生> | % | 73.2 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙(小6) | H25 | 73.8 R3 | 80%以上 R6 |
| | 学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の生徒の割合<中学生> | % | 50.6 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙(中3) | H25 | 64.9 R3 | 70%以上 R6 |
| | 一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着 | % | 小中学校各教科の全国平均正答率 | | 小学校国語、中学校国語 全国平均以上 R3 | 市平均の全教科全国平均以上 R6 |
| | 将来の夢や目標を持っている生徒の割合<中学生> | % | 70.0 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙(中3) | H25 | 65.1 R3 | 90%以上 R6 |

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------------|----|--|
| ◎ 予定以上に進んでいる | ○ | <p>《学校園関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区)》 各学校の関係者評価は、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤に作成している。また、各学園の学校関係者評価の必須項目に「保幼小中一貫教育の推進」を設定することで、学園の取組み等の検証・評価を各校園単位でPDCAサイクルにより進めることができた。今後は、全ての学園に設置されている学校運営協議会による学園評価について、更に充実させるための体制整備が必要である。</p> <p>《学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童生徒の割合》 小学校の家庭学習時間は年々減少傾向にあり、授業と家庭学習を連動させた指導の改善が求められる。課題の個別最適化についても考えていく必要がある。市学力向上対策会議の重点課題として取り組み、各校・各学園での取組みを一層充実させ、自主的・自発的な家庭学習の習慣化を目指し、適時性を意識した系統的な指導を充実させる。その際、オンラインによるタブレットの持ち帰り学習も効果的に進める。</p> <p>《一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着》 新学習指導要領の下での指導が始まり、求められる資質・能力の向上を目指す授業改善に取り組んでいるかどうかの見直しが必要である。質問紙に学習活動に係る新たな項目が加わった。授業改善の一助と捉え取り組むことが大切である。また、課題に焦点化した学力向上の取組みを保幼小中一貫教育を手段として、各校・各学園で一層推進していく必要がある。そのために市学力向上対策会議等で各学園の実践から学び合う機会を設定する。</p> |
| ○ 予定どおり進んでいる | | |
| ▲ 少し遅れている | | |
| × 大幅に遅れている | | |

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------|----|---|
| | | <p>《将来の夢や目標を持っている生徒の割合》</p> <p>年々減少の傾向にあり、目的意識を持たせるための意図的な働きかけが必要である。児童生徒が、学校、家庭及び地域において学んだことを振り返り、新たな学習や生活への意欲につなげ将来の生き方を考える活動の中で、児童生徒が学びを記録し蓄積する教材として「キャリアパスポート」を活用し、対話的に関わり個の成長を促す系統的な指導を進める等、キャリア教育のより一層の推進・充実を図る必要がある。</p> |

5. 今後の施策展開の考え方(令和4年～令和6年度までの主な取組)

ACT

| 区分 | No. | 具体的内容 |
|----------|-----|--|
| 施策展開の考え方 | 1 | 28年度からの小中一貫教育の全市展開では、実質的に保育所・幼保連携型認定こども園の就学前1年を含めた10年間の一貫教育を行っていることから、令和3年1月に名称を「保幼小中一貫教育」に改めた。学園単位によるPDCAサイクルの実施とその検証・評価に基づく保幼小中一貫教育推進基本計画等の適切な改訂を行う。また、各学園を会場とした市教育フォーラム等の啓発活動により、教職員・保護者・地域住民への成果の明確化を図る。 |
| | 2 | 学園コーディネーター等の配置を継続するとともに、各学園に設置された学校・地域連携協議会の学園運営協議会(コミュニティ・スクール)への移行が令和2年度に完了したことから、学校、家庭、地域が連携した学習環境の体制作り、目指す子ども像に基づく学校・地域が連携した取組みを一層推進する。 |
| | 3 | 保幼小中一貫教育モデルカリキュラム及び保幼小接続モデルプラン等を活用した各学園での系統的で一貫性のある指導を充実させるため、授業改善・授業研究を更に推進するとともに、全国学力・学習状況調査の学園分析結果を活用し個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 |
| | 4 | 総合的な学習の時間を活用した「丹後学モデルカリキュラム」の自校園化に向けた取組みと興味・関心・意欲を高めるICT機器の整備推進を図るとともに、中学生の海外派遣や児童生徒の国際交流等を推進することにより、国際社会を生きる日本人としての基礎的な能力の育成を図る。 |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
|---|---|-----------------|--------------------|---|---|------|------|----------|-------|------|-------|---|-------|
| | 項 | 01 教育総務費 | | | | | | 189千円 | 228千円 | 39千円 | 82.8% | 課 | 学校教育課 |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 14 保幼小中一貫教育推進事業 | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | |
| 目的 | 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育の推進に向け、協議会及び専門部会で調査研究並びに教員の授業力と学級経営力を高めるための研修を実施し、指導の一貫性を通じて確かな学力、豊かな心を育成する。 | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○保幼小中一貫教育研究推進協議会（委員謝金、費用弁償） | | | 71千円 | ○授業実践力向上研修会（講師謝金、消耗品費） | | 46千円 | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 協議会委員 14人（大学教授、学識経験者、PTA、学校教職員等） 協議会の開催 2回（12月・3月） 調査研究事業 保幼小中一貫教育実施校における効果と課題の整理 | | | | 開催日：令和3年10月12日（火） 参加者：99人 対象：市内小中学校教員、教育関係者 場所：いさなご小学校 講師：尾崎 正彦 氏（関西大学初等部 教諭） | | | | | | | | |
| | ○学校教育連携専門部会 | | | ○丹後学研究会（講師謝金） ※オンライン開催 | | 30千円 | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 専門部会 学校運営部員 6人 開催回数 学校運営部会 2回 | | | 開催日：令和4年3月3日（木） 参加者：29人 対象：市内小中学校教員、教育関係者 講師：保野 裕哉 氏（一般社団法人京丹後青年会議所 副理事長） | | | | | | | | | |
| ○保幼小中一貫教育指導の重点リーフレット・ポスター作成配布（教職員用） | | | ○出張旅費等（旅費、有料道路通行料） | | 7千円 | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 指導の重点360部、推進上の留意点60部、ダイジェスト版660部ほか | | | ○教育フォーラムの開催（消耗品費） | | 5千円 | | | | | | | | |
| 開催日：令和3年10月21日（木） 参加者：63人 対象：市内保育所・こども園・小中学校教員、教育関係者ほか 場所：峰山こども園 内容：公開保育、乳幼児期の教育・保育の取組紹介 | | | ○成果・課題 | | ○保幼小中一貫教育研究推進協議会及び学校教育連携専門部会による研究と検証を積み重ね、保幼小中一貫教育推進基本計画に基づく各学園の取組評価等をPDCAサイクルにより進めることができた。 ○郷土への愛着と誇り、地域での生活への意欲を系統的にはぐむ丹後学を指導する教員が地域における様々な取組を知る機会として、丹後学研究会を開催することができた。 ○引き続き、保幼小中一貫教育を推進するための研究及び検証を進める必要がある。 | | | | | | | | |
| ○小中一貫教育全国連絡協議会負担金 | | 30千円 | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
|-------------|--|---------------------------|---------|---------|---|---|------|----------|---------|-------|-------|---|-------|
| | 項 | 01 教育総務費 | | | | | | 4,886千円 | 5,717千円 | 831千円 | 85.4% | 課 | 学校教育課 |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 15 保幼小中一貫教育実践事業 | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | |
| 目的 | 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づくより良い教育の実現に向け、市内全域で保幼小中一貫教育を実践する。また、学力の向上等の課題解決を目指すとともに、将来に夢と希望をもって学ぶことのできる子どもを育成する。 | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○保幼小中一貫教育の実践（報償費、消耗品費、印刷製本費等） | | | 3,248千円 | ○京丹後市保幼小中一貫教育研修会（講師謝金） | | 50千円 | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 峰山学園（授業研究会、部活動体験、体験授業等） 大宮学園（あいさつ運動、小中合同講演会等） 網野学園（部活動体験、授業体験、SNS講座等） 丹後学園（部活動体験、あいさつ運動、授業体験等） 弥栄学園（部活動体験、保幼小中行事交流等） 久美浜学園（部活動体験、SNS講演会等） | | | | 開催日：令和3年8月20日（金） 参加者：160人 対象：市内小中学校教員、教育関係者 講師：秋田 喜代美 氏（東京大学大学院 教授） ※オンライン開催 | | | | | | | | |
| | ○特色ある学校づくりの支援（報償費、消耗品費、委託料等） | | 1,588千円 | ○成果・課題 | | ○保幼小中一貫教育の実施により、各学園が教育目標「目指す子ども像」を設定し、カリキュラムや指導方法を統一することで、学園内の小中学校が一体となった教育活動を系統的に行うことができた。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で一部取り組むことができなかったものもあるが、部活動体験等の小中連携、合同SNS講演会等の小中連携等、学園内の保幼小中学校が連携した教育活動を実施することができた。 | | | | | | | |
| | 実施校：小学校16校、中学校6校 主な取組内容：郷土学習、環境学習、農業体験、人権学習 ばら寿司作り、福祉体験講座、性教育、SDGsに関する取組等 | | | | | | | | | | | | |
| 府補 | | きょうと地域連携交付金（保幼小中一貫教育実践事業） | | | | 1,400千円 | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|----------|----------|-------|---|-----------|-------|----------|-------|-----|------|-------|----|------|-------|-----|------|-------|-----|------|--------|-----|--------|------|--|--|--|--|--|
| | 項 | 01 教育総務費 | 330千円 | 334千円 | 4千円 | 98.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 11 学習支援体制整備事業 | | | | 1,476千円 | 課 | 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 府補 | | 地域で支える学校教育推進事業費補助金(2/3) | | 218千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、放課後を活用した教育活動を実施することにより、子どもたちの学びを支援する仕組みづくりを進める。 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○中学生の放課後学習支援（講師謝金、消耗品費） 330千円 放課後を活用した学習を希望する生徒を対象に、学習習慣の確立と基礎学力の定着、学力向上による高校進学率の向上を目的として、放課後の学習支援を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>回数</th> <th>参加人数（延べ）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山中学校</td> <td>4回</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>大宮中学校</td> <td>15回</td> <td>250人</td> </tr> <tr> <td>網野中学校</td> <td>9回</td> <td>271人</td> </tr> <tr> <td>丹後中学校</td> <td>22回</td> <td>515人</td> </tr> <tr> <td>弥栄中学校</td> <td>36回</td> <td>650人</td> </tr> <tr> <td>久美浜中学校</td> <td>25回</td> <td>1,223人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※放課後学習支援に係る時期・回数等計画内容は、学校によって異なります。</p> | | 学校名 | 回数 | 参加人数（延べ） | 峰山中学校 | 4回 | 42人 | 大宮中学校 | 15回 | 250人 | 網野中学校 | 9回 | 271人 | 丹後中学校 | 22回 | 515人 | 弥栄中学校 | 36回 | 650人 | 久美浜中学校 | 25回 | 1,223人 | 主な財源 | | | | | |
| | 学校名 | 回数 | 参加人数（延べ） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山中学校 | 4回 | 42人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮中学校 | 15回 | 250人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野中学校 | 9回 | 271人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後中学校 | 22回 | 515人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄中学校 | 36回 | 650人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久美浜中学校 | 25回 | 1,223人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | | | | | 中学生の学習習慣の確立と基礎学力の定着に寄与した。また、ICT機器を活用し、個々の学習進度に応じた学習を行うことができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-------------|--|----------|---------------------|--|---------|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 02 小学校費 | 14,953千円 | 20,719千円 | 5,766千円 | 72.1% | | |
| | 目 | 02 小学校教育振興費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| 事業 | 01 小学校教育振興事業 | | | | 25,176千円 | 課 | 学校教育課 | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 府補 | | きょうと地域連携交付金（教育振興事業） | | 4,258千円 | |
| 目的 | 副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導を実践し、学力等の向上を図る。 | | 主な財源 | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○報償費 1,274千円 ・入学記念品（394人分） 310千円 ・卒業記念品（415人分） 964千円</p> <p>○旅費 26千円 ・費用弁償（大地の学習講師費用弁償）</p> <p>○需用費 11,338千円 ・消耗品費 11,102千円 学用品、理科実験費、学力検査、指導書（教職員用）ほか ・印刷製本費 236千円 社会科副読本「わたしたちのきょうたんご」437部 ※3・4年生用</p> <p>○委託料 1,447千円 ・スクールバス定期外運行運転委託料</p> | | <p>○使用料及び賃借料 868千円 ・自動車借上料 680千円 ・有料道路通行料 31千円 ・駐車場使用料 5千円 ・著作物使用料 152千円</p> | | 主な財源 | | | |
| | 成果・課題 | | | | | 学校内での学習活動に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じながら、可能な限り、各学校の創意工夫や独自性を活かした様々な社会活動、体験活動などの校外学習を行うことで、児童の基礎学力の向上や社会を生き抜く力を高めることができた。 | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|------------------|-------------------------|---|---------------------|-----------|----------|----------|
| 予 算 科 目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 02 小学校費 | 11,010千円 | 11,432千円 | 422千円 | 96.3% | | |
| | 目 | 02 小学校教育振興費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 学校教育課 |
| | 事業 | 02 小学校教育振興備品整備事業 | | | | 11,385千円 | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 国補 | 理科教育設備整備費等補助金(1/2) | | 1,220千円 | |
| 目的 | 授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、児童の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。 | | | 府補 | きょうと地域連携交付金(教育振興事業) | | 2,460千円 | |
| | | | 寄附金 | ふるさと応援寄附金 | | 200千円 | | |
| 主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要 | 学習環境を整えるため、必要となる教材備品を購入した。図書については、充足率の向上に努めるよう整備を行うとともに、学校図書館蔵書管理システムを使用して管理を行った。 | | 201千円 | ○備品購入費 | | | 10,621千円 | |
| | ○需用費 ・修繕料(教材備品の修繕) | | | ・教材備品整備 | | | 4,382千円 | |
| | ○役務費 ・家電リサイクル料(テレビ1台、冷蔵庫2台) | | | ・学校図書整備 | | | 3,550千円 | |
| ○使用料及び賃借料 ・ソフトウェア使用料(全小学校分) (学校図書館蔵書管理システム用) | | 166千円 | (うち、ふるさと応援寄附金充当額 200千円) | | | | | |
| | | | ・理科・算数備品整備 | | | 2,689千円 | | |
| | | | 成果・課題 | 令和2年度に改訂された新学習指導要領の下、必要な学習教材、教育備品及び学校図書の整備に努めるとともに、理科備品については、国の補助金を活用し計画的に整備することで、学習指導要領に沿った学習環境を整えることができた。 | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|--------------|----------|--|---------------------|-----------|---------|----------|
| 予 算 科 目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 02 小学校費 | 19,704千円 | 19,800千円 | 96千円 | 99.5% | | |
| | 目 | 02 小学校教育振興費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 学校教育課 |
| | 事業 | 03 小学校就学援助事業 | | | | 22,744千円 | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 国補 | 就学援助費補助金(1/2) | | 54千円 | |
| 目的 | 要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する児童の保護者等の経済的負担を軽減する。 | | | 国補 | 特別支援教育就学奨励費補助金(1/2) | | 738千円 | |
| | | | 諸収入 | 過年度就学援助費返還金 | | 58千円 | | |
| 主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要 | ○就学援助費 | | 18,202千円 | ○特別支援教育就学奨励費 | | | 1,502千円 | |
| | ・要保護認定者 12人(R2:13人) | | 108千円 | ・対象者 45人(R2:53人) | | | | |
| | 修学旅行費 82千円 医療費 26千円 ・準要保護認定者 254人(R2:254人) 16,275千円 学用品費等 4,270千円 給食費 10,806千円 修学旅行費 1,155千円 医療費 44千円 ・準要保護認定者(被災児童) 1人(R2:2人) 83千円 学用品費等 17千円 給食費 40千円 修学旅行費 26千円 | | | 学用品費等 378千円 給食費 1,001千円 修学旅行費 123千円 | | | | |
| ※申請者数 283人(R2:298人) 認定者数 264人(R2:267人) ・令和4年度新入学児童生徒学用品費入学前支給分 支給者数 34人 ※令和4年2月21日支給 | | 1,736千円 | 成果・課題 | ○就学に必要な学用品費、給食費、修学旅行費等を支援することで、対象児童の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新入学児童生徒学用品費の入学前支給を行ったことで、新入学児童の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により家計が変化した世帯も含め、制度内容の周知を徹底するとともに、世帯状況や家計状態などを考慮し、公正かつ適正な援助に引き続き努める必要がある。 | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | |
|-------------|--|-------------|----------------|---------------------|--|-----------|---|----------|----------|-------|
| | 項 | 03 中学校費 | | | | | | 20,735千円 | 21,134千円 | 399千円 |
| | 目 | 02 中学校教育振興費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | |
| 事業 | 01 中学校教育振興事業 | 府補 | | きょうと地域連携交付金(教育振興事業) | 6,018千円 | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | | | |
| 目的 | 副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導の実践や部活動、体育大会等への参加を支援し、学力等の向上を図る。 | | 主な財源 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○報償費 | 1,101千円 | ○使用料及び賃借料 | | 129千円 | | | | | |
| | ・入学記念品(441人分) | 253千円 | ・著作物使用料 | | | | | | | |
| | ・卒業記念品(448人分) | 848千円 | ○負担金、補助及び交付金 | | 2,867千円 | | | | | |
| | ○需用費 | 9,444千円 | ・体育大会等選手派遣費補助金 | | | | | | | |
| | ・消耗品費 | 9,109千円 | | | | | | | | |
| | 学用品、理科実験費、学力検査、指導書(教職員用)ほか | | | | | | | | | |
| | ・印刷製本費 | 335千円 | | | | | | | | |
| | 社会科副読本「京丹後市の歴史」470部 | | | | | | | | | |
| | ※令和4年度入学の新中学1年生用 | | | | | | | | | |
| | ○役務費 | 30千円 | | | | | | | | |
| | ・楽器(ティンパニ、チューバほか)運搬手数料(峰山中学校) | | | | | | | | | |
| | ○委託料 | 7,164千円 | 成果・課題 | | 学校内での学習活動に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じながら、可能な限り、各学校の創意工夫や独自性を活かした様々な社会活動、体験活動などの校外学習を行うことで、生徒の基礎学力の向上や社会を生き抜く力を高めることができた。 | | | | | |
| | ・スクールバス定期外運行運転委託料 | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | |
|-------------|---|-------------|-------------------------|--------------------|---|-----------|---|----------|---------|-------|
| | 項 | 03 中学校費 | | | | | | 8,418千円 | 8,585千円 | 167千円 |
| | 目 | 02 中学校教育振興費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | |
| 事業 | 02 中学校教育振興備品整備事業 | 国補 | | 理科教育設備整備費等補助金(1/2) | 390千円 | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 府補 | | きょうと地域連携交付金(教育振興事業) | 2,233千円 | | | | |
| 目的 | 授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、生徒の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。 | | 寄附金 | | ふるさと応援寄附金 | 300千円 | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 学習環境を整えるため、必要となる教材備品を購入した。図書については、充足率の向上に努めるよう整備を行うとともに、学校図書館蔵書管理システムを使用して管理を行った。また、音楽備品については、適正な維持管理を行うとともに計画的に整備した。 | | ○備品購入費 | | 7,703千円 | | | | | |
| | ○需用費 | 321千円 | ・教材備品 | | 3,049千円 | | | | | |
| | ・修繕料(教材備品の修繕) | | ・学校図書 | | 1,678千円 | | | | | |
| | ○役務費 | 335千円 | (うち、ふるさと応援寄附金充当額 300千円) | | | | | | | |
| | ・楽器調整手数料(峰山、網野、弥栄中学校分) | 330千円 | ・理科備品 | | 962千円 | | | | | |
| | ・家電リサイクル料(テレビ1台) | 5千円 | ・音楽備品 | | 2,014千円 | | | | | |
| | ○使用料及び賃借料 | 59千円 | 成果・課題 | | 令和3年度に改訂された新学習指導要領の下、必要な学習教材、教育備品及び学校図書の整備に努めるとともに、理科備品については、国の補助金を活用し計画的に整備することで、学習指導要領に沿った教育環境を整えることができた。 | | | | | |
| | ・ソフトウェア使用料(全中学校分) | | | | | | | | | |
| | (学校図書室蔵書管理システム用) | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
|-------------|---|-------------|---|-------|--|---------------------|-------|----------|----------|-------|-------|---|-------|
| | 項 | 03 中学校費 | | | | | | 20,348千円 | 20,510千円 | 162千円 | 99.2% | 課 | 学校教育課 |
| | 目 | 02 中学校教育振興費 | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 03 中学校就学援助事業 | | | | | 23,135千円 | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 要保護者、準要保護者及び特別支援学校に入学する生徒の保護者等の経済的負担を軽減する。 | | 主な財源 | | 国補 | 就学援助費補助金(1/2) | | 90千円 | | | | | |
| | | | | | 国補 | 特別支援教育就学奨励費補助金(1/2) | | 809千円 | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○就学援助費 18,705千円 ・要保護認定者 8人(R2:11人) 181千円 修学旅行費 181千円 ・準要保護認定者 142人(R2:124人) 15,739千円 学用品費等 6,079千円 給食費 6,661千円 修学旅行費 2,993千円 医療費 6千円 ・準要保護認定者(被災児童) 1人(R2:0人) 145千円 学用品費等 100千円 給食費 45千円 ※申請者数 166人(R2:152人) 認定者数 148人(R2:136人) ・令和4年度新入学児童生徒学用品費入学前支給分 2,640千円 支給者数 44人 ※令和4年2月21日支給 | | ○特別支援教育就学奨励費 1,643千円 ・対象者 29人(R2:23人) 学用品費等 621千円 給食費 651千円 修学旅行費 371千円 | | ○就学に必要な学用品費、給食費、修学旅行費等を支援することで、対象生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新入学児童生徒学用品費の入学前支給を行ったことで、新入学生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で家計が変化した世帯も含め、制度内容の周知を徹底するとともに、世帯状況や家計状態などを考慮し、公正かつ適正な援助に引き続き努める必要がある。 | | 成果・課題 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
|-------------|---|----------|---|-------|--|-------------------------|-------|----------|----------|-------|-------|---|-------|
| | 項 | 01 教育総務費 | | | | | | 42,202千円 | 42,791千円 | 589千円 | 98.6% | 課 | 学校教育課 |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 18 学校情報化推進事業 | | | | | 46,537千円 | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 小中学校の情報通信ネットワークの整備・維持管理を行うとともに、情報管理の徹底と学校情報化を行う。また、ICTを活用した学習環境を推進する。 | | 主な財源 | | 国補 | 地方創生推進交付金 | | 100千円 | | | | | |
| | | | | | 国補 | 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 | | 10,000千円 | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 市内小中学校に整備した校内LAN及び校務用パソコン、普通教室用パソコン、児童・生徒・教職員用タブレット、情報教室用パソコン及びサーバー機器の維持管理を行うとともに、ウイルス対策を行った。また、小中学校の普通教室及び、特別支援教室に整備した電子黒板等の維持管理及び利用促進を行った。 ○報償金 199千円 ・講師謝金 プログラミング教育講習、情報セキュリティモラル等に係る研修会 ○需用費 2,711千円 ・パソコン・校内LAN関連消耗品 15千円 ・パソコン・校内LAN関連修繕費(26件) 2,696千円 ○役務費 1,545千円 ・通信運搬費 1,215千円 ・手数料(電子黒板移設) 330千円 | | ○委託料 14,246千円 ・サーバーシステム・パソコン・校内LAN保守委託料 1,743千円 ・産業廃棄物処理委託料(パソコン・サーバー等) 458千円 ・校務支援システム保守委託料 729千円 ・ICT支援員業務委託料(5人) 11,316千円 ○使用料及び賃借料 23,501千円 ・パソコン借上料 18,887千円 サーバーシステム借上(8台) 校務用パソコン借上(580台) ・ソフトウェア使用料 4,614千円 校務支援システム、ウイルス対策ソフト(1,556台分)ほか | | ○ネットワークを利用した遠隔操作などにより、小中学校等に整備した校内LAN、1,802台のパソコン(校務、普通教室、情報教室、タブレット)、電子黒板及びサーバー機器、並びにGiGAスクール情報機器等整備事業にて導入した4,252台のタブレット、50台のプリンタ、151台の電子黒板接続装置等の維持管理を効果的かつ適切に行うことができた。 ○引き続き、ICT支援員を適切に配置しながら、児童・生徒・教職員のICT機器や授業支援システムを積極的に利活用し、授業改善につなげていく必要がある。 | | 成果・課題 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|--|----------|--|-------|--|-------|-----|-------|-----|--|---|----------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 44千円 | 160千円 | 116千円 | 27.5% | 課 | 学校教育課 | | | | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | | | | | | | |
| 事業 | 19 児童生徒国際交流事業 | | | | 5,478千円 | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 繰入金 | | 雑費・まちづくり基金繰入金 | | 6千円 | | | | | |
| 目的 | 国際交流事業を推進することにより、語学力の向上はもとより、国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成する。 | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○小中学生文化体験 37千円</p> <p>小中学生を対象とした異文化理解・国際交流プログラムを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ALTによる英語活動体験 対象者：小学3～6年生 実施日：令和3年8月8日（日） 参加人数：45人 <p>・フィリピンとのオンライン交流</p> <p>対象者：中学1年生</p> <p>実施日：令和3年10月14日（木）、10月21日（木）、11月4日（木）、11月11日（木） ※事前研修2回を含む全4回で開催</p> <p>参加人数：19人</p> | | <p>○中学生のオンラインホームステイ事業 7千円</p> <p>コロナ禍において、海外派遣事業の実施が困難な中で、語学力の向上及び国際的視野を広めることを目的に、フィリピンとのオンラインホームステイ事業を実施。</p> <p>（全体研修を5回、各家庭でのオンライン交流を複数回実施）</p> <p>事業期間：令和4年2月21日（月）～3月28日（月）</p> <p>参加生徒：中学2年生 15人</p> <ul style="list-style-type: none"> 報償物品 3千円 運搬運搬料 4千円 | | <p>成果・課題</p> <p>○小中学生の文化体験を行い、国際交流事業を推進することにより語学力の向上及び国際的視野をもった人材を育成することができた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、予定した海外派遣は実施できなかったが、オンラインによる交流を実施し、生徒の国際的視野を広げることができた。</p> <p>○国際的視野をもった児童生徒を育成するため、国際交流事業の充実を図る必要がある。</p> | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|--|-------------|---|----------|--|-------|-----|-------|-----|--|---|----------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 24,805千円 | 25,093千円 | 288千円 | 98.8% | 課 | 教育総務課 | | | | |
| | 目 | 03 外国語活動推進費 | | | | | | | | | | |
| 事業 | 01 外国語指導助手招致事業 | | | | 28,984千円 | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 目的 | 自治体国際化協会（JETプログラム）の斡旋を受け、外国語指導助手（ALT）を招致・任用し、小中学校で授業等の補助を行うことで、外国語教育及び国際理解教育の促進を図る。 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>新規ALT3人が、新型コロナウイルス感染症拡大のため渡航制限を受け、来日が延期されたため、着任するまでの間、代替として英語を母国語とするかたをスクールサポーターとして任用した。</p> <p>○外国語指導助手（会計年度任用職員）任用経費（6人分） 19,199千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 報酬、費用弁償 16,573千円 社会保険料、労災保険料、雇用保険料 2,626千円 <p>○スクールサポーター（会計年度任用職員）任用経費（3人分） 2,683千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 報酬、費用弁償 2,374千円 社会保険料 309千円 <p>○外国語指導助手支援員（会計年度任用職員）任用経費（1人分） 55千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 報酬、費用弁償 <p>○外国語指導助手等の旅費 196千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰国旅費（1人） 170千円 旅費、有料道路、駐車場使用料（職員） 26千円 | | <p>○外国語指導助手の賃貸住宅に係る経費 696千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 鍵交換費用ほか（峰山、大宮町域） 23千円 アパート仲介、ごみ処理手数料（久美浜町域） 59千円 住宅火災保険（峰山、大宮、久美浜町域） 76千円 敷金礼金、更新手数料（峰山、大宮、月後、久美浜町域） 538千円 <p>○負担金 1,976千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体国際化協会負担金 1,224千円 来日後オリエンテーション参加負担金（3人分） 752千円 | | <p>成果・課題</p> <p>○日本人の外国語教諭のサポート並びにEnglishDaysやオンライン留学などの事業において一役を担っており、国際理解教育の促進などALTの果たす役割が期待されており、今後もALTの継続的な確保が必要である。</p> <p>○切れ目のない継続的な活用のため、ALTの心身の負担を軽減するため生活支援等の充実が必要である。</p> | | | | | | | |

| 予備科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|--|-----------------|---------|---|-------|-------|-----|-----------|---------|--|---|----------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 1,883千円 | 1,938千円 | 55千円 | 97.1% | 課 | 学校教育課 | | | | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | | | (参考)当初予算額 | 5,168千円 | | | |
| | 事業 | 20 国際交流員招致事業 | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | |
| 目的 | 一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」を活用して国際交流員を任用し、現代社会のグローバル化に対応する。 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 国際交流員を学校教育課に配置し、国際交流や異文化理解について、その専門性と見識や経験を活かした指導、助言を行った。 | | | ○自治体国際化協会負担金 543千円 | | | | | | | | |
| | ○会計年度任用職員任用経費（国際交流員 1人） ・報酬 1,033千円 （期間：令和3年11月8日から令和4年2月24日） ・共済費（社会保険料、雇用保険料） 143千円 | | | ・来日直後オリエンテーション参加費用負担金 253千円 ・国際交流員人員割、傷害保険負担金 110千円 ・来日旅費費用負担金 180千円 | | | | | | | | |
| | ○招致にかかる経費 9千円 ・送迎旅費 3千円 ・有料道路通行料 5千円 ・駐車場使用料 1千円 | | | | | | | | | | | |
| | ○国際交流員の賃貸住宅に係る経費 155千円 ・住居の火災保険料、仲介手数料、礼金 149千円 ・消耗品費 6千円 | | | 成果・課題 ○新型コロナウイルス感染症の世界的な感染状況から入国制限等により国際交流員の確保が難しい中、予定通りの期間とはならなかったが国際交流員を配属し、その専門性や経験を活かし国際理解教育の推進を図ることができた。 ○継続的な活用のため、国際交流員の心身の負担を軽減できるよう生活面におけるサポートの充実が必要である。 | | | | | | | | |

| 予備科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|--|-----------------|---------|---|-------|-------|-----|-----------|----------|--|---|----------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 6,011千円 | 6,055千円 | 44千円 | 99.2% | 課 | 教育総務課 | | | | |
| | 目 | 04 奨学費 | | | | | | (参考)当初予算額 | 13,695千円 | | | |
| | 事業 | 01 奨学金事業 | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | |
| 目的 | 経済的に困窮している世帯で勉学意欲のある生徒や学生に対し、奨学金の給付及び貸付を行い、就学を支援する。 | | | 繰入金 奨学基金繰入金 1,368千円 繰入金 谷口謙・未来応援基金繰入金 4,492千円 | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 経済的に困窮している世帯（家庭）で勉学意欲のある大学生等を対象に奨学金を給付した。また、令和3年度大学等在学者及び令和4年度大学等進学予定者を対象に、奨学金の貸付を行った。 | | | ○貸付奨学金 4,492千円 ・修学支援金（6人） 3,792千円 大学生等 1,000千円×3人 大学生等 280千円×2人 大学生等 232千円×1人 ・入学支援金（1人） 700千円 進学予定者 700千円×1人 | | | | | | | | |
| | ○奨学金選考・検討委員会経費（2回開催） 63千円 ・委員報酬 4千円（半日）× $\begin{pmatrix} 6人 \times 1回 \\ 7人 \times 1回 \end{pmatrix}$ 52千円 | | | | | | | | | | | |
| | ・費用弁償 11千円 | | | | | | | | | | | |
| | ○給付奨学金 1,368千円 ・大学生等（11人） 月額12千円×12月×2人（前・後期） 288千円 月額10千円×12月×9人（前・後期） 1,080千円 | | | ○定住促進奨学金返還支援補助金の制度周知経費 88千円 ・広報チラシ印刷製本費 35千円 ・大学等へのチラシ送料 53千円 ※認定申請者 143人（令和4年3月31日現在） | | | | | | | | |
| 成果・課題 | | | | ○勉学意欲と能力のある生徒及び学生への就学支援を行うことにより、困窮世帯の生徒及び学生が勉学に取り組むための環境を整えることができた。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により経済状況が一層厳しい中で、給付奨学金の随時申請や奨学金返還猶予など制度を周知し、支援に努めた。 ○令和3年度に創設した定住促進奨学金返還補助事業について、制度周知に努めた結果、多くの申請につながった。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-----------|-----------|--|---------------|-----------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 01 教育総務費 | 895千円 | 896千円 | 1千円 | 99.8% | | |
| | 目 | 04 奨学費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 教育総務課 |
| | 事業 | 02 奨学基金 | 12千円 | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 財産収入 奨学基金利息収入 40千円 諸収入 奨学資金貸付償還金滞納繰越分 855千円 | | | | |
| 目的 | 経済的理由により大学等への進学が困難な者に対し、奨学金を給付することを目的とした奨学基金への積立金 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○奨学基金積立金 855千円 ・旧網野町で貸し付けた奨学資金償還金分 | | | | | | | |
| | ○奨学基金積立金（利子分） 40千円 | | | | | | | |
| | (単位：千円) | | | | | | | |
| | 令和2年度末 現在高 | 令和3年度中増減額 | | | 令和3年度末 現在高 | | | |
| | ① | 繰入金 ② | 運用利子 ③ | 積立金 ④ | ①-②+(③+④) | | | |
| | 136,862 | 1,368 | 40 | 855 | 136,389 | | | |
| | (充当：1事業) ・奨学金事業 1,368千円 | | | | | | | |
| | | | | | | 成果・課題 | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|---------------|-----------|---|---------------|-----------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 01 教育総務費 | 3,351千円 | 3,351千円 | 千円 | 100.0% | | |
| | 目 | 04 奨学費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 教育総務課 |
| | 事業 | 03 谷口謙・未来応援基金 | 1,460千円 | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 財産収入 谷口謙・未来応援基金利息収入 27千円 諸収入 奨学資金貸付償還金 3,255千円 | | | | |
| 目的 | 経済的理由により大学等への進学及び修学が困難な者に対し、奨学金を貸し付けることを目的とした谷口謙・未来応援基金への積立金 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○谷口謙・未来応援基金積立金 3,324千円 ・京丹後市貸付奨学金で貸し付けた奨学資金償還金分 | | | | | | | |
| | ○谷口謙・未来応援基金積立金（利子分） 27千円 | | | | | | | |
| | (単位：千円) | | | | | | | |
| | 令和2年度末 現在高 | 令和3年度中増減額 | | | 令和3年度末 現在高 | | | |
| | ① | 繰入金 ② | 運用利子 ③ | 積立金 ④ | ①-②+(③+④) | | | |
| | 72,042 | 4,492 | 27 | 3,324 | 70,901 | | | |
| | (充当：1事業) ・奨学金事業 4,492千円 | | | | | | | |
| | | | | | | 成果・課題 | | |

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

| | |
|-------|-------|
| 担当課 | 担当課長 |
| 教育総務課 | 溝口 容子 |
| 学校教育課 | 川村 義輝 |
| 生涯学習課 | 安達 純 |

| | | |
|-------|---|----------------------|
| 重点目標 | 3 | 子どもを健やかに育む教育環境を充実します |
| 基本的方針 | 災害や事件・事故等に備えた安全確保のため、学校施設の老朽化対策等を計画的に進めるとともに、児童生徒が自らの安全を守るための能力を身に付けさせる安全教育や、また、ボランティアの協力を得る等、地域が一体となって支える教育環境づくりを進めます。 また、年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、すべての子どもの健やかな育ちを保障する教育環境を整備します。 教職員の業務改善・時間外勤務縮減を強力に実行し、教職員が一人ひとりの子どもに向き合える環境を整備します。 | |

1. 施策の方向性

PLAN

| | |
|--------------------------|--|
| 1. 子どもの安全・安心の確保 | ①児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導や子ども安心パトロール車の運行等、保護者や地域ボランティアの協力を得ながら、学校内外における安全確保に努めます。 ②学校再配置による校区の拡充に伴い、遠距離通学用スクールバスの安全な運行管理及び車両管理を実施します。 ③児童生徒自身の危機対応能力を育むため、各学校の危機管理マニュアルに基づく防災教育や安全教育を計画的・継続的に実施します。 |
| 2. 学校施設環境等の整備充実 | ①少子化の進行を踏まえ、適正な学校規模を検討する中で、必要な施設整備を進めます。 ②教育環境の維持・改善のため、トイレの洋式化をはじめ学校施設・設備の改修、修繕等を計画的に進めます。 ③児童生徒の安全確保に向け、計画的かつ効果的な学校施設の老朽化対策を進めます。 ④安全・安心な学校給食を提供するため、より衛生的で安全性を重視した給食施設の整備を計画的に進めます。 |
| 3. 個に応じた支援体制の充実 | ①発達障害等を含む障害のある子ども一人ひとりのニーズに対応したきめ細かな支援により教育の一層の充実を図るため、学校園と保護者、行政、医療及び関係機関等が広く連携し、乳幼児期から青年期までを見通した特別支援教育の体制整備を進めます。 ②外国語を母語とするなど日本語の習得が十分ではない児童生徒に対し、スクールサポーターを配置するなど個別に日本語支援を行う体制を整備します。 |
| 4. ボランティアによる学習支援の推進 | ①市民のボランティア意識を高め、地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」の推進など自らの知識や学習で培った技術などを学校で、児童に紹介する機会づくりを進めます。 ②市民ボランティアが、地域の中で、子どもたちの活動を支える環境づくりを進めます。 |
| 5. 教職員が子どもと向き合える環境づくりの推進 | ①本市の教職員の働き方改革実行計画を強力に進め、教職員が心身ともに健康で、一人ひとりの子どもに輝々と向き合える環境づくりを進めます。 ②教職員のメンタルヘルス対策の推進、校務支援システムの活用、部活動指導員の配置等、教職員の負担を軽減する取組みを推進します。 ③「京都市チーム学校」をより良く機能させるために、多様な専門性を有する人材の配置充実や学校体制の強化を図り、学校現場における業務改善の取組み・教員の負担軽減策を推進します。 |

【参考】施策に関連するその他の計画

| 計画名称 | 計画概要 | 策定年月 | 計画期間 | 備考 |
|------------------------------|--|----------|---------------|---|
| 第2次京丹後市総合計画 | 市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」 | 平成27年3月 | 平成27年度～令和6年度 | |
| 京丹後市学校施設耐震化計画 | 耐震化に対する国の動向や財政措置の状況を的確にとらえつつ、本市における学校施設の耐震化を可能な限り早く、計画的に進めていくことを目的に、本計画を定めるもの | 平成22年11月 | 平成22年度～平成26年度 | |
| 京丹後市学校再配置基本計画 | 急速に少子化が進むなか、本市の次代を担っていく子どもたちに、より良い教育環境や教育条件を整えるため、学校力を高めるための学校規模などを考えた学校再配置の取組みを進めていくために策定 | 平成22年12月 | 平成23年度～令和2年度 | 前期(H23～27年度)と後期(H28～R2年度)に区分し、段階的に再配置を進める |
| 京丹後市学校施設の長寿命化計画(学校施設の個別施設計画) | 文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)の方針に基づき、学校施設の実態把握及び分析を行い、本市の実情に即した基本的な整備方針や施設整備の水準について示し、長寿命化の観点から財政負担の低減及び平準化を図り、学校施設の維持管理を進めていくことを目的に策定 | 令和3年3月 | 令和3年度～令和12年度 | |

| 2. 主な取組と構成事務事業一覧 | | PLAN | DO | ※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照 | CHECK | ACT |
|------------------|---|------------|---------|----------------------------|---------------|--------|
| 1. 子どもの安全・安心の確保 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① | 児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導や子ども安心パトロール車の運行等、保護者や地域ボランティアの協力を得ながら、学校内外における安全確保に努めます。 | | | | | |
| ② | 学校再配置による校区の拡充に伴い、遠距離通学用スクールバスの安全な運行管理及び車両管理を実施します。 | | | | | |
| ③ | 児童生徒自身の危機対応能力を育むため、各学校の危機管理マニュアルに基づく防災教育や安全教育を計画的・継続的に実施します。 | | | | | |
| 1 | 学校医委嘱事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 学校保健安全法に基づき、各学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を置き、児童生徒の健康の保持増進及び教育現場の環境衛生の維持向上を図る。 | | 19,930 | 19,758 | 19,665 | 現状維持 |
| 1. 子どもの安全・安心の確保 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 2 | 学務経費 | 学校教育課 | | | | |
| | 学校保健安全法に基づく就学時健康診断を行うとともに、学齢簿の管理、学校管理下での安全衛生や事故災害に対応する。 また、小中学校の枠を超えた取組として、特別支援学級ふれあい交流会を実施する。 | | 5,259 | 5,429 | 4,952 | 現状維持 |
| 3 | 学校安全対策事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 保護者や地域の協力を得ながら安全で安心できる学校づくりを推進し、児童生徒を事件や事故から守る。 | | 5,641 | 5,039 | 7,210 | 現状維持 |
| 4 | 児童教職員健康管理事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 児童及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、児童及び教職員の健康の保持増進と小中学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。 | | 40,394 | 9,538 | 9,921 | 現状維持 |
| 5 | 児童教職員健康管理事業【繰越】 | 学校教育課 | | | | |
| | 新型コロナウイルス感染症による感染リスクを最小限にしながら円滑に教育活動を継続するためにも、学校における感染症対策及び児童の学びの保障に必要な体制を整備する。 | | - | 13,924 | 15,750 | |
| 6 | 生徒教職員健康管理事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 生徒及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、生徒及び教職員の健康の保持増進と中学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。 | | 17,194 | 6,393 | 6,976 | 現状維持 |
| 7 | 生徒教職員健康管理事業【繰越】 | 学校教育課 | | | | |
| | 新型コロナウイルス感染症による感染リスクを最小限にしながら円滑に教育活動を継続するためにも、学校における感染症対策及び生徒の学びの保障に必要な体制整備を促進する。 | | - | 5,594 | 5,850 | |
| 8 | 小学校スクールバス運行管理事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 遠距離通学及び通学路の状況や冬期積雪時等、特に必要と認めた児童の通学のためにスクールバスを運行する。 | | 94,052 | 88,791 | 101,484 | 現状維持 |
| 9 | 小学校通学支援事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 遠距離通学をする児童を対象に、通学の状況に応じて遠距離通学補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。 | | 281 | 283 | 222 | 現状維持 |
| 10 | 中学校スクールバス運行管理事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 遠距離通学及び通学路の状況や冬期積雪時等、特に必要と認めた生徒の通学のためにスクールバスを運行する。 | | 71,195 | 71,704 | 65,529 | 現状維持 |
| 11 | 中学校スクールバス購入事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 中学校に通学する遠距離及び特に必要と認めた児童の安全な通学手段を確保する。 | | 13,572 | - | - | 統合(整理) |
| 12 | 中学校通学支援事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 自転車通学をする生徒を対象に、通学の状況に応じてヘルメット購入補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。 | | 204 | 195 | 195 | 現状維持 |
| 2. 学校施設環境等の整備充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① | 少子化の進行を踏まえ、適正な学校規模を検討する中で、必要な施設整備を進めます。 | | | | | |
| ② | 教育環境の維持・改善のため、トイレの洋式化をはじめ学校施設・設備の改修、修繕等を計画的に進めます。 | | | | | |
| ③ | 児童生徒の安全確保に向け、計画的かつ効果的な学校施設の老朽化対策を進めます。 | | | | | |
| ④ | 安全・安心な学校給食を提供するため、より衛生的で安全性を重視した給食施設の整備を計画的に進めます。 | | | | | |
| 13 | 学校適正配置推進事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 京丹後市学校適正配置基本計画に基づく「学校づくり準備協議会」を設置し、学校再配置による新しい学校づくりに向けた取組を推進する。 | | - | - | - | 現状維持 |
| 14 | 小学校施設改修事業 | 教育総務課 | | | | |
| | 小学校施設における改修工事等を行い、児童が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。 | | 102,266 | 70,973 | 145,220 | 現状維持 |

| 2. 学校施設環境等の整備充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|--|---|------------|----------|----------|---------------|------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 15 | 小学校施設管理事業 学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。 | 教育総務課 | 30,017 | 27,171 | 27,025 | 現状維持 |
| 16 | 中学校施設改修事業 中学校施設における改修工事等を行い、生徒が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。 | 教育総務課 | 25,246 | 210,763 | 18,600 | 現状維持 |
| 17 | 中学校施設改修事業【繰越】 「新しい生活様式」を踏まえ、健やかな学びの保障を目指すため、新型コロナウイルス感染症対策として特別教室の空調化設計を行い、教育環境を整備する。 | 教育総務課 | - | 4,921 | - | |
| 18 | 中学校施設管理事業 学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。 | 教育総務課 | 10,216 | 9,548 | 9,786 | 現状維持 |
| 19 | 小学校管理運営事業 適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施する。 | 学校教育課 | 134,799 | 151,908 | 152,932 | 現状維持 |
| 20 | 中学校管理運営事業 適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施する。 | 学校教育課 | 61,845 | 64,079 | 64,375 | 現状維持 |
| 21 | 網野給食センター管理運営事業 網野地域の小学校及び中学校に栄養バランスの取れた給食を提供し、児童生徒の心身の健全な発達に寄与する。 | 学校教育課 | 31,840 | 31,452 | 35,776 | 現状維持 |
| 22 | 小学校給食管理運営事業 児童の心身の健全な発達に寄与するため、栄養バランスのとれた給食を提供する。 | 学校教育課 | 159,048 | 167,910 | 179,283 | 拡大 |
| 23 | 中学校給食管理運営事業 生徒の心身の健全な発達に寄与するため、栄養バランスのとれた給食を提供する。 | 学校教育課 | 46,340 | 49,871 | 61,166 | 拡大 |
| 24 | 学校給食一般経費 学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、献立研究会の活発な活動を促し、衛生管理や栄養面等での充実を図る。 | 学校教育課 | 2,584 | 560 | 929 | 現状維持 |
| 25 | 公立学校施設災害復旧事業 令和3年8月3日の落雷により被災した学校施設の復旧を図る。 | 教育総務課 | - | 3,850 | - | 縮小 |
| 26 | 公立学校施設災害復旧事業【繰越】 令和元年10月2日発生台風19号により被災した学校施設の復旧を図る。 | 教育総務課 | 1,804 | - | - | |
| 3. 個に応じた支援体制の充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① 発達障害等を含む障害のある子ども一人ひとりのニーズに対応したきめ細かな支援により教育の一層の充実を図るため、学校園と保護者、行政、医療及び関係機関等が広く連携し、乳幼児期から青年期までを見通した特別支援教育の体制整備を進めます。 | | | | | | |
| ② 外国語を母語とするなど日本語の習得が十分ではない児童生徒に対し、スクールサポーターを配置するなど個別に日本語支援を行う体制を整備します。 | | | | | | |
| 27 | 小学校スクールサポーター等設置事業 スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。 | 学校教育課 | (53,166) | (60,282) | (83,252) | 現状維持 |
| 28 | 中学校スクールサポーター等設置事業 スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。 | 学校教育課 | (39,572) | (38,027) | (50,196) | 現状維持 |
| 4. ボランティアによる学習支援の推進 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① 市民のボランティア意識を高め、地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」の推進など自らの知識や学習で培った技術などを学校で、児童に紹介する機会づくりを進めます。 | | | | | | |
| ② 市民ボランティアが、地域の中で、子どもたちの活動を支える環境づくりを進めます。 | | | | | | |
| 29 | 地域学校協働本部事業《再掲》 「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図る。 | 生涯学習課 | 3,475 | 3,403 | 3,780 | 現状維持 |
| 5. 教職員が子どもと向き合える環境づくりの推進 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① 本市の教職員の働き方改革実行計画を強力に進め、教職員が心身ともに健康で、一人ひとりの子どもに颯爽と向き合える環境づくりを進めます。 | | | | | | |
| ② 教職員のメンタルヘルス対策の推進、校務支援システムの活用、部活動指導員の配置等、教職員の負担を軽減する取組を推進します。 | | | | | | |
| ③ 「京都式チーム学校」をより良く機能させるために、多様な専門性を有する人材の配置充実や学校体制の強化を図り、学校現場における業務改善の取組み・教員の負担軽減策を推進します。 | | | | | | |

| 5. 教職員が子どもと向き合える環境づくりの推進 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|--------------------------|--|------------|---------|-----------|---------------|---------------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 30 | 共同学校事務室運営事業 学校事務処理の適正化及び標準化、効率化、学校マネジメント機能の強化等を図るため、共同学校事務室を設置し、学校の教育力・組織力の向上を推進する。 | 学校教育課 | - | 226 | 3,258 | 現状維持 |
| 上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 |
| 31 | 日用品費等援助事業 低所得世帯を対象に日用品、文房具等の購入費などの実費徴収額について、費用の一部を助成し、対象家庭の経済的負担を軽減する。 | 子ども未来課 | 4 | - | - | 現状維持 |
| 32 | 児童福祉総務一般経費 児童福祉業務を円滑に遂行するために必要な一般経費 | 子ども未来課 | 2,527 | 14,094 | 1,036 | 改善・効率化 |
| 33 | 教育委員会一般経費 地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会を運営する。 | 教育総務課 | 3,826 | 3,884 | 3,999 | 現状維持 |
| 34 | 事務局一般経費 教育委員会事務局の円滑な運営及び公用車の適正な維持管理を行うとともに、全国部活動特別入学者選抜により市内の高等学校に入学する生徒を応援する補助金を創設し、生徒の就学支援及び地域の活性化を図った。 | 教育総務課 | 4,810 | 7,169 | 9,254 | 拡大 |
| 35 | 学校跡施設管理事業 学校再配置により閉校となった学校施設の維持管理を行い、利活用の推進を図る。 | 教育総務課 | 83,623 | 209,131 | 2,006 | 改善・効率化 |
| 36 | 学校跡施設管理事業【繰越】 老朽化が進み、利活用が見込めない旧湊小学校施設を除却するとともに、閉校した施設の低圧化工事を実施し、適正な維持管理及び跡地利活用の推進を図る。 | 教育総務課 | - | - | 220,466 | |
| 37 | 学校教育施設整備基金 学校跡施設の建物貸付料をもとに、学校教育施設の整備等を進めることを目的とした学校教育施設整備基金への積立金 | 教育総務課 | 1,584 | 1,606 | 1,604 | 現状維持 |
| 計 | | | 973,576 | 1,259,167 | 1,178,249 | |

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----|--------|-----|---------|------|--------|
| 基本的方針 | 災害や事件・事故等に備えた安全確保のため、学校施設の老朽化対策等を計画的に進めるとともに、児童生徒が自らの安全を守るための能力を身に付けさせる安全教育や、また、ボランティアの協力を得る等、地域が一体となって支える教育環境づくりを進めます。 また、年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、すべての子どもの健やかな育ちを保障する教育環境を整備します。 教職員の業務改善・時間外勤務縮減を強力に実行し、教職員が一人ひとりの子どもに向き合える環境を整備します。 | | | | | | |
| 主な目標指標 | 目標指標 | 単位 | 計画作成時 | | 実績値(現状) | | 目標値 |
| | | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | |
| | 市立小学校の耐震化 | % | 88.5 | H25 | 100 | R3 | 100 R6 |
| | 市立中学校の耐震化 | % | 93.5 | H25 | 100 | R3 | 100 R6 |
| | 非構造部材の耐震対策 | % | 0(調査中) | H26 | 100 | R3 | 100 R6 |
| | 児童生徒用トイレの洋式化整備校数<小学生> | 校 | - | | 14 | R3 | 17 R6 |
| | 児童生徒用トイレの洋式化整備校数<中学生> | 校 | - | | 1 | R3 | 6 R6 |
| | 学校支援ボランティア登録者数 | 人 | 427 | H25 | 557 | R3 | 600 R6 |
| | 時間外勤務月45時間超(年平均)の教職員数<小学校> | 人 | - | H25 | 131 | R3 | 0 R6 |
| 時間外勤務月45時間超(年平均)の教職員数<中学校> | 人 | - | H25 | 110 | R3 | 0 R6 | |

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------------|----|---|
| ◎ 予定以上に進んでいる | | <p>《市立小学校の耐震化》 学校施設耐震化計画による小学校の耐震化は平成27年度をもって完了した。</p> <p>《市立中学校の耐震化》 学校施設耐震化計画による中学校の耐震化は平成26年度をもって完了した。</p> <p>《非構造部材の耐震対策》 国が指導する大規模空間(体育館やランチルームなど200㎡以上の空間を有する箇所等)の非構造部材耐震対策は、平成28年度をもって完了した。</p> <p>《児童生徒用トイレの洋式化整備校数》 小学校を優先して学校施設の児童生徒用、身障者用、体育館等のトイレ洋式化整備を計画的に実施するため、前年度に設計業務を行い、翌年度に整備工事を実施する。令和3年度は、網野北小・島津小学校の2校を整備した。</p> <p>《学校支援ボランティア登録者数》 ボランティア登録者数は名簿の整理を行ったことから減少した。高齢化が進んでいるため、学校のニーズに応じたボランティアの確保が課題である。</p> <p>《時間外勤務月45時間超(年平均)の教職員数》 令和2年度までは目標達成状況が向上していた。しかし、令和3年度、コロナの感染防止のために行事等の縮小や廃止を行ったものの年間を通した感染対策の中で学校教育活動を実施したことにより、小学校で前年度比5.1%の増加となった。京丹後市教職員の働き方改革実行計画(R3.7改定)の段階的目標の達成(令和5年度に45時間以内100%達成)を目指し、教育委員会事務局と学校とがさらなる連携強化を行う中で取組みを推進していく必要がある。</p> |
| ○ 予定どおり進んでいる | | |
| ▲ 少し遅れている | | |
| × 大幅に遅れている | | |

5. 今後の施策展開の考え方(令和4年～令和6年度までの主な取組)

ACT

| 区分 | No. | 具体的内容 |
|----------|-----|--|
| 施策展開の考え方 | 1 | 児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導及び子ども安心パトロール車の運行を継続して実施するとともに、除雪活動や子どもたちを見守る地域ボランティア等の拡充を図る。 |
| | 2 | 老朽化が進む学校施設を適切に維持管理を行うとともに教育環境の改善を図るため、計画的にトイレの洋式化事業を進める。また学校施設の長寿命化計画を定め、中長期的な視点で改修等を行う。 |
| | 3 | 特別な支援が必要な子どものニーズに対応するため、学校園へのスクールサポーター(介護支援員)を継続配置するとともに、学校園及び保護者、関係機関が連携し、特別支援教育体制整備の推進を図る。 |
| | 4 | ボランティア人材の発掘・育成・確保に重点を置きながら、より効果的、効率的なコーディネーターの配置等、多様化する学校ニーズに対応できる推進体制整備を図る。 |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | |
|-------------|---|----------|----------|----------|--|-----------|---|----------|---|-------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 19,758千円 | 19,825千円 | 67千円 | 99.6% | | | 課 | 学校教育課 |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | |
| 事業 | 04 学校医委嘱事業 | | | | 19,825千円 | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | |
| 目的 | 学校保健安全法に基づき、各学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を置き、児童生徒の健康の保持増進及び教育現場の環境衛生の維持向上を図る。 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○報酬 ・医師報酬 小学校 17人 5,972千円 中学校 6人 2,587千円 ・歯科医報酬 小学校 17人 5,972千円 中学校 6人 2,587千円 ・薬剤師報酬 小学校 17人 2,064千円 中学校 6人 555千円 | | 19,737千円 | | 成 果 ・ 課 題 学校医、学校歯科医、学校薬剤師の配置により、健康診断（内科・歯科等）、学校環境衛生検査はもとより、保健管理等に関する専門的指導を必要に応じて受けることができ、児童生徒の健康の保持増進及び教育現場の環境衛生の維持向上を図ることができた。 | | | | | |
| | ○旅費 ・費用弁償 21千円 | | 21千円 | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | |
|--|---|----------|---------|---|---|-----------|---|----------|---|-------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 5,429千円 | 5,645千円 | 216千円 | 96.1% | | | 課 | 学校教育課 |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | |
| 事業 | 05 学務経費 | | | | 5,348千円 | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | |
| 目的 | 学校保健安全法に基づく就学時健康診断を行うとともに、学齢簿の管理、学校管理下での安全衛生や事故災害に対応する。また、小中学校の枠を超えた取組として、特別支援学級ふれあい交流会を実施する。 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○学齢簿の管理（委託料） 学齢簿関連システム保守料及びシステム改修業務 726千円 | | 726千円 | | ○負担金 3,775千円 ・日本スポーツ振興センター負担金 3,417千円 ・京都府学校保健会負担金 44千円 ・京都府学校保健主事会負担金 18千円 ・京都府特別支援教育研究協議会負担金 10千円 ・教育研究事業負担金 86千円 ・京都府学校保健研究大会負担金 200千円 | | | | | |
| | ○特別支援学級ふれあい交流会（消耗品費） 40千円 ・各学園ふれあい交流会 小学校及び中学校の特別支援学級の児童・生徒が集まって交流 実施中学校区：全中学校区 ・中学校ふれあい交流会 ※新型コロナウイルス感染症の影響のため中止 | | 40千円 | | ○児童生徒・教職員健康診断（消耗品費、印刷製本費、施設使用料） 13千円 ○各種通知到南印刷 40千円 | | | | | |
| ○人権教育研究会（消耗品費） 23千円 | | 23千円 | | 成 果 ・ 課 題 ○各学校の保健衛生環境の維持向上、健康の保持増進を図り、健全で安全な教育環境の推進につながった。 ○特別支援学級の交流活動の実施など、教育活動の充実のための環境づくりができた。 ○京都府学校保健研究大会を主管地として開催するにあたり、コロナ禍での開催が困難な中、オンラインで開催し、スムーズな大会運営を行うことができた。 | | | | | | |
| ○就学時健康診断（医師謝金、消耗品費、費用弁償） 812千円 ※受診人数：396人 | | 812千円 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|-----------|---|------------------|------------|------------|----|-----|---|-------|---|------|----|------|---|-----|----|----|----|-----|---|-----|----|-----|----|----------|---|-----|----|---------|----|-----|---|-----|----|------|----|------------|---|----------|----|-----|----|-------|--|--|-------|--|
| 予算科目 | 款 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 項 01 教育総務費 | 5,039千円 | 5,387千円 | 348千円 | 93.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 06 学校安全対策事業 | | | | 5,587千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | 府補 繰入金 | 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業補助金(2/3) ふるさと応援基金繰入金 | 808千円 2,000千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 保護者や地域の協力を得ながら安全で安心できる学校づくりを推進し、児童生徒を事件や事故から守る。 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○子ども安心パトロール車(にこにこカー)の運行・管理 3,041千円 各学校に20台、教育委員会事務局に1台を配置し、児童生徒の登下校時に教職員やPTA、地域の見守り隊が巡回し安全確保や犯罪被害防止に努めた。</p> <p>・維持管理費及び運行経費 燃料費(ガソリン代) 945千円 消耗品費・修繕料(車検、車両消耗品ほか) 1,105千円 手数料・保険料・公課費 991千円</p> <p>配車一覧</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>峰山小、長岡小</td><td>8</td><td>いさなご小</td><td>15</td><td>禊山中</td></tr> <tr><td>2</td><td>大宮第一小</td><td>9</td><td>網野南小</td><td>16</td><td>大宮南小</td></tr> <tr><td>3</td><td>網野中</td><td>10</td><td>橋小</td><td>17</td><td>鷹津小</td></tr> <tr><td>4</td><td>丹後中</td><td>11</td><td>宇川小</td><td>18</td><td>網野北小、弥栄小</td></tr> <tr><td>5</td><td>大宮中</td><td>12</td><td>弥栄小、吉野小</td><td>19</td><td>丹後小</td></tr> <tr><td>6</td><td>高龍小</td><td>13</td><td>久美浜中</td><td>20</td><td>かぶと山小、久美浜小</td></tr> <tr><td>7</td><td>教育委員会事務局</td><td>14</td><td>弥栄中</td><td>21</td><td>しんざん小</td></tr> </table> | | 1 | 峰山小、長岡小 | 8 | いさなご小 | 15 | 禊山中 | 2 | 大宮第一小 | 9 | 網野南小 | 16 | 大宮南小 | 3 | 網野中 | 10 | 橋小 | 17 | 鷹津小 | 4 | 丹後中 | 11 | 宇川小 | 18 | 網野北小、弥栄小 | 5 | 大宮中 | 12 | 弥栄小、吉野小 | 19 | 丹後小 | 6 | 高龍小 | 13 | 久美浜中 | 20 | かぶと山小、久美浜小 | 7 | 教育委員会事務局 | 14 | 弥栄中 | 21 | しんざん小 | <p>○スクールガード・リーダー巡回・指導 1,759千円 警察官OBの5人をスクールガード・リーダーに委嘱し、小学校を中心に登下校時の巡回活動及び学校の安全指導を行った。</p> <p>・年間巡回活動等の実績：5人で330回 ・報償金(活動謝金) ・保険料(総合補償保険料)</p> <p>○学校の除雪活動 239千円 積雪時の通学の安全性を高めるため、ボランティアによる除雪活動体制づくりを支援した。</p> <p>・保険料(ボランティア活動保険) ・修繕料(除雪機)</p> | | 成果・課題 | <p>○各小中学校で、教職員やPTA、地域の見守り隊(ボランティア)等による地域ぐるみの見守り活動が展開されるなど、学校を支える地域の安全体制づくりを推進することで、児童、生徒の安全につながっている。</p> <p>○関係機関と協力し、クマやサルなどの野生動物の出没情報をいち早く学校と共有することで、児童・生徒への被害を未然に防ぐ必要がある。</p> <p>○通学路の安全性をより高めるため、関係機関と連携し除雪体制を推進する必要がある。</p> |
| | 1 | 峰山小、長岡小 | 8 | いさなご小 | 15 | 禊山中 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 大宮第一小 | 9 | 網野南小 | 16 | 大宮南小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 網野中 | 10 | 橋小 | 17 | 鷹津小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 丹後中 | 11 | 宇川小 | 18 | 網野北小、弥栄小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 大宮中 | 12 | 弥栄小、吉野小 | 19 | 丹後小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 高龍小 | 13 | 久美浜中 | 20 | かぶと山小、久美浜小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 教育委員会事務局 | 14 | 弥栄中 | 21 | しんざん小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--|--|----------|--|---------------|-----------|--|----------------|---------|-----------|-------|
| 予算科目 | 款 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 | | | | |
| | 項 02 小学校費 | 9,538千円 | 25,440千円 | 15,902千円 | 37.4% | | | | | |
| | 目 01 小学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 学校教育課 | | | | |
| | 事業 04 児童教職員健康管理事業 | | | | 10,166千円 | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | 府補 府費 | 学校保健特別対策事業費補助金(1/2) みらいによる子どものむし歯予防事業費補助金(1/2) | 864千円 19千円 | | | | | | |
| 目的 | 児童及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、児童及び教職員の健康の保持増進と小学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。 | | 主な財源 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○需用費(保健衛生消耗品、修繕料、医薬材料) 1,988千円 (うち感染症対策に要した消耗品等 744千円)</p> <p>○委託料 5,169千円 ・児童検診委託料 3,790千円 心臓検診委託料 1次 796人 (1・4年、経過観察者) 2次 102人 眼科検診委託料 2,332人 耳鼻科検診委託料 2,332人 尿検査委託料(春) 1次 2,340人 2次 61人 尿検査委託料(秋) 1次 2,343人 2次 57人 脊柱側弯症検診委託料 7人 (校医抽出者) 結核検診料 3人</p> <p>・教職員健康診断委託料 1,177千円 ・教職員結核検診委託料 202千円</p> | | <p>○使用料及び賃借料 1,033千円 ・自動車借上料(検診時医師送迎用ほか) 51千円 ・機械器具借上料(AEDリース料・17校分) 982千円</p> <p>○備品購入費(感染症対策) 1,348千円 CO₂モニター、空気清浄機ほか</p> | | 成果・課題 | <p>参考</p> <table border="1"> <tr><td>繰越明許費を除いた最終予算額</td><td>9,690千円</td></tr> <tr><td>実質的な予算執行率</td><td>98.4%</td></tr> </table> <p>■令和4年度への繰越事業 15,750千円 小学校新型コロナウイルス感染症対策事業 令和5年3月完了予定</p> | 繰越明許費を除いた最終予算額 | 9,690千円 | 実質的な予算執行率 | 98.4% |
| | 繰越明許費を除いた最終予算額 | 9,690千円 | | | | | | | | |
| 実質的な予算執行率 | 98.4% | | | | | | | | | |
| <p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策や各種健康診断を実施するなどし、児童及び教職員の健康を保持増進するとともに、学校の安全・安心な環境を整備することができた。</p> <p>○市内全小学校においてフッ化物洗口を実施し、児童のむし歯予防の環境を整えることができた。</p> | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|---|----------|---------------------|-------|-----------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 02 小学校費 | 13,924千円 | 14,050千円 | 126千円 | 99.1% | | |
| | 目 | 01 小学校管理費 | | | | (参考)繰越予算額 | | |
| | 事業 | 04 児童教職員健康管理事業(繰越) | | | | 14,050千円 | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 国補 | 学校保健特別対策事業費補助金(1/2) | | | 課 | 学校教育課 |
| 目的 | 新型コロナウイルス感染症による感染リスクを最小限にしながら円滑に教育活動を継続するためにも、学校における感染症対策及び児童の学びの保障に必要な体制を整備する。 | | 主な財源 | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○需用費 4,571千円 ・消耗品費(手指消毒液、消毒用ビニール手袋ほか) 3,082千円 ・修繕料(水道蛇口のレバーハンドル化ほか) 1,489千円 ○備品購入費 8,835千円 ・備品購入費(空気清浄機、サーモグラフィー、CO ₂ モニターほか) ○負担金、補助及び交付金 518千円 ・修学旅行等新型コロナウイルス感染症対策費補助金(該当校:大宮第一小学校、丹後小学校、宇川小学校、高龍小学校 計4校) 補助内容:新型コロナウイルス感染症の感染対策(密対策)として、修学旅行における貸切バスの増台及び車両変更に必要な経費を補助。 | | | | | | | |
| | 成果・課題 | 国の補助金を活用し、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、持続的に児童の教育を受ける権利を保障していくため、学校における感染及び拡大のリスクに対処したうえで、学校運営を継続していくことができた。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|----------------|--|---------------------|---------|-----------|---|----------|----|----------------|---------|--|-----------|-------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | |
| | 項 | 03 中学校費 | 6,393千円 | 12,285千円 | 5,892千円 | 52.0% | | | | | | | | |
| | 目 | 01 中学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | |
| | 事業 | 04 生徒教職員健康管理事業 | | | | 7,115千円 | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 国補 | 学校保健特別対策事業費補助金(1/2) | | | 課 | 学校教育課 | | | | | | |
| 目的 | 生徒及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講ずることにより、生徒及び教職員の健康の保持増進と中学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○需用費(保健衛生消耗品、修繕料、医薬材料) 812千円 (うち感染症対策に必要な消耗品 212千円) ○委託料 4,222千円 ・生徒検診委託料 3,279千円 心臓検診委託料 1次 471人(1年、経過観察者) 2次 106人 眼科検診委託料 1,305人 耳鼻科検診委託料 1,306人 尿検査委託料(春) 1次 1,316人 2次 121人 尿検査委託料(秋) 1次 1,311人 2次 78人 血液検査委託料 443人(2年、経過観察者) 背柱側わん症検診委託料 10人(校医抽出者) ・教職員健康診断委託料 792千円 ・教職員結核検診委託料 151千円 ○使用料及び賃借料 671千円 ・自動車借上料(検診時医師送迎用) 19千円 ・機械器具借上料(AEDリース料・6枚分) 652千円 | | ○備品購入費 688千円 (うち感染症対策に必要な備品分 688千円) CO ₂ モニター、サーモグラフィー ほか <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>参考</td> <td>繰越明許費を除いた最終予算額</td> <td>6,435千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実質的な予算執行率</td> <td>99.3%</td> </tr> </table> ■令和4年度への繰越事業 5,850千円 中学校新型コロナウイルス感染症対策事業 令和5年3月完了予定 | | | | | | 参考 | 繰越明許費を除いた最終予算額 | 6,435千円 | | 実質的な予算執行率 | 99.3% |
| | 参考 | 繰越明許費を除いた最終予算額 | 6,435千円 | | | | | | | | | | | |
| | 実質的な予算執行率 | 99.3% | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策や各種健康診断を実施するなどして、生徒及び教職員の健康を保持増進するとともに、学校の安全・安心な環境を整備することができた。 | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------|---|--------------------|---------|---------|---------------------|---|---------|----------|--|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
| | 項 | 03 中学校費 | 5,594千円 | 5,650千円 | 56千円 | 99.0% | | | |
| | 目 | 01 中学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | | | |
| | 事業 | 04 生徒教職員健康管理事業(繰越) | | | | 5,650千円 | 課 | 学校教育課 | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 国補 | | 学校保健特別対策事業費補助金(1/2) | | 2,797千円 | | |
| 目的 | 新型コロナウイルス感染症による感染リスクを最小限にしながら円滑に教育活動を継続するためにも、学校における感染症対策及び生徒の学びの保障に必要な体制整備を促進する。 | | 主な財源 | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○需用費 832千円 ・消耗品費(手指消毒液、消毒用ビニール手袋ほか) | | | | | | | | |
| | ○備品購入費 4,762千円 ・備品購入費(空気清浄機、サーマルカメラ、CO ₂ モニターほか) | | | | | | | | |
| | | | | 成果・課題 | | 国の補助金を活用し、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、持続的に生徒の教育を受ける権利を保障していくため、学校における感染及び拡大のリスクに対処したうえで、学校運営を継続していくことができた。 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|---|----------|----------|-------------|--|----------|----------|-------|----|-----|----|------|----|------|----|-----|----|-----|----|------|----|-----|----|-------|----|---|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|--|--|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 項 | 02 小学校費 | 88,791千円 | 89,700千円 | 909千円 | 98.9% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 01 小学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 05 小学校スクールバス運行管理事業 | | | | 106,928千円 | 課 | 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 繰入金 | | ふるさと応援基金繰入金 | | 65,000千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 遠距離通学及び通学路の状況や冬期積雪時等、特に必要と認められた児童の通学のためにスクールバスを運行する。 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○スクールバス運行管理委託料 88,402千円 ※バスの運転及び車両の維持管理を業者委託 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>いさなご小</td> <td>3台</td> <td>橋小</td> <td>1台</td> <td>弥栄小</td> <td>3台</td> </tr> <tr> <td>しんざん小</td> <td>1台</td> <td>島津小</td> <td>1台</td> <td>久美浜小</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>大宮南小</td> <td>3台</td> <td>丹後小</td> <td>4台</td> <td>高龍小</td> <td>4台</td> </tr> <tr> <td>網野南小</td> <td>3台</td> <td>宇川小</td> <td>1台</td> <td>かぶと山小</td> <td>4台</td> </tr> <tr> <td colspan="5">計</td> <td>29台</td> </tr> </table> | | いさなご小 | 3台 | 橋小 | 1台 | 弥栄小 | 3台 | しんざん小 | 1台 | 島津小 | 1台 | 久美浜小 | 1台 | 大宮南小 | 3台 | 丹後小 | 4台 | 高龍小 | 4台 | 網野南小 | 3台 | 宇川小 | 1台 | かぶと山小 | 4台 | 計 | | | | | 29台 | | | | | | |
| いさなご小 | 3台 | 橋小 | 1台 | 弥栄小 | 3台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| しんざん小 | 1台 | 島津小 | 1台 | 久美浜小 | 1台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮南小 | 3台 | 丹後小 | 4台 | 高龍小 | 4台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野南小 | 3台 | 宇川小 | 1台 | かぶと山小 | 4台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | | 29台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ○バス停維持管理経費 10千円 ・火災保険料、土地借上料(15.66㎡) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ○需用費 379千円 ・消耗品費、修繕料 | | 成果・課題 | | ○スクールバスの運行により、小学校に通学する児童の安全な通学手段を確保することができた。 ○より安全なスクールバスの運行を行うため、引き続き運行管理委託業者への指導及びドライバーへの安全啓発等を行う必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 学校教育課 | | | | | | | | | | |
|-------------|--|--------------|--------|-------|---|-----------|-----------------------------|-------|-------|-----|-------|---|-----|-------|--|--|--|
| | 項 | 02 小学校費 | 283千円 | 283千円 | 千円 | 100.0% | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 01 小学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 06 小学校通学支援事業 | | | | 271千円 | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 遠距離通学をする児童を対象に、通学の状況に応じて遠距離通学補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○遠距離通学補助金 | | 283千円 | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>対象児童数</th> <th>補助金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大宮南小学校</td> <td>7人</td> <td>106千円</td> </tr> <tr> <td>宇川小学校</td> <td>11人</td> <td>177千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18人</td> <td>283千円</td> </tr> </tbody> </table> | | 学校名 | 対象児童数 | 補助金額 | 大宮南小学校 | 7人 | 106千円 | 宇川小学校 | 11人 | 177千円 | 計 | 18人 | 283千円 | | | |
| 学校名 | 対象児童数 | 補助金額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮南小学校 | 7人 | 106千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 宇川小学校 | 11人 | 177千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 18人 | 283千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 成果・課題 | 遠距離通学をする児童を対象とした遠距離通学の支援を行うことで、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図ることができた。 | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|--|----------|----------------|---------|-----------|-----------------------------|------|-------|----|-------|----|-------|----|--------|-----|---|----------|---|--|--|
| | 項 | 03 中学校費 | 71,704千円 | 73,542千円 | 1,838千円 | 97.5% | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 01 中学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 05 中学校スクールバス運行管理事業 | | | | 96,076千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 遠距離通学及び通学路の状況や冬期積雪時等、特に必要と認めた生徒の通学のためにスクールバスを運行する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○スクールバス運行管理委託料 | | 63,215千円 | ○スクールバス購入に係る経費 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>台数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山中学校</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>大宮中学校</td> <td>(1台)</td> </tr> <tr> <td>網野中学校</td> <td>3台</td> </tr> <tr> <td>丹後中学校</td> <td>2台</td> </tr> <tr> <td>弥栄中学校</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>久美浜中学校</td> <td>10台</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17台(18台)</td> </tr> </tbody> </table> | | 学校名 | 台数 | 峰山中学校 | 1台 | 大宮中学校 | (1台) | 網野中学校 | 3台 | 丹後中学校 | 2台 | 弥栄中学校 | 1台 | 久美浜中学校 | 10台 | 計 | 17台(18台) | (久美浜中学校スクールバス29人乗り 1台) ・備品購入費 8,197千円 ・手数料、保険料、自動車重量税等 46千円 | | |
| 学校名 | 台数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山中学校 | 1台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮中学校 | (1台) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野中学校 | 3台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後中学校 | 2台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄中学校 | 1台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久美浜中学校 | 10台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 17台(18台) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○車両維持管理経費 | | 110千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○バス停・車庫維持管理経費 | | 136千円 | 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・消耗品費、修繕料 ・燃料費、火災保険料 | | ○スクールバスの運行により、中学校に通学する生徒の安全な通学手段を確保することができた。 ○老朽化したスクールバスを更新し、久美浜中学校に通学する生徒の安全な通学手段を確保することができた。 ○より安全なスクールバスの運行を行うため、引き続き運行管理委託業者への指導及びドライバーへの安全啓発等を行う必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|--------------|--------|-------|---|-----------|------|----------|-------|-----|------|-------|-----|------|-------|-----|------|-------|-----|------|--------|----|-----|---|------|-------|--|--|--|--|--|
| | 項 | 03 中学校費 | 195千円 | 196千円 | 1千円 | 99.4% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 01 中学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 06 中学校通学支援事業 | | | | 194千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 自転車通学をする生徒を対象に、通学の状況に応じてヘルメット購入補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○通学用ヘルメット購入補助金（補助率1/2） | | 195千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>対象生徒数</th> <th>補助金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山中学校</td> <td>105人</td> <td>94千円</td> </tr> <tr> <td>大宮中学校</td> <td>44人</td> <td>40千円</td> </tr> <tr> <td>網野中学校</td> <td>19人</td> <td>17千円</td> </tr> <tr> <td>丹後中学校</td> <td>11人</td> <td>10千円</td> </tr> <tr> <td>弥栄中学校</td> <td>31人</td> <td>28千円</td> </tr> <tr> <td>久美浜中学校</td> <td>7人</td> <td>6千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>217人</td> <td>195千円</td> </tr> </tbody> </table> | | 学校名 | 対象生徒数 | 補助金額 | 峰山中学校 | 105人 | 94千円 | 大宮中学校 | 44人 | 40千円 | 網野中学校 | 19人 | 17千円 | 丹後中学校 | 11人 | 10千円 | 弥栄中学校 | 31人 | 28千円 | 久美浜中学校 | 7人 | 6千円 | 計 | 217人 | 195千円 | | | | | |
| 学校名 | 対象生徒数 | 補助金額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山中学校 | 105人 | 94千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮中学校 | 44人 | 40千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野中学校 | 19人 | 17千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後中学校 | 11人 | 10千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄中学校 | 31人 | 28千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久美浜中学校 | 7人 | 6千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 217人 | 195千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 成果・課題 | 自転車通学をする生徒を対象としたヘルメットの購入支援を行うことで、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図ることができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------|--|--|----------|----------|--|--|---------|----------|--|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
| | 項 | 02 小学校費 | 70,973千円 | 70,977千円 | 4千円 | 99.9% | | | |
| | 目 | 01 小学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 教育総務課 | |
| | 事業 | 03 小学校施設改修事業 | | | | 81,577千円 | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | 主な財源 | | | |
| 目的 | 小学校施設における改修工事等を行い、児童が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。 | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○小学校トイレ洋式化工事（網野北・島津） | | 55,721千円 | | ○令和4年度工事に向けた業務委託 | | 6,227千円 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 工事監理委託料 2,052千円 工事請負費 53,573千円 仮設トイレ借上料、汲取手数料 96千円 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 小学校トイレ洋式化工事実施設計業務（峰山・長岡） | | | | |
| | | ○いさなご小学校職員室エアコン改修工事 | | 726千円 | | ○調査委託料 | | 16千円 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 工事請負費 | | | | <ul style="list-style-type: none"> いさなご小学校落雷解析データ調査 | | | |
| | | ○橋小学校特別支援室エアコン設置工事 | | 1,171千円 | | 災害復旧事業の申請において、指定する地域・期間内に落雷が発生していた事実を証明するために必要な調査 | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 工事請負費 | | | | | | | |
| | | ○その他工事請負費 | | 7,112千円 | | ○網野北、島津各小学校のトイレ洋式化工事を行うなど、児童の安全・安心を最優先に施設整備を行うことにより、良好な教育環境を整えることができた。 | | 成果・課題 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 網野南小学校高圧ケーブル更新工事 1,023千円 いさなご小学校高圧気中開閉器改修工事 405千円 久美浜小学校湧水ポンプ改修工事ほか11件 5,684千円 | | | | ○令和3年3月に策定した学校施設の長寿命化計画に基づき、計画的な改修を実施する必要がある。 | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
|-------------|--|-----------------|---|-------|--|-----|---|----------|----------|-------|-------|---|--------------|
| | 項 | 02 小学校費 | | | | | | 27,171千円 | 27,344千円 | 173千円 | 99.3% | 課 | 教育総務課 |
| | 目 | 01 小学校管理費 | | | | | | | | | | | 07 小学校施設管理事業 |
| 事業 | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。 | | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○施設等修繕費 11,805千円 <ul style="list-style-type: none"> ・校舎、体育館、給食調理室、消防設備、遊具等の修繕 ○各種検査、手数料 514千円 <ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽法定検査、貯水槽法定検査、漏水調査手数料、倒木処理手数料 ○建物火災保険料 994千円 ○施設保守管理等委託料（13業務） 12,375千円 <ul style="list-style-type: none"> ・デマンド監視業務、消防設備等保守点検、浄化槽維持管理、電気設備保守管理、エレベーター保守点検、給食用リフト保守点検、学校警備、プール循環保守点検、給食施設消毒等業務、雑木伐採、貯水槽等保守点検、グリストラップ処理、給排水設備保守点検 ○施設用地借上料 150千円 <ul style="list-style-type: none"> ・いさご小学校（学童園圃用地ほか 751.22㎡） | | <ul style="list-style-type: none"> ○施設修繕のための原材料、消耗品 411千円 <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド用山土、砂、体育館用ドレッシングオイル、修繕用木材等 ○網野北小学校芝生化事業 922千円 <ul style="list-style-type: none"> ・芝生肥料、芝刈機用燃料、芝刈機修繕、補植用芝生及び芝生用土購入芝生自土作業委託料 | | 成果・課題 ○法令等に基づいた定期点検を行うなど、施設の適切な維持管理により、学校運営を円滑に行うことができた。 ○老朽化した施設が多い中、良好な教育活動を行うため、安全性・機能性の確保に努め、今後も適切な維持管理を行う必要がある。 | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
|-------------|---|-----------------|---|--|-----|-----|---|--------------|-----------|------|-------|---|-----------|
| | 項 | 03 中学校費 | | | | | | 210,763千円 | 210,844千円 | 81千円 | 99.9% | 課 | 教育総務課 |
| | 目 | 01 中学校管理費 | | | | | | | | | | | (参考)当初予算額 |
| 事業 | | | | | | | | 03 中学校施設改修事業 | | | | | |
| 基本計画 | | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 国補 学校施設環境改善交付金（1/3） 61,211千円 市債 中学校施設整備事業債（過疎対策債） 145,400千円 | | | | | | | | | |
| 目的 | 中学校施設における改修工事等を行い、生徒が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。 | | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○中学校特別教室空調化工事 205,782千円 <ul style="list-style-type: none"> （6中学校の音楽室、美術室、理科室 24室） ・工事監理委託料 4,675千円 ・工事請負費 201,107千円 ○大宮中学校コンピューター室エアコン更新工事 878千円 <ul style="list-style-type: none"> ・工事請負費 ○その他工事請負費 4,103千円 <ul style="list-style-type: none"> ・大宮中学校体育館壁用スピーカー取替工事 418千円 ・丹後中学校校長室エアコン改修工事 451千円 ・久美浜中学校図書室エアコン更新工事 541千円 ・弥栄中学校理科室洗い場シンク改修工事 693千円 ・弥栄中学校トイレ改修及び手摺設置等工事 1,120千円 ・網野中学校防球ネット取替工事 880千円 | | 成果・課題 ○生徒の安全・安心を最優先に施設整備を行うことにより、良好な教育環境を整えることができた。 ○「新しい生活様式」を踏まえ、健やかに学習、生活できる環境整備を進めるため、6中学校の特別教室空調化工事を実施することができた。 ○令和3年3月に策定した学校施設の長寿命化計画に基づき、計画的な改修を実施する必要がある。 | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|---|------------------|------------------------------|----------|---|--------|-----------|----------|-----|--|---|----------|
| | 項 | 03 中学校費 | 4,921千円 | 10,000千円 | 5,079千円 | 49.2 % | (参考)当初予算額 | 10,000千円 | | | | |
| | 目 | 01 中学校管理費 | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 03 中学校施設改修事業(繰越) | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | 主な財源 | 市債 中学校施設整備事業債(合併特例債) 4,600千円 | | | | | | | | | |
| 目的 | 「新しい生活様式」を踏まえ、健やかな学びの保障を目指すため、新型コロナウイルス感染症対策として特別教室の空調化設計を行い、教育環境を整備する。 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○中学校特別教室空調化工事 6中学校の音楽室、美術室、理科室 24室の工事設計委託料 | | 4,921千円 | | | | | | | | | |
| | | | | 成果・課題 | 「新しい生活様式」を踏まえ、学校においても感染症対策と児童生徒が健やかに学習、生活できる環境整備を整えるため、6中学校の特別教室空調化に向けた設計業務を行うことができた。 | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 | 教育委員会事務局 |
|---|-----------------------------------|--------------|---------|--|-------|---|-----------|---------|-----|--|---|----------|
| | 項 | 03 中学校費 | 9,548千円 | 9,611千円 | 63千円 | 99.3 % | (参考)当初予算額 | 9,148千円 | | | | |
| | 目 | 01 中学校管理費 | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 07 中学校施設管理事業 | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | 主な財源 | | | | | | | | | | |
| 目的 | 学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○施設等修繕費 ・校舎、体育館、給食調理室、消防設備等の修繕 | | 3,672千円 | ○施設修繕のための原材料、消耗品 202千円 ・グラウンド用山土、砂、体育館用ドレッシングオイル、修繕用木材等 | | | | | | | | |
| | ○各種検査、手数料 ・貯水槽法定検査、倒木処理手数料 | | 79千円 | | | | | | | | | |
| ○建物火災保険料 | | 548千円 | | | | | | | | | | |
| ○施設保守管理等委託料(9業務) ・デマンド監視業務、消防設備等保守点検、雑木伐採、電気設備保守管理、給食用リフト保守点検、学校整備、給食施設消毒等業務、貯水槽保守点検、グリストラップ処理 | | 3,590千円 | | | | | | | | | | |
| ○施設用地借上料 ・弥栄中学校(給食棟、テニスコート用地 4,922㎡) | | 1,457千円 | | | 成果・課題 | ○法令等に基づいた定期点検を行うなど、施設の適切な維持管理により、学校運営を円滑に行うことができた。 ○老朽化した施設が多い中、良好な教育活動を行うため、安全性・機能性の確保に努め、今後も適切な維持管理を行う必要がある。 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------------------|---|-----------|-------------------------|------------------------------|--|-----------|---|----------|
| | 項 | 02 小学校費 | 151,908千円 | 153,364千円 | 1,456千円 | 99.0 % | | |
| | 目 | 01 小学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| 事業 | 02 小学校管理運営事業 | | | | 152,455千円 | | 課 | 学校教育課 |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | |
| 目的 | 適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施する。 | | 主な財源 | 寄附金 | | ふるさと応援寄附金 | | 100千円 |
| | | | 諸収入 | 学校施設改修工事等電気水道利用負担金 | | | | 19千円 |
| 主要な事務・事業の概要 | ○会計年度任用職員任用経費（作業員13人） | | 33,862千円 | ○使用料及び賃借料 | | 1,567千円 | | |
| | ・報酬 | | 23,411千円 | ・テレビ受信料、ガス警報器使用料 | | 246千円 | | |
| | ・会計年度任用職員期末手当 | | 4,741千円 | ・コピー機借上料、印刷機借上料 | | 1,321千円 | | |
| | ・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） | | 4,493千円 | （うち、コピー機5台/7台中、印刷機7台/7台中を更新） | | | | |
| | ・費用弁償 | | 1,217千円 | ○備品購入費 | | 3,066千円 | | |
| ○需用費 | | 107,174千円 | ・電話機、特別支援学級備品、ストーブほか | | （うち、ふるさと応援寄附金充当額100千円 ※高龍小テント購入代） | | | |
| ・消耗品費、燃料費（事務用品、用紙、灯油ほか） | | 31,724千円 | ○負担金、補助及び交付金 | | 581千円 | | | |
| ・食糧費、印刷製本費（来客用茶、卒業証書ほか） | | 420千円 | ・校長会、教頭会、教務主任会ほか各種団体負担金 | | | | | |
| ・電気代 | | 51,597千円 | 成果・課題 | | ○教育環境の整備や維持管理など、児童が安全に安心して学ぶことのできる学校づくりに取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施することができた。 ○老朽化した印刷機器を更新し、校務の効率化を推進した。 ○より充実した教育環境の整備と学校施設の効率的な管理運営に努めていく必要がある。 | | | |
| ・水道料 | | 22,879千円 | | | | | | |
| ・修繕費（印刷機等の修繕） | | 554千円 | | | | | | |
| ○役務費 | | 5,174千円 | | | | | | |
| ・電話代、郵送料 | | 3,679千円 | | | | | | |
| ・手数料（ピアノ調律、ミシン調整ほか） | | 1,495千円 | | | | | | |
| ○委託料 | | 484千円 | | | | | | |
| ・理科薬品廃棄処分、害虫駆除委託料 | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------------------|---|-----------|-------------------------|-------------------|---|--------------------|---|----------|
| | 項 | 03 中学校費 | 64,079千円 | 66,373千円 | 2,294千円 | 96.5 % | | |
| | 目 | 01 中学校管理費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| 事業 | 02 中学校管理運営事業 | | | | 64,840千円 | | 課 | 学校教育課 |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | |
| 目的 | 適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施する。 | | 主な財源 | 諸収入 | | 学校施設改修工事等電気水道利用負担金 | | 11千円 |
| | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○会計年度任用職員任用経費（作業員6人） | | 11,913千円 | ○委託料 | | 288千円 | | |
| | ・報酬 | | 8,286千円 | ・理科薬品廃棄処分、害虫駆除委託料 | | | | |
| | ・会計年度任用職員期末手当 | | 1,748千円 | ○使用料及び賃借料 | | 505千円 | | |
| | ・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） | | 1,418千円 | ・テレビ受信料、ガス警報器使用料 | | 88千円 | | |
| | ・費用弁償 | | 461千円 | ・コピー機借上料等 | | 417千円 | | |
| ○需用費 | | 46,152千円 | ○備品購入費 | | 1,786千円 | | | |
| ・消耗品費、燃料費（事務用品、用紙、灯油ほか） | | 14,035千円 | ・保健器具、特別支援学級備品、ストーブほか | | | | | |
| ・食糧費、印刷製本費（来客用茶、卒業証書ほか） | | 217千円 | ○負担金、補助及び交付金 | | 980千円 | | | |
| ・電気代 | | 24,069千円 | ・校長会、教頭会、教務主任会ほか各種団体負担金 | | | | | |
| ・水道料 | | 7,688千円 | 成果・課題 | | ○教育環境の整備や維持管理など、生徒が安全に安心して学ぶことのできる学校づくりに取り組み、中学校における円滑な教育活動を実施することができた。 ○より充実した教育環境の整備と学校施設の効率的な管理運営に努めていく必要がある。 | | | |
| ・修繕費（印刷機等の修繕） | | 143千円 | | | | | | |
| ○役務費 | | 2,455千円 | | | | | | |
| ・電話代、郵送料 | | 1,662千円 | | | | | | |
| ・手数料（ピアノ調律、ミシン調整ほか） | | 793千円 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|---|----------|---|--|----------|-----------|-------|----------|
| | 項 | 05 保健体育費 | | | | 98.4% | | |
| | 目 | 04 学校給食費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| 事業 | 02 網野給食センター管理運営事業 | 31,452千円 | 31,962千円 | 510千円 | 37,444千円 | 課 | 学校教育課 | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | |
| 目的 | 網野地域の小学校及び中学校に栄養バランスの取れた給食を提供し、児童生徒の心身の健全な発達に寄与する。 | | 主な財源 | 諸収入 市有運物損害共済金 28千円 諸収入 市有自動車損害共済金 372千円 市債 学校給食センター整備事業債(過疎対策債) 1,500千円 | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○会計年度任用職員経費(調理補助員7人、事務補助員1人) 15,099千円 ○給食調理及び施設維持経費等 9,956千円 ・消耗品費(厨房用消耗品ほか) 1,649千円 ・燃料費(ボイラー用灯油、ガス、配送車燃料) 3,725千円 ・光熱水費(電気、水道代) 4,582千円 ○修繕料 2,116千円 ・厨房内調理機器修理 72千円 ・施設修理(浄化槽設備ほか) 1,315千円 ・車両点検、車検修理(配送車3台、軽トラック1台) 729千円 ○備品購入費 1,751千円 ・業務用冷凍庫(1台)、器具消毒保管機(1台) 1,217千円 ・冷凍庫(検査保存用)(1台)、L型運搬車(4台) 534千円 | | ○浄化槽維持管理委託、浄化槽法定検査手数料 1,311千円 ○検便検査、その他検査 266千円 ○その他(電話代、保険料等、電気設備保守管理委託ほか) 953千円 | | | | | |
| | | | 成果・課題 | ○網野地域の小中学校の学校給食を効率的に調理し、栄養バランスの取れた安全・安心な給食を提供することができた。 ○安全・安心な給食の提供を維持するため、老朽化が進む設備・備品等について計画的な更新及び修繕を行っていく必要がある。 | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|---|-----------|---|---|-----------|-----------|-------|----------|
| | 項 | 05 保健体育費 | | | | 99.9% | | |
| | 目 | 04 学校給食費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| 事業 | 03 小学校給食管理運営事業 | 167,910千円 | 167,972千円 | 62千円 | 167,457千円 | 課 | 学校教育課 | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | |
| 目的 | 児童の心身の健全な発達に寄与するため、栄養バランスのとれた給食を提供する。 | | 主な財源 | 諸収入 小学校給食調理機器類貸付料 5,544千円 市債 小学校給食備品整備事業債(過疎対策債) 3,800千円 | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 小学校の給食を提供するために必要な体制の確保と、調理機器の整備などの維持管理等を行った。 ○給食調理 13,818千円 ・消耗品費 61千円 ・燃料費(ガス) 12,359千円 ・修繕料(調理機器) 1,398千円 ○給食調理業務委託 147,332千円 ・委託料(網野地域を除く全13校を委託) ○備品購入 6,463千円 ・真空冷却器1台(大宮第一小) 3,399千円 ・業務用冷凍庫2台(弥栄小、高龍小) 599千円 ・牛乳保冷庫2台(網野南小、吉野小) 536千円 ・回転釜1台、立体炊飯器1台(久美浜小) 796千円 ・保温・保冷食缶92個(全小学校全クラス分) 902千円 ・食器かご等(小学校4校) 231千円 | | ○機器移設手数料 275千円 ・機器の移設に伴う手数料 ○協議会等負担金 22千円 ・全国学校栄養士協議会負担金 12千円 ・京都府学校給食研究会負担金 9千円 ・京都府学校栄養士協議会負担金 1千円 | | | | | |
| | | | 成果・課題 | ○給食調理業務の民間委託を行うなど、給食を提供するために必要な体制の確保と効率的な運営を図ることができた。 ○民間企業の活用を進めるとともに、引き続き栄養バランスの取れた安全・安心な給食を提供する必要がある。 ○安全・安心な給食の提供を維持するため、老朽化が進む設備・備品等について計画的な更新及び修繕を行っていく必要がある。 | | | | |

| 予備科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 課 | 教育委員会事務局 学校教育課 |
|--|--|----------|-----------------|---|---------|---------|-----|--|-----|--|--------|-------------------|
| | 項 | 05 保健体育費 | 49,871千円 | 52,506千円 | 2,635千円 | 94.9% | | | | | | |
| | 目 | 04 学校給食費 | | | | | | | | | | |
| 事業 | 04 中学校給食管理運営事業 | 52,725千円 | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 諸収入 | 中学校給食調理機器類貸付料 | | 1,812千円 | | | | | | |
| | | | 市債 | 中学校給食備品整備事業債（過疎対策債） | | 1,100千円 | | | | | | |
| 目的 | 生徒の心身の健全な発達に寄与するため、栄養バランスのとれた給食を提供する。 | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 中学校の給食を提供するために必要な体制の確保と、調理機器の整備などの維持管理等を行った。 | | | ○備品購入 | | 1,744千円 | | | | | | |
| | ○会計年度任用職員任用経費（峰山中1人、大宮中2人） ・報酬費、期末手当、共済費、費用弁償 | | 4,503千円 | ・スチームコンベクションオープン1台（丹後中） | | 1,118千円 | | | | | | |
| | ○給食調理 ・消耗品費 | | 7,440千円 | ・3槽シンク1台（峰山中） | | 234千円 | | | | | | |
| | ・燃料費（ガス） | | 5,747千円 | ・保温・保冷食缶33個（全中学校全クラス分） | | 324千円 | | | | | | |
| ・修繕料（調理機器） | | 1,017千円 | ・食器かご等（丹後中、大宮中） | | 68千円 | | | | | | | |
| ・手数料（包丁研磨、調理備品移設） | | 20千円 | ○協議会等負担金 | | 29千円 | | | | | | | |
| ○給食調理業務委託 | | 36,155千円 | ・全国学校栄養士協議会負担金 | | 24千円 | | | | | | | |
| ・委託料（網野中学校を除く5校中3校を委託） 丹後中、弥栄中、久美浜中 | | | ・京都府学校給食研究会負担金 | | 3千円 | | | | | | | |
| | | | ・京都府学校栄養士協議会負担金 | | 2千円 | | | | | | | |
| | | | 成果・課題 | ○給食調理業務の民間委託を行うなど、給食を提供するために必要な体制の確保と効率的な運営を図ることができた。 ○民間企業の活用を進めるとともに、引き続き栄養バランスの取れた安全・安心な給食を提供する必要がある。 ○安全・安心な給食の提供を維持するため、老朽化が進む設備・備品等について計画的な更新及び修繕を行っていく必要がある。 | | | | | | | | |

| 予備科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 課 | 教育委員会事務局 学校教育課 |
|-----------------------|---|----------|--------|---|-------|-------|-----|--|-----|--|--------|-------------------|
| | 項 | 05 保健体育費 | 560千円 | 701千円 | 141千円 | 79.8% | | | | | | |
| | 目 | 04 学校給食費 | | | | | | | | | | |
| 事業 | 50 学校給食一般経費 | 840千円 | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 目的 | 学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、献立研究会の活発な活動を促し、衛生管理や栄養面等での充実を図る。 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○衛生管理の徹底 | | 537千円 | ○学校給食全般における衛生管理の徹底及び給食献立の研究を進めることで、衛生管理と栄養面での充実につながった。 | | | | | | | | |
| | 学校給食衛生管理基準に基づく給食調理施設の衛生管理を徹底するため、各種検査を実施するとともに、衛生対策関連の消耗品の種類や内容を統一して、一括購入・供給を行った。 | | | ○給食調理施設の衛生管理はもとより、学校関係者や給食従事者に対する安全教育を徹底するとともに、各種検査の充実を図り、より安全・安心な学校給食を実施していく必要がある。 | | | | | | | | |
| | ・衛生用消耗品購入 | | 446千円 | | | | | | | | | |
| | ・給食調理員等検便検査 | | 80千円 | | | | | | | | | |
| ・給食用食材細菌検査等 | | 11千円 | | | | | | | | | | |
| ○栄養士負担金 | | 15千円 | | | | | | | | | | |
| ・京都府栄養士会負担金 | | | | | | | | | | | | |
| ○給食費公会計化に伴う視察（南丹市：3人） | | 8千円 | | | | | | | | | | |
| ・旅費（普通旅費） | | 5千円 | | | | | | | | | | |
| ・有料道路通行料 | | 3千円 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|-----------------|---|---------|-----------------------|-----------|---|----------|
| 予 算 科 目 | 款 | 11 災害復旧費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 03 文教施設災害復旧費 | 3,850千円 | 3,850千円 | 千円 | 100.0% | | |
| | 目 | 01 公立学校施設災害復旧費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| | 事業 | 01 公立学校施設災害復旧事業 | | | | 千円 | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 国費 | 公立学校施設災害復旧事業費負担金(2/3) | 513千円 | | |
| 目的 | 令和3年8月3日の落雷により被災した学校施設の復旧を図る。 | | | 諸収入 | 市有建物損害共済金 | 2,705千円 | | |
| 主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要 | ○いさなご小学校電気設備災害復旧事業 ・工事請負費 | | 3,850千円 | 市債 | 公立学校施設災害復旧事業債 | 200千円 | | |
| | 成果・課題 | | ○令和3年8月3日の落雷により、いさなご小学校の高圧受電設備が被害を受け停電となる災害が発生したため、復旧工事を実施した。 ○被災した公立学校施設を復旧することにより施設の機能回復を図ることができた。 | | | | | |

| 予 算 科 目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---------------|--|--|--------------------|-----------|----|----------|-----|------|----------|------|------|--------|------|------|------|------|------|--------|------|-----|------|------|------|------|-------|------|--------|-----|--------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 3,403千円 | 3,537千円 | 134千円 | 96.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 10 地域学校協働本部事業 | | | | 3,537千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | 府補 | 地域で支える学校教育推進事業費補助金 | 2,098千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要 | 地域全体で学校教育を支援するため、様々な特技や技能を持った地域の人材を「学校支援ボランティア」として登録し、全てのこども園、小・中学校で、学習支援やクラブ活動支援、学校の環境整備などを実施した。 | | 2,686千円 | ○ボランティア活動の内容等 ・学習支援（教科指導補助、「総合的な学習」講師補助、部活動指導支援等） ・環境支援（学校環境整備、学校図書室整理、安全確保、学校行事等の補助等） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○地域コーディネーター謝金（6人分） | | 264千円 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 域</th> <th>活動日数</th> <th>活動人数（延べ）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山学園</td> <td>375日</td> <td>2,781人</td> </tr> <tr> <td>大宮学園</td> <td>130日</td> <td>145人</td> </tr> <tr> <td>網野学園</td> <td>636日</td> <td>3,946人</td> </tr> <tr> <td>丹後学園</td> <td>74日</td> <td>181人</td> </tr> <tr> <td>弥栄学園</td> <td>299日</td> <td>418人</td> </tr> <tr> <td>久美浜学園</td> <td>466日</td> <td>6,282人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,980日</td> <td>13,753人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 区 域 | 活動日数 | 活動人数（延べ） | 峰山学園 | 375日 | 2,781人 | 大宮学園 | 130日 | 145人 | 網野学園 | 636日 | 3,946人 | 丹後学園 | 74日 | 181人 | 弥栄学園 | 299日 | 418人 | 久美浜学園 | 466日 | 6,282人 | 合 計 | 1,980日 |
| 区 域 | 活動日数 | 活動人数（延べ） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山学園 | 375日 | 2,781人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮学園 | 130日 | 145人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野学園 | 636日 | 3,946人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後学園 | 74日 | 181人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄学園 | 299日 | 418人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久美浜学園 | 466日 | 6,282人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 1,980日 | 13,753人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○地域コーディネーター旅費 | | 453千円 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>町域</th> <th>峰山</th> <th>大宮</th> <th>網野</th> <th>丹後</th> <th>弥栄</th> <th>久美浜</th> <th>市外</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録人数</td> <td>119人</td> <td>90人</td> <td>154人</td> <td>67人</td> <td>68人</td> <td>58人</td> <td>1人</td> <td>557人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 町域 | 峰山 | 大宮 | 網野 | 丹後 | 弥栄 | 久美浜 | 市外 | 合計 | 登録人数 | 119人 | 90人 | 154人 | 67人 | 68人 | 58人 | 1人 | 557人 | | | | | | |
| 町域 | 峰山 | 大宮 | 網野 | 丹後 | 弥栄 | 久美浜 | 市外 | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 登録人数 | 119人 | 90人 | 154人 | 67人 | 68人 | 58人 | 1人 | 557人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○消耗品費、印刷製本費 | | | <p>※ボランティアの登録状況（令和3年3月末現在）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <活動概要> | | | <p>○実施期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日</p> <p>○実施場所 市内全小学校（17校）、中学校（6校）こども園（6園）</p> <p>○地域コーディネーター 6人（配置先：6中学校）</p> <p>○ボランティア登録者数 557人（令和3年度新規登録者数32人）</p> <p>○広報紙の発行 2回（ボランティア募集、活動報告）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ボランティア登録者数 | | | <p>○地域住民の経験や特技を学校の教育活動等に活かすことで、地域による学校教育支援はもとより、多世代交流に繋がり、市民の生きがい作りになっている。</p> <p>○学校活動の多様化に伴うニーズを的確に把握し、地域特性を活かした人材（ボランティア登録者）をより多く確保していく必要がある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○広報紙の発行 | | | 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|--|----------------|--|-------|-----|-----------|---|----------|
| | 項 | 01 教育総務費 | | | | 97.8% | | |
| | 目 | 02 事務局費 | 226千円 | 231千円 | 5千円 | (参考)当初予算額 | 課 | 学校教育課 |
| | 事業 | 21 共同学校事務室運営事業 | | | | 231千円 | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | |
| 目的 | 学校事務処理の適正化及び標準化、効率化、学校マネジメント機能の強化等を図るため、共同学校事務室を設け、学校の教育力・組織力の向上を推進する。 | | 主な財源 | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○共同学校事務室運営経費 226千円</p> <p>令和3年度は、平成30年度より実践研究校として取り組んできた網野学園（網野中・網野北小・網野南小・島津小・橋小）において先行して共同学校事務室を設置。</p> <p>【網野学園における共同実施業務】</p> <p>学校経営全体に関わる業務（各種文書の収受発出など情報管理）</p> <p>教職員人事に関する業務（給与、旅費、福利厚生、服務等に関する業務）</p> <p>教育活動に直接関係する業務（学校予算、備品、就学援助等に関する業務）</p> <p>そのほか校内体制に応じて参画する業務 等</p> | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費 174千円 ・印刷製本費 30千円 ・役務費（通信運搬費） 22千円 | 成果・課題 | <p>○異なる様式や処理方法を統一し共有することで、学校事務の標準化を進めることができた。</p> <p>○事務処理状況の確認や、帳簿類の相互チェックを行い、事務の適正な執行を図るとともに、事務職員のスキルアップにつなげることができた。</p> <p>○役割を分担し、学校規模による事務量の差を調整することで、安定した学校事務に取り組むことができた。</p> <p>○令和4年度から全学園に共同学校事務室を設置するため、網野学園共同学校事務室の成果を共有していくことが重要である。</p> | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|---|-----------------------------------|----------|--|-------|-----------|---|----------|
| | 項 | 02 児童福祉費 | | | | 98.1% | | |
| | 目 | 01 児童福祉総務費 | 14,094千円 | 14,361千円 | 267千円 | (参考)当初予算額 | 課 | 子ども未来課 |
| | 事業 | 50 児童福祉総務一般経費 | | | | 951千円 | | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | | | | | | |
| 目的 | 児童福祉業務を円滑に遂行するために必要な一般経費 | | 主な財源 | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○旅費 7千円</p> <p>・担当者会議等職員旅費</p> <p>○需用費 535千円</p> <p>・公用車燃料代（3台）及び車検（2台）費用等</p> <p>○役務費 124千円</p> <p>・車検費用、自動車損害保険料等</p> <p>○使用料及び賃借料 9千円</p> <p>・有料道路通行料</p> <p>○公課費 10千円</p> <p>・公用車重量税（2台）</p> | | | <p>○償還金利子及び割引料 13,409千円</p> <p>〔過年度国庫支出金返還金〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度子ども・子育て支援交付金国庫返還金 8,692千円 ・令和2年度子どものための教育・保育給付交付金国庫返還金 2,628千円 ・令和元年度保育対策総合支援事業費補助金国庫返還金 143千円 ・令和2年度保育対策総合支援事業費補助金国庫返還金 544千円 ・令和2年度子育てのための施設等利用給付交付金国庫返還金 153千円 ・令和2年度子ども・子育て支援体制整備総合推進事業費補助金国庫返還金 30千円 <p>〔過年度府支出金返還金〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度子どものための教育・保育給付府費交付金返還金 1,219千円 | | | | |
| | 成果・課題 | 支出内容を精査しながら、児童福祉業務を適切に遂行することができた。 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 課 | 教育委員会事務局 教育総務課 |
|-------------|--|--------------|---------|---------|-------|-------|-----------|---------|--|--|--------|-------------------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 3,884千円 | 4,000千円 | 116千円 | 97.1% | | | | | | |
| | 目 | 01 教育委員会費 | | | | | (参考)当初予算額 | | | | | |
| | 事業 | 50 教育委員会一般経費 | | | | | | 4,000千円 | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | 主な財源 | | | | | | | | | | |
| 目的 | 地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会を運営する。 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>教育委員の報酬、会議参集や管内研修に係る費用弁償及び丹後地方教育委員会連合会負担金を支出した。教育委員会会議は、定例会12回、臨時会6回及び委員協議会3回を開催した。</p> <p>また、市内学校をはじめ社会教育施設等の管内視察や、各種研修及び先進地視察の活動を行った。</p> | | 3,456千円 | | 136千円 | | 292千円 | | | | | |
| | <p>○報酬 ・教育委員の報酬（4人）</p> <p>○旅費等 ・近畿市町村教育委員会研修大会に要する経費 ・先進地視察研修に要する経費 あかし市民図書館（兵庫県明石市）、夏父市文化会館（兵庫県夏父市） ※研修テーマ：複合施設への移転効果と課題など</p> <p>・各種研修、会議出席等に要する経費</p> <p>○負担金 ・丹後地方教育委員会連合会負担金</p> | | 3,456千円 | | 136千円 | | 292千円 | | <p>成果・課題</p> <p>○管内視察をはじめ先進地視察を実施し実情の把握に努め、積極的な活動を行うことにより幅広い意見をを得ることができた。</p> <p>○社会の変化や新たな行政需要に対応するため、委員協議会を活用し、調査・研修及び意見交換を行うことができた。</p> <p>○課題解決に向け、地域の意向や教育現場等の状況を把握し、教育施策や教育委員会の意思決定に反映させるため、今後も研修機会及び管内視察等の充実を図る必要がある。</p> | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 課 | 教育委員会事務局 教育総務課 |
|--|---|------------|--|---------|-------|---|--|---------|-----|--|--------|-------------------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 7,169千円 | 7,882千円 | 713千円 | 90.9% | | | | | | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | | (参考)当初予算額 | | | | | |
| | 事業 | 50 事務局一般経費 | | | | | | 7,740千円 | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | 主な財源 | <p>繰入金 韓哲・まちづくり夢基金繰入金 360千円</p> <p>諸収入 市有自動車損害共済金 32千円</p> | | | | | | | | | |
| 目的 | 教育委員会事務局の円滑な運営及び公用車の適正な維持管理を行うとともに、全国部活動特別入学選抜により市内の高等学校に入学する生徒を応援する補助金を創設し、生徒の就学支援及び地域の活性化を図った。 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○事務局運営に係る経費 | | 5,461千円 | | 360千円 | | | | | | | |
| | <p>・会計年度任用職員任用経費（事務補助2人） 4,564千円</p> <p>・教育委員会活動点検評価謝金（2人） 40千円</p> <p>・各種協議会等出張旅費（教育長、職員等） 101千円</p> <p>・激励金（5団体、個人19人） 340千円 （スポーツ等の国際大会・全国大会に出場する選手を激励 カヌーほか6競技）</p> <p>・書籍、消耗品費ほか 416千円</p> | | 1,260千円 | | 88千円 | | <p>○高等学校全国募集入学生応援補助金 360千円 月額15,000円×12月×2人 ・対象校：京都府立丹後緑風高等学校（網野学舎） ・部活動名：レスリング部</p> | | | | | |
| ○公用車の維持管理経費 | | 1,260千円 | | | | | | | | | | |
| ○各協議会、団体への負担金 | | 88千円 | | | | | | | | | | |
| <p>全国都市教育長協議会負担金、定時制通信教育振興会負担金、 京都府都市教育長協議会参加負担金、安全運転管理者講習会負担金</p> | | | | | | <p>成果・課題</p> <p>○全国部活動特別入学選抜により、市内の高等学校に入学した生徒の下宿等に係る経済的負担軽減を図るとともに、生徒の就学支援をはじめ、地域で培われたスポーツ風土を生かした部活動を応援することで人材の育成及び地域の活性化に寄与することができた。</p> <p>○教育委員会事務局の運営及び公用車管理について、経費削減に努めながら効率的な執行ができた。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|-----------------------|--|-----------|-----------|------------------------|-----------------------------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 教育総務課 |
| | 項 | 01 教育総務費 | 209,131千円 | 429,954千円 | 220,823千円 | 48.6% | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 429,954千円 | |
| 事業 | 12 学校跡施設管理事業 | 市債 旧小学校施設解体事業債(合併特例債) | | 194,100千円 | | | |
| 基本計画 | 30 行財政改革大綱(効率的・効果的な行財政運営) | | | | | | |
| 目的 | 学校再配置により閉校となった学校施設の維持管理を行い、利活用の推進を図る。 | | 主な財源 | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○閉校施設修繕費(4施設) 506千円 電気設備、貯水槽、フェンス等の修繕を行い、施設の適正管理を図った。 修繕施設: 旧大宮第三小学校、旧田村小学校、旧豊栄小学校 旧宇川中学校 | | ○旧湊小学校校舎棟解体事業 205,365千円 ・委託料(建物調査等業務、地下水水質調査業務) 5,204千円 ・工事請負費 199,194千円 ・手数料等 967千円 (エアコン撤去手数料、消火器処分手数料等) | | | | |
| | ○維持管理経費 1,014千円 貯水槽法定検査手数料(容量10㎡を超える貯水槽2施設)、建物火災保険料 貯水槽等保守点検、雑木伐採委託料、ごみ処理手数料等 | | 参考 | | | | |
| | ○工事請負費 2,123千円 ・旧大宮第三小学校貯水槽改修工事 673千円 ・旧川上小学校消防ポンプ設備改修工事 528千円 ・旧豊栄小学校校舎消防設備改修工事 922千円 | | ■令和4年度への繰越事業 220,466千円 ・旧橋小学校低圧化工事(工事請負費) 令和4年5月完了 ・旧湊小学校校舎棟解体事業(工事監理、工事請負費) 令和4年6月完了 | | | | |
| | ○学校跡施設利活用経費 123千円 ・学校跡施設利活用委員会経費 35千円 ・手数料等(ごみ処理手数料等) 88千円 | | 成果・課題 ○施設の老朽化が進み、利活用ができない旧湊小学校校舎及びプール棟施設について除却を進めることができたが、解体工事を実施する際は、周辺環境等の調査検討を十分に行い進める必要がある。 ○旧橋小学校体育館及びグラウンド、旧豊栄小学校校舎について、利活用の公募を行い事業候補者を決定することができた。 ○施設等の状況を考慮しながら、利活用が進むよう今後も検討を進めていく必要がある。 | | | | |
| | | 209,488千円 | | 209,488千円 | | 99.8% | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|--|---------|---------|---------------|----------------------|-----------------------------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 教育総務課 |
| | 項 | 01 教育総務費 | 1,606千円 | 1,606千円 | 千円 | 100.0% | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 1,583千円 | |
| 事業 | 13 学校教育施設整備基金 | 財産収入 土地建物賃付収入 1,604千円 財産収入 学校教育施設整備基金利子収入 2千円 | | 主な財源 | | | |
| 基本計画 | 30 行財政改革大綱(効率的・効果的な行財政運営) | | | | | | |
| 目的 | 学校跡施設の建物賃付料をもとに、学校教育施設の整備等を進めることを目的とした学校教育施設整備基金への積立金 | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○学校教育施設整備基金積立金 1,606千円 建物賃借料を基に国が算出した国庫納付金相当額以上を積み立てる ・旧大宮第三小学校分 278千円 ・旧三津小学校分 1,326千円 ・基金利子分 2千円 | | | | | | |
| | (単位:千円) | | | | | | |
| | 令和2年度末 現在高 | 令和3年度中増減額 | | | 令和3年度末 現在高 | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ①-②+(③+④) | | |
| 5,303 | 0 | 2 | 1,604 | 6,909 | | | |
| | | | | 成果・課題 | | | |

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

| 担当課 | 担当課長 |
|--------|-------|
| 学校教育課 | 川村 義輝 |
| 生涯学習課 | 安達 純 |
| 子ども未来課 | 蒲田 幸宏 |

| | |
|-------|---|
| 重点目標 | 4 豊かな人間性・社会性を育みます |
| 基本的方針 | 学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切にす豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。 |

1. 施策の方向性

PLAN

| | |
|------------------------|--|
| 1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成 | <p>①小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。</p> <p>②生命を大切にす心や他人を尊重する心などを育むとともに、新たに教科となった道徳科をはじめ、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。</p> <p>③地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。</p> <p>④各学園(中学校区)において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取組みを協働して進めます。</p> <p>⑤情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や保護者、学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。</p> |
| 2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実 | <p>①子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や内面理解の充実に努めます。</p> <p>②学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。</p> <p>③京丹後市いじめ防止等基本方針に基づき、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進します。</p> <p>④不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター「あつら」の相談・支援体制の充実及び機能強化を図ります。</p> |
| 3. 家庭・地域の教育力の向上 | <p>①各学園(中学校区)の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。</p> <p>②家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担う場ととらえ、PTA等と連携しながら、乳幼児期から思春期(中学生)までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。</p> <p>③子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、家庭子ども相談室による相談や関係機関の連携による支援を実施します。また、家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。</p> <p>④子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動の充実を図る。</p> <p>⑤子どもたちの放課後の居場所づくりのため、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行うとともに、地域における子どもたちの活動拠点を確保するための事業の拡充を進めます。</p> <p>⑥保護者の就労状況の多様化や家庭環境の変化に伴い、放課後における児童の健全育成を図るため実施している放課後児童健全育成事業の利用が増加しています。利用ニーズを的確に把握するとともに、サービス体制や施設環境の整備を推進し、待機児童ゼロを継続します。</p> <p>また、青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。</p> |
| 4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成 | <p>①子どもが生涯にわたって自然や歴史、仲間、多様な人々と関わり合う体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。</p> <p>②学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。</p> |

【参考】施策に関連するその他の計画

| 計画名称 | 計画概要 | 策定年月 | 計画期間 | 備考 |
|----------------|--|---------|--------------|----------------------------|
| 第2次京丹後市総合計画 | 市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」 | 平成27年3月 | 平成27年度～令和6年度 | |
| 京丹後市いじめ防止等基本方針 | 国、府、学校、地域社会、家庭及びその他の関係者が連携のもと、社会総がかりでいじめの問題の克服に向けて取り組むとともに、いじめ防止対策推進法第12条の規定に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定 | 平成26年6月 | 計画期間の定めなし | 策定から3年経過を目途に見直し(平成30年度見直し) |

| 計画名称 | 計画概要 | 策定年月 | 計画期間 | 備考 |
|--------------|--|----------|-----------|----|
| 京丹後市学校教育改革構想 | 中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定 | 平成24年11月 | 計画期間の定めなし | |

| 2. 主な取組と構成事務事業一覧 | | PLAN | DO | ※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照 | CHECK | ACT |
|----------------------|--|------------|--------|----------------------------|---------------|--------|
| 1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① | 小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。 | | | | | |
| ② | 生命を大切にする心や他人を尊重する心などを育むとともに、新たに教科となった道徳科をはじめ、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。 | | | | | |
| ③ | 地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。 | | | | | |
| ④ | 各学園(中学校区)において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取組を協働して進めます。 | | | | | |
| ⑤ | 情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や保護者、学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。 | | | | | |
| 1 | 小学校教育推進活動実践事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。 | | 3,527 | 1,232 | - | 統合(整理) |
| 2 | 小学校丹後学等教育活動実践事業《再掲》 | 学校教育課 | | | | |
| | 授業改善や教員の指導力向上を図るため、府の研究指定校を受けて教育実践に取り組むとともに、地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。また、教育課題の解決に向けた教職員の研究事業に取り組むとともに、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。 | | - | - | 1,895 | 統合(整理) |
| 3 | 中学校教育推進活動実践事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。 | | 3,161 | 4,077 | - | 統合(整理) |
| 4 | 中学校丹後学等教育活動実践事業《再掲》 | 学校教育課 | | | | |
| | 教員の指導力向上や、生徒の自己肯定感を高め未来を拓く力を身につけるため、府の研究指定校を受けて教育実践に取り組むとともに、地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・あり方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。また、教育課題の解決に向けた教職員の研究事業に取り組むとともに、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。 | | - | - | 1,189 | 統合(整理) |
| 2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① | 子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や、内面理解の充実を図ります。 | | | | | |
| ② | 学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。 | | | | | |
| ③ | 京丹後市いじめ防止等基本方針に基づき、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進します。 | | | | | |
| ④ | 不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター「麦わら」の相談・支援体制の充実及び機能強化を図ります。 | | | | | |
| 5 | いじめ防止啓発推進事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づきいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。 | | 116 | 1,523 | 1,774 | 現状維持 |
| 6 | いじめ防止対策等運営事業 | 学校教育課 | | | | |
| | いじめ問題対策連絡会議及びいじめ防止対策等専門委員会を設置し、関係機関が一体となって、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。 | | 253 | 249 | 392 | 現状維持 |
| 7 | 指導主事設置事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 学校教育及び就学前教育の充実を図るため、指導主事(会計年度任用職員)4人を配置し、専門的事項に関する指示・指導を行う。 | | 11,941 | 12,626 | 12,712 | 現状維持 |
| 8 | 就学支援・教育相談事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 児童生徒の不登校など学校不適応の状況を、発達検査などにより把握・分析し、相談・支援体制を整え、児童生徒が安定した学校生活を送ることができるように支援する。 | | 222 | 309 | 801 | 現状維持 |
| 9 | 教育支援センター管理運営事業 | 学校教育課 | | | | |
| | 不登校、又はその傾向にある児童生徒の学校生活への復帰等の社会的自立を支援する。 | | 10,275 | 10,209 | 11,549 | 現状維持 |
| 10 | 小学校スクールサポーター等設置事業《再掲》 | 学校教育課 | | | | |
| | スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。 | | 53,166 | 60,282 | 83,252 | 現状維持 |
| 11 | 中学校スクールサポーター等設置事業《再掲》 | 学校教育課 | | | | |
| | スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。 | | 39,572 | 38,027 | 50,196 | 現状維持 |

| 3. 家庭・地域の教育力の向上 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|---|---|------------|---------|---------|---------------|---------------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① | 各学園(中学校区)の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。 | | | | | |
| ② | 家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切に育むための役割を担う場ととらえ、PTA等と連携しながら、乳幼児期から思春期(中学生)までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。 | | | | | |
| ③ | 子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、家庭子ども相談室による相談や関係機関の連携による支援を実施します。また、家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。 | | | | | |
| ④ | 子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動の充実を図る。 | | | | | |
| ⑤ | 子どもたちの放課後の居場所づくりのため、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行うとともに、地域における子どもたちの活動拠点を確保するための事業の拡充を進めます。 | | | | | |
| ⑥ | 保護者の就労状況の多様化や家庭環境の変化に伴い、放課後における児童の健全育成を図るため実施している放課後児童健全育成事業の利用が増加しています。利用ニーズを的確に把握するとともに、サービス体制や施設環境の整備を推進し、待機児童ゼロを継続します。また、青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。 | | | | | |
| 12 | 家庭子ども相談室事業 | 子ども未来課 | 147 | 210 | 498 | 現状維持 |
| 家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。 | | | | | | |
| 13 | 家庭教育事業 | 生涯学習課 | 810 | 1,026 | 1,721 | 現状維持 |
| 発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。 | | | | | | |
| 14 | 放課後児童健全育成事業 | 子ども未来課 | 283,042 | 219,211 | 248,340 | 現状維持 |
| 保護者の就労等により放課後や長期休業期の昼間に家庭保育を受けることができない児童に対し、安全で充実した生活の場を与えることにより、その健全な育成を図る。 | | | | | | |
| 15 | 放課後児童健全育成事業【緑越】 | 子ども未来課 | 2,505 | - | - | |
| (仮称)大宮峰山インターチェンジアクセス道路の整備に伴い、計画区域にある峰山放課後児童クラブ園舎及び付属施設を解体撤去する。 | | | | | | |
| 16 | 放課後子ども教室事業 | 子ども未来課 | 507 | 433 | 780 | 現状維持 |
| 放課後に小学校の余裕教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 | | | | | | |
| 4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① | 子どもが生涯にわたって自然や歴史、仲間、多様な人々と関わり合う体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。 | | | | | |
| ② | 学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。 | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 |
| 17 | 子ども未来まちづくり審議会事業 | 子ども未来課 | 46 | 119 | 139 | 現状維持 |
| すべての子どもが健康で幸せに暮らせるまちづくりの推進及び子ども・子育て支援事業計画、保育所再編等推進計画、特定教育・保育施設の利用定員の設定等について必要な審議等を行う。 | | | | | | |
| | 計 | | 409,244 | 349,414 | 413,910 | |

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

| 基本的方針 | 学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切に育む豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。 | | | | |
|--------|--|----|----------------|---------------|-------------|
| | 目標指標 | 単位 | 計画作成時 年度 | 実績値(現状) 年度 | 目標値 年度 |
| 主な目標指標 | 不登校児童の出現率<小学校> | — | 5人/0.16% H25 | 20人 /0.98% | R3 減少させる R6 |
| | 不登校生徒の出現率<中学校> | — | 47人/2.49% H25 | 46人/3.47% | R3 減少させる R6 |
| | いじめの認知件数/認知率<小学校> | — | 386件/12.7% H25 | 649件 27.6% | R3 減少させる R6 |
| | いじめの認知件数/認知率<中学校> | — | 189件/10.2% H25 | 54件 4.1% | R3 減少させる R6 |

| 目標指標 | 単位 | 計画作成時 | | 実績値(現状) | | 目標値 | |
|-------------------------------|----|---------------------------------|-----|--|----|-------|----|
| | | | 年度 | | 年度 | | 年度 |
| 認知されたいじめの年度内解消率<小学校> | — | 357件/92.5% | H25 | 92.4% (いじめの解消要件が定義されたため、令和3年度第2回調査の追跡調査結果を記載) | R3 | 100% | R6 |
| 認知されたいじめの年度内解消率<中学校> | — | 181件/95.8% | H25 | 90.0% (いじめの解消要件が定義されたため、令和3年度第2回調査の追跡調査結果を記載) | R3 | 100% | R6 |
| いじめはいけないことだという意識がある児童の割合<小学生> | % | 97.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6 | H25 | 98.8 | R3 | 増加させる | R6 |
| いじめはいけないことだという意識がある生徒の割合<中学校> | % | 90.9 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3 | H25 | 94.6 | R3 | 増加させる | R6 |
| 学校のきまりや規則を守る意識がある児童の割合<小学生> | % | 93.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6 | H25 | 90.0 | R3 | 増加させる | R6 |
| 学校のきまりや規則を守る意識がある生徒の割合<中学校> | % | 90.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3 | H25 | 95.0 | R3 | 増加させる | R6 |
| 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童の割合<小学生> | % | 94.4 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6 | H25 | 94.0 | R3 | 増加させる | R6 |
| 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合<中学生> | % | 95.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3 | H25 | 97.0 | R3 | 増加させる | R6 |
| 人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合<小学生> | % | 94.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6 | H25 | 95.7 | R3 | 増加させる | R6 |
| 人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合<中学生> | % | 93.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3 | H25 | 97.1 | R3 | 増加させる | R6 |
| 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合<小学生> | % | — | R1 | 68.2 | R3 | 増加させる | R6 |
| 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合<中学生> | % | — | R1 | 71.7 | R3 | 増加させる | R6 |
| 住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合<小学生> | % | — | R1 | 80.2 | R3 | 維持する | R6 |

主な目標指標

| | 目標指標 | 単位 | 計画作成時 | | 実績値(現状) | | 目標値 | |
|--------|-------------------------------|----|-------|----|---------|----|------|----|
| | | | 年度 | | 年度 | | 年度 | |
| 主な目標指標 | 住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合<中学生> | % | - | R1 | 76.2 | R3 | 維持する | R6 |
| | 放課後児童クラブ待機児童数ゼロの継続 | 人 | - | R1 | 0 | R3 | 0 | R6 |

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK **ACT**

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------------|----|--|
| ◎ 予定以上に進んでいる | ○ | <p>《不登校児童生徒の出現率》 不登校児童生徒の出現率は、全国的に増加しており、本市においても小学校で0.4%増加した。中学校は全国的に増加の傾向がある中、0.24%減少している。別室指導等の物的な居場所づくりやSC、SSWをはじめとした教職員とのつながり、すなわち心理的な居場所づくりの成果であるとも考えられる。また、保幼小中一貫教育の推進による各校園での未然防止を重点とした取組みや確実な情報の共有等によって、不登校解消に一定の成果は上がっている。しかし、解消より新規の出現が多いことから不登校の出現率が増加傾向にある。今後も未然防止の取組み推進が更に必要である。</p> <p>《いじめの認知件数/認知率》 令和3年度は、いじめの認知件数・認知率とも小中学校で令和2年度と比較して少し増加した。令和2年度は、コロナ禍の中で通常の学校生活とは異なる環境下での調査であったことが原因として予測できる。引き続き、些細な兆候も見逃さない組織的な対応を行うとともに、認知件数・認知率のみにとらわれず、より丁寧な指導を継続していく必要がある。</p> <p>《認知されたいじめの年度内解消率》 令和3年度第2回いじめ調査の認知事象に基づく追跡調査結果における未解消事象については、今後も、各校のいじめ防止基本方針に基づき、実態把握や情報共有、組織的な対応を徹底し丁寧な指導を行うとともに、関係機関と連携した体制強化を図っていく必要がある。</p> <p>《いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合》 いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合は、年間3回のいじめ調査や追跡調査、児童生徒への丁寧な指導により、小学校で増加しているが、中学校で減少した。小中学校ともに高い水準を維持しているが、今後も児童生徒の豊かな心を育成するため、道徳科をはじめ、学校の教育活動全体を通じた取組みの充実を図る必要がある。</p> <p>《学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合》 学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合は、中学校が減少傾向にある。引き続き各校園の丁寧な指導及び保幼小中一貫教育による一貫性のある指導等により、就学前からの規範意識の醸成等による系統的な指導を進めていく必要がある。</p> <p>《人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合》 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合は、中学校が減少傾向にあるが、小中学生ともに高い水準で推移している。教育活動全体を通じた丁寧な指導により、人の気持ちを理解して行動したり、発言したりすることの重要性が確実に身に付いてきている。今後も個別の配慮児童生徒等への丁寧な指導が必要である。</p> <p>《人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合》 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小中学校ともにほぼ横ばいであり、高い水準で推移している。教育活動全体を通じた丁寧な指導により、社会貢献等への意識が確実に身に付いてきている。今後更に高めていくため、ボランティア活動など体験学習等の充実を図る必要がある。</p> <p>《自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合》 平成30年度の結果と比較すると、特に、小学校での結果が低い。「将来の夢や目標をもっている」項目と関わりが強い。日々の関わりの中で、児童生徒のよさを見つけ、ほめていることが児童生徒に伝わるようにほめるなど、意図的な働きかけにより、自尊感情や自己肯定感の基盤を育みたい。「生徒指導の3機能」を生かした授業づくりと学級経営、教育活動をさらに推進していく必要がある。</p> <p>《住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合》 平成30年度の結果と比較すると、結果が低い傾向にある。さらに、令和2年度の結果と比較しても、減少の割合が高い。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域における行事が中止となっていることが要因だと考えられるが、「丹後学」を通して、地域への理解と愛着を深めていく必要がある。</p> <p>《放課後児童クラブ待機児童数ゼロの継続》 社会環境の変化に伴い放課後、家庭で適切な保育が受けられない家庭が増加していることもあり利用者が増加傾向にある。既存の施設や学校の空き教室を活用しているため、十分な保育室の確保ができないところもあるが、支援員の確保と併せ、受け入れ態勢の整備に努めていきたい。</p> |
| ○ 予定どおり進んでいる | | |
| ▲ 少し遅れている | | |
| × 大幅に遅れている | | |
| | | |

5. 今後の施策展開の考え方(令和4年～令和6年度での主な取組)

ACT

| 区分 | No. | 具体的内容 |
|----------|-----|---|
| 施策展開の考え方 | 1 | 子どもたちの自尊感情を高め、豊かな人間性・社会性を育むため、保幼小中一貫教育による交流学習や児童会・生徒会活動などの集団活動を充実させるとともに、道徳科をはじめキャリア教育等学校の教育活動全体を通じた系統的で一貫性のある指導の更なる充実を図る。 |
| | 2 | いじめや不登校など、児童生徒の多様な課題に対応するため、臨床心理士による教育相談体制を拡充するとともに、教育支援センターの相談支援機能を更に高めるなど、個の課題やニーズに応じたきめ細かな相談支援体制の整備・強化を図る。 |
| | 3 | 地域の子ども教室では、体験活動だけでなく、教室間での情報交流についても支援しながら教室活動の維持、拡充に努める。青少年健全育成会では、各地域ごとに子どもの体験活動を実施するほか、あいさつ運動や夏休みパトロールなどで地域の子どもの見守り活動を継続する。また平成28年度からスタートした「放課後子ども教室」事業は、安定的運営を目指す。 |
| | 4 | 子どもたちの芸術や自然を愛する心豊かな感性を育むため、教育活動等における文化体験や芸術鑑賞など、国や府の様々な事業や学校支援ボランティア等を活用し、伝統文化や芸術等に親しむ機会を充実させるとともに、学校図書の充足率向上を図る。 |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
|-------------|---|-------------|---|-------|---------------------------------|-----------|---|----------|-------|
| | 項 | 02 小学校費 | | | | 78.2% | | 課 | 学校教育課 |
| | 目 | 02 小学校教育振興費 | | | | (参考)当初予算額 | | | |
| 事業 | 05 小学校教育推進活動実践事業 | 1,232千円 | 1,574千円 | 342千円 | 1,853千円 | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 府補 | KYO発見仕事・文化体験活動推進事業補助金(1/2) | 166千円 | | | |
| 目的 | 府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。 | | | 府委 | 次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業費委託金(10/10) | 100千円 | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○校外学習や仕事・文化体験活動、総合的な学習活動(講師謝金、消耗品費等) 833千円 ・「KYO発見 仕事・文化体験事業」推進事業(府補助事業) 336千円 ・総合的な学習活動推進事業(市単独事業:全校で実施) 497千円 ○次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業(消耗品費) 100千円 実施校:いさな小学校・しんざん小学校 実施年度:令和2年度~4年度(3か年) ○教育研究事業負担金 146千円 京丹後市小学校教育研究会 小学校教育に関する研究を推進し、小学校教育の充実・発展と教職員の資質の向上を図るため、各教科の研究、研修会等を実施。 | | ○修学旅行引率補助金 153千円 小学校17校 引率教員65人 | | | | | | |
| | | | 成果・課題 ○地域社会における仕事や文化の体験活動を通して、キャリア教育を推進するとともに、府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むことで、児童の基礎学力の向上を図り、豊かな人間性を育む教育のより一層の推進につながった。 ○児童の基礎学力の向上や豊かな人間性を育てる教育を継続していくため、教職員の資質の向上や創意工夫による実践活動が必要である。 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
|-------------|---|-------------|---|-------|---|-----------|---|----------|-------|
| | 項 | 03 中学校費 | | | | 90.8% | | 課 | 学校教育課 |
| | 目 | 02 中学校教育振興費 | | | | (参考)当初予算額 | | | |
| 事業 | 05 中学校教育推進活動実践事業 | 4,077千円 | 4,487千円 | 410千円 | 1,380千円 | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 国補 | 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 | 1,000千円 | | | |
| 目的 | 府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。 | | | 府補 | KYO発見仕事・文化体験活動推進事業補助金(1/2) | 121千円 | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○校外学習や仕事・文化体験活動、総合的な学習活動(消耗品費等) 376千円 ・「KYO発見 仕事・文化体験事業」推進事業(府補助事業:全校で実施) 247千円 ・総合的な学習活動推進事業(市単独事業:全校で実施) 129千円 ○和装教育推進事業(消耗品費) 18千円 ・覆付け体験学習(全中学校) 受講生徒:452人 ○教育実践研究指定事業(講師謝金、消耗品費) 250千円 ・未来の担い手育成プログラム研究校 200千円 実施校:弥栄中学校 実施年度:令和元年度~3年度(3か年) ・次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業 50千円 実施校:峰山中学校 実施年度:令和2年度~4年度(3か年) | | ○教育研究事業負担金 83千円 京丹後市中学校教育研究会 中学校教育に関する研究を推進し、教職員の資質の向上と中学校教育の推進を図るため、各教科の研究、研究集録・指導案の作成を実施。 | | ○修学旅行引率補助金 95千円 中学校6校 引率教員50人 ○修学旅行キャンセル料補助金 3,255千円 新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた中学校2校の修学旅行を延期したことに伴う旅行代金のキャンセル料を補助(旅行代金の30%) ・大宮中学校(生徒94人・教員10人)・久美浜中学校(生徒70人・教員7人) | | | | |
| | | | 成果・課題 ○府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むことで、生徒の基礎学力の向上を図り、コミュニケーション能力など、豊かな人間性を育む教育の推進につながった。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で予定をしていた修学旅行をやむを得ず延期したことにより発生したキャンセル料について市の補助金で支援することで、保護者等の経済的な負担を軽減することができた。 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|--|-----------------|---|---------|-------|-------|-----------|---|-------|--|---|----------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 1,523千円 | 1,681千円 | 158千円 | 90.6% | (参考)当初予算額 | | | | | |
| 目 | 02 事務局費 | 1,681千円 | | | | | | 課 | 学校教育課 | | | |
| 事業 | 16 いじめ防止啓発推進事業 | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | | | | |
| 目的 | 「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づくいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。 | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○いじめ防止講演会（講師謝金、消耗品費） 参加者：56人 39千円 開催日：令和3年12月8日（水） 対象：市民、教職員、PTA 講師：聖母の小さな学校 梅澤 良子 先生 会場：アグリセンター大宮 | | ○京丹後市こどもSNS（LINE）相談窓口設置 1,430千円 ・システム導入委託料 264千円 ・研修業務委託料（SNS相談の手順と留意点） 165千円 ・システム保守委託料 385千円 ・システム使用料 616千円 相談開始日：令和3年8月25日 相談日時：平日16時～21時 相談対象：市内に居住する小中学生 対応者：教育委員会事務局指導主事、臨床心理士 登録数：66人 相談延べ件数：23件 ※いじめ相談件数：2件 | | | | | | | | | |
| | ○いじめ防止街頭啓発 京丹後市こどもSNS相談やフリーダイヤルが掲載されているポケットティッシュを配布 実施日：令和3年11月18日（木） 場所：ショッピングセンターマイン | | ○いじめ相談専用電話設置（備品購入費、通信運搬費） 54千円 フリーダイヤル利用料、いじめ相談専用携帯電話利用料 スマートフォン購入費、機種交換手数料 相談受付：24時間対応 対応者：教育委員会事務局指導主事、臨床心理士 ※いじめ相談件数：0件 | | | | | | | | | |
| | | | 成果・課題 ○いじめ防止講演会及び街頭啓発キャンペーンを通じて、いじめの問題等について、正しい理解や意識の高揚を促すことができた。 OSNS窓口の設置により相談への敷居が下がり、いじめを含め幅広い相談を受けることができた。 OSNS等を介した誹謗中傷やいじめ事象が増加傾向にあることから、保護者への啓発活動と併せて教職員の指導力の向上を図る必要がある。 OSNS相談窓口の周知など、引き続き、相談しやすい環境づくりに努める必要がある。 | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|---|-----------------|--|-------|-------|-------|-----------|---|-------|--|---|----------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 249千円 | 374千円 | 125千円 | 66.5% | (参考)当初予算額 | | | | | |
| 目 | 02 事務局費 | 374千円 | | | | | | 課 | 学校教育課 | | | |
| 事業 | 17 いじめ防止対策等運営事業 | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | | | | | | | | | |
| 目的 | いじめ問題対策連絡会議及びいじめ防止対策等専門委員会を設置し、関係機関が一体となって、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。 | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○いじめ問題対策連絡会議経費（委員数：21人） 17千円 保育所、こども園及び小中学校におけるいじめの防止対策や早期発見、いじめへの対処等に関する協議を行うため、「いじめ問題対策連絡会議」を設置し、教育、福祉、医療、保健、警察及び司法等の関係機関との連携を図った。 開催日：令和3年7月6日（火） 会場：京丹後市役所峰山庁舎 ・報償費（委員謝金） 16千円 ・旅費（費用弁償） 1千円 | | ○いじめ防止対策等専門委員会経費（委員数：5人） 232千円 いじめの防止等のための対策に関する事項や重大ないじめ事象が発生した場合に調査を行うため、弁護士、医師、臨床心理士、学識経験者からなる「いじめ防止対策等専門委員会」を設置し、会議を開催するなど、それぞれの専門的な立場からいじめ事象に対する助言を受けた。 開催日：第1回 令和3年10月30日（土） 第2回 令和4年3月12日（土） 会場：京丹後市役所大宮庁舎 ・報酬 126千円 ・旅費（普通旅費・費用弁償） 98千円 ・消耗品費 8千円 | | | | | | | | | |
| | | | 成果・課題 ○専門的な立場から指導・助言を受けることにより、学校に対していじめ防止等のための取組やいじめ事象の解決に向けた支援を行うことができた。 ○いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こり得ることを踏まえ、いじめの未然防止及び早期発見に向けた取組を推進する必要がある。 ○いじめの解決に向けた組織連携や見立ての在り方について、事例研修を行う中で各小中学校の対応力をさらに高める必要がある。 | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|-------------|---|----------|---|-----------|---|----------|-----|------|------|---------|----|-----|------------------|----|----------|---------|----|-----|-----------------|----|---------|
| | 項 | 01 教育総務費 | 12,626千円 | 12,909千円 | 283千円 | 97.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 03 指導主事設置事業 | | | | 12,909千円 | 課 | 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 学校教育及び就学前教育の充実を図るため、指導主事（会計年度任用職員）4人を配置し、専門的事項に関する指示・指導を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>4人の地域担当の指導主事を各地域公民館に配置し、学校経営や教育内容について、その専門性や見識や経験を活かした指導、助言を行い、学校現場における課題解消に向けて対応した。</p> <p>【指導主事 4人】</p> <p>○会計年度任用職員任用経費 12,400千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬 8,658千円 ・期末手当 1,636千円 ・共済費（社会保険料、雇用保険料） 1,709千円 ・費用弁償 397千円 <p>○市内業務移動に係る費用弁償 226千円</p> | | 【指導主事配置状況】 | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>配置先</th> <th>配置人数</th> <th>所管町域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山地域公民館</td> <td>1人</td> <td>峰山町</td> </tr> <tr> <td>大宮地域公民館・久美浜地域公民館</td> <td>1人</td> <td>大宮町、久美浜町</td> </tr> <tr> <td>網野地域公民館</td> <td>1人</td> <td>網野町</td> </tr> <tr> <td>丹後地域公民館・弥栄地域公民館</td> <td>1人</td> <td>丹後町、弥栄町</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 配置先 | 配置人数 | 所管町域 | 峰山地域公民館 | 1人 | 峰山町 | 大宮地域公民館・久美浜地域公民館 | 1人 | 大宮町、久美浜町 | 網野地域公民館 | 1人 | 網野町 | 丹後地域公民館・弥栄地域公民館 | 1人 | 丹後町、弥栄町 |
| | 配置先 | 配置人数 | 所管町域 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山地域公民館 | 1人 | 峰山町 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮地域公民館・久美浜地域公民館 | 1人 | 大宮町、久美浜町 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野地域公民館 | 1人 | 網野町 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後地域公民館・弥栄地域公民館 | 1人 | 丹後町、弥栄町 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | | | <p>学校経営、教育内容に対する専門知識や豊かな経験を基にした指導や助言を行うことにより、不登校を含めた生徒指導上の諸問題への対応など、複雑多様化する教育現場の諸課題の克服に資することができた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------|---------------------------|-------|---|-----------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 01 教育総務費 | 309千円 | 321千円 | 12千円 | 96.2% | | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| | 事業 | 08 就学支援・教育相談事業 | | | | 321千円 | 課 | 学校教育課 |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | | | | | |
| 目的 | 児童生徒の不登校など学校不応の状況を、発達検査などにより把握・分析し、相談・支援体制を整え、児童生徒が安定した学校生活を送ることができるように支援する。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>○教育相談事業及び研修の実施</p> <p>各小中学校において臨床心理士による児童生徒や保護者との教育相談を実施し、当該児童生徒の通う学校の教職員へのアドバイスを行った。また、児童生徒の不登校などの学校不応の未然防止や解消に向けての対応の在り方について、各小中学校の教育相談担当者や心の教室相談員などを対象に研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談会場 大宮庁舎及び各小中学校 ・実施回数 毎月2回（大宮庁舎）及び適宜（各小中学校） 合計183回実施 ・相談件数 延べ252件 ・教育相談担当者研修 年3回 ・事例研修 教育支援部会などにて適宜実施（各小中学校） | | ○教育支援に係る発達検査備品購入費 92千円 | | <ul style="list-style-type: none"> ・新版K式発達検査2020補充追加セット | | | |
| | <p>○会議出張旅費 5千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料道路通行料 | | ○教育支援に係る発達検査記録用紙購入費 212千円 | | <p>○臨床心理士による発達検査の実施、教育相談、教職員研修を実施することにより、適切な就学や支援へとつながり、児童生徒の学校適応が推進された。</p> <p>○中学校の不登校出現率の減少が見られる一方、小学校の不登校出現率が増加しているため、その要因分析を進めるとともに、不応の未然防止、問題解消に向けて相談支援を行う必要がある。</p> <p>○コロナ禍で学校の活動に制限がある中、児童生徒の些細な変化やサインを見逃さないように、見守りと信頼関係の構築を行う必要がある。</p> | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|----------|---|----------------------|--|-----------|--------|-------------------|
| 予 算 科 目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 課 | 教育委員会事務局 学校教育課 |
| | 項 | 01 教育総務費 | 10,209千円 | 11,420千円 | 1,211千円 | 89.3% | | |
| | 目 | 02 事務局費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| 事業 | 09 教育支援センター管理運営事業 | | | | | 11,420千円 | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 府補 | 不登校児童生徒に対する支援推進事業費補助金(1/3) | | 530千円 | |
| 目的 | 不登校、又はその傾向にある児童生徒の学校生活への復帰等の社会的自立を支援する。 | | | 府補 | 不登校児童生徒支援拠点整備事業費補助金(1/2) | | 17千円 | |
| | | | 繰入金 | ふるさと応援基金繰入金 | | 5,000千円 | | |
| 主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要 | 不登校等にある児童生徒及び当該児童生徒の保護者に対し、教育相談及び適応指導を通じ、学校生活への復帰等の社会的自立を支援するため、京丹後市教育支援センター「まわら」の指導員が各小中学校や関係機関と連携しながら支援を行った。 | | | 〇需用費(消耗品費 ほか) | | 148千円 | | |
| | <教育支援センター運営経費> | | | 〇役務費(通信運搬費 ほか) | | 102千円 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・配置人数 5人 教育支援センター指導員(会計年度任用職員) ・配置体制 3人(各指導員 週3日 1日7時間) ・通所児童生徒数 17人(小学生4人、中学生13人) ・相談延べ件数 828件 ・来所延べ人数 1,239人 ・延べ訪問回数 77回 | | | 〇使用料及び賃借料(コピー機借り上げ料) | | 136千円 | | |
| | 〇会計年度任用職員任用経費(5人分) | | 9,823千円 | 成果・課題 | 〇教員経験の豊富な指導員による児童生徒等への学習及び生活の支援や、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーのカウンセリングなどにより、個々のケースに応じた支援を行い、学校復帰や進路実現等の社会的自立を図ることができた。 | | | |
| | ・報酬 | 6,846千円 | 〇市内の小中学校の不登校児童が増加していることから、府配置のスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー等とも連携し、支援センターの中核機能を果たす上で個々の状況をアセスメントするとともにアウトリーチ型の訪問等を各校へ行うなど、支援を確実かつ的確に行う必要がある。 | | | | | |
| | ・会計年度任用職員期末手当 | 1,260千円 | | | | | | |
| | ・共済費(社会保険料、労災保険料、雇用保険料) | 1,353千円 | | | | | | |
| | ・費用弁償 | 364千円 | | | | | | |

| 予 算 科 目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 課 | 教育委員会事務局 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------------|----------|----------|--|---|----------|-------------------|-----|----|-----|----|----|----|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------|----|-----|----|------|----|------|----|------|----|-----|----|------|----|--|--|-----|----|---|
| | 項 | 02 小学校費 | 60,282千円 | 60,928千円 | 646千円 | 98.9% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 小学校教育振興費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 04 小学校ｽｸｰﾙｽﾎｰﾀｰ等設置事業 | | | | | 72,396千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 | 府補 | きょうと地域連携交付金(ｽｸｰﾙｽﾎｰﾀｰ等設置事業) | | 19,040千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要 | 〇介護職員 27人(1日7時間、週5日勤務) | | | 配置一覧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 〇講師 1人(1日7時間、週5日勤務) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 〇スクールサポーター28人(会計年度任用職員)任用経費 | | | 60,275千円 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>介護</th> <th>学校名</th> <th>介護</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山小</td> <td>5人</td> <td>橋小</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>しんざん小※</td> <td>2人</td> <td>丹後小</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>長岡小</td> <td>1人</td> <td>吉野小</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>大宮第一小</td> <td>4人</td> <td>弥栄小</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>大宮南小</td> <td>2人</td> <td>久美浜小</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>網野北小</td> <td>2人</td> <td>高龍小</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>網野南小</td> <td>3人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>島津小</td> <td>1人</td> <td>計</td> <td>28人</td> </tr> </tbody> </table> | | 学校名 | 介護 | 学校名 | 介護 | 峰山小 | 5人 | 橋小 | 1人 | しんざん小※ | 2人 | 丹後小 | 1人 | 長岡小 | 1人 | 吉野小 | 1人 | 大宮第一小 | 4人 | 弥栄小 | 2人 | 大宮南小 | 2人 | 久美浜小 | 2人 | 網野北小 | 2人 | 高龍小 | 1人 | 網野南小 | 3人 | | | 島津小 | 1人 | 計 |
| 学校名 | 介護 | 学校名 | 介護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山小 | 5人 | 橋小 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| しんざん小※ | 2人 | 丹後小 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長岡小 | 1人 | 吉野小 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮第一小 | 4人 | 弥栄小 | 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮南小 | 2人 | 久美浜小 | 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野北小 | 2人 | 高龍小 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野南小 | 3人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 島津小 | 1人 | 計 | 28人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・報酬 | 40,900千円 | ※講師1人含む | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・期末手当 | 8,419千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・共済費(社会保険料、労災保険料、雇用保険料) | 8,754千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・費用弁償 | 2,202千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 〇事務費(校外学習引率に伴う旅費、入場料、参加負担金等) | | 7千円 | 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 〇必要に応じてスクールサポーターを配置することで、円滑な授業や効率的な学校運営を行うことができた。 | | | | | 〇児童一人ひとりの課題・特性を把握するとともに、必要とする学校を的確に見極め、効果的なスクールサポーターの配置に努めていく必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 38,027千円 | 最終予算額 45,691千円 | 不用額 7,664千円 | 執行率 83.2% | 部 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------|--------------------|--|----------------|---|---------------|--|-----|----|------------------|-----|------------|-----------|-------|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|---|----|----|----|-----|
| | 項 | 03 中学校費 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 中学校教養振興費 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 04 中学校ｽｸｰﾙｽﾎｰﾀｰ等設置事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 26 未来を拓く学校教育の充実 | | 主な財源 府補 府補 | 部活動指導員配置促進事業補助金(2/3) 1,754千円 | | きょうと地域連携交付金(ｽｸｰﾙｽﾎｰﾀｰ等設置事業) 10,991千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○介護職員 3人 (1日7時間、週5日勤務) ○講師(小中一貫コーディネーター) 6人 (1日7時間45分、週4日勤務) ○心の教室相談員 3人 (1日7時間、週5日勤務) ○部活動指導員 11人 (1日1時間、年間250時間勤務) ○事務補助員 1人 (1日6時間、週5日勤務) | | | 配置一覧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○スクールサポーター24人(会計年度任用職員)任用経費 37,812千円 ・報酬 26,808千円 ・期末手当 4,804千円 ・共済費(社会保険料、労災保険料、雇用保険料) 4,797千円 ・費用弁償 1,403千円 ○事務費(市内移動に伴う旅費) 215千円 | | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>介護</th> <th>小中一貫 コーディネーター</th> <th>相談員</th> <th>部活動 指導員</th> <th>事務 補助員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山中学校</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td rowspan="6">3人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>大宮中学校</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>網野中学校</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>丹後中学校</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>弥栄中学校</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>久美浜中学校</td> <td>0人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> <td>6人</td> <td>3人</td> <td>11人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 学校名 | 介護 | 小中一貫 コーディネーター | 相談員 | 部活動 指導員 | 事務 補助員 | 峰山中学校 | 1人 | 1人 | 3人 | 2人 | 0人 | 大宮中学校 | 0人 | 1人 | 2人 | 0人 | 網野中学校 | 1人 | 1人 | 2人 | 0人 | 丹後中学校 | 0人 | 1人 | 1人 | 0人 | 弥栄中学校 | 1人 | 1人 | 2人 | 0人 | 久美浜中学校 | 0人 | 1人 | 2人 | 1人 | 計 | 3人 | 6人 | 3人 | 11人 |
| 学校名 | 介護 | 小中一貫 コーディネーター | 相談員 | 部活動 指導員 | 事務 補助員 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山中学校 | 1人 | 1人 | 3人 | 2人 | 0人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮中学校 | 0人 | 1人 | | 2人 | 0人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野中学校 | 1人 | 1人 | | 2人 | 0人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後中学校 | 0人 | 1人 | | 1人 | 0人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄中学校 | 1人 | 1人 | | 2人 | 0人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久美浜中学校 | 0人 | 1人 | | 2人 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 3人 | 6人 | 3人 | 11人 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | ○必要に応じてスクールサポーターを配置することで、円滑な授業や効率的な学校運営を行うことができた。 ○心の教室相談員を配置し、生徒が悩みを話せる環境を整えることで、生徒の不安を和らげることができた。また、部活動指導員を配置することで、部活動の質の向上と部活動担当教諭の負担軽減を図ることができた。 ○生徒一人ひとりの課題・特性を把握するとともに、必要とする学校を的確に見極め、効果的なスクールサポーターの配置に努めていく必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 210千円 | 最終予算額 272千円 | 不用額 62千円 | 執行率 77.2% | 部 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|---------------|-----------------|---|-------------|--------------|---------------|--|----|----|----|----|----|----|----|------|-----|----|------|---|-----|-----|-----|---|----|------|---|---|--------|---|----|------|---|---|-----|
| | 項 | 02 児童福祉費 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 01 児童福祉総務費 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 02 家庭こども相談室事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 要保護児童対策地域協議会構成機関等と連携の下、児童虐待の未然防止、早期発見と適切な対応を行うとともに、支援が必要な児童や家庭(育児不安・養育力危機・不登校等)について相談援助活動・家庭訪問・同行支援等を行った。 ○旅費 調整担当者研修会等旅費 84千円 ○使用料 有料道路通行料 4千円 ○備用費 啓発物品・事務用品等 27千円 ○役務費 職員対応用携帯電話通話料(3台) 85千円 ○負担金 京都府家庭相談員連絡協議会負担金 10千円 | | | ○京丹后市児童相談等取扱件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>詳細</th> <th>件数</th> <th>種別</th> <th>詳細</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">養護</td> <td>児童虐待</td> <td>334</td> <td rowspan="2">育成</td> <td>性格行動</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>113</td> <td>不登校</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>鎌害</td> <td>発達障害</td> <td>0</td> <td rowspan="2">計</td> <td>適性・育児等</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>非行</td> <td><犯行等</td> <td>0</td> <td>計</td> <td>453</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 種別 | 詳細 | 件数 | 種別 | 詳細 | 件数 | 養護 | 児童虐待 | 334 | 育成 | 性格行動 | 0 | その他 | 113 | 不登校 | 3 | 鎌害 | 発達障害 | 0 | 計 | 適性・育児等 | 3 | 非行 | <犯行等 | 0 | 計 | 453 |
| | 種別 | 詳細 | 件数 | 種別 | 詳細 | 件数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 養護 | 児童虐待 | 334 | 育成 | 性格行動 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | その他 | 113 | | 不登校 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鎌害 | 発達障害 | 0 | 計 | 適性・育児等 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 非行 | <犯行等 | 0 | | 計 | 453 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | ○要保護児童対策地域協議会運営状況 ・代表者・実務者会議 2回 ・ケース進行管理会議 5回 ・ケース検討会議 136回 ・講演会 1回(令和3年11月20日開催) 参加者129人 演題「子どもの虐待を防ぐ 具体的事例と発達障害の子どもへの対応」 ○調整担当者研修等を受講し、複雑・多様化する家庭児童問題に対応するための専門的知識を向上させることができた。コロナの関係でZOOM開催となった研修が多く旅費が予定より少なくなった。 ○面談・家庭訪問・電話相談の実施、ケース検討会議の開催、要保護児童対策地域協議会の取組等により、さまざまな課題のある家庭への対応や支援を行うことができた。 ○相談取扱件数が増加傾向にある中、適切に迅速な支援につなげるため、担当者の研修を重ねるとともに、関係機関との連携をさらに深めるなど、体制の充実を図る必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|---|---------|--------|-----------|---------|---------------|-------|------|--------|-----------|------|-----------------|--------------|------|------|--------------|------|--|----|-----|------|--|--|
| | 項 | 04 社会教育費 | 1,026千円 | 1,066千円 | 40千円 | 96.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 社会教育推進費 | | | | (参考)当初予算額 | 1,750千円 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 04 家庭教育事業 | 府補 | 家庭教育支援基盤形成事業補助金(2/3) | | | 506千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 乳児期から就学前、思春期の各発達段階に応じた学習機会の提供と家庭教育支援チームによる子育て支援活動を実施したほか、PTA活動の支援を行った。 | | ○子育て講座(講師謝金等) 205千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○家庭教育支援チーム事業(ファシリテーター謝金等) 563千円 | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児期子育て講座</td> <td>4回</td> <td>126人</td> </tr> <tr> <td>就学前、思春期子育て講座</td> <td>3回</td> <td>240人</td> </tr> <tr> <td>親子リフレッシュ体操教室</td> <td>15回</td> <td>228人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22回</td> <td>594人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 事業 | 回数 | 延べ参加者数 | 乳幼児期子育て講座 | 4回 | 126人 | 就学前、思春期子育て講座 | 3回 | 240人 | 親子リフレッシュ体操教室 | 15回 | 228人 | 合計 | 22回 | 594人 | | |
| | 事業 | 回数 | 延べ参加者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 乳幼児期子育て講座 | 4回 | 126人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就学前、思春期子育て講座 | 3回 | 240人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 親子リフレッシュ体操教室 | 15回 | 228人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 22回 | 594人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 子育て経験者や専門的な知識・経験を持つサポーターで構成する「家庭教育支援チーム」を各地域公民館で組織し、地域課題に即した子育て支援活動を行った。 | | ○京丹後市PTA協議会補助金 258千円 市研究大会の開催、各種研修会の参加、安全会掛金等への助成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※家庭教育支援チーム：計6チーム、子育てサポーター：計49人 | | 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子育て交流会</td> <td>3回</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>「手紙で結ぶ家族の絆」事業</td> <td>14回</td> <td>429人</td> </tr> <tr> <td>子育て広場</td> <td>6回</td> <td>223人</td> </tr> <tr> <td>高校生と赤ちゃんのふれあい交流</td> <td>5回</td> <td>119人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>28回</td> <td>813人</td> </tr> </tbody> </table> | | 事業 | 回数 | 延べ参加者数 | 子育て交流会 | 3回 | 42人 | 「手紙で結ぶ家族の絆」事業 | 14回 | 429人 | 子育て広場 | 6回 | 223人 | 高校生と赤ちゃんのふれあい交流 | 5回 | 119人 | 合計 | 28回 | 813人 | ○子どもの発達段階に応じた子育てに関する学習機会を提供し、子どもとのコミュニケーションの大切さや、生活習慣を身に付けさせるための家庭の役割の重要性などについて啓発することができた。 ○課題を関係機関と共有し、より効果的な学習会等の実施を進める必要がある。 | | | | | |
| 事業 | 回数 | 延べ参加者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 子育て交流会 | 3回 | 42人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 「手紙で結ぶ家族の絆」事業 | 14回 | 429人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 子育て広場 | 6回 | 223人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高校生と赤ちゃんのふれあい交流 | 5回 | 119人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 28回 | 813人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※広報紙発行：1回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--|---|-------|-----------|-----------|----------|
| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 02 児童福祉費 | 219,211千円 | 219,794千円 | 583千円 | 99.7% | | |
| | 目 | 02 子育て支援費 | | | | (参考)当初予算額 | 223,981千円 | 課 |
| 事業 | 02 放課後児童健全育成事業 | 使用料 | 放課後児童健全育成事業利用料 | | | 22,749千円 | | |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | | 国補 | 子ども子育て支援交付金(1/3)、保育士等処遇改善臨時特例交付金(10/10) | | | 21,469千円 | |
| 目的 | 保護者の就労等により放課後や長期休業期の昼間に家庭保育を受けることができない児童に対し、安全で充実した生活の場を与えることにより、その健全な育成を図る。 | | 府補 | 子ども子育て支援交付金(1/3) | | | 19,219千円 | |
| 主要な事務・事業の概要 | ■開設状況 | | 府補 | 新型30741感染症対策事業補助金(10/10) | | | 571千円 | |
| | 年間開設日数：314日(うち日曜日・祝日開設：27日) 開設時間：授業終了後～午後6時30分 (長期休業期及び土曜日、日曜日・祝日は午前7時30分～午後6時30分) 年間平均児童数：501人(10カ所、12支援単位) 峰山54人・長岡21人・いさなご45人・大宮65人 口大野①52人・口大野②49人・網野南57人・網野北34人 丹後21人・弥栄26人・久美浜①38人・久美浜②39人 | | 繰入金 | ふるさと応援基金繰入金 | | | 34,000千円 | |
| | ○工率請負費 ・峰山トイレ改修工事 293千円 | | ○備品購入費 3,310千円 ・エアコン(峰山・口大野) 889千円 ・サーモグラフィカメラ(10クラブ、10台) 2,310千円 ・電話機他(いさなご・網野南・久美浜) 111千円 | | | | | |
| ○需用費(消耗品費、燃料費、光熱水費等) 7,350千円 | | ○送迎車両整備経費(峰山・口大野・網野南・丹後・久美浜) 202千円 | | | | | | |
| ○委託料(消防設備点検、浄化槽点検、児童送迎車運転等) 10,329千円 | | ○その他の経費(火災・自動車共済等保険料・自動車重量税ほか) 1,081千円 | | | | | | |
| ○放課後児童健全育成事業委託料(10クラブ) 196,646千円 | | 成果・課題 | | | | | | |
| | | ○利用者数が増加傾向にある中、待機児童ゼロを継続し児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てと就労の両方を支援することができた。 ○保育士等の処遇改善に係る国からの協力要請を受け、国の交付金を活用し、委託先の放課後児童支援員の処遇改善を行った。(2、3月分) ○年々増加傾向にある利用者に対応するため、小学校の空き教室等の更なる活用など、施設拡充を検討する必要がある。 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------------------|---------------------|-------|-----|--------|---|----------|-------|-------|-----|-----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | |
| | 項 | 04 社会教育費 | | | | | | | 433千円 | 434千円 | 1千円 | 99.7% |
| | 目 | 02 社会教育推進費 | | | | | | | | | | (参考)当初予算額 |
| | 事業 | 07 放課後子ども教室事業 | | | | | | | | | | 780千円 |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | 府補 | 京のまなび教室推進事業補助金(2/3) | 289千円 | 課 | 子ども未来課 | | | | | | |
| 目的 | 放課後に小学校の余剰教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進する。 | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○委託料 放課後子ども教室運営委託料(2か所) 433千円 | | | | | | | | | | | |
| | ※事業の概要 | | | | | | | | | | | |
| | | 網野北小学校区放課後子ども教室 | 網野南小学校区放課後子ども教室 | | | | | | | | | |
| | 実施場所 | 網野北小学校施設内 | 網野南小学校施設内 | | | | | | | | | |
| | 委託先 | 放課後子ども教室実行委員会 | 放課後子ども教室実行委員会 | | | | | | | | | |
| | 実登録人数 | 42人 | 76人 | | | | | | | | | |
| | 参加児童数 | 延べ615人(1回平均36人) | 延べ1,064人(1回平均63人) | | | | | | | | | |
| | 支援員の数 | 延べ113人(1回平均7人) | 延べ168人(1回平均10人) | | | | | | | | | |
| | 実施日 | 令和3年4月～令和4年3月(授業のある水曜日の放課後) | | | | | | | | | | |
| | 活動内容 | 自主学習、体験活動、集団遊び、自由遊び、スポーツなど | | | | | | | | | | |
| ※実登録人数は令和4年3月末時点の人数 | | | | | | | | | | | | |
| ※新型コロナウイルス感染症対策のため、両教室とも当初36回の実施回数を17回とした。 | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | ○子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)として放課後子ども教室を開設し、地域住民の協力を得て子どもたちに世代間交流の機会を提供するとともに、さまざまな体験活動を実施することができた。 ○子ども教室の運営は、地域住民の協力を得て実施することになっており、スタッフの確保が課題である。 | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|---|--------------------|--------------------|-------|-----|-----|---|----------|-------|-------|-------|-----------|
| 予算科目 | 款 | 03 民生費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | |
| | 項 | 02 児童福祉費 | | | | | | | 119千円 | 231千円 | 112千円 | 51.5% |
| | 目 | 01 児童福祉総務費 | | | | | | | | | | (参考)当初予算額 |
| | 事業 | 03 子ども未来まちづくり審議会事業 | | | | | | | | | | 231千円 |
| 基本計画 | 25 子育て支援の総合的な推進 | 主な財源 | | | | | | | | | | |
| 目的 | すべての子どもが健康で幸せに暮らせるまちづくりの推進及び子ども・子育て支援事業計画、保育所再編等推進計画、特定教育・保育施設の利用定員の設定等について審議する。 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 令和元年度に策定した「第2期子ども子育て支援事業計画」の事業進捗状況、特定教育・保育施設の利用定員の設定について情報共有及び協議するとともに、今後の子育て支援拠点等の在り方について審議するため、審議会を開催した。 | | | | | | | | | | | |
| | ○報酬(審議会委員) 委員:10人 3回開催 104千円 | | | | | | | | | | | |
| | ○旅費(費用弁償) 15千円 | | | | | | | | | | | |
| | ※審議会開催等の状況 | | | | | | | | | | | |
| | | 日程 | 審議内容 | | | | | | | | | |
| | 第1回 | 令和3年6月29日 | ・子育て支援拠点等について | | | | | | | | | |
| | 第2回 | 令和3年8月24日 | ・子ども・子育て支援事業について | | | | | | | | | |
| | 第3回 | 令和3年9月30日 | ・特定教育・保育施設利用定員について | | | | | | | | | |
| | ・審議会への諮問:令和3年6月14日 「今後の子育て支援拠点等の在り方について」 | | | | | | | | | | | |
| | 平成30年度に実施した、子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査及び「はは笑みプロジェクト事業 子育てWeb懇談会」で、「天候に関係なく遊ぶことのできる屋内施設がほしい」「交流の場の提供を」といった意見が多かったため、その在り方を検討するにあたり、諮問を行った。 | | | | | | | | | | | |
| ・審議会からの答申:令和3年10月22日 | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | ○今後の子育て支援拠点等の在り方について審議会に諮問し、審議・答申していただいた。 ○今後も、多様化する子育て支援ニーズへの対応、子どもや子育てに関し審議していただき、子育て世帯やすべての子どもたちが健康で幸せに暮らせるまちづくりを推進していく必要がある。 | | | | | | | | | | | |

京丹後市教育振興計画 施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

| | |
|--------------|--------------|
| 担当課 生涯学習課 | 担当課長 安達 純 |
|--------------|--------------|

| | | |
|-------|---|-------------------|
| 重点目標 | 5 | 生涯にわたる豊かな学びを支援します |
| 基本的方針 | まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。 | |

1. 施策の方向性 PLAN

| | |
|-----------------|---|
| 1. 生涯学習の体制づくり | ①市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。 ②市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。 ③市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ④多様化する地域課題に対応するため、地区公民館機能を含む新たな地域コミュニティ組織の立ち上げなど、公民館と地域コミュニティのあり方について見直しの検討を進めます。 |
| 2. 人権教育の推進 | ①人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を進めます。 ②さまざまな人権問題について関係法律の理念にのっとり、正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。 |
| 3. 社会教育施設等の整備充実 | ①公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。 ②老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。 ③市民の情報拠点であり、憩いの場である市立図書館の今後のあり方について、検討を進めます。 |

【参考】施策に関連するその他の計画

| 計画名称 | 計画概要 | 策定年月 | 計画期間 | 備考 |
|---------------------|---|---------|---------------|----|
| 第2次京丹後市総合計画 | 市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」 | 平成27年3月 | 平成27年度～令和6年度 | |
| 京丹後市子どもの読書活動第二次推進計画 | 本市の将来を担う子どもたちが、今後も更に本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるように、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するために策定 | 平成26年6月 | 平成26年度～平成30年度 | |
| 京丹後市子どもの読書活動第三次推進計画 | 本市の将来を担う子どもたちが、今後も更に本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるように、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するために策定 | 令和2年3月 | 令和2年度～令和6年度 | |

2. 主な取組と構成事務事業一覧 PLAN DO CHECK ACT

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

| 1. 生涯学習の体制づくり | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 |
|---|------------|-------|-------|---------------|
| 主な取り組み | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 |
| ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | |
| ① 市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。 ② 市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。 ③ 市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ④ 多様化する地域課題に対応するため、地区公民館機能を含む新たな地域コミュニティ組織の立ち上げなど、公民館と地域コミュニティのあり方について見直しの検討を進めます。 | | | | |
| 1 社会教育委員設置事業 | 生涯学習課 | | | |
| 社会教育委員を設置し、社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うことによって、市民の声を反映した社会教育事業を推進する。 | 360 | 474 | 510 | 現状維持 |
| 2 成人式開催事業((仮称)二十歳のつどい開催事業) | 生涯学習課 | | | |
| 人生の節目としての式典を開催することによって、大人になったことの自覚を促すとともに、今後自らの人生を生き抜こうとする青年(新成人)を祝い激励する。 | 1,921 | 1,183 | 1,461 | 改善・効率化 |
| 3 青少年教育事業 | 生涯学習課 | | | |
| 地域の青少年を守り育てる活動を支援し、将来を担う青少年の心豊かな人間の基礎づくりと健やかな成長を促す。 | 1,063 | 1,057 | 1,518 | 現状維持 |
| 4 高齢者教育事業 | 生涯学習課 | | | |
| 高齢者大学の講座を市内全域で実施することによって、高齢者の社会参加と生きがいづくりに貢献するとともに、その知識や経験をいかした地域活動を推進する。 | 2,354 | 2,384 | 3,238 | 現状維持 |

| 1. 生涯学習の体制づくり | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|---|---|------------|---------|--------|---------------|--------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 5 | 中央公民館管理運営事業 地域住民の学習及び交流活動の拠点として設置されている地区(自治)公民館活動を支援し、地域の活性化を推進する。 | 生涯学習課 | 37,349 | 36,281 | 36,326 | 現状維持 |
| 6 | 地域公民館管理運営事業 地域の学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。また、社会教育活動、生涯学習等を行う拠点として、峰山、丹後、弥栄地域公民館の管理運営を行う。 | 生涯学習課 | - | 21,783 | 25,447 | 現状維持 |
| 7 | 峰山地域公民館管理運営事業 峰山地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。 | 生涯学習課 | 7,930 | - | - | 統合(整理) |
| 8 | 大宮地域公民館管理運営事業 大宮地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。 | 生涯学習課 | 146 | - | - | 統合(整理) |
| 9 | 網野地域公民館管理運営事業 網野地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。 | 生涯学習課 | 181 | - | - | 統合(整理) |
| 10 | 丹後地域公民館管理運営事業 丹後地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。 | 生涯学習課 | 321,947 | - | - | 統合(整理) |
| 11 | 弥栄地域公民館管理運営事業 弥栄地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。 | 生涯学習課 | 7,035 | - | - | 統合(整理) |
| 12 | 久美浜地域公民館管理運営事業 久美浜地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。 | 生涯学習課 | 131 | - | - | 統合(整理) |
| 13 | 公民館一般経費 公民館の事務事業に必要な公用車などを適切に管理するほか、会計年度任用職員を各地域公民館に配置し、公民館の円滑な運営を図る。 | 生涯学習課 | 31,624 | 32,500 | 32,912 | 現状維持 |
| 14 | 図書館管理運営事業 生涯学習の拠点施設として、市民の読書、調査研究等の要求に応えるよう施設整備を進めるとともに、様々な資料や情報を収集、整理、保存し提供するための図書館・図書室運営を行う。 | 生涯学習課 | 122,523 | 71,294 | 71,811 | 現状維持 |
| 15 | 社会教育総務一般経費 会計年度任用職員を各地域公民館に配置し、公民館の円滑な運営を図る。 | 生涯学習課 | 3,144 | 3,342 | 3,488 | 現状維持 |
| 2. 人権教育の推進 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| <p>① 人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を進めます。</p> <p>② さまざまな人権問題について関係法律の理念にのっとり、正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。</p> | | | | | | |
| 16 | 人権教育事業 あらゆる人権問題について正しく理解し、認識を深めるための学習機会を提供するなど、人権教育を推進することにより、人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。 | 生涯学習課 | 155 | 181 | 268 | 現状維持 |
| 3. 社会教育施設等の整備充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| <p>① 公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。</p> <p>② 老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。</p> <p>③ 市民の情報拠点であり、憩いの場である市立図書館の今後のあり方について、検討を進めます。</p> | | | | | | |
| 17 | 地区公民館管理運営事業 地域住民の身近な生涯学習・地域活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。 | 生涯学習課 | 4,055 | 5,526 | 4,524 | 現状維持 |
| 18 | 峰山いさなご施設管理運営事業 林業の振興のほか、スポーツ及びレクリエーション活動による市民の健康づくり、生きがいづくりを推進し、市民福祉の向上を図る。 | 生涯学習課 | 8,759 | 9,137 | 9,788 | 現状維持 |
| 19 | マスターズヒルズ管理運営事業 大宮ふれあい工房(陶芸・染色体験等施設)、ふれあいスポーツ広場等を管理運営することで、市民の交流及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図る。 | 生涯学習課 | 15,896 | 15,771 | 17,287 | 現状維持 |
| 20 | アグリセンター管理運営事業 施設の維持管理及び運営を行い、農業・農村の活性化及び地域住民の福祉・健康増進に寄与する。 | 生涯学習課 | 16,720 | 6,631 | 6,530 | 現状維持 |

| 3. 社会教育施設等の整備充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|-----------------|---|------------|---------|---------|---------------|------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 21 | たちばな会館管理運営事業 | 生涯学習課 | 1,148 | 1,173 | 1,219 | 現状維持 |
| | 橘地区における生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。 | | | | | |
| 22 | 網野教育会館管理運営事業 | 生涯学習課 | 1,239 | 1,216 | 1,403 | 現状維持 |
| | 教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。 | | | | | |
| | | 計 | 585,680 | 209,933 | 217,730 | |

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

| 基本的方針 | まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。 | | | | | | | |
|--------------|---|------------------------------|-------|-------|---------|-------|-------|----|
| 主な目標指標 | 目標指標 | 単位 | 計画作成時 | | 実績値(現状) | | 目標値 | |
| | | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | | |
| | 青少年の体験活動事業数 | 事業 | 42 | H25 | 31 | R3 | 60 | R6 |
| | 趣味・教養講座数 | 事業 | 29 | H25 | 52 | R3 | 35 | R6 |
| | 地域課題学習講座数 | 事業 | 2 | H25 | 8 | R3 | 10 | R6 |
| | 高齢者大学の参加者数 | 人 | 789 | H25 | 720 | R3 | 1,000 | R6 |
| | 人権学習会の参加者数 | 人 | 820 | H25 | 973 | R3 | 1,200 | R6 |
| | 図書の間貸出冊数(市民1人当たり) | 冊 | 5.2 | H25 | 5.51 | R3 | 7.0 | R6 |
| 地域公民館施設の利用回数 | 回 | 4,308 (令和元年度) ※改正時追加指標 | R1 | 2,781 | R3 | 7,000 | R6 | |

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK **ACT**

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------------|----|---|
| ◎ 予定以上に進んでいる | | |
| ○ 予定どおり進んでいる | | |
| ▲ 少し遅れている | | |
| × 大幅に遅れている | | |
| | ▲ | <p>《青少年の体験活動事業数》 例年は地域公民館等の事業のほか、京都府や府内大学などの関係機関と連携し事業を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の関係で多くの事業が中止となった。今後も社会教育団体や学校、地域と連携・協力をしながら学習機会を提供する。</p> <p>《趣味・教養講座数》 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等の発令により、多くの講座を中止としたが、感染症対策を講じて可能な限り実施し、市民の自発的な学習を支援し継続的な学習の機会を提供することができた。今後は地域や民間団体などによる自主的な活動を促進させ、地域公民館による取り組みは減少させていく。</p> <p>《地域課題学習講座数》 各町公民館連絡協議会や地域公民館を中心に地域の現状把握や課題共有に努め講座を実施している。京丹後市の歴史や自然について学ぶ講座が好評であり成果をあげている。コミュニティへ移行する地域では、地域の社会教育を担う地区公民館や地域公民館のノウハウを、地域の将来やめざす姿について交流したり新しい地域コミュニティについて考えていく際に活用していくべき。</p> <p>《高齢者大学の参加者数》 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等の発令により、一部講座を中止した。高齢者を対象とした講座であることから、参加をためらう方もおられたが、感染症対策を講じながら可能な限り講座を実施した。コロナ禍で外出が制限される中、高齢者の生きがいづくりのため、どのような講座を提供していくべきか検討していく必要がある。</p> <p>《人権学習会の参加者数》 参加型の講演等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業実施を控える傾向が続いた。対策を講じて実施しても参加者が自粛する傾向が続いている。そのため、今後は、啓発資料の配布やオンラインでの開催など参加型でない方法の工夫も必要。インターネットにおける誹謗中傷やワークライフバランスなど社会情勢の変化により顕在化している課題も多いため、学習者のニーズを適切に把握し実施していく必要がある。</p> <p>《図書の年間貸出冊数(市民1人当たり)》 新型コロナウイルス感染症対策の影響でR2までは来館者数、貸出数も減ったが、安心して利用していただくため除菌機を設置する等の対策を講じ運営することで、コロナ禍以前の利用まで戻ることができた。また行事も全て予定通り行うことができなかったが、できる範囲での取り組みを実行することで、市民に対する読書推進を図ることができた。Wi-Fi接続サービス、野村克也図書コーナー設置などの新たな事業も開始し、サービスの向上にも努めた。今後は、除菌機の活用、Wi-Fiへの接続、国会図書館デジタル化資料送信サービスの周知など、感染予防対策を講じながらの読書推進について、さらに検討し実施対応していく必要がある。</p> |

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------|----|--|
| | | <p>《地域公民館施設の利用回数》</p> <p>市民に学習や交流の場所を提供するため、令和2年8月1日からの「公共施設の市民等無料開放」を令和3年度も延長し、また新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言やまん延防止措置等により、休館としたり収容人数を制限等も令和2年度と同様に実施したため、令和2年度並みの利用回数となり、通常年度より大きく利用回数が減少した。</p> <p>今後は、感染防止対策を講じながら、社会教育活動や生涯学習及びコミュニティ活動を行う拠点として管理運営を行い、地域の身近な課題、生活課題等に即した学習機会の提供に努める。</p> <p>丹後地域公民館は、令和2年度に耐震改修工事が完了したが、他の施設についても老朽化に伴う計画的な維持管理が課題である。</p> <p>※平成30年12月丹後地域公民館耐震強度不足のため貸館休止、平成30年12月から令和元年10月までは丹後庁舎を、10月から令和3年3月までは丹後庁舎と旧豊栄小学校を代替施設として使用した。 ※平成30年度～令和2年度の数値は、代替施設の数値を含めた数値。</p> |

5. 今後の施策展開の考え方(令和4年～令和6年度での主な取組)

ACT

| 区分 | No. | 具体的内容 |
|----------|-----|--|
| 施策展開の考え方 | 1 | 中央公民館体制の再構築の下、公民館体制及び新たな地域コミュニティの在り方について、関係機関等との協議等を進める必要がある。併せて生涯学習社会の中核的施設となる図書館整備を検討するとともに、利用者が主役となる図書館活動を展開する。 |
| | 2 | 講演会の参加者が固定化傾向にあるため、講演の内容について、同和問題など継続的な課題はあるものの、インターネットによる人権侵害や自己実現、幸福追求など新たな人権課題にも目を向けながら、幅広く人権について考える機会を提供していく。 |
| | 3 | 関係団体等と連携し、優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供、地域の特色を活かした芸術・文化活動を実施並びに支援するとともに、文化活動を支える人材育成を地道に取り組む。 |
| | 4 | 必要な修繕の実施を行うなど、利用者が安心・安全に利用できる環境を整備し、併せて利便性の向上を図るとともに、今後の施設の在り方を検討する必要がある。 |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 教育委員会事務局 課 生涯学習課 |
|-------------|--|----------------------|--|---|-------|-------|--------------------|--|-----|--|-----------------------------|
| | 項 | 04 社会教育費 | 474千円 | 520千円 | 46千円 | 91.1% | (参考)当初予算額 620千円 | | | | |
| | 目 | 01 社会教育総務費 | | | | | | | | | |
| 事業 | 02 社会教育委員設置事業 | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | | | | | | | | |
| 目的 | 社会教育委員を設置し、社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うことによって、市民の声を反映した社会教育事業を推進する。 | | 主な財源 | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>社会教育委員会議を開催し、社会教育事業及び社会教育の諸課題について審議するとともに、委員の研修機会を提供した。</p> <p>○委員報酬（委員：15人、報酬対象：12人） 345千円</p> <p>○旅費（費用弁償、研修事業への参加旅費） 57千円</p> <p>○需用費（研修事業資料代、燃料費） 5千円</p> <p>○役務費（有料道路通行料、駐車場使用料） 2千円</p> <p>○負担金、補助及び交付金 65千円 ・京都府及び丹後地方社会教育委員連絡協議会分担金</p> | | <p><会議の主な内容>（3回開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京丹後市文化芸術振興計画の策定について ・成人式の在り方について、社会体育施設の一部見直しについて ・令和4年度予算、社会教育推進の重点について ほか <p><委員研修等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後地方社会教育委員連絡協議会理事・幹事会（3回：宮津市） ・丹後地方社会教育委員連絡協議会総会・研修会（6月11日：与野町） ・京都府社会教育委員連絡協議会総会（6月25日：綾部市） ・丹後地方社会教育委員連絡協議会・視察研修会（10月12日：豊岡市） ・京都府社会教育委員連絡協議会研究大会（11月2日：興福市） | | | | | | | | |
| | 成果・課題 | | | <p>○社会教育事業及び社会教育の諸課題について審議し、市民の意向を反映した社会教育行政を進めることができた。</p> <p>○社会教育委員として、より自主的に活動ができるように検討が必要。</p> | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | | 最終予算額 | | 不用額 | | 執行率 | | 部 教育委員会事務局 課 生涯学習課 |
|-------------|--|----------------------|--|---|-------|-------|----------------------|--|-----|--|-----------------------------|
| | 項 | 04 社会教育費 | 1,183千円 | 1,235千円 | 52千円 | 95.7% | (参考)当初予算額 1,235千円 | | | | |
| | 目 | 02 社会教育推進費 | | | | | | | | | |
| 事業 | 01 成人式開催事業 | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | | | | | | | | |
| 目的 | 人生の節目としての式典を開催することによって、大人になったことの自覚を促すとともに、今後自らの人生を生き抜こうとする青年（新成人）を祝い激励する。 | | 主な財源 | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p><開催概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 令和4年3月20日（日）※午前・午後の分散发開催 ・会 場 京都府丹後文化会館 ・対 象 平成13年4月2日～平成14年4月1日生まれの市内在住者及び市内各中学校卒業生591人（男277人、女314人） ・出席者 459人（出席率77.6%） ・内 容 式典：記念式典、二十歳の主張、恩師ビデオメッセージ上映等 記念品：記念写真、慶弔用ふくさ <p>○報償費 813千円 ・報償物品（記念写真、慶弔用ふくさ）</p> <p>○需用費（消耗品費、燃料費） 33千円</p> <p>○役務費（通信運搬費） 54千円</p> | | <p>○委託料（式典中継配信業務委託料） 83千円</p> <p>○使用料及び賃借料（会場借上料等） 200千円</p> | | | | | | | | |
| | 成果・課題 | | | <p>○新型コロナウイルス感染予防のため、式典対象者を午前・午後に分けて分散发実施するなど感染症対策を講じた。</p> <p>○当日式典の様子を、市公式YouTubeチャンネルでライブ配信し欠席者や保護者等が視聴できる機会を提供することができた。</p> | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|------------|---------|---------|------|-----------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 1,057千円 | 1,141千円 | 84千円 | 92.6% | | |
| | 目 | 02 社会教育推進費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| | 事業 | 02 青少年教育事業 | | | | 1,531千円 | 課 | 生涯学習課 |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | |
| 目的 | 地域の青少年を守り育てる活動を支援し、将来を担う青少年の心豊かな人間の基礎づくりと健やかな成長を促す。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○京丹後市青少年健全育成会補助金 400千円 青少年の体験活動やあいさつ運動など、青少年の健全育成に資する取組を実施する組織に対し、補助金を交付 | | | | | | | |
| | ○少年少女児童合唱団補助金（3団体） 267千円 音楽を通して子どもたちの自分を表現する力や社会性、豊かな心を育む活動を行う団体に対し、補助金を交付 | | | | | | | |
| ○地域子ども教室補助金（3団体×130千円） 390千円 地域の中に子どもたちの居場所を確保するとともに、さまざまな体験活動、住民との交流活動等地域全体で子どもを守り育てる活動を行う教室に対し、補助金を交付 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、3団体は年間の活動を休止した。 | | | | | | | | |
| 成果・課題 | ○新型コロナウイルス感染予防のため、計画通りの事業実施ができない団体もあったが、青少年の健やかな成長を促す体験活動や地域活動を支援することができた。 ○今後も市青少年健全育成会等関係団体と連携しながら、より効果的な青少年活動を推進する必要がある | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|------------|---------|-----------------------|-------|--------------|--|----------|--|----|----|--------|------|--------|-----|--|----|----|------|-----|------|------|-----------|--|----|----|------|-----|------|-----|-----------|----|----|------|------|--------|------|--------------|----|----|------|-----|------|-----|------------|----|----|------|-----|------|-----|-----------|-----|----|------|-----|------|-----|------------|----|-----|--------|------|--------|------|--|--|--|--|--|--|
| | 項 | 04 社会教育費 | 2,384千円 | 2,551千円 | 167千円 | 93.4% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 社会教育推進費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 03 高齢者教育事業 | | | | 3,236千円 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | 府補 800千円 諸収入 740千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 高齢者大学の講座を市内全域で実施することによって、高齢者の社会参加と生きがいづくりに貢献するとともに、その知識や経験をいかした地域活動を推進する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ■高齢者大学 ・受講者数 720人（令和4年3月31日現在） ・実施地域 各町域（各地域公民館主管） 市全域（生涯学習課主管：百才活力学園） ・事業の概要 【一般講座及び教養講座】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学園</th> <th colspan="2">一般講座</th> <th colspan="2">延べ参加者数</th> <th colspan="2">教養講座</th> <th rowspan="2">内容</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> <th>延べ回数</th> <th>延べ参加者数</th> <th>講座数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山</td> <td>6回</td> <td>146人</td> <td>72回</td> <td>737人</td> <td>10講座</td> <td>民謡、ちぎり絵、他</td> <td rowspan="6"> ○報償費（講師謝金） 1,599千円 ○旅費 14千円 ○需用費（消耗品費、燃料費、食糧費） 174千円 ○委託料（バス運転委託料） 443千円 ○使用料及び賃借料（会場使用料、有料道路通行料等） 154千円 </td> </tr> <tr> <td>大宮</td> <td>6回</td> <td>169人</td> <td>40回</td> <td>550人</td> <td>7講座</td> <td>剪定、寄せ植え、他</td> </tr> <tr> <td>網野</td> <td>6回</td> <td>353人</td> <td>108回</td> <td>1,533人</td> <td>11講座</td> <td>グランドゴルフ、唱歌、他</td> </tr> <tr> <td>丹後</td> <td>4回</td> <td>129人</td> <td>33回</td> <td>361人</td> <td>9講座</td> <td>生け花、そば打ち、他</td> </tr> <tr> <td>弥栄</td> <td>5回</td> <td>115人</td> <td>51回</td> <td>530人</td> <td>8講座</td> <td>絵手紙、スマホ、他</td> </tr> <tr> <td>久美浜</td> <td>5回</td> <td>156人</td> <td>43回</td> <td>474人</td> <td>7講座</td> <td>どろい、古典文学、他</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>32回</td> <td>1,068人</td> <td>347回</td> <td>4,185人</td> <td>52講座</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 学園 | 一般講座 | | 延べ参加者数 | | 教養講座 | | 内容 | 回数 | 延べ参加者数 | 延べ回数 | 延べ参加者数 | 講座数 | | 峰山 | 6回 | 146人 | 72回 | 737人 | 10講座 | 民謡、ちぎり絵、他 | ○報償費（講師謝金） 1,599千円 ○旅費 14千円 ○需用費（消耗品費、燃料費、食糧費） 174千円 ○委託料（バス運転委託料） 443千円 ○使用料及び賃借料（会場使用料、有料道路通行料等） 154千円 | 大宮 | 6回 | 169人 | 40回 | 550人 | 7講座 | 剪定、寄せ植え、他 | 網野 | 6回 | 353人 | 108回 | 1,533人 | 11講座 | グランドゴルフ、唱歌、他 | 丹後 | 4回 | 129人 | 33回 | 361人 | 9講座 | 生け花、そば打ち、他 | 弥栄 | 5回 | 115人 | 51回 | 530人 | 8講座 | 絵手紙、スマホ、他 | 久美浜 | 5回 | 156人 | 43回 | 474人 | 7講座 | どろい、古典文学、他 | 合計 | 32回 | 1,068人 | 347回 | 4,185人 | 52講座 | | | | | | |
| 学園 | 一般講座 | | | 延べ参加者数 | | 教養講座 | | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回数 | 延べ参加者数 | 延べ回数 | 延べ参加者数 | 講座数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山 | 6回 | 146人 | 72回 | 737人 | 10講座 | 民謡、ちぎり絵、他 | ○報償費（講師謝金） 1,599千円 ○旅費 14千円 ○需用費（消耗品費、燃料費、食糧費） 174千円 ○委託料（バス運転委託料） 443千円 ○使用料及び賃借料（会場使用料、有料道路通行料等） 154千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮 | 6回 | 169人 | 40回 | 550人 | 7講座 | 剪定、寄せ植え、他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野 | 6回 | 353人 | 108回 | 1,533人 | 11講座 | グランドゴルフ、唱歌、他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後 | 4回 | 129人 | 33回 | 361人 | 9講座 | 生け花、そば打ち、他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄 | 5回 | 115人 | 51回 | 530人 | 8講座 | 絵手紙、スマホ、他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久美浜 | 5回 | 156人 | 43回 | 474人 | 7講座 | どろい、古典文学、他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 32回 | 1,068人 | 347回 | 4,185人 | 52講座 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | ○コロナ禍の中、生きがいづくり、健康づくりの機会を提供し、高齢者の社会参加の促進と生きがいづくりに寄与することができた。 ○参加者の増加に努めるとともに、より一層高齢者の社会参加の促進と学習の成果を地域活動等にいかす取組を推進する必要がある。 ○百才活力学園を新たに実施し、丹後の食の担い手の活動拠点を訪れ、見学や体験などを通して、丹後の食文化や食資源の魅力を再発見する機会を提供することができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----------|---|---------------|----------|----------------------|-------------|----------|---------|-------------|-----|---------|-------------|-----|---------|-------------|----|---------|-------------|----|---------|--------------|----|---------|----|-----|----------|---|--|--|--|--|-----|------------|-----|-----------|-----|--|-----|--|------|-----|
| | 項 | 04 社会教育費 | 36,281千円 | 36,360千円 | 79千円 | 99.7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 03 公民館費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 01 中央公民館管理運営事業 | | | | 36,789千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | 市債 | | 過疎地域自立促進特別事業債(過疎対策債) | | 28,900千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 地域住民の学習及び交流活動の拠点として設置されている地区(自治)公民館活動を支援し、地域の活性化を推進する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○地区公民館活動交付金 34,228千円 | | | ○公民館職員研修会 6千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地区公民館数</th> <th>交付金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>嶺山町公民館連絡協議会</td> <td>8館</td> <td>7,684千円</td> </tr> <tr> <td>大宮町公民館連絡協議会</td> <td>15館</td> <td>6,005千円</td> </tr> <tr> <td>網野町公民館連絡協議会</td> <td>12館</td> <td>7,751千円</td> </tr> <tr> <td>丹後町公民館連絡協議会</td> <td>4館</td> <td>3,343千円</td> </tr> <tr> <td>弥栄町公民館連絡協議会</td> <td>5館</td> <td>3,226千円</td> </tr> <tr> <td>久美浜町公民館連絡協議会</td> <td>8館</td> <td>6,219千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>52館</td> <td>34,228千円</td> </tr> </tbody> </table> | | | 区分 | 地区公民館数 | 交付金額 | 嶺山町公民館連絡協議会 | 8館 | 7,684千円 | 大宮町公民館連絡協議会 | 15館 | 6,005千円 | 網野町公民館連絡協議会 | 12館 | 7,751千円 | 丹後町公民館連絡協議会 | 4館 | 3,343千円 | 弥栄町公民館連絡協議会 | 5館 | 3,226千円 | 久美浜町公民館連絡協議会 | 8館 | 6,219千円 | 合計 | 52館 | 34,228千円 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>日 時</th> <td>令和3年11月17日</td> </tr> <tr> <th>会 場</th> <td>アグリセンター大宮</td> </tr> <tr> <th>演題1</th> <td>新たな地域コミュニティ推進について (講師:市地域コミュニティ推進課職員)</td> </tr> <tr> <th>演題2</th> <td>前例・手本・答えのない時代の地域運営 (講師:久美浜町佐瀬自治会 森本賢一郎会長)</td> </tr> <tr> <th>参加者数</th> <td>91人</td> </tr> </thead> </table> | | | | | 日 時 | 令和3年11月17日 | 会 場 | アグリセンター大宮 | 演題1 | 新たな地域コミュニティ推進について (講師:市地域コミュニティ推進課職員) | 演題2 | 前例・手本・答えのない時代の地域運営 (講師:久美浜町佐瀬自治会 森本賢一郎会長) | 参加者数 | 91人 |
| | 区分 | 地区公民館数 | 交付金額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 嶺山町公民館連絡協議会 | 8館 | 7,684千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮町公民館連絡協議会 | 15館 | 6,005千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 網野町公民館連絡協議会 | 12館 | 7,751千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後町公民館連絡協議会 | 4館 | 3,343千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄町公民館連絡協議会 | 5館 | 3,226千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久美浜町公民館連絡協議会 | 8館 | 6,219千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 52館 | 34,228千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 時 | 令和3年11月17日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 会 場 | アグリセンター大宮 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 演題1 | 新たな地域コミュニティ推進について (講師:市地域コミュニティ推進課職員) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 演題2 | 前例・手本・答えのない時代の地域運営 (講師:久美浜町佐瀬自治会 森本賢一郎会長) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参加者数 | 91人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 積算内訳(調整有) 地区割 20,000円×225地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 世帯数割 1,400円×20,469世帯 (世帯数:平成27年国勢調査) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 町均等割 250,000円×6町 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○その他経費(役務費) 2,047千円 | | | 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・公民館総合(備蓄)保険料(52地区区分) 2,038千円 | | | ○地区公民館活動の支援を通して、住民のコミュニティ活動の推進を図るとともに、学習及び交流機会の提供など、地区公民館が地域づくりの拠点としての機能を発揮することに寄与した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・切手代 9千円 | | | ○持続可能な地域づくりのため、公民館体制や新たな地域コミュニティづくりについて、関係機関と連携し推進する必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----------|--|----------------|------------|-----------|-----------|----------|--------------------|---------|---------|---------|-----------------|--------|---------|---------|--------------|---------|---------|------|-----------------------|------|-----|-----|----------------------|----|-----|-----|-------------------|----|-----|------|----------------------|----|-----|------|-------|-----------------|----|------|-----|--------------------|----|------|------|-----|----------------|------|--|--|
| | 項 | 04 社会教育費 | 21,783千円 | 22,134千円 | 351千円 | 98.4% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 03 公民館費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 02 地域公民館管理運営事業 | | | | 23,794千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | 使用料 | 嶺山地域公民館使用料 | 250千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 地域の学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。また、社会教育活動、生涯学習等を行う拠点として、嶺山、丹後、弥栄地域公民館の管理運営を行う。 | | | 使用料 | 丹後地域公民館使用料 | 26千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ＜地域公民館利用状況＞ | | | 使用料 | 弥栄地域公民館使用料 | 6千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>利用回数</th> <th>延べ利用者数</th> <th>施設等維持管理経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>嶺山地域公民館</td> <td>1,809回</td> <td>29,189人</td> <td>9,005千円</td> </tr> <tr> <td>丹後地域公民館</td> <td>264回</td> <td>4,675人</td> <td>5,585千円</td> </tr> <tr> <td>弥栄地域公民館</td> <td>708回</td> <td>24,668人</td> <td>6,348千円</td> </tr> </tbody> </table> | | | 区分 | 利用回数 | 延べ利用者数 | 施設等維持管理経費 | 嶺山地域公民館 | 1,809回 | 29,189人 | 9,005千円 | 丹後地域公民館 | 264回 | 4,675人 | 5,585千円 | 弥栄地域公民館 | 708回 | 24,668人 | 6,348千円 | 諸収入 | 社会教育事業等参加料 | 51千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 区分 | 利用回数 | 延べ利用者数 | 施設等維持管理経費 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 嶺山地域公民館 | 1,809回 | 29,189人 | 9,005千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後地域公民館 | 264回 | 4,675人 | 5,585千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄地域公民館 | 708回 | 24,668人 | 6,348千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ＜主な公民館事業＞ | | | 諸収入 | 嶺山地域公民館光熱水費負担金 | 246千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業種別</th> <th>事業・講座名</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> <th>決算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">成人教育</td> <td>花とグリーン講座(嶺山・大宮・弥栄)</td> <td>3回</td> <td>54人</td> <td>18千円</td> </tr> <tr> <td>丹後ちりめん講座(嶺山・大宮)</td> <td>3回</td> <td>33人</td> <td>12千円</td> </tr> <tr> <td>ゆったりヨガ講座(大宮)</td> <td>5回</td> <td>44人</td> <td>12千円</td> </tr> <tr> <td>ジオ・山野草ウォーク(網野・丹後・久美浜)</td> <td>3回</td> <td>48人</td> <td>6千円</td> </tr> <tr> <td>ふるさと探検 チャレンジウォーク(丹後)</td> <td>1回</td> <td>17人</td> <td>6千円</td> </tr> <tr> <td>バードウォッチング入門講座(丹後)</td> <td>2回</td> <td>13人</td> <td>12千円</td> </tr> <tr> <td>Twinぼーるエクササイズ教室(久美浜)</td> <td>3回</td> <td>28人</td> <td>18千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">青少年教育</td> <td>網野町ワークエンド事業(網野)</td> <td>5回</td> <td>128人</td> <td>6千円</td> </tr> <tr> <td>丹後町青少年少女意見発表大会(丹後)</td> <td>1回</td> <td>160人</td> <td>20千円</td> </tr> </tbody> </table> | | | 事業種別 | 事業・講座名 | 回数 | 延べ参加者数 | 決算額 | 成人教育 | 花とグリーン講座(嶺山・大宮・弥栄) | 3回 | 54人 | 18千円 | 丹後ちりめん講座(嶺山・大宮) | 3回 | 33人 | 12千円 | ゆったりヨガ講座(大宮) | 5回 | 44人 | 12千円 | ジオ・山野草ウォーク(網野・丹後・久美浜) | 3回 | 48人 | 6千円 | ふるさと探検 チャレンジウォーク(丹後) | 1回 | 17人 | 6千円 | バードウォッチング入門講座(丹後) | 2回 | 13人 | 12千円 | Twinぼーるエクササイズ教室(久美浜) | 3回 | 28人 | 18千円 | 青少年教育 | 網野町ワークエンド事業(網野) | 5回 | 128人 | 6千円 | 丹後町青少年少女意見発表大会(丹後) | 1回 | 160人 | 20千円 | 諸収入 | 丹後地域公民館光熱水費負担金 | 56千円 | | |
| 事業種別 | 事業・講座名 | 回数 | 延べ参加者数 | 決算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成人教育 | 花とグリーン講座(嶺山・大宮・弥栄) | 3回 | 54人 | 18千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丹後ちりめん講座(嶺山・大宮) | 3回 | 33人 | 12千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ゆったりヨガ講座(大宮) | 5回 | 44人 | 12千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ジオ・山野草ウォーク(網野・丹後・久美浜) | 3回 | 48人 | 6千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ふるさと探検 チャレンジウォーク(丹後) | 1回 | 17人 | 6千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | バードウォッチング入門講座(丹後) | 2回 | 13人 | 12千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | Twinぼーるエクササイズ教室(久美浜) | 3回 | 28人 | 18千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 青少年教育 | 網野町ワークエンド事業(網野) | 5回 | 128人 | 6千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丹後町青少年少女意見発表大会(丹後) | 1回 | 160人 | 20千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○講座・教室等の実施、地域公民館事業の広報 753千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・報償費(講師謝金) 130千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・需用費(消耗品費、燃料費) 574千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・委託料(バス運転委託料) 49千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○地域公民館施設等維持管理経費 21,030千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・需用費(消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費) 9,194千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・役務費(通信運搬費、ゴミ処理手数料) 350千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・委託料 8,630千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | (宿日直、施設清掃、電気保安管理、丹後地域公民館施設管理ほか) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・使用料及び賃借料(テレビ受信料、土地借上料) 285千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・修繕費(嶺山地域公民館キュービクル劣損塗装修繕ほか) 2,568千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ・その他(施設使用料返還金) 3千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○新型コロナウイルス感染予防のため、一部施設の使用制限を行ったり、計画どおり事業を実施することができなかったが、可能な限り地域住民に幅広い学習機会を提供することで、社会教育活動を推進することができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○引き続き、地域住民のニーズ把握に努めるとともに、時代や地域課題に即した事業展開を図る必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ○広報の工夫・充実にも努めるなど、引き続き参加者の増加を図る必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|------------|---|----------|---|-----------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 32,500千円 | 33,038千円 | 538千円 | 98.3 % | | |
| | 目 | 03 公民館費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 生涯学習課 |
| | 事業 | 50 公民館一般経費 | | | | 33,968千円 | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | |
| 目的 | 公民館の事務事業に必要な公用車などを適切に管理するほか、会計年度任用職員を各地域公民館に配置し、公民館の円滑な運営を図る。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○会計年度任用職員任用経費（2人×6館） 31,575千円 ・報酬 22,505千円 ・期末手当 4,489千円 ・共済費 4,247千円 ・費用弁償 334千円 ○公民館職員研修会、担当者会議への参加 15千円 ・旅費 5千円 ・有料道路通行料、駐車場使用料 10千円 ○地域公民館配置公用車の維持管理経費（5台） 780千円 ・燃料費 245千円 ・修繕料 365千円 ・登録手数料、損害保険料 143千円 ・自動車重量税 27千円 | | ○京都府公民館連絡協議会負担金 33千円 ○AED借上料（峰山・丹後地域公民館） 63千円 ○その他経費（消耗品費、食糧費） 34千円 | | | | | |
| | | | 成果・課題 | | ○令和2年度から地域公民館の職員体制を変え、正職員である地域公民館長1人と会計年度任用職員2人とし、組織体制を強化した。 ○公民館職員の資質向上と地域公民館間の情報共有の機会を確保する必要がある。 | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|--------------|---|----------|--|-----------|---|----------|----|------------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|--------|----------|----------|---------|-------|---------|---------|---------|-------|---------|---------|--------|-------|---------|---------|--------|--------|---------|---------|--------|----|----------|----------|
| | 項 | 04 社会教育費 | 71,294千円 | 71,635千円 | 341千円 | 99.5 % | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 04 図書館費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 01 図書館管理運営事業 | | | | 75,303千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 生涯学習の拠点施設として、市民の読書、調査研究等の要求に応えるよう施設整備を進めるとともに、様々な資料や情報を収集、整理、保存し提供するための図書館・図書室運営を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○図書館協議会委員報酬・費用弁償（委員10人、会議2回、視察1回） 94千円 ○市立図書館（2館）図書室（4室）の管理運営費 70,837千円 ・会計年度任用職員任用経費（通常業務19人、代行職員） 46,700千円 ・図書購入費（AV資料含む） 8,780千円 ・雑誌及び新聞購入費 1,298千円 ・ブックスタート事業経費 127千円 ・Wi-Fiルータ運賃料 50千円 ・図書システム利用料、保守委託料 2,876千円 ・光熱水費（あみの図書館） 1,629千円 ・備品購入費（図書除菌機6台） 7,843千円 ・その他（図書装幀用品等） 1,534千円 ○あみの図書館「野村克也図書コーナー設置」（2月2日～） 363千円 ・書架、サイン等備品購入費 264千円 ・コーナー用図書購入費 99千円 <主なサービス内容> ・資料（図書・AV資料・雑誌新聞）の収集、整理、保存、貸出など ・閲覧、学習スペースの提供（Wi-Fi接続サービス）・図書館相互協力 ・国会図書館デジタル化資料送信サービス・おはなし会等の行事開催・広報活動 ・学校等との連携による読書推進事業・読み聞かせボランティアの活用など | | 国補 新型ｺﾓﾝｲﾝﾌﾙｴﾝｽ対症対応地方創生臨時交付金 7,000千円 府補 新型ｺﾓﾝｲﾝﾌﾙｴﾝｽ対症支え合い基金繰入金 500千円 府補 地方創生推進交付金 182千円 寄附金 ふるさと応援寄附金 800千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <利用状況等> | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>蔵書数（年度末時点）</th> <th>年間貸出点数</th> <th>年間貸出者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山図書館</td> <td>83,449点</td> <td>74,076点</td> <td>12,166人</td> </tr> <tr> <td>あみの図書館</td> <td>104,810点</td> <td>103,907点</td> <td>19,082人</td> </tr> <tr> <td>大宮図書室</td> <td>36,951点</td> <td>63,452点</td> <td>10,305人</td> </tr> <tr> <td>丹後図書室</td> <td>26,802点</td> <td>33,173点</td> <td>6,511人</td> </tr> <tr> <td>弥栄図書室</td> <td>28,484点</td> <td>33,203点</td> <td>6,136人</td> </tr> <tr> <td>久美浜図書室</td> <td>26,925点</td> <td>49,442点</td> <td>9,168人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>307,421点</td> <td>357,253点</td> <td>63,368人</td> </tr> </tbody> </table> ※市民1人あたりの年間貸出回数：5.51冊 成果・課題 ○市内全域にサービスを行い読書推進を図ることができた。 ○コロナ禍の中、出来る範囲での活動を実施し、昨年度に比べ利用が増加した。 ○ブックスタート事業の再開、Wi-Fi接続サービスの開始、図書除菌機の設置、雑誌スポンサー制度の導入、野村克也図書コーナーの開設等、新たな取組を実施することができた。 ○未利用者等への図書館活動の周知、サービスの充実にも努めるなどし、利用拡大を図る必要がある。 | | | | 区分 | 蔵書数（年度末時点） | 年間貸出点数 | 年間貸出者数 | 峰山図書館 | 83,449点 | 74,076点 | 12,166人 | あみの図書館 | 104,810点 | 103,907点 | 19,082人 | 大宮図書室 | 36,951点 | 63,452点 | 10,305人 | 丹後図書室 | 26,802点 | 33,173点 | 6,511人 | 弥栄図書室 | 28,484点 | 33,203点 | 6,136人 | 久美浜図書室 | 26,925点 | 49,442点 | 9,168人 | 合計 | 307,421点 | 357,253点 |
| 区分 | 蔵書数（年度末時点） | 年間貸出点数 | 年間貸出者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 峰山図書館 | 83,449点 | 74,076点 | 12,166人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| あみの図書館 | 104,810点 | 103,907点 | 19,082人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大宮図書室 | 36,951点 | 63,452点 | 10,305人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後図書室 | 26,802点 | 33,173点 | 6,511人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 弥栄図書室 | 28,484点 | 33,203点 | 6,136人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 久美浜図書室 | 26,925点 | 49,442点 | 9,168人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 307,421点 | 357,253点 | 63,368人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|---------------|---------|--|------|-----------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 3,342千円 | 3,381千円 | 39千円 | 98.8% | | |
| | 目 | 01 社会教育総務費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| | 事業 | 50 社会教育総務一般経費 | | | | 3,321千円 | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | |
| 目的 | 会計年度任用職員を配置し社会教育事業を円滑に実施するほか、女性教育活動団体に対し活動支援の補助金を交付し生涯学習の振興を図る。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○会計年度任用職員任用経費（社会教育指導員1人） （配置先：生涯学習課） | | 2,967千円 | | | | | |
| | ・報酬 | | 2,012千円 | | | | | |
| | ・職員手当 | | 399千円 | | | | | |
| ・共済費 | | 392千円 | | | | | | |
| ・旅費 | | 164千円 | | | | | | |
| ○事務費（消耗品費） | | 14千円 | | | | | | |
| ○京丹後市連合婦人会活動補助金 活動内容：講演会、各種ボランティア、管外研修 ほか | | 361千円 | | | | | | |
| | | | 成果・課題 | ○社会教育指導員の配置により、各種社会教育事業を円滑に進めることができた。 ○市連合婦人会の活動を支援することにより、女性の自主的な学習活動、ボランティア活動等の推進に寄与した。 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------------|---|------------|--------|---|------|-----------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 181千円 | 249千円 | 68千円 | 72.6% | | |
| | 目 | 02 社会教育推進費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| | 事業 | 06 人権教育事業 | | | | 249千円 | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | |
| 目的 | あらゆる人権問題について正しく理解し、認識を深めるための学習機会を提供するなど、人権教育を推進することにより、人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <人権学習> ・人権教育研究京丹後市大会（R3.8.18） 参加者：329人 講演「人権・同和問題の解決をめざして…」 講師 関西外国語大学 明石一朗 教授 （会場：京都府丹後文化会館） ・夏休み子ども映画会（R3.8.8） 参加者：300人（3会場） 映画「すみっコぐらし とびだす絵本とひみつのコ」の上映 （会場：丹後地域公民館、アグリセンター大宮、アミティ丹後） | | 50千円 | | | | | |
| | ○講師謝金 | | 2千円 | | | | | |
| | ○通信運搬費（Wi-Fi使用料） | | 90千円 | | | | | |
| ○使用料（京都府丹後文化会館） | | 5千円 | | | | | | |
| ○需用費（消耗品費） | | 13千円 | | | | | | |
| ○その他経費（消耗品費） | | | 成果・課題 | ○人権教育研究京丹後市大会、障害者交流研修会や夏休み子ども映画会を開催することにより、障害者の社会参加の促進や、人権学習の機会を提供することができた。 ○人権を尊重する心を身につけ、日常生活の中で無意識に実践できるよう、啓発活動だけでなく学習活動を充実させることが必要である。 | | | | |
| | | | 国補 | 障害者地域生活支援事業費補助金（1/2） 6千円 | | | | |
| | | | 府補 | 障害者地域生活支援事業費補助金（1/4） 3千円 | | | | |
| | | | 府補 | 人権問題啓発事業費補助金 72千円 | | | | |
| | | | | ○委託料（マイクロバス運転委託料） 16千円 | | | | |
| | | | | ○需用費（燃料費、消耗品費） 5千円 | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|---|--|---------|-----------------|-----------|---|----------|----|------|--------|-----|-----|--------|-----------|-----|------|--------|----|----|----|-----|------|-----|----|----|----|------|--------|
| | 項 | 04 社会教育費 | 5,526千円 | 5,692千円 | 166千円 | 97.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 03 公民館費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 03 地区公民館管理運営事業 | | | | 5,692千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | 諸収入 | 網野、新庄公民館光熱水費負担金 | 213千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 地域住民の身近な生涯学習・地域活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○地区公民館施設管理費 ・地区公民館施設管理委託料（1館分） 480千円 ・地区公民館火災保険料等補助金（7館分） 1,830千円 ・新庄地区公民館屋根工事委託料 1,048千円 ・その他地区公民館管理経費（9館分） 2,168千円 報償費（地区公民館管理謝金） 936千円 需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕費） 1,116千円 役務費（通信運搬費、し尿汲み取り手数料、火災保険料） 48千円 委託料（消防設備等保守点検委託料、防火対象物定期点検報告業務委託料） 26千円 使用料及び賃借料（ガス警報器使用料） 3千円 備品購入費（消火器6本） 39千円 | | <利用状況> ・網野地区公民館 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>利用回数</th> <th>延べ利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大広間</td> <td>45回</td> <td>1,073人</td> </tr> <tr> <td>大会議室・小会議室</td> <td>61回</td> <td>873人</td> </tr> <tr> <td>公民館会議室</td> <td>1回</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>和室</td> <td>22回</td> <td>132人</td> </tr> <tr> <td>調理室</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>129回</td> <td>2,084人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 区分 | 利用回数 | 延べ利用者数 | 大広間 | 45回 | 1,073人 | 大会議室・小会議室 | 61回 | 873人 | 公民館会議室 | 1回 | 6人 | 和室 | 22回 | 132人 | 調理室 | 0回 | 0人 | 合計 | 129回 | 2,084人 |
| | 区分 | 利用回数 | 延べ利用者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大広間 | 45回 | 1,073人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大会議室・小会議室 | 61回 | 873人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公民館会議室 | 1回 | 6人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和室 | 22回 | 132人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調理室 | 0回 | 0人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 129回 | 2,084人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | | ○適正に維持管理を行うことにより、施設の機能、利用者の利便性を維持確保することができた。 ○網野地域には地区集会所の一部を公民館施設として占用しているものがある。この施設管理費について負担割合を設定し、補助金などにより支出しているが、他地域の地区公民館の現状を踏まえ、市負担の軽減・廃止に向けて調整を図る必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|--|---|-------------|---------------|-----------|---|----------|----|------|--------|--------|------|--------|--------|------|------|---------|------|--------|----|------|--------|
| | 項 | 04 社会教育費 | 9,137千円 | 9,270千円 | 133千円 | 98.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 06 社会教育施設費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 01 峰山いさなご施設管理運営事業 | | | | 9,500千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | 使用料 | 峰山林業総合センター使用料 | 56千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 林業の振興のほか、スポーツ及びレクリエーション活動による市民の健康づくり、生きがいつくりを推進し、市民福祉の向上を図る。 | | 使用料 | 峰山いさなご工房使用料 | 520千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○会計年度職員任用経費（3人） 6,346千円 ・報酬 4,492千円 ・職員手当等（期末手当） 910千円 ・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 864千円 ・費用弁償 80千円 ○管理運営経費 2,791千円 ・需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料） 2,201千円 ・役務費（通信運搬費、浄化槽法定検査手数料、火災保険料） 165千円 ・委託料（消防設備等保守点検委託料、浄化槽維持管理委託料） 305千円 ・使用料及び賃借料（テレビ放送受信料、機械器具借上料） 46千円 ・備品購入費（電話機1台、小型ドリル機1台） 74千円 | | <利用状況> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>利用回数</th> <th>延べ利用人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>林業センター</td> <td>188回</td> <td>1,219人</td> </tr> <tr> <td>いさなご工房</td> <td>264回</td> <td>666人</td> </tr> <tr> <td>いさなごコート</td> <td>262回</td> <td>4,183人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>714回</td> <td>6,068人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 区分 | 利用回数 | 延べ利用人数 | 林業センター | 188回 | 1,219人 | いさなご工房 | 264回 | 666人 | いさなごコート | 262回 | 4,183人 | 合計 | 714回 | 6,068人 |
| | 区分 | 利用回数 | 延べ利用人数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 林業センター | 188回 | 1,219人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| いさなご工房 | 264回 | 666人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| いさなごコート | 262回 | 4,183人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 714回 | 6,068人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | | ○適切な施設の管理及び賃し出し、木工・陶芸の指導、定期講座の実施などを通して、市民に学習と交流の機会を提供し、スポーツ・文化活動の振興、健康づくりの推進などに寄与することができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------------|-----------------------|--|-------|-----------------------|-----------------------------|-----|---------|--|------|--|--------|-----|------|-----|------|------|------|------|------|-----|--------|------------|--------|-----|--------|
| | 項 | 04 社会教育費 | 15,771千円 | 16,068千円 | 297千円 | 98.1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 06 社会教育施設費 | | | | (参考)当初予算額 18,309千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 02 マスタービルダ管理運営事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主 な 財 源 | 使用料 大宮ふれあい工房使用料 639千円 使用料 大宮ふれあい林'ツ広場使用料 17千円 諸収入 大宮ふれあい工房関係諸収入 5千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 大宮ふれあい工房（陶芸・染色体験等施設）、ふれあいスポーツ広場等を管理運営することで、市民の交流及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○会計年度任用職員任用経費（6人） ・報酬 7,770千円 ・職員手当 1,073千円 ・共済費 770千円 ・旅費 228千円 | | 9,841千円 | <利用状況> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">延べ利用者数等</th> </tr> <tr> <th>利用者数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">ふれあい工房</td> <td>展示室</td> <td>766人</td> </tr> <tr> <td>会議室</td> <td>777人</td> </tr> <tr> <td>陶芸体験</td> <td>343人</td> </tr> <tr> <td>染色体験</td> <td>275人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,767人</td> </tr> <tr> <td>ふれあいスポーツ広場</td> <td>3,949人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>7,877人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 区 分 | 延べ利用者数等 | | 利用者数 | | ふれあい工房 | 展示室 | 766人 | 会議室 | 777人 | 陶芸体験 | 343人 | 染色体験 | 275人 | その他 | 1,767人 | ふれあいスポーツ広場 | 3,949人 | 合 計 | 7,877人 |
| | 区 分 | 延べ利用者数等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 利用者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ふれあい工房 | 展示室 | 766人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 会議室 | 777人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 陶芸体験 | 343人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 染色体験 | 275人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | その他 | 1,767人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ふれあいスポーツ広場 | 3,949人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 7,877人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○施設維持管理経費 ・雑用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料等） ・役務費（通運運搬費、火災保険料） ・委託料（電気設備保安管理委託料、草刈委託料等） ・使用料及び賃借料（テレビ放送受信料、清掃用具借上料等） ・備品購入費（電気麻・消防ホース） | | 5,679千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○体験事業経費（材料代） | | 251千円 | 成 果 ・ 課 題 | ○陶芸、染色実習室、展示室、会議室、及びスポーツ広場の利用提供並びに各種講座及び教室を実施することで、市民の生きがいがづくり及び健康増進に寄与することができた。 ○委託から直営管理となり経費削減につながった。 ○施設の老朽化が進行する中、施設所有者である京都府等と、今後の適切な維持管理や運営の在り方を検討する必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 06 農林水産業費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------|-----------------------|---|-------|----------------------|-----------------------------|-----|------|------|---------|------|--------|--------|------|--------|----------|-----|--------|------------------|------|--------|---------|-----|------|-----|------|---------|
| | 項 | 01 農業費 | 6,631千円 | 7,027千円 | 396千円 | 94.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 農業総務費 | | | | (参考)当初予算額 7,027千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 03 P/Liタ-管理運営事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主 な 財 源 | 使用料 P/Liタ-使用料 431千円 諸収入 P/Liタ-使用料光熱水費等負担金 75千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 施設の維持管理及び運営を行い、農業・農村の活性化及び地域住民の福祉・健康増進に寄与する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 地域農林業の振興、生涯学習活動の推進及び地域福祉の増進を図れるよう、施設の維持管理を行った。 | | | <利用状況> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>利用回数</th> <th>利用人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業技術研修室</td> <td>151回</td> <td>1,244人</td> </tr> <tr> <td>視聴覚教育室</td> <td>215回</td> <td>2,514人</td> </tr> <tr> <td>地域活性化教育室</td> <td>86回</td> <td>4,958人</td> </tr> <tr> <td>多目的ホール（エントランス含む）</td> <td>149回</td> <td>7,156人</td> </tr> <tr> <td>調理加工実習室</td> <td>17回</td> <td>138人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>618回</td> <td>16,010人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 区 分 | 利用回数 | 利用人数 | 農業技術研修室 | 151回 | 1,244人 | 視聴覚教育室 | 215回 | 2,514人 | 地域活性化教育室 | 86回 | 4,958人 | 多目的ホール（エントランス含む） | 149回 | 7,156人 | 調理加工実習室 | 17回 | 138人 | 合 計 | 618回 | 16,010人 |
| | 区 分 | 利用回数 | 利用人数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 農業技術研修室 | 151回 | 1,244人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 視聴覚教育室 | 215回 | 2,514人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域活性化教育室 | 86回 | 4,958人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 多目的ホール（エントランス含む） | 149回 | 7,156人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調理加工実習室 | 17回 | 138人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 618回 | 16,010人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○施設管理委託 施設清掃、休日・夜間管理、舞台吊物機構保守点検、移動観覧席保守点検 空調設備保守点検、自動ドア保守点検、防虫管理、消防設備点検、特殊建 築物点検、グリストラップ汚泥処理 | | 2,818千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○施設修繕料 移動観覧席脱着式手すり軽量化、非常灯 | | 1,910千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○光熱水費 電気、水道、下水道、ガス、灯油 | | 1,670千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○備品購入費 消火器（7本） | | 50千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○事務費 消耗品、申請書印刷、テレビ受信料、火災保険料 | | 183千円 | 成 果 ・ 課 題 | ○新型コロナウイルス感染予防のため、一部施設の使用制限を行ったが、農林業の振興にかかる研修会・講演会をはじめ、生涯学習や福祉など幅広い分野で施設活用ができた。 ○築後20年以上が経過する中で、設備や機材の老朽化が目立つため、計画的な修繕を実施するなど、適切な施設管理を行う必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-----------------|---------|---------|---------------------|--|-------|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 1,173千円 | 1,205千円 | 32千円 | 97.3% | | |
| | 目 | 06 社会教育施設費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 生涯学習課 |
| | 事業 | 03 たちばな会館管理運営事業 | 1,205千円 | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | 諸収入 たちばな会館管理光熱水費負担金 | | 291千円 | |
| 目的 | 橋地区における生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○施設維持管理費 | | 1,173千円 | | | | | |
| | ・需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕費） | | 617千円 | | | | | |
| | ・役務費（通信運搬費、火災保険料） | | 67千円 | | | | | |
| | ・委託料（施設管理委託料、消防設備等保守点検委託料） | | 489千円 | | | | | |
| <利用状況> | | | | | | | | |
| 区分 | | 利用回数 | | 延べ利用者数 | | | | |
| 会議室 | | 34回 | | 212人 | | | | |
| 大会議室 | | 17回 | | 163人 | | | | |
| 料理実習室 | | 4回 | | 12人 | | | | |
| 和室1 | | 101回 | | 390人 | | | | |
| 和室2 | | | | | | | | |
| 多目的ホール | | 160回 | | 1,376人 | | | | |
| 合計 | | 316回 | | 2,153人 | | | | |
| | | | | 成果・課題 | | ○地域の学習活動及びコミュニティ活動の拠点施設として適正に維持管理することで、施設を活用した効果的な地域活動を促進することができた。○かねてより検討している施設の管理方法などの見直しについては、引き続き、地元の意向を聞きながら、検討を進めていく必要がある。 | | |

| | | | | | | | | |
|---------------------|--|-----------------|---------|---------|--------|--|------|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 1,216千円 | 1,257千円 | 41千円 | 96.7% | | |
| | 目 | 06 社会教育施設費 | | | | (参考)当初予算額 | 課 | 生涯学習課 |
| | 事業 | 04 網野教育会館管理運営事業 | 1,257千円 | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | |
| 目的 | 教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○施設維持管理費 | | 1,216千円 | | <利用状況> | | | |
| | ・需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料） | | 487千円 | | 区分 | | 利用回数 | |
| | ・役務費（通信運搬費、火災保険料等） | | 48千円 | | 1階和室 | | 78回 | |
| | ・委託料（施設管理委託料、浄化槽維持管理委託料、消防設備等保守点検委託料、防火対象物定期点検報告業務委託料） | | 647千円 | | 料理実習室 | | 0回 | |
| ・使用料及び賃借料（テレビ放送受償料） | | 14千円 | | 講義室 | | 55回 | | |
| ・備品購入費（消火器3本） | | 20千円 | | 2階和室 | | 0回 | | |
| | | | | 大ホール | | 155回 | | |
| | | | | 全館 | | 6回 | | |
| | | | | 合計 | | 294回 | | |
| | | | | | | 3,086人 | | |
| | | | | 成果・課題 | | ○人権学習や地域の拠点施設として適正に維持管理することで、施設を活用した効果的な学習及び地域活動を促進することができた。○かねてより検討している施設の管理方法などの見直しについては、引き続き、地元の意向を聞きながら、検討を進めていく必要がある。 | | |

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

| | |
|--------|-------|
| 担当課 | 担当課長 |
| 文化財保護課 | 新谷 勝行 |
| 生涯学習課 | 安達 純 |

| | |
|-------|---|
| 重点目標 | 6 歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます |
| 基本的方針 | 学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。 |

1. 施策の方向性

PLAN

| | |
|-----------------------|--|
| 1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実 | ①京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ②子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。 |
| 2. 地域の文化財の総合的な保存と活用 | ①市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ②京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画を策定し、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。 |
| 3. 資料館施設等の整備充実 | ①市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ②児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④資料館施設の整備充実を図り、市内の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。 |
| 4. 文化芸術活動の推進 | ①文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ②市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。 |

【参考】施策に関連するその他の計画

| 計画名称 | 計画概要 | 策定年月 | 計画期間 | 備考 |
|------------------|--|----------|---------------|---------------------|
| 第2次京丹後市総合計画 | 市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」 | 平成27年3月 | 平成27年度～令和6年度 | |
| 京丹後市文化財マスタープラン | 市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの | 平成18年10月 | 計画期間の定めなし | |
| 国史跡網野銚子山古墳整備基本計画 | 「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元の立場からの検討を加えて基本計画を策定した | 平成23年3月 | 当面の計画として概ね6年間 | 当面整備計画として概ね6年の計画も策定 |

| 2. 主な取組と構成事業一覧 | | PLAN | DO | ※各事業の成果: 課題については、別紙決算附属資料参照 | | | CHECK | ACT |
|--|-------------------|--------|--------|-----------------------------|---------------|--|--------|-------|
| 1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実 | | | | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 |
| 主な取組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | | | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | | | |
| ① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 | | | | | | | | |
| ② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 | | | | | | | | |
| ③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。 | | | | | | | | |
| 1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実 | | | | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 |
| 主な取組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | | | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | | | |
| | 文化財保護啓発事業 | 文化財保護課 | | | | | 統合(整理) | |
| 市内に数多く残されている文化財や調査成果などを市民などに公開することで郷土の歴史や文化財について学ぶことのできる機会を提供し、その認識を高める。 | | | | | | | | |
| 2. 地域の文化財の総合的な保存と活用 | | | | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 |
| 主な取組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | | | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | | | |
| ① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 | | | | | | | | |
| ② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 | | | | | | | | |
| ③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 | | | | | | | | |
| ④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画を策定し、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。 | | | | | | | | |
| 1 | 市指定文化財等補助金 | 文化財保護課 | 2,000 | - | - | | 統合(整理) | |
| 文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。 | | | | | | | | |
| 2 | 史跡等維持管理事業 | 文化財保護課 | 1,781 | - | - | | 統合(整理) | |
| 指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。 | | | | | | | | |
| 3 | 指定文化財等管理事業 | 文化財保護課 | - | 4,546 | 6,621 | | 統合(整理) | |
| 文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。また、指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。 | | | | | | | | |
| 4 | 遺跡整備事業 | 文化財保護課 | 31,235 | 46,150 | 49,293 | | 拡大 | |
| 丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。 | | | | | | | | |
| 5 | 遺跡発掘調査等事業 | 文化財保護課 | 4,213 | 6,606 | 5,150 | | 拡大 | |
| 発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。 | | | | | | | | |
| 6 | 地域文化財総合活用推進事業 | 文化財保護課 | - | 6,565 | 5,633 | | 現状維持 | |
| 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。 | | | | | | | | |
| 7 | 地域文化財総合活用推進事業【繰越】 | 文化財保護課 | - | - | 692 | | | |
| 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。 | | | | | | | | |
| 3. 資料館施設等の整備充実 | | | | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 |
| 主な取組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | | | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | | | |
| ① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 | | | | | | | | |
| ② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 | | | | | | | | |
| ③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 | | | | | | | | |
| ④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。 | | | | | | | | |
| 8 | 郷土資料館管理運営事業 | 文化財保護課 | 2,719 | 29,484 | 2,696 | | 現状維持 | |
| 民俗資料等の収集、調査並びに公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。 | | | | | | | | |
| 9 | 古代の里資料館管理運営事業 | 文化財保護課 | 49,994 | 11,412 | 13,780 | | 現状維持 | |
| 考古資料・美術工芸品等の収集・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。 | | | | | | | | |

| 3. 資料館施設等の整備充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|---|--|------------|---------|---------|---------------|---------------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 10 | 資料館等指定管理施設運営事業 琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。 | 文化財保護課 | 8,562 | 8,977 | 8,586 | 現状維持 |
| 4. 文化芸術活動の推進 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 | | | | | | |
| ② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。 | | | | | | |
| 11 | 文化芸術事業 市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送ることができるよう文化芸術活動を支援し、ゆとりと潤いのある社会づくりを推進する。また、文化芸術振興審議会を設置し、文化芸術振興計画の策定に向け、調査・審議する。 | 生涯学習課 | 34,410 | 35,645 | 34,428 | 現状維持 |
| 上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 |
| 12 | 文化財保護審議会委員設置事業 文化財の指定解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。 | 文化財保護課 | 225 | 171 | 269 | 現状維持 |
| 13 | 文化財保護一般経費 文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。 | 文化財保護課 | 308 | 216 | 357 | 現状維持 |
| 計 | | | 135,447 | 149,772 | 127,505 | |

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

| 基本的方針 | 学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。 | | | | | | | | |
|--------|---|----|---------------------|-----|---------|----|--------|----|--|
| | 目標指標 | 単位 | 計画作成時 | | 実績値(現状) | | 目標値 | | |
| 主な目標指標 | | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | |
| | 文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数 | 人 | 1,468 (5事業、17講座) | H25 | 262 | R3 | 1,700 | R6 | |
| | 資料館、文化館入館者数 | 人 | 13,808 (3施設) | H25 | 8,237 | R3 | 18,000 | R6 | |
| | 史跡整備 | 遺跡 | 6 | H25 | 7 | R3 | 8 | R6 | |
| | 京丹後史博士の認定者数 | 人 | - | | 66 | R3 | 120 | R6 | |
| | 文化協会加盟サークル数 | 団体 | 170 | H25 | 135 | R3 | 200 | R6 | |
| | 文化芸術事業の開催回数 | 回 | - | R1 | 48 | R3 | 100 | R6 | |
| | 京都府丹後文化会館利用者数 | 人 | - | R1 | 9,738 | R3 | 42,000 | R6 | |

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本の方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------------|----|---|
| ◎ 予定以上に進んでいる | | <p>《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》 新型コロナウイルス感染症の関係で、京丹後史博士育成講座は休止し、京丹後市文化財セミナーは1回開催した(85名)。このほか、外部からの出前講座等の対応を行った(14回、262名)。 今後は、対策を講じながら、セミナーや講座を通常通り開催し、目標値に近づけるようにしたい。</p> <p>《資料館、文化館入館者数》 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により、丹後古代の里資料館・郷土資料館・鳴き砂文化館は令和3年4月25日から5月31日までおよび8月27日から9月17日までを臨時休館とした。臨時休館および学校関係の利用が激減したため、前年度実績と比べ入館者が半減した。 今後は、各館ともに対策を講じながら開館、事業実施を行い、集客増につなげていきたい。</p> <p>《史跡整備》 網野銚子山古墳整備事業は、京丹後市史跡整備検討委員会の指導を得ながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、平成30年度より整備工事を進めている。 令和3年度は、検討委員会の指導を得ながら墳丘樹木の整理伐採、前方部の墳丘復元、周濠整備を行った。令和4年度以降も引き続き、環境整備事業を進め、令和6年度には完成予定である。</p> <p>▲ 《京丹後史博士の認定者数》 令和3年度は講座の開催を見合わせたため、認定者数に変化がなかった。4年度は開催を予定している。</p> <p>《文化協会加盟サークル数》 新型コロナウイルス感染拡大及び高齢化のため多くの団体が脱退した、目標を各年度ごとに、△10団体下方修正する。各加盟団体が実施の教室や大会、市協会が実施の総合文化祭、サークル体験会を通じて、市民へ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援していく。</p> <p>《文化芸術事業の開催回数》 各地区文化祭、各町文化祭、文化協会総合作品展、小さな発表会、サークル体験会、団体PR、アーティスト・イン・レジデンス事業を実施した。</p> <p>《京都府丹後文化会館利用者数》 新型コロナウイルス感染症対策で貸館が少なく、また、収容人数を減らして事業を実施する場合も多い。ホールの利用日数は72日とコロナ以前の約50%にとどまる。自主事業開催にあたっては近隣市町と連携し丹後地域全体での利用拡大計画を立てる必要がある。</p> |
| ○ 予定どおり進んでいる | | |
| ▲ 少し遅れている | | |
| × 大幅に遅れている | | |

5. 今後の施策展開の考え方(令和4年～令和6年度での主な取組)

ACT

| 区分 | No. | 具体的内容 |
|----------|-----|---|
| 施策展開の考え方 | 1 | 京丹後市文化財保存活用地域計画の策定を進めるとともに、庁内や関係団体との連携を図り、多面的な文化財の保存・活用を進める。また文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応も行い、学習する機会の充実を図る。 |
| | 2 | 網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の補修、園路整備、周濠整備のほか、進入道路、駐車場等の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の前方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。 |
| | 3 | 丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。 |

| | | | | | | | |
|-------------|--|-----------|--|---------|-------|-----------|---------------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 4,546千円 | 4,771千円 | 225千円 | 95.2% | |
| | 目 | 07 文化財保護費 | | | | (参考)当初予算額 | |
| 事業 | 02 指定文化財等管理事業 | 4,052千円 | 課 文化財保護課 | | | | |
| 基本計画 | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | 主な財源 | | | | |
| 目的 | 文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。また、指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。 | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○京丹後市指定文化財等補助金 21件 2,389千円 (内訳)・国、府指定登録文化財補助金該当 11件 1,509千円 ・京都府社寺等文化資料保全補助金該当 10件 880千円 (京丹後市指定文化財及び未指定文化財のうち補助要件を満たすもの) 神社・寺院建物の修理、覆屋・収蔵庫の修理、民俗芸能の道具の修理・新調、史跡の修理などを支援。 ※参考 令和2年度実績 補助件数 28件 補助金額 2,000千円 事業総額 22,550千円 | | ○コウノトリモニタリング事業 784千円 国指定特別天然記念物・コウノトリが市内3か所で営巣したため、モニタリング監視員を置き、観察・記録を行うとともに、巣周辺の立ち入り制限などの保護活動を行った。(期間:令和3年4月1日~6月28日) ○指定文化財看板等修繕 288千円 ・説明板、案内看板等修繕・設置工事費 285千円 (しわ覆・越水・禿布神社・黒部鏡子山古墳・奈良岡遺跡看板等) ・看板土地借上料(3か所) 3千円 ○指定文化財関連施設管理経費 72千円 ・郷村断層、丹後震災記念館等の指定文化財施設の維持管理経費 45千円 ・火災保険料(旧口大野村役場庁舎、郷村断層、浜詰遺跡復元住居) 27千円 | | | | |
| | ○史跡等草刈・環境美化委託 1,013千円 神明山古墳、函石浜遺跡、赤坂今井墳墓、産土山古墳、郷村断層、旧口大野村役場庁舎、湯舟坂2号墳、竹野神社環境保全地区、高山12号墳、遠慮遺跡、黒部鏡子山古墳、震災記念館用地、大谷古墳、浜詰遺跡、細川ガラシャ夫人隠棲地、岡1号墳 計16件 | | 成果・課題 ○市内に数多く残る文化財の保全のために、修理等への補助金を交付し、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。 ○コウノトリの営巣に伴い必要な保護活動を行い、コウノトリの個体保護に寄与することができた。 ○史跡や周辺施設等の環境整備を行うことにより、文化財の保全が図られ、文化財見学等の利用促進につながった。また、文化財案内看板等の計画的な整備につとめ、来訪者の利便性向上と文化財の保護啓発を図る必要がある。 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|-----------|--|----------|---|-----------|---------------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 46,150千円 | 46,332千円 | 182千円 | 99.6% | |
| | 目 | 07 文化財保護費 | | | | (参考)当初予算額 | |
| 事業 | 03 遺跡整備事業 | 46,332千円 | 課 文化財保護課 | | | | |
| 基本計画 | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | 主な財源 | | 国補 国宝重要文化財等保存・活用事業補助金(1/2) 22,617千円 市債 遺跡整備事業債(過疎対策債) 21,900千円 | | |
| 目的 | 丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。 | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 国史跡網野鏡子山古墳について、平成23年度に策定した整備基本計画に基づき、史跡の保存を図りつつ整備工事を行った。整備工事は、条例に基づき設置した京丹後市史跡整備検討委員会、文化庁等関係機関の指導を受け実施した。(令和6年度完成予定) また、国史跡神明山古墳について、墳丘の保全を阻害する樹木の整理伐採及び園路階段の補修を行った。 | | ○神明山古墳環境整備事業費 3,250千円 ・委託料 環境整備業務設計監理委託料 308千円 雑木伐採委託料 2,006千円 ・工事請負費 作業道撤出路階段改修工事 936千円 古墳墳丘上の危険木・支障木伐採19本分、木製階段・手摺取替工事23段分 | | | | |
| | ○網野鏡子山古墳整備事業費 42,900千円 ・報酬 史跡整備検討委員会委員報酬 48千円 (1回開催、委員12人) ・旅費 史跡整備検討委員会委員参集旅費等 184千円 ・需用費 消耗品費 85千円 ・委託料 実施設計委託料 2,970千円 工事監理委託料 1,485千円 維持管理草刈委託料 703千円 ・工事請負費 環境整備工事費 37,425千円 墳丘部の整理伐採69本、墳丘前部の墳丘復元盛土工574㎡、周溝表示工(新設)1430㎡・表面舗装1571㎡等。 | | 成果・課題 ○網野鏡子山古墳については、史跡整備検討委員会の指導を受け、古墳の保存・活用を図るための環境整備工事の一部を遂行できた。 ○神明山古墳については、墳丘の危険木等を伐採し、適切な維持管理を図るとともに、後内部墳丘上からの眺望を確保し、環境整備と活用に資することができた。 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--------------|---------|--|---|---------|-----|------|----------------------|---|----------|--------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 6,606千円 | 最終予算額 | 6,641千円 | 不用額 | 35千円 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
| | 項 | 04 社会教育費 | | | | | | | 99.4% | | 課 | 文化財保護課 |
| | 目 | 07 文化財保護費 | | | | | | | (参考)当初予算額 | | | |
| | 事業 | 04 遺跡発掘調査等事業 | | | | | | | 6,641千円 | | | |
| 基本計画 | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | 国補 | 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(1/2) | | 3,300千円 | | 府補 | 埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金(1/4) | | 1,650千円 | |
| 目的 | 発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。 | | 主な財源 | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 浜詰遺跡(網野町浜詰)、東風ヶ奥遺跡(大宮町河辺)の発掘調査を実施し、報告書を刊行した。また、網野銚子山古墳(網野町網野)発掘調査の報告書刊行に向け、整理作業を行った。 | | <調査概要> | | | | | | | | | |
| | ○会計年度任用職員任用経費 (発掘調査補助員・整理員・作業員9人) | | 3,945千円 | | ・浜詰遺跡(現地調査 令和3年5月6日~31日) 府営住宅跡地の分譲計画に先立ち、範囲確認調査を行い、周辺の旧地形の復元を考えるデータを得ることができた。また、令和2年度調査で見つかった貝塚から出土した縄文土器・石器・貝類・骨類の整理作業を行った。 | | | | | | | |
| | ・報酬 | | 3,591千円 | | ・東風ヶ奥遺跡(現地調査 令和3年6月29日~7月30日) 専地造成計画に先立ち、範囲確認調査を実施し、弥生時代~古墳時代の土器を確認した。 | | | | | | | |
| | ・報酬期末手当 | | 132千円 | | ・網野銚子山古墳(整理作業のみ) 平成28年度~31年度に実施した発掘調査出土遺物の整理や、遺構のデジタル化、赤色立体図の作成を行った。(令和5年度報告書発刊予定) | | | | | | | |
| ・共済費(労災保険料、雇用保険料) | | 23千円 | | 成果・課題 ○浜詰遺跡の調査では、当時の土地利用や植生等、海辺の縄文人の暮らしを知る上で貴重な成果を確認できた。 ○東風ヶ奥遺跡の調査では、土地利用や遺物の散布状況を確認できた。 ○網野銚子山古墳では、遺物の整理や遺構のデジタル化等を進め、報告書発刊の準備を進めることができた。 | | | | | | | | |
| ・費用弁償 | | 199千円 | | | | | | | | | | |
| ○発掘調査等経費 | | 2,661千円 | | | | | | | | | | |
| ・旅費(協議) | | 11千円 | | | | | | | | | | |
| ・需用費(消耗品、発電機燃料代、印刷製本費等) | | 395千円 | | | | | | | | | | |
| ・役務費(し尿汲取手数料) | | 4千円 | | | | | | | | | | |
| ・委託料(網野銚子山古墳に関する遺構図面作成・赤色立体地図等作成委託料) | | 1,864千円 | | | | | | | | | | |
| ・使用賃借料(重機・機械器具・仮設トイレ借上料) | | 387千円 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|------------------|------------|--|--|---------|-----|-------|-----------|---|----------|--------|----------------|---------|--|-----------|-------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 6,565千円 | 最終予算額 | 7,275千円 | 不用額 | 710千円 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | |
| | 項 | 04 社会教育費 | | | | | | | 90.2% | | 課 | 文化財保護課 | | | | | |
| | 目 | 07 文化財保護費 | | | | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | |
| | 事業 | 05 地域文化財総合活用推進事業 | | | | | | | 6,174千円 | | | | | | | | |
| 基本計画 | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | 国補 | 文化芸術振興費補助金 | | 6,539千円 | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 文化財関係者および、商工・観光関係者等が参画した策定協議会及び保存・活用分科会を設置し、文化財保存活用地域計画の作成を進めた。 | | ○事務経費 33千円 | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○文化財保存活用地域計画策定協議会開催経費(委員15人) | | 163千円 | | ・消耗品費、地区アンケート返信用切手代 (地区アンケート…神社・寺院・祭行事の意識調査とともに、民俗行事の現状把握、地域資源の掘り起こしを行ったもの。) | | | | | | | | | | | | |
| | ・協議会委員謝金 半日×2回 (4,000円×延べ26人) | | 104千円 | | <table border="1"> <tr> <td>参考</td> <td>繰越明許費を除いた最終予算額</td> <td>6,583千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実質的な予算執行率</td> <td>99.7%</td> </tr> </table> | | | | | | | 参考 | 繰越明許費を除いた最終予算額 | 6,583千円 | | 実質的な予算執行率 | 99.7% |
| | 参考 | 繰越明許費を除いた最終予算額 | 6,583千円 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実質的な予算執行率 | 99.7% | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・委員費用弁償 | | 59千円 | | ■令和4年度への繰越事業 692千円 | | | | | | | | | | | | | |
| ○地域計画策定協議会保存分科会開催経費(委員3人) | | 85千円 | | 京丹後市文化財保存活用地域計画策定業務 令和4年12月完了予定 | | | | | | | | | | | | | |
| ・分科会委員謝金 半日×2回 (4,000円×6人) | | 24千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・協議旅費 | | 61千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○地域計画策定協議会活用分科会開催経費(委員7人) | | 57千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・分科会委員謝金 半日×2回 (4,000円×12人) | | 48千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・委員費用弁償 | | 9千円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○計画策定委託料 | | 6,227千円 | | 成果・課題 ○協議会及び分科会を設置し、委員の意見を聞きながら、計画作成を進めた。(令和4年12月文化庁認定予定) ○計画策定後、本計画を実行・推進していくための枠組みや体制づくりが重要な課題である。 | | | | | | | | | | | | | |
| ・文化財保存活用地域計画策定支援委託料 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|--|----------|------------------|----------------------------|--|-----------------------|------------------------------|--|
| 予備科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 文化財保護課 | |
| | 項 | 04 社会教育費 | 29,484千円 | 29,866千円 | 382千円 | 98.7% | | |
| | 目 | 05 資料館費 | | | | (参考)当初予算額 30,773千円 | | |
| 事業 | 01 郷土資料館管理運営事業 | | | | | | | |
| 基本計画 | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | 主 な 財 源 | 使用料 郷土資料館入館料 1,920千円 | 市債 旧社会教育施設解体事業債(公共施設等適正管理推進債) 23,700千円 | | | |
| 目的 | 民俗資料等の収蔵、調査並びに公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>豊富に残る市所蔵の民俗資料、古文書・典籍・墨箱等の適切な保管・公開を行った。また旧網野郷土資料館解体工事を実施した。</p> <p>○会計年度任用職員任用経費(資料館業務員1人) 730千円 ・報酬、費用弁償、労災保険料</p> <p>○維持管理費 2,056千円 ・維持管理経費(燃料、光熱水費、修繕、通信費等) 1,452千円 ・施設保守管理経費(貯水槽、浄化槽、消防設備) 160千円 ・施設整備委託料 83千円 ・使用費借料(コピー機借上料、テレビ受信料) 161千円 ・その他事務経費(消耗品、ごみ処理手数料) 200千円</p> <p>○郷土資料館展示室エアコン取付工事 86千円</p> <p>○旧網野郷土資料館解体工事 26,612千円 ・工事請負費(施設除却) 25,439千円 ・工事監理委託料 1,100千円 ・処理手数料(廃消火器、鉄屑等) 73千円</p> | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

【企画展示】

| 期 間 | タイトル | 入館者数 |
|-----------------|--------------|------|
| R3.7.24~R3.8.31 | 企画展示「昔のおもちゃ」 | 147人 |

【入館者数・推移】

| H30 | R元 | R2 | R3 |
|--------|------|-----|------|
| 1,684人 | 822人 | 75人 | 215人 |

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4/25~5/31及び8/27~9/17を臨時休館としたこと、市内小学校利用がなかったことから入館者数は大きく回復しなかった。

成果・課題
○民俗資料・典籍等の公開並びに小学生を対象とした夏休み特別企画「昔のおもちゃ」展を実施するなど、文化財の普及啓発を図った。
○今後も安全・安心な来館者の受入に努めるとともに、常設展示の配置や展示資料の解説内容などを工夫、改善していくことが課題である。

| | | | | | | | |
|-------------|---|----------|------------------|----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 予備科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 文化財保護課 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 11,412千円 | 11,542千円 | 130千円 | 98.8% | |
| | 目 | 05 資料館費 | | | | (参考)当初予算額 11,541千円 | |
| 事業 | 02 古代の里資料館管理運営事業 | | | | | | |
| 基本計画 | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | 主 な 財 源 | 使用料 古代の里資料館入館料 340千円 | 諸収入 古代の里資料館陶芸教室実習料 93千円 | 諸収入 古代の里資料館書籍販売代金 129千円 | |
| 目的 | 考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関する住民の関心を高める。 | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>考古資料・美術工芸品を適切に保管・公開し、文化財の保護、普及啓発を図った。</p> <p>○会計年度任用職員任用経費(資料館業務員4人) 3,384千円 ・報酬、期末手当、共済費、費用弁償</p> <p>○維持管理、展示等に関する経費 3,028千円 ・維持管理経費(燃料、光熱水費、修繕、通信費、火災保険) 1,630千円 ・施設保守管理経費(電気設備、浄化槽、消防設備) 389千円 ・施設整備委託料 86千円 ・使用料及び賃借料(コピー機、清掃用具、土地借上げ等) 462千円 ・その他事務経費(消耗品、ごみ処理手数料) 280千円 ・展示関係経費(展示パネル印刷、旅費、有料道路通行料等) 181千円</p> | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

【企画展示】

| 期 間 | タイトル | 入館者数 |
|------------------|---------------------|------|
| R3.4.24~R3.8.1 | 春季企画展示「地域の中の湯舟坂2号墳」 | 437人 |
| R3.10.2~R3.12.26 | 秋季企画展示「永浜宇平の生涯」 | 555人 |
| R3.4.219~R4.4.10 | 企画展示「丹後震災の記憶」 | 282人 |

【入館者数・推移】

| H30 | R元 | R2 | R3 |
|--------|--------|--------|--------|
| 3,259人 | 2,821人 | 1,380人 | 1,579人 |

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4/25~5/31及び8/27~9/17を臨時休館としたこと等の影響から、入館者数が微増するにとどまった。

成果・課題
○考古・歴史資料の公開により、文化財の普及啓発を図った。
○小中学校の地域学習施設として活用することで、市内小中学生に対して市内の歴史に関する知識を深め、関心を高めることができた。今後もより一層、小中学校の地域学習への活用を図っていく必要がある。
○開館から25年以上が経過しており、館内設備の計画的な更新等が今後の検討課題である。

| | | | | | | | | | |
|--|---|---|---------|---------|--------|---|---|----------|--|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
| | 項 | 04 社会教育費 | 8,977千円 | 9,165千円 | 188千円 | 97.9% | | | |
| | 目 | 05 資料館費 | | | | (参考)当初予算額 | | | |
| | 事業 | 03 資料館等指定管理施設運営事業 | | | | 8,587千円 | 課 | 文化財保護課 | |
| 基本計画 | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | 主な財源 | | | | | | |
| 目的 | 琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。 | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 鳴き砂や環境保全の学習施設として設置し、指定管理者制度により、琴引浜鳴き砂を守る会が管理運営を行った。環境学習のための教育施設であるとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する観光施設としても重要な拠点と位置付けている。 | | 7,299千円 | | | | | | |
| | ○琴引浜鳴き砂文化館指定管理委託料 | | 1,288千円 | | | | | | |
| ○使用料及び賃借料 公益財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料及び土地所有者への駐車場用地賃借料 | | 390千円 | | | | | | | |
| ○指定管理者休業協力金 臨時休館期間(4/25~5/23及び8/27~9/17) | | | | | | | | | |
| 【入館者数・推移】 | | | | | | | | | |
| | | H30 | R元 | R2 | R3 | | | | |
| | | 9,787人 | 9,520人 | 6,055人 | 6,443人 | | | | |
| | | ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4/25~5/31及び8/27~9/17を臨時休館とした影響から、入館者数が微増するにとどまった。 | | | | | | | |
| | | | | 成果・課題 | | ○各種視察受け入れやジオパーク関連事業、ガイド事業への支援・協力などを行い、京丹後市を代表する自然系の展示施設としての役割を果たした。 ○リピーターを含む市内外からの利用者獲得へ向け、展示内容のリニューアル等の検討を進めるほか、施設修繕を計画的に実施し、適正な管理運営に努める必要がある。 | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|---|------------|----------|---|---|-----------|---|----------|--|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | |
| | 項 | 04 社会教育費 | 35,645千円 | 35,858千円 | 213千円 | 99.4% | | | |
| | 目 | 02 社会教育推進費 | | | | (参考)当初予算額 | | | |
| | 事業 | 05 文化芸術事業 | | | | 34,976千円 | 課 | 生涯学習課 | |
| 基本計画 | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | 主な財源 | 府補 ぎょうと地域連携交付金(文化芸術事業) 2,256千円 | | | | | |
| 目的 | 市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送ることができるよう文化芸術活動を支援し、ゆとりと潤いのある社会づくりを推進する。 また、文化芸術振興審議会を設け、文化芸術振興計画の策定に向け、調査・審議する。 | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 文化芸術活動団体への支援を行い、市民が優れた文化芸術に触れる機会を提供し市民による文化芸術活動の充実に努めた。 | | 2,000千円 | | ○丹後文化芸術祭実行委員会補助金 1,300千円 舞台2事業、展示2事業、セミナー2事業を支援 | | | | |
| | ○京都: Re-Search実行委員会負担金 R3.10.1~11.7 網野町浅沢川地区、三津瀬港でアーティストの作品展を展示 | | 27,000千円 | | ○小町ろまん全国短歌大会開催補助金 7千円 募集期間: R3.7.1~9.10 大会開催: R3.11.27 ○田中彩子京丹後公演実行委員会補助金 1,000千円 R4.2.6 田中彩子ソプラノリサイタル 丹後文化会館 [文化芸術振興計画策定検討に関する経費] ○文化振興に関する意向アンケートの実施 399千円 市民の文化芸術活動や文化芸術に関する意向を把握するために、アンケート調査を実施。回答: 市民714人、高校生338人、団体116団体 | | | | |
| ○京丹後市文化協会活動費補助金 3,500千円 ・加盟団体135団体、1,825人 | | | | ○京丹後市文化芸術振興審議会 409千円 ・文化芸術振興審議会委員報酬、アドバイザー謝金ほか 委員13人、アドバイザー3人、審議会開催回数: 4回 | | | | | |
| 映画上映3回(計760人)、コンサート2回(計1,137人)などを開催 | | | | 成果・課題 | | | | | |
| ○京丹後文化のまちづくり推進事業補助金 30千円 開校になった学校の校歌保存事業(旧吉原小、旧五箇小)の実施を支援 | | | | ○幅広い世代が優れた文化を鑑賞できる機会の提供及び地域文化の普及・振興等を推進し、文化芸術活動の充実を図ることができた。 ○市民ニーズを的確に把握した事業の推進、文化協会等各団体の更なる自立運営に向けて支援していく必要がある。 ○文化芸術に関する施策を総合的、計画的に推進するため、京丹後市文化芸術振興計画策定に向け、文化芸術振興審議会を設け、審議を進めている。 | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|-----------------------|--------|-------|-------|--------------------------------------|------------------------------|
| 予備科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 文化財保護課 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 171千円 | 213千円 | 42千円 | 80.2% | |
| | 目 | 07 文化財保護費 | | | | (参考)当初予算額 213千円 | |
| 事業 | 01 文化財保護審議会委員設置事業 | | | | | | |
| 基本計画 | | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | | | | |
| 目的 | 文化財の指定解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。 | | 主な財源 | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○文化財保護審議会の開催経費 140千円 文化財指定、市指定文化財の管理、現状変更に関する事項や、文化財関係事業等を検討するため審議会を開催。(委員定数：10人) ・報酬 半日×2回(4千円×延べ19人) 125千円 1日×1回(7千円×7人) ・費用弁償 15千円 ○両丹文化財保護連絡協議会への参加経費 31千円 令和3年度は宮津市で開催(令和3年11月19日) ・報酬 協議会出席：半日×7人(4千円×7人) 28千円 ・費用弁償 3千円 | | | | | | |
| | | | | | 成果・課題 | 文化財関係事業について、審議会委員の意見を聞きながら進めることができた。 | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|-----------------------|--------|-------|-------|---|------------------------------|
| 予備科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 文化財保護課 |
| | 項 | 04 社会教育費 | 216千円 | 352千円 | 136千円 | 61.3% | |
| | 目 | 07 文化財保護費 | | | | (参考)当初予算額 352千円 | |
| 事業 | 50 文化財保護一般経費 | | | | | | |
| 基本計画 | | 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進 | | | | | |
| 目的 | 文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。 | | 主な財源 | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○文化財収蔵施設維持管理費(5カ所) 122千円 資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費 十楽収蔵庫(久美浜町十楽) 網野出土遺物収蔵庫(網野町網野) 旧成路分校(蜂山町網留) 旧三重保育所(大宮町三重) 高尾寮(丹後町上野) ・光熱水費、火災保険料、草刈委託料、事務費 122千円 ○文化財関係加盟団体経費 60千円 ・全国史跡整備市町村協議会 40千円 ・全国鳴き砂ネットワーク 20千円 ○会議出席経費 34千円 全国史跡整備市町村協議会臨時大会出席旅費 ・開催日：令和3年11月25日 ・内容：陳情活動 ・出席者：担当職員1人 | | | | | | |
| | | | | | 成果・課題 | 文化財保護事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保護と活用を図ることができた。 | |

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

| | |
|-------|-------|
| 担当課 | 担当課長 |
| 学校教育課 | 川村 義輝 |
| 生涯学習課 | 安達 純 |

| | |
|-------|--|
| 重点目標 | 7 たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツを推進します |
| 基本的方針 | 子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。 食育は、生きるうえでの基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるものであることから、子どもたちが、自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝、理解を深めるとともに「食」に関する適切な判断力を身に付けることを目指します。 |

1. 施策の方向性

PLAN

| | |
|-----------------|--|
| 1. 健康な体づくり | ①子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。 ②喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。 ③児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の教育活動全体を通じて一貫した体育指導を進めます。 ④学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用し、子どもの体力・運動能力の向上につながる取組みを進めます。 |
| 2. 食育の推進 | ①幼児、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を生きた教材として活用するとともに、横断的な食育指導の充実を図ります。 ②地域の伝統的な食文化への理解を深め、郷土に関心を寄せる心を育むため、給食の献立に地元食材や郷土食を積極的に取り入れます。 ③体験学習や調理実習等の活動を通じて、「食」への感謝の気持ちを育むため、家庭や地域、地元生産者等と連携した食育の取組みを一層推進します。 |
| 3. 地域スポーツ活動の推進 | ①スポーツ推進委員をはじめ公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事への協力等、スポーツの普及を図ります。 ②市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、体育協会等の活動及び組織強化を支援します。 ③市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するため、市民総参加型スポーツイベント「京丹後チャレンジデー」を開催するなど、効果的なスポーツ情報と機会の提供を進めます。 ④障害のある人や配慮が必要な様々な人が、障害の種類や程度に応じて、身近な地域で皆と一緒に楽しくニュースポーツの普及推進に努めます。 |
| 4. 競技力の向上 | ①学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。 ②体育協会と連携し、京丹後市総合体育大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。 ③市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、ホストタウン相手国のオリンピックを含む代表選手など、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。 ④青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。 |
| 5. 社会体育施設等の整備充実 | ①社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。 ②社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設は廃止するなど、全体のバランスを考慮した施設の配置を進めます。 ③あらゆるスポーツの基礎となる陸上の競技力向上及びスポーツ交流人口の拡大を図るため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場としての整備を推進します。 |
| 6. スポーツ観光のまちづくり | ①自然豊かな地域とスポーツ資源を活用したスポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したアクティビティの場や機会を提供することで、より多くの方々が無難にスポーツができる環境づくりにつなげ、多面的なスポーツ施策の展開を図ります。 ②スポーツを支えるスポーツボランティアの確保に向けた取組みを推進します。 ③2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進める「ホストタウン」の取組みと、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を通じ、文化交流や地域の活性化を図ります。 |

【参考】施策に関連するその他の計画

| 計画名称 | 計画概要 | 策定年月 | 計画期間 | 備考 |
|--------------|---|----------|---------------|-------------------------------|
| 第2次京丹後市総合計画 | 市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」 | 平成27年3月 | 平成27年度～令和6年度 | |
| 京丹後市スポーツ推進計画 | 年齢や性別、障害等を問わず、広く市民がその適正なライフステージに応じてスポーツに参画できるよう、中長期的な展望に立った「京丹後市スポーツ推進計画」を策定するもの | 平成26年3月 | 平成26年度～平成29年度 | 第2次京丹後市スポーツ推進計画(平成30年度～令和9年度) |
| 京丹後市学校教育改革構想 | 中学校卒業時に期待される学力を全ての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定 | 平成24年11月 | 計画期間の定めなし | |

| 2. 主な取組と構成事務事業一覧 | | PLAN | DO | ※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照 | CHECK | ACT |
|---|--|------------|--------|----------------------------|---------------|-----|
| 1. 健康な体づくり | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | | | | |
| <p>① 子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。</p> <p>② 喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。</p> <p>③ 児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の教育活動全体を通じて一貫した体育指導を進めます。</p> <p>④ 学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用し、子どもの体力・運動能力の向上につながる取組を進めます。</p> | | | | | | |
| 1. 健康な体づくり | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | | | | |
| 1 保幼小中一貫教育推進事業(再掲) | | 学校教育課 | | | | |
| 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育の推進に向け、協議会及び専門部会で調査研究並びに教員の授業力と学級経営力を高めるための研修を実施し、指導の一貫性を通じて確かな学力、豊かな心を育成する。 | | (144) | (189) | (899) | 現状維持 | |
| 2. 食育の推進 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | | | | |
| <p>① 幼児、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を生きた教材として活用するとともに、横断的な食育指導の充実を図ります。</p> <p>② 地域の伝統的な食文化への理解を深め、郷土に関心を寄せる心を育むため、給食の献立に地元食材や郷土食を積極的に取り入れます。</p> <p>③ 体験学習や調理実習等の活動を通じて、「食」への感謝の気持ちを育むため、家庭や地域、地元生産者等と連携した食育の取組を一層推進します。</p> | | | | | | |
| 3. 地域スポーツ活動の推進 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | | | | |
| <p>① スポーツ推進委員をはじめ公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事への協力等、スポーツの普及を図ります。</p> <p>② 市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、体育協会等の活動及び組織強化を支援します。</p> <p>③ 市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するため、市民総参加型スポーツイベント「京丹後チャレンジデー」を開催するなど、効果的なスポーツ情報と機会の提供を進めます。</p> <p>④ 障害のある人や配慮が必要な様々な人が、障害の種類や程度に応じて、身近な地域で皆と一緒に楽しくするニュースポーツの普及推進に努めます。</p> | | | | | | |
| 2 スポーツ推進委員活動事業 | | 生涯学習課 | | | | |
| 市民にスポーツに関する指導を行うスポーツ推進委員を委嘱し、住民の求めに応じた、身近な場でのスポーツの機会を提供することにより、市民が気軽に親しめるスポーツ活動を推進する。 | | 2,756 | 2,697 | 3,610 | 現状維持 | |
| 3 保健体育総務一般経費 | | 生涯学習課 | | | | |
| 社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、スポーツ基本法に基づき設置したスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備及びスポーツ活動の推進を図る。 | | 50 | 2,536 | 3,783 | 現状維持 | |
| 4 地域スポーツ推進事業 | | 生涯学習課 | | | | |
| ライフステージに応じた各種スポーツ大会を実施することで、市民の生きがいの実感や健康づくりを促進するとともに、スポーツを通じた交流機会を確保しスポーツ人口の拡大を図る。 | | 2,465 | 2,904 | 8,445 | 現状維持 | |
| 4. 競技力の向上 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | | | | |
| <p>① 学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。</p> <p>② 体育協会と連携し、京丹後市総合体育大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。</p> <p>③ 市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、ホストタウン相手国のオリンピックを含む体選選手など、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。</p> <p>④ 青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。</p> | | | | | | |
| 5 社会体育団体育成事業 | | 生涯学習課 | | | | |
| スポーツ団体による主体的な活動を支援し、市民へのスポーツの普及と振興を図るとともに、スポーツによる青少年の健全育成と体力の向上を図る。 | | 19,350 | 19,309 | 19,698 | 現状維持 | |
| 5. 社会体育施設等の整備充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ 事務事業名称・事業内容(実績) | | 担当課 | | | | |
| <p>① 社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。</p> <p>② 社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設は廃止するなど、全体のバランスを考慮した施設の配置を進めます。</p> <p>③ あらゆるスポーツの基礎となる陸上の競技力向上及びスポーツ交流人口の拡大を図るため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場としての整備を推進します。</p> | | | | | | |

| 5. 社会体育施設等の整備充実 | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
|-----------------|---|------------|---------|---------|---------------|--------|
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| 6 | 体育施設管理運営事業 市民の身近なスポーツ活動の拠点施設として体育施設を管理することにより、地域スポーツの振興とスポーツ競技力の向上を図る。 | 生涯学習課 | 52,381 | 67,774 | 243,043 | 改善・効率化 |
| 7 | 社会体育用学校開放施設管理運営事業 地域住民にとって身近で利用しやすい学校体育施設を開放及び維持管理することにより、スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、もって生活文化の向上に資する。 | 生涯学習課 | 1,994 | 1,624 | 1,799 | 現状維持 |
| 8 | 久美浜湾カヌーセンター管理運営事業 豊かな自然の中で、カヌーを通して市民のスポーツ及びレクリエーションの振興を図り、心身の健康づくりに資するとともに、本市のスポーツ活動の拠点の一つとして地域の活性化に資するため、カヌーセンターの管理運営を行う。 | 生涯学習課 | - | 2,822 | 4,984 | 現状維持 |
| 9 | 峰山途中ヶ丘公園陸上競技場リニューアル事業 京丹後はごろも陸上競技場を、日本陸連公認第3種陸上競技場として整備することにより、第2次京丹後市スポーツ推進計画に掲げる「スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実」を推進するとともに、スポーツを通じた交流人口の拡大、地域活性化を図る。 | 生涯学習課 | 317,524 | - | - | 終了・廃止 |
| 10 | 峰山途中ヶ丘公園陸上競技場リニューアル事業【繰越】 京丹後はごろも陸上競技場を、日本陸連公認第3種陸上競技場として整備することにより、第2次京丹後市スポーツ推進計画に掲げる「スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実」を推進するとともに、スポーツを通じた交流人口の拡大、地域活性化を図る。 | 生涯学習課 | 86,364 | - | - | |
| 11 | スポーツ施設整備基金 スポーツ関連施設整備を目的とした基金 | 生涯学習課 | 34,338 | 15 | 1 | 現状維持 |
| 6. スポーツ観光のまちづくり | | 決算額(単位:千円) | | | 事務の改善 | |
| 主な取り組み | | R2決算額 | R3決算額 | R4予算額 | 評価を踏まえた今後の方向性 | |
| ↓ | 事務事業名称・事業内容(実績) | 担当課 | | | | |
| ① | 自然豊かな地域とスポーツ資源を活用したスポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したアクティビティの場や機会を提供することで、より多くの方々が気軽にスポーツができる環境づくりにつなげ、多面的なスポーツ施策の展開を図ります。 | | | | | |
| ② | スポーツを支えるスポーツボランティアの確保に向けた取り組みを推進します。 | | | | | |
| ③ | 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進める「ホストタウン」の取組みと、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を通じ、文化交流や地域の活性化を図ります。 | | | | | |
| 12 | スポーツイベント推進事業 観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援することで、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。 | 生涯学習課 | 4,817 | 2,746 | 6,996 | 現状維持 |
| 13 | オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業 東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域の活性化を図る。 | 生涯学習課 | 6,353 | 23,191 | - | 縮小 |
| 14 | オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業【繰越】 東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域の活性化を図る。 | 生涯学習課 | 163,186 | - | - | |
| 15 | ワールドマスターズゲームズ関西推進事業 ワールドマスターズゲームズ2021関西(WMG)の取組を通じて、本市の滞在型スポーツ観光の推進、障害者スポーツの基盤づくり及び地域の活性化を図る。 | 生涯学習課 | 9,055 | 1,698 | 2,215 | 現状維持 |
| 16 | 東京2020オリンピック聖火リレー事業 東京2020オリンピック聖火リレーを実施することにより、大会の機運醸成、ホストタウン事業などの成功に資するとともに、スポーツ振興、地域活性化などスポーツによるまちづくりを推進する。 | 生涯学習課 | - | 917 | - | 現状維持 |
| 計 | | | 700,633 | 128,233 | 294,574 | |

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

| 基本的方針 | 子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。 食育は、生きるうえでの基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるものであることから、子どもたちが、自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝、理解を深めるとともに「食」に関する適切な判断力を身に付けることを目指します。 | | | | | | | |
|--------|--|----|----------------------------|---------------|--|-----------|----------------|----|
| | 目標指標 | 単位 | 計画作成時 年度 | 実績値(現状) 年度 | | 目標値 年度 | | |
| 主な目標指標 | 朝食を毎日食べる児童の割合<小学校> | % | 97.8 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙 | H25 | 96.0 | R3 | 100 | R6 |
| | 朝食を毎日食べる生徒の割合<中学校> | % | 91.1 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙 | H25 | 93.9 | R3 | 95%以上 | R6 |
| | 平日、午前7時より前に起きる児童の割合<小学校> | % | 88.4 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙 | H25 | 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし | R3 | 100 | R6 |
| | 平日、午前7時より前に起きる生徒の割合<中学校> | % | 77.2 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙 | H25 | 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし | R3 | 95%以上 | R6 |
| | 平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合<小学校> | % | 91.6 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙 | H25 | 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし | R3 | 100 | R6 |
| | 平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合<中学校> | % | 45.0 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙 | H25 | 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし | R3 | 90%以上 | R6 |
| | 小学生(5年生)の体力テスト全国平均以上 | 種目 | 8種目中7種目 | H25 | 8種目中5種目 | R3 | 全種目 | R6 |
| | 中学生(2年生)の体力テスト全国平均以上 | 種目 | 8種目中4種目 | H25 | 8種目中4種目 | R3 | 全種目 | R6 |
| | 成人の週1回以上のスポーツ実施率 | % | 21.6 市民アンケート調査結果 | H24 | 48.06 | R3 | 65.0 (国の目標) | R6 |
| | 京都府民総合体育大会入賞競技数 | 競技 | 6 京都府民総合体育大会結果 | H25 | 3 | R3 | 10 | R6 |
| | 公共スポーツ施設の利用回数 | 回 | 11,253 公共施設利用状況調査結果 | H24 | 10,840 | R3 | 14,000 | R6 |
| | スポーツイベント参加者数 | 人 | - | R1 | 667 | R3 | 18,600 | R6 |

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

| 進捗状況区分 | 評価 | 令和3年度成果と今後の課題 |
|--------------|----|--|
| ◎ 予定以上に進んでいる | | <p>《朝食を毎日食べる児童生徒の割合》 朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学生でやや増加し、中学生は減少した。各校園における家庭向けの啓発及び児童生徒への丁寧な指導により確実に定着してきているが、今後も保護者との連携を更に密にし、児童生徒全員が朝食を毎日食べる取組みを進めていく必要がある。</p> <p>《平日、午前7時より前に起きる児童生徒の割合》 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし。</p> <p>《平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合》 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし。</p> <p>《小学生(5年生)の体力テスト全国平均以上》 令和3年度については、令和元年度と同じ種目である、握力、上体起こし、長座体前屈などの柔軟性が全国平均を下回った。男子は上体起こしの数値は全国を上回っている。引き続き、体育科を含む各校の教育活動全体を通じた体力づくりの取組み等により、意識的に課題のある筋力・柔軟性などの運動能力について克服していく必要がある。</p> <p>《中学生(2年生)の体力テスト全国平均以上》 令和元年度と比較すると、令和元年度全国を上回っていた上体起こしが、全国値を下回り、令和元年度全国を下回った立ち幅跳びが全国を上回った。依然として握力、長座体前屈といった、筋力・柔軟性の分野は全国平均を下回った。引き続き、課題を踏まえ、体育科を含む各校の教育活動全体を通じた体力づくりの取組み等により、意識的に課題のある運動能力について克服していく必要がある。</p> <p>《成人の週1回以上のスポーツ実施率》 新型コロナウイルス感染症の影響によって、健康増進と体力の向上を図るためスポーツ推進委員が中心となって開催している、地域でのニュースポーツ教室やノルディックウォーキング教室等が例年のような回数が開催ができなかった。今後は、新たな参加者層の獲得のため、地域や団体と協力をして活動していくことが必要である。</p> <p>《京都府民総合体育大会入賞競技数》 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度京都府民総合体育大会は15競技中10競技が実施された。近年は入賞競技数も増加傾向にあり、今後は競技力の向上を目指す。特に将来性を有するジュニアアスリートを養成する支援体制を整えることが重要である。</p> <p>《公共スポーツ施設の利用回数》 新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用制限を行ったが、年間の利用回数は前年度に比べて微増した。 新型コロナウイルス感染症が市民生活・地域経済に大きく影響を及ぼしている中、市民が負担なくスポーツ活動に勤しみ、市民の元気・活力・健康増進を図ることを目的として、年間を通して市民を対象に施設の無料開放を行った。 今後は、公共施設の見直し計画による施設の集約化や指定管理者制度の導入等、より市民のニーズに則した施設環境づくりとスポーツ機会の提供が求められる。</p> <p>《スポーツイベント参加者数》 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年度に引き続き多くのイベントが中止となった。そのような状況下、スポーツ観光のまちづくりを推進するため、感染症対策を講じた上で、スポーツイベントを開催することで市内外の参加者が気軽にスポーツができる環境を提供した。 今後は、各種イベントについて、新型コロナウイルス感染症対策を行い、各種意見を聞き入れ、地域と一体となり地域資源等を取り入れ、参加者が増える取組みを行っていく必要がある。</p> |
| ○ 予定どおり進んでいる | | |
| ▲ 少し遅れている | | |
| × | | |
| | ▲ | |

5. 今後の施策展開の考え方(令和4年～令和6年度での主な取組)

ACT

| 区分 | No. | 具体的内容 |
|----------|-----|--|
| 施策展開の考え方 | 1 | 子どもたちの基本的な生活習慣を確立させるため、学校園が連携し、発達段階に応じた指導を継続するとともに、丹後学を通じた学習や、地産地消・給食指導など、家庭、地域と連携した食育の取組みを更に推進する。 |
| | 2 | 市民のニーズに合ったスポーツの推進や、各地区の事業やPTA活動への協力を行うなど、多くの人がスポーツに親しめる機会を設ける。また、競技性の高いスポーツについては体育協会と連携し活動する機会を支援する。 |
| | 3 | 京丹後市体育協会の更なる組織強化等に向け法人化の検討を支援するとともに、引き続き財政支援を行うことにより、各種スポーツ大会の実施や府民総合体育大会への出場選手の拡大を図り、競技力の向上を目指す。 |
| | 4 | 市内には多くの社会体育施設が点在しているが、地域の大切なコミュニティの場としての役割も大きい。計画的な施設の修繕を実施する一方、利用が少ない施設の維持管理などについて見直しを行う。 |
| | 5 | 交流人口の増加等、地域活性化を図るため、事業効果の高いスポーツイベントを推進するとともに、東京2020大会、WMG関西に向け、ホストタウンとしての取組、必要な施設整備を推進する。 |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | |
|--|--|------------|---|---------|-------|-----------|---|----------|---|-------|
| | 項 | 05 保健体育費 | 2,697千円 | 3,018千円 | 321千円 | 89.3% | | | 課 | 生涯学習課 |
| | 目 | 02 スポーツ推進費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | |
| 事業 | 01 スポーツ推進委員活動事業 | 3,610千円 | | | | | | | | |
| 基本計画 | | | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | | | | | | |
| 目的 | 市民にスポーツに関する指導を行うスポーツ推進委員を委嘱し、住民の求めに応じた、身近な場でのスポーツの機会を提供することにより、市民が気軽に親しめるスポーツ活動を推進する。 | | 主な財源 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○スポーツ推進委員報酬（48人分） | 2,400千円 | <活動内容> ・ノルディック・ウォーキング体験会 年間7回、延べ125人参加 ・ニュースポーツ体験会（ビーチボールバレーほか） 年間27回、延べ221人参加 ・地区活動やPTA行事、高齢者大学などにおけるスポーツ指導（ノルディック・ウォーキング、ニュースポーツ、体力テストほか） ・スポーツ大会への協力（丹後大学駅伝ほか） | | | | | | | |
| | ○旅費（スポーツ推進委員活動費用弁償、職員旅費） | 143千円 | | | | | | | | |
| ○需用費（消耗品費） ・機関紙購読料、広報用カラーペーパー | 11千円 | | | | | | | | | |
| ○役員費（スポーツ安全保険料） | 88千円 | | | | | | | | | |
| ○負担金、補助及び交付金 ・丹後スポーツ推進委員連絡協議会負担金 ・障害者スポーツ指導員養成研修会参加負担金 | 55千円 43千円 12千円 | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | ○コロナ禍の中、活動が制限され例年のような活動ができなかったが、「ノルディック・ウォーキング」、「ニュースポーツ」の普及に努め、幅広い年代の方へスポーツへの参加機会を提供することができた。 ○今後も、スポーツへの参加機会の提供だけでなく、地域において、スポーツ指導をする場を設けられるよう、地区公民館等への働きかけ、連携を強化する必要がある。 | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | |
|---|--|-----------------------|---|---------|-------|-----------|---|----------|---|-------|--|--|--|--|
| | 項 | 05 保健体育費 | 2,536千円 | 2,769千円 | 233千円 | 91.5% | | | 課 | 生涯学習課 | | | | |
| | 目 | 01 保健体育総務費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | |
| 事業 | 50 保健体育総務一般経費 | 3,065千円 | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | | | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、スポーツ基本法に基づき設置したスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備及びスポーツ活動の推進を図る。 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○スポーツ推進審議会に関する経費 ・審議会委員報酬：12人、開催回数：2回 ・費用弁償 | 102千円 88千円 14千円 | 「第2次京丹後市スポーツ推進計画」の進捗状況の管理や審議を行い、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備やスポーツ活動の推進を図ることができた。 | | | | | | | | | | | |
| | ○会計年度任用職員任用経費 （スポーツ推進室事務補助：1人） | 2,335千円 | | | | | | | | | | | | |
| ○社会体育に関する事務経費 ・担当者会議、大会誘致活動等旅費 ・全国大会等出場懸垂幕作成経費 ・有料道路通行料等 | 99千円 7千円 76千円 16千円 | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|----------------|-------|-----------|-----------|----------|---------|---------------------------------------|-------|-----------|---------|-----|--------------|-------------|-----|----------------|-----------------|-----------|----------------|-----------------|------------|----------------|----------|-------------------|--------------|---------|------|-------------|----------|------|
| | 項 | 05 保健体育費 | | | | | | | 2,904千円 | 3,078千円 | 174千円 | 94.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 施設・推進費 | | | | | | | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 02 地域スポーツ推進事業 | 6,545千円 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | 国補 | 地方創生推進交付金 | 539千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | ライフステージに応じた各種スポーツ大会を実施することで、市民の生きがいの実感や健康づくりを促進するとともに、スポーツを通じた交流機会を確保しスポーツ人口の拡大を図る。 | | 繰入金 | 朝哲・まちづくり夢基金繰入金 | 238千円 | 諸収入 | スポーツ大会参加料 | 11千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○報償費 | | <大会等実施状況> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 野村克也メモリアル事業講師謝金 はしうど杯卓球選手権大会審判員謝金 入賞記念品（はしうど杯卓球大会） | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>大会名</th> <th>開催日</th> <th>参加者等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民陸上記録会</td> <td>6/27(日)</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>市長杯争奪中学校野球大会</td> <td>7/3(土)、4(日)</td> <td>75人</td> </tr> <tr> <td>京丹後市総合体育(交流)大会</td> <td>8/20(金)~3/15(火)</td> <td>3種目171人 ※</td> </tr> <tr> <td>京都府民総合体育(交流)大会</td> <td>8/30(金)~2/28(火)</td> <td>7競技66人参加 ※</td> </tr> <tr> <td>京丹後チャレンジデー2021</td> <td>10/27(水)</td> <td>21,140人(参加率30.4%)</td> </tr> <tr> <td>はしうど杯卓球選手権大会</td> <td>12/5(日)</td> <td>100人</td> </tr> <tr> <td>野村克也メモリアル事業</td> <td>12/19(日)</td> <td>360人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 大会名 | 開催日 | 参加者等 | 市民陸上記録会 | 6/27(日) | 60人 | 市長杯争奪中学校野球大会 | 7/3(土)、4(日) | 75人 | 京丹後市総合体育(交流)大会 | 8/20(金)~3/15(火) | 3種目171人 ※ | 京都府民総合体育(交流)大会 | 8/30(金)~2/28(火) | 7競技66人参加 ※ | 京丹後チャレンジデー2021 | 10/27(水) | 21,140人(参加率30.4%) | はしうど杯卓球選手権大会 | 12/5(日) | 100人 | 野村克也メモリアル事業 | 12/19(日) | 360人 |
| | 大会名 | 開催日 | 参加者等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 市民陸上記録会 | 6/27(日) | 60人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 市長杯争奪中学校野球大会 | 7/3(土)、4(日) | 75人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京丹後市総合体育(交流)大会 | 8/20(金)~3/15(火) | 3種目171人 ※ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京都府民総合体育(交流)大会 | 8/30(金)~2/28(火) | 7競技66人参加 ※ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 京丹後チャレンジデー2021 | 10/27(水) | 21,140人(参加率30.4%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| はしうど杯卓球選手権大会 | 12/5(日) | 100人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 野村克也メモリアル事業 | 12/19(日) | 360人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○旅費 | | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"><大会中止></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">・ジュニアカヌースプリント春季・秋季大会、北近畿中学生ソフトテニス大会など</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | <大会中止> | | ・ジュニアカヌースプリント春季・秋季大会、北近畿中学生ソフトテニス大会など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <大会中止> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ジュニアカヌースプリント春季・秋季大会、北近畿中学生ソフトテニス大会など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○需用費(消耗品費、燃料費、食糧費、修繕料、印刷製本費) | | ○市民が気軽に参加できるスポーツ事業の実施及びスポーツ大会への支援をすることにより、市民の健康・体づくりやスポーツを通じた住民間・地域間の交流機会の提供、地域の活性化に寄与した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○委託料 | | ○新型コロナウイルス感染予防のため、一部の大会は実施できなかった。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 市長杯争奪中学校野球大会開催委託料 ジュニアカヌースプリント大会運営委託料 256千円 | | ※開催日直前の中止決定により既に実施していた業務の経費が発生 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 京丹後市民陸上記録会運営委託料 300千円 野村克也メモリアル事業関連委託料 527千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○使用料及び賃借料(会場借上料等) 143千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○負担金、補助金及び交付金 969千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 京都府民総合体育大会派遣費補助金 346千円 京丹後市総合体育大会開催補助金 253千円 京丹後チャレンジデー実行委員会補助金 100千円 野村克也杯学童野球大会実行委員会補助金 270千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|--|----------|-----|-----|---|----------|----------|----------|-------|-----------|----|-----|----|----|----|---|----|---|--------|----|-------|---|----------|---|----------|---|--------|---|-----|---|------|---|--------|---|-------|---|-----|---|-------|---|-----|---|----|---|-----|---|----|----|----|---|----|---|--|--|
| | 項 | 05 保健体育費 | | | | | | | 19,309千円 | 19,452千円 | 143千円 | 99.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 01 保健体育総務費 | | | | | | | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 01 社会体育団体育成事業 | 19,752千円 | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | スポーツ団体による主体的な活動を支援し、市民へのスポーツの普及と振興を図るとともに、スポーツによる青少年の健全育成と体力の向上を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | ○京丹後市体育協会補助金 15,727千円 | | <京丹後市青少年スポーツ協会 種目別加盟団体数> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 加盟団体数：21団体(3,702人) ※令和4年3月末現在 本部及び支部事業の実施 スポーツ指導者研修会の開催(令和3年11月17日、12月2日) 各町支部、各競技団体の活動支援(年間) 大会協力(丹後大学駅伝) 広報紙の発行(年3回) | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>種目</th> <th>団体数</th> <th>種目</th> <th>団体数</th> <th>種目</th> <th>団体数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>野球</td> <td>10</td> <td>柔道</td> <td>1</td> <td>卓球</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>バレーボール</td> <td>10</td> <td>硬式テニス</td> <td>2</td> <td>複合(複数種目)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>バスケットボール</td> <td>6</td> <td>ソフトテニス</td> <td>2</td> <td>カヌー</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>サッカー</td> <td>6</td> <td>バドミントン</td> <td>3</td> <td>レスリング</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>空手道</td> <td>6</td> <td>少林寺拳法</td> <td>1</td> <td>スキー</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>陸上</td> <td>7</td> <td>新体操</td> <td>1</td> <td>合計</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>剣道</td> <td>4</td> <td>体操</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 種目 | 団体数 | 種目 | 団体数 | 種目 | 団体数 | 野球 | 10 | 柔道 | 1 | 卓球 | 1 | バレーボール | 10 | 硬式テニス | 2 | 複合(複数種目) | 1 | バスケットボール | 6 | ソフトテニス | 2 | カヌー | 1 | サッカー | 6 | バドミントン | 3 | レスリング | 1 | 空手道 | 6 | 少林寺拳法 | 1 | スキー | 1 | 陸上 | 7 | 新体操 | 1 | 合計 | 65 | 剣道 | 4 | 体操 | 1 | | |
| | 種目 | 団体数 | 種目 | 団体数 | 種目 | 団体数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 野球 | 10 | 柔道 | 1 | 卓球 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バレーボール | 10 | 硬式テニス | 2 | 複合(複数種目) | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バスケットボール | 6 | ソフトテニス | 2 | カヌー | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サッカー | 6 | バドミントン | 3 | レスリング | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 空手道 | 6 | 少林寺拳法 | 1 | スキー | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 陸上 | 7 | 新体操 | 1 | 合計 | 65 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 剣道 | 4 | 体操 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○京丹後市青少年スポーツ協会活動補助金 3,582千円 | | ○コロナ禍の中、活動期間や場所が限られたが、スポーツ団体の組織強化を支援することにより、スポーツ団体実施する各種教室及び大会などを通して、幅広い年代層へスポーツに親しむ機会を提供することができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 加盟団体数：65団体(児童生徒数：1,345人、指導者数：353人) 事業内容：指導者研修会の実施、各加盟団体の支援、生徒募集チラシの発行 | | ○京丹後市青少年スポーツ協会の加盟団体への活動助成金の交付や指導者研修会を開催し青少年のスポーツを通じた健全育成を支援した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※子どもスポーツ推進事業(補助金)は、新型コロナウイルス感染予防のため中止 | | ○体育協会は、組織強化を図るため法人化に向けた準備を進め、令和4年度当初に法人格を取得することができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果・課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|----------|---|---|-----|-----|---|----------|----------|-------|-------|---|----------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | |
| | 項 | 05 保健体育費 | | | | | | 67,774千円 | 67,940千円 | 166千円 | 99.7% | 課 | 生涯学習課 |
| | 目 | 03 体育施設費 | | | | | | | | | | | 77,538千円 |
| 事業 | 01 体育施設管理運営事業 | | 使用料 社会体育施設使用料 95千円 | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | |
| 目的 | 市民の身近なスポーツ活動の拠点施設として体育施設を管理することにより、地域スポーツの振興とスポーツ競技力の向上を図る。 | | 諸収入 目販販売機売上料 17千円 諸収入 旧宇川中学校、旧大宮第三小学校、旧海部小学校施設光熱水費利用負担金 596千円 市債 社会体育施設整備事業債（過疎対策債） 12,000千円 市債 社会体育施設整備事業債（合併特例債） 2,800千円 | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <体育施設の維持管理経費> ○需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料） 34,354千円 ○役員費（通信運搬費、し尿汲取手数料、火災保険料等） 1,732千円 ○委託料（運動公園管理、社会体育館管理、浄化槽維持管理等） 14,184千円 ○使用料及び賃借料（土地借上、仮設トイレ借上、AED賃借料） 722千円 ○工事設計監理委託料・工事請負費 14,201千円 ○備品購入費（バスケットゴール等、ボール等） 2,438千円 ○負担金（下水道加入分担金） 140千円 ○償還金（施設使用料返還金） 3千円 <主な修繕・工事> ・網野体育センターテニスコート照明修繕工事 1,138千円 ・旧橋本体育館等消防設備不備指摘事項修繕工事 891千円 ・大宮社会体育館床改修工事 902千円 ・大宮社会体育館ホール間仕切り工事 299千円 ・大宮社会体育館トイレ引き戸工事 297千円 ・大宮自然運動公園1号手洗所下水道接続等工事 10,283千円 ・弥栄総合運動公園高圧ケーブル更新工事 4,345千円 ・弥栄総合運動公園第2キュービクル機器改修工事 396千円 ・久美浜中央運動公園遊具撤去工事 539千円 | | | <利用状況> 紅葉ヶ丘運動場（テニスコート） 310 件 大宮自然運動公園（グラウンド、テニスコート） 395 件 大宮社会体育館 789 件 網野グラウンド（グラウンド、屋内ゲートボール場） 590 件 網野体育センター（体育室、柔・剣道室、テニスコート） 911 件 丹後社会体育館 314 件 弥栄総合運動公園（体育館、グラウンド、屋根付ゲートボール場等） 1,279 件 久美浜中央運動公園（グラウンド、テニスコート、屋根付ゲートボール場） 938 件 その他体育施設（30施設） 3,287 件 合計（47施設） 8,813 件 | | | | | | | | | |
| | | | | 成果・課題 ○新型コロナウイルス感染予防のため、施設の一部休業を含む利用制限を行った期間があったが、前年度に比べて年間の利用件数は微増した。施設の適切な管理運営を行うことで、市民のスポーツ活動の普及・発展に寄与した。 ○スポーツ活動拠点の効率的・効果的な管理運営を図るため、公共施設見直し計画等に基づき、管理形態の見直し等について検討していく必要がある。 | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|----------|---|-------|-----|------|-------|----------|---------|------|-------|----|---------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|----|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-----|---|---|---|---|---|---|----|------|-----|-----|-----|----|-----|----|-------|-----|-----|--|--|---|--|--|--|---|------|--|--|-----|--|--|--|-----|-----|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|------|-----|-----|-----|----|-----|----|-------|-------|-----|---|---|---|---|---|---|---|------|----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|--|---|---|---|--|--|---|------|--|----|----|-----|--|--|-----|----|--|--|--|-----|----|------|-------|--|--|--|--|--|--|--|
| | 項 | 05 保健体育費 | | | | | | 1,624千円 | 1,697千円 | 73千円 | 95.6% | 課 | 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 03 体育施設費 | | | | | | | | | | | 1,697千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 02 社会体育用学校開放施設管理運営事業 | | 使用料 小学校施設使用料 1千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 地域住民にとって身近で利用しやすい学校体育施設を開放及び維持管理することにより、スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、もって生活文化の向上に資する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <利用状況> (単位：施設・件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>峰山</th> <th>大宮</th> <th>網野</th> <th>丹後</th> <th>弥栄</th> <th>久美浜</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>体育館</td> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>利用件数</td> <td>1,060</td> <td>472</td> <td>420</td> <td>177</td> <td>240</td> <td>296</td> <td>2,665</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">グラウンド</td> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>利用件数</td> <td>303</td> <td>133</td> <td>391</td> <td>44</td> <td>152</td> <td>61</td> <td>1,084</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">格技場</td> <td>施設数</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>利用件数</td> <td></td> <td></td> <td>222</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>222</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中学校</td> <td>体育館</td> <td>施設数</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>利用件数</td> <td>317</td> <td>164</td> <td>153</td> <td>40</td> <td>253</td> <td>85</td> <td>1,012</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">グラウンド</td> <td>施設数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>利用件数</td> <td>19</td> <td>120</td> <td>41</td> <td>36</td> <td>162</td> <td>36</td> <td>414</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">格技場</td> <td>施設数</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>利用件数</td> <td></td> <td>87</td> <td>39</td> <td>162</td> <td></td> <td></td> <td>334</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td></td> <td></td> <td>施設数</td> <td>54</td> <td>利用件数</td> <td>5,731</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 峰山 | 大宮 | 網野 | 丹後 | 弥栄 | 久美浜 | 合計 | 小学校 | 体育館 | 施設数 | 4 | 2 | 4 | 2 | 2 | 3 | 17 | 利用件数 | 1,060 | 472 | 420 | 177 | 240 | 296 | 2,665 | グラウンド | 施設数 | 4 | 2 | 4 | 2 | 2 | 3 | 17 | 利用件数 | 303 | 133 | 391 | 44 | 152 | 61 | 1,084 | 格技場 | 施設数 | | | 2 | | | | 2 | 利用件数 | | | 222 | | | | 222 | 中学校 | 体育館 | 施設数 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 8 | 利用件数 | 317 | 164 | 153 | 40 | 253 | 85 | 1,012 | グラウンド | 施設数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 利用件数 | 19 | 120 | 41 | 36 | 162 | 36 | 414 | 格技場 | 施設数 | | 1 | 1 | 1 | | | 4 | 利用件数 | | 87 | 39 | 162 | | | 334 | 合計 | | | | 施設数 | 54 | 利用件数 | 5,731 | | ○需用費（消耗品費、印刷製本費、修繕料） 1,602千円 <修繕内訳> ・いさご小学校屋外照明不良改修 33千円 ・長岡小学校体育館ランプ取替 162千円 ・網野南小学校配電盤ボックスハンドル取替 8千円 ・島津小学校体育館電球交換 207千円 ・宇川小学校屋外照明ランプ不良取替 149千円 ・吉野小学校体育館電球交換 125千円 ・高麗小学校体育館照明灯スイッチ修繕 25千円 ・弥栄中学校屋外運動場夜間照明水銀球交換 310千円 ・久美浜中学校体育館ランプ取替 176千円 ○役員費（支障物撤去手数料） 22千円 | | | | | |
| | | | 峰山 | 大宮 | 網野 | 丹後 | 弥栄 | 久美浜 | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校 | 体育館 | 施設数 | 4 | 2 | 4 | 2 | 2 | 3 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 利用件数 | 1,060 | 472 | 420 | 177 | 240 | 296 | 2,665 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| グラウンド | 施設数 | 4 | 2 | 4 | 2 | 2 | 3 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 利用件数 | 303 | 133 | 391 | 44 | 152 | 61 | 1,084 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 格技場 | 施設数 | | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 利用件数 | | | 222 | | | | 222 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中学校 | 体育館 | 施設数 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 利用件数 | 317 | 164 | 153 | 40 | 253 | 85 | 1,012 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| グラウンド | 施設数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 利用件数 | 19 | 120 | 41 | 36 | 162 | 36 | 414 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 格技場 | 施設数 | | 1 | 1 | 1 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 利用件数 | | 87 | 39 | 162 | | | 334 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 施設数 | 54 | 利用件数 | 5,731 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 成果・課題 ○新型コロナウイルス感染予防のため、施設の一部休業を含む利用制限を行ったことにより、昨年度に比べて年間の利用件数が減少したが、施設の計画的な維持管理に努め、市民のスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することにより、市民が楽しみ共につくるスポーツのまちづくりに寄与した。 ○今後も市民にとって身近で利用しやすい施設として管理運営に努めていく必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------|--|--------------------|---|----------|-------|-----------|-----------------------------|
| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 生涯学習課 |
| | 項 | 05 保健体育費 | 2,822千円 | 3,107千円 | 285千円 | 90.8% | |
| | 目 | 03 体育施設費 | | | | (参考)当初予算額 | |
| | 事業 | 03 久美浜海加-セカ-管理運営事業 | | | | 3,107千円 | |
| 基本計画 | 27 多様な学びを支援する社会教育の充実 | | 使用料 | 加-セカ-使用料 | 507千円 | | |
| 目的 | 豊かな自然の中で、カヌーを通して市民のスポーツ及びレクリエーションの振興を図り、心身の健康づくりに資するとともに、本市のスポーツ活動の拠点の一つとして地域の活性化に資するため、カヌーセンターの管理運営を行う。 | | 主な財源 | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <オープニングセレモニー/リーフレット作成/センター備品運搬> 638千円 オープニングセレモニー：4月11日（日） オープニングセレモニーの開催経費や、リーフレットの作成経費、旧艇庫の備品整理経費など ○需用費（印刷製本費）、委託料（リーフレット作成委託料） 88千円 ○委託料（会場設営委託料） 39千円 ○委託料（荷物運搬作業、産業廃棄物処理、施設運搬作業委託料） 511千円 | | <カタマラン艇（2艇）の維持管理> 298千円 保有艇の1年毎の点検及び修理 ○需用費（燃料費） 22千円 ○需用費（修繕料） 66千円 ○委託料（設備保守管理委託料） 210千円 | | | | |
| | <カヌーセンター管理運営> 889千円 ○需用費（消耗品費、印刷製本費） 123千円 ○需用費（燃料費、光熱水費） 298千円 ○保険料（火災保険料）、委託料（消防設備等保守点検委託料） 92千円 ○委託料（カヌーセンター管理委託料） 499千円 | | <譲渡により取得したオリンピック競技用備品（カタマラン艇・1艇） 310千円 ※譲渡元：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 ○需用費（消耗品） 11千円 ○手数料（船舶登録手数料） 18千円 ○委託料（荷物運搬作業委託料） 264千円 ○備品購入費（ライフジャケット・1着） 17千円 | | | | |
| | <貸出用備品（SUP）の整備> 564千円 ○需用費（消耗品費） 16千円 ○備品購入費（SUP1台） 548千円 | | 成果・課題 新型コロナウイルス感染予防のため、施設の一時休業を含む利用制限を行ったが、施設の適切な管理運営を行い、オリンピック代表チームの合宿誘致や、全国大会の開催など、本市のスポーツ活動の普及・発展に寄与した。 | | | | |
| | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 教育委員会事務局 課 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------|------------|-----------------------------------|---------|-----------|---|-------|------|----|------|--|---------------|-------|-----------------------------------|--------------------------|----------|------|------------|
| | 項 | 05 保健体育費 | 2,746千円 | 2,848千円 | 102千円 | 96.4% | | | | | | | | | | | | | |
| | 目 | 02 スポーツ推進費 | | | | (参考)当初予算額 | | | | | | | | | | | | | |
| | 事業 | 03 スポーツイベント推進事業 | | | | 6,286千円 | | | | | | | | | | | | | |
| 基本計画 | 04 滞在型観光・スポーツ観光の促進 | | 寄附金 | ふるさと応援寄附金 | 1,565千円 | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 | 観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援することで、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。 | | 主な財源 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <スポーツイベントの実施状況等> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>イベント名</th> <th>開催日程</th> <th>会場</th> <th>参加者等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丹後100kmウルトラマラソン代替事業 ①「丹後でウルトラ旅ラン」（観光型ランニングイベント） ②「丹後ウルトラの『顔』になろう！～フォトコンテスト～」</td> <td>9/1 ～12/10</td> <td>京丹後市内</td> <td>申込者数：50人 参加者数：25人 フォトコン：9作品</td> </tr> <tr> <td>丹後大学駅伝（第83回関西学生対校駅伝競走大会）</td> <td>11/20(土)</td> <td>丹後地域</td> <td>22チーム、220人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | | イベント名 | 開催日程 | 会場 | 参加者等 | 丹後100kmウルトラマラソン代替事業 ①「丹後でウルトラ旅ラン」（観光型ランニングイベント） ②「丹後ウルトラの『顔』になろう！～フォトコンテスト～」 | 9/1 ～12/10 | 京丹後市内 | 申込者数：50人 参加者数：25人 フォトコン：9作品 | 丹後大学駅伝（第83回関西学生対校駅伝競走大会） | 11/20(土) | 丹後地域 | 22チーム、220人 |
| | イベント名 | 開催日程 | 会場 | 参加者等 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丹後100kmウルトラマラソン代替事業 ①「丹後でウルトラ旅ラン」（観光型ランニングイベント） ②「丹後ウルトラの『顔』になろう！～フォトコンテスト～」 | 9/1 ～12/10 | 京丹後市内 | 申込者数：50人 参加者数：25人 フォトコン：9作品 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丹後大学駅伝（第83回関西学生対校駅伝競走大会） | 11/20(土) | 丹後地域 | 22チーム、220人 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <大会中止> ・あみの八丁浜ロードレース大会 ・京丹後市ドラゴンカヌー選手権大会 ・久美浜湾一周駅伝競走大会 ・丹後100kmウルトラマラソン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○負担金（丹後大学駅伝後援会への負担金） | | 900千円 | | | | | 成果・課題 ○新型コロナウイルス感染予防のため、多くの大会が中止となったが、対策を行って開催可能な大会等を実施し、本市の魅力発信に寄与した。 ○丹後100kmウルトラマラソンは中止となったが、代替事業を実施し、ファンの繋ぎ止めを図ることができた。 ○丹後大学駅伝は、2年ぶりに従来の規模で実施。ガバメントクラウドファンディング（寄附金）により、地上波によるテレビ放映（20分番組）の実施支援を行ったことで、事業の周知・京丹後市のPRにつなげることができた。 | | | | | | | | | | | | |
| ○補助金 | | 1,647千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・関西学生対校駅伝競走大会情報発信事業補助金 | | 1,565千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・丹後ウルトラマラソン補助金 | | 82千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○その他経費（消耗品費、燃料費、修繕料） | | 199千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 課 | 教育委員会事務局 生涯学習課 |
|-------------|--|--|--|----------|---------|-----------------------|--------|-------------------|
| | 項 | 05 保健体育費 | 23,191千円 | 23,404千円 | 213千円 | 99.0% | | |
| | 目 | 02 スポーツ推進費 | | | | (参考)当初予算額 24,751千円 | | |
| 事業 | 04 観光・文化・スポーツ振興の推進事業 | 府補 | 和歌山県等新型コロナウイルス感染症対策事業基金交付金 | | 6,322千円 | | | |
| 基本計画 | 04 滞在型観光・スポーツ観光の促進 | 主な財源 | | | | | | |
| 目的 | 東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域の活性化を図る。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | 【ホストタウン交流・オリンピック事前合宿受入事業】 相手国（人数）：スペイン（17人）、ポルトガル（11人） 場所：京丹後市久美浜湾カヌー競技場 ほか 実施期間：7月18日（日）～7月28日（水）11日間 ＜トレーニングキャンプ＞ ○報償費（招待者記念品：ポロシャツ・巾着・扇子など） 195千円 ○需用費（消耗品費、燃料費） 646千円 ○手数料（船舶検査手数料、PCR検査手数料 ほか） 1,312千円 ○保険料（モーターボート保険料） 44千円 ○委託料（会場設営、バス運転、交流事業、通訳、廃棄物処理） 10,836千円 ○使用料及び賃借料（船舶係上、機械器具、施設使用） 1,695千円 ＜選手移動支援＞ ○旅費（費用弁償、普通旅費） 213千円 ○委託料（転送、選手移動支援） 7,297千円 ○使用料及び賃借料（自動車借上、有料道路、駐車場） 806千円 | | 【パラリンピック関連事業】 ＜パラスポーツ体験会＞ 68千円 開催日：令和3年12月18日（土） 会場：大宮社会体育館 講師：阪根 泰子 氏（アテネパラリンピック車いすバスケットボール日本代表） 内容：講演、パラスポーツ体験会（参加者76人） ○報償費（講師謝金） 41千円 ○需用費（消耗品費） 27千円 ＜パラリンピック採火式＞ 79千円 開催日：令和3年8月16日（月） 会場：浜詰夕日の丘 ○委託料（会場設営委託料） 75千円 ○使用料及び賃借料（有料道路通行料） 4千円 | | | | | |
| | 成果・課題 | ○スペイン及びポルトガルカヌーチームの本市におけるオリンピック事前合宿受入れを実施、交流することにより、多文化共生の推進や地域活性化につなげることができた。 ○パラスポーツ体験会では、障害者スポーツ、共生社会の実現についての理解を深める契機となった。 ○継続的な事業の実施により、スポーツを通じたまちづくりを推進する必要がある。 | | | | | | |

| 予算科目 | 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 課 | 教育委員会事務局 生涯学習課 |
|-------------|--|---|--|---------|-------|----------------------|--------|-------------------|
| | 項 | 05 保健体育費 | 1,698千円 | 1,825千円 | 127千円 | 93.0% | | |
| | 目 | 02 スポーツ推進費 | | | | (参考)当初予算額 3,961千円 | | |
| 事業 | 05 ワールドマスターズゲームズ関西推進事業 | 府補 | 丹後半島振興広域連携促進事業費補助金 | | 165千円 | | | |
| 基本計画 | 04 滞在型観光・スポーツ観光の促進 | 主な財源 | | | | | | |
| 目的 | ワールドマスターズゲームズ2021関西（WMG）の取組を通じて、本市の滞在型スポーツ観光の推進、障害者スポーツの基盤づくり及び地域の活性化を図る。 | | | | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | OWMG京丹後市実行委員会補助金 1,473千円 ・実行委員会ホームページ運営等 427千円 ・WMGブレ大会開催費用 1,046千円 ＜SUP2021ジャパンオープン＞ ・開催日：令和3年4月11日（日） ※10日（土）SUP無料体験会実施 ・参加者数：71人 ※無料体験会 40人 ・会場：久美浜湾カヌー競技場 ＜令和3年度全日本カヌーマラソン選手権大会＞ ・開催予定日：令和3年6月19・20日（土・日） ・開催日：令和3年6月19・20日（土・日） ※6月14日延期決定、9月4日中止決定 ＜全国高等学校カヌー長距離選手権大会＞ ・開催日：令和4年3月20日（日） ・参加者数：129人 ・会場：久美浜湾カヌー競技場 | | ○その他 225千円 ・WMG京都府実行委員会負担金 200千円 ・旅費（京都府実行委員会会議）、消耗品費、有料道路通行料 25千円 | | | | | |
| | 成果・課題 | OWMGブレ大会（SUP、カヌーマラソン、全国高校長距離）を開催し、本大会に向けての競技運営に必要な運営体制等について確認することができ、今後の大会・合宿誘致に向けてノウハウを得られた。 ○大会ホームページで情報発信を行うなどWMG関西大会及び京丹後市のPRに努めた。 ○OWMG関西大会は2027年に延期となったが、本大会の開催に向け、引き続きブレ大会の開催等、必要な準備や本大会の啓発等を進める必要がある。 | | | | | | |

| 款 | 10 教育費 | 本年度決算額 | 最終予算額 | 不用額 | 執行率 | 部 | 教育委員会事務局 |
|-------------|---|--------|---------|---------------------|--|---|----------|
| 項 | 05 保健体育費 | 917千円 | 1,186千円 | 269千円 | 77.3% | 課 | 生涯学習課 |
| 目 | 02 ｽﾏｰﾌﾞ推進費 | | | | (参考)当初予算額 | | |
| 事業 | 06 東京2020初光の聖火リレー事業 | | | | 3,810千円 | | |
| 基本計画 | 04 滞在型観光・スポーツ観光の促進 | 府補 | | 東京2020初光の聖火リレー開催補助金 | 454千円 | | |
| 目的 | 東京2020オリンピック聖火リレーを実施することにより、大会の機運醸成、ホストタウン事業などの成功に資するとともに、スポーツ振興、地域活性化などスポーツによるまちづくりを推進する。 | | 主な財源 | | | | |
| 主要な事務・事業の概要 | <p>京丹後市聖火リレー（浅茂川漁港をスタートし、八丁浜小浜キャンプ場付近をゴールとした約22キロメートル）は、新型コロナウイルス感染予防のため中止となり、京都スタジアムでの無観客によるリレーと点火セレモニーの実施となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 令和3年6月25日 ・会場 京都スタジアム（亀岡市） ・京丹後市からのリレー参加者数 11人 | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○旅費 5千円 ○需用費（消耗品費、印刷製本費） 311千円 ○委託料 569千円 <ul style="list-style-type: none"> ・会場設営委託料（ステージ看板委託など） ・会場整備計画策定委託料等（リレーコースの整備計画作成） <p>※開催間際の中止（5月12日）となったため、それまでにかかった経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ○使用料及び賃借料（自動車借上料、有料道路通行料） 32千円 | | | 成果・課題 | ○当初予定していた網野八丁浜を会場としていた計画は変更となったが、京都スタジアムでの無観客によるリレーに本市からも参加し、スポーツ振興の機運醸成を図ることができた。 | | |

Ⅲ 学校評価自己評価

1. 学園保幼小中一貫教育報告一覧

| 学園名 | 「目指す子ども像」、教育目標 |
|---------|--|
| 1 峰山学園 | 【教育目標】 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 【目指す子ども像】 「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」 「思いやりのある子ども（徳）」 「進んで心と体を鍛える子ども（体）」 |
| 2 大宮学園 | (1) 教育目標 自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成 (2) 目指す子ども像 ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） ○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体） |
| 3 網野学園 | 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】 意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】 規範意識をもち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】 粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども 【教育目標】 将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進 |
| 4 丹後学園 | 「目指す子ども像」 ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】 ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】 ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】 「教育目標」 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 |
| 5 弥栄学園 | 教育目標 「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」 目指す子ども像 (知) 知識と技を磨き、活用する子 *自ら課題に取り組む(自主的な姿勢) (徳) 自他の良さを知り、共に伸びる子 *仲間と知恵を絞る(対話的な学び) (体) 心身を鍛え、何事もやりぬく子 *解決策を探り、自信をつける(深い学び) |
| 6 久美浜学園 | 【教育目標】 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」 【目指す子ども像】 (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども |

2. 京丹後市立こども園、学校評価自己評価報告一覧

| 学校名 | 学校・園教育目標 |
|------------|--|
| 1 峰山こども園 | “笑顔でつながろう。心とこころ!!” ～はなそう・つたえよう・みんなのおもい～ (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。 |
| 2 大宮こども園 | 人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成 ・健康で安全に活動する子ども ・身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子ども ・人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子ども ・素直で思いやりがあり積極的に関わり合う子ども |
| 3 網野こども園 | 『園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。』 ・明るく元気で主体的に活動する子どもの育成 ・みんななかよく思いやりのある子どもの育成 ・伸び伸び生き生きやりぬく子どもの育成 <テーマ> 『どきどき わくわく きらっ! ひとりひとりがかがやいて』 |
| 4 丹後こども園 | ・主体的に環境に関わり自分で考え判断し行動する園児を育む。 ・遊びや生活の中で様々な体験をしながら、ものの見方や思いやりの気持ちを育む。 ・地域とともにある園づくりを進める。 ・保育教諭同士が互いに学び合える組織づくりを進める。 |
| 5 弥栄こども園 | 「みんな だいすき つながるえがお」 ～やってみよう!もってやりたい!夢中になって遊ぶこどもをめざして～ ・さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ・生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体を育てる。 ・身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。 |
| 6 かぶと山こども園 | こども園教育目標 「元気な体と豊かな心、生きる力を持った たくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》 ～いっぱい遊ぼう!一緒に遊ぼう!友達っていいな～ 1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現する力を育てる。 |

| 学校名 | 学校・園教育目標 |
|------------|---|
| 7 峰山小学校 | <p>社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら主体的に生きることが出来る力を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2 よりよい生き方・在り方を深く考え、自律的に行動する力を育てる。 3 学んだことを生かして、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度を育てる。 |
| 8 いさなご小学校 | <p>教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」</p> <p>目指す子ども像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども |
| 9 しんざん小学校 | <ol style="list-style-type: none"> 1 一人ひとりが自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】 |
| 10 長岡小学校 | <p>「峰山学園」経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して学校教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に迫る。</p> <p>（目指す子ども像）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども |
| 11 大宮第一小学校 | <p>「学校教育目標」（長期目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自他を尊重し、自ら学ぶ こどもの育成 <p>「目指す学校像」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇他地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】 |
| 12 大宮南小学校 | <p>大宮学園 教育目標</p> <p>「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」</p> <p>大宮南小学校 目指す学校像</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学級づくりを基盤にして、質の高い授業づくりを迫る学校 (2) 全ての児童が大切に育てられている人権的風土のある学校 (3) 家庭・地域と共にある信頼される学校 |
| 13 網野北小学校 | <ol style="list-style-type: none"> 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。 |
| 14 網野南小学校 | <p>網野学園保幼小中一貫教育の目標から</p> <p>「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成」</p> <p>【目指す子ども像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子 |
| 15 島津小学校 | <ol style="list-style-type: none"> 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。 |
| 16 橋小学校 | <p>【教育目標】</p> <p>「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」</p> <p>【目指す子ども像】</p> <p>あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】 意欲的に学習に取り組む子ども</p> <p>み：みんななかよく支え合う子 【徳】 規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども</p> <p>の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】 粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども</p> |
| 17 丹後小学校 | <p>教育目標（丹後学園共通）</p> <p>「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」</p> <p><目指す学校像></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校 |
| 18 宇川小学校 | <p>夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成</p> <p>○目指す子ども像</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)言葉で伝え合い、主体的に学ぶ子(知) (2)自分を大切にし、人を思いやれる子(徳) (3)粘り強く身体を鍛える子(体) |
| 19 吉野小学校 | <ol style="list-style-type: none"> 1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図るために、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級づくりを推進する。 2 確かな学びの力と豊かな人間性を育み、一人一人が大切にされる「心の教育」の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の保幼小中一貫教育を校種間における様々な取組等を充実させながら推進する。 5 ICTを効果的に活用し、授業改善を図る。 |

| 学校名 | 学校・園教育目標 |
|------------|---|
| 20 弥栄小学校 | <p>「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子 |
| 21 久美浜小学校 | <p>教育目標【久美浜学園全体】 「ふるさとを愛し 意欲的に学び やさしい心を持ち 根気強く努力する子どもの育成」</p> <p>目指す子ども像【久美浜学園全体】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 意欲的に質の高い学力を身に付けようとする子ども(知) (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心を持つ子ども(徳) (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども(体) <p>重点目標【久美浜学園全体】 「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」 ～ 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 ～</p> <p>指導の重点『学力の向上』</p> <ol style="list-style-type: none"> ①基礎・基本の徹底 ②主体的に学ぶ力の伸長 ③家庭学習時間の確保 <p>校訓「一生懸命」を意識した教育活動の推進</p> |
| 22 高龍小学校 | <p>意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成</p> <p>— 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 —</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎・基本の徹底 2 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) 3 家庭学習時間の確保 |
| 23 かぶと山小学校 | <ol style="list-style-type: none"> 1 久美浜学園教育目標 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成」 2 めざす児童像 <ol style="list-style-type: none"> (1) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子 |
| 24 峰山中学校 | <p>【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成</p> <p>【めざす生徒像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 <p>【重点課題】(社会的自立につながる教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためのICTを活用した授業改善の推進と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 |
| 25 大宮中学校 | <ol style="list-style-type: none"> 1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼され、開かれた学校づくり 5 教職員の資質能力の向上 6 大宮学園保幼小中一貫教育の推進 |
| 26 網野中学校 | <p>将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。 |
| 27 丹後中学校 | <p>開校8年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。</p> <p>生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性を信じそれに果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。</p> |
| 28 弥栄中学校 | <ol style="list-style-type: none"> 1 全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。 2 主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。 3 基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。 4 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てていく。 5 未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。 |
| 29 久美浜中学校 | <p><久美浜学園> 指導の重点：学力向上</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 基礎・基本の徹底 (2) 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) (3) 家庭学習時間の確保 <p>◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前前が当たり前前のできる学校、「命」「今」「仲間」を大切に学校を目指す。</p> <p>◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 3 不登校の未然防止と不登校(傾向)生徒の改善 4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立 5 新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」 |

令和3年度 峰山学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

| |
|---|
| <p>【教育目標】 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」</p> <p>【目指す子ども像】 「意欲を持って自ら学ぶ子ども (知)」 「思いやりのある子ども (徳)」 「進んで心と体を鍛える子ども (体)」</p> |
|---|

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

| | |
|--|--|
| <p>指導の重点「確かな学力の育成 (授業研究)」「コミュニケーション能力の育成 (生徒指導・特別活動)」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。</p> <p>(1) 確かな学力の育成 言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。(授業研究) ※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。 ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める。</p> | |
| <p>授業の中で目指す児童生徒の姿 (3目標)</p> <p>①自己決定をしている ②自己存在感を感じている ③共感的な人間関係をはぐくんでいる</p> | <p>そのための指導方法 (3視点)</p> <p>①主体的に活動する場面が設定された授業 ②本時の目標が明確で「わかる」授業 ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業</p> |
| <p>イ 目標と指導と評価の一体化を進める。 (ア) 目標から単元総括テストを作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計 (イ) 単元総括テストの蓄積と検証</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成 確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。(生徒指導・特別活動) ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動 (積極的な生徒指導) イ 自己肯定感を高める取組 (特別活動) (ア) 学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組 (イ) 集団の中で豊かに人とかかわることができる取組</p> <p>(3) 評価を見通した取組の充実 ア 学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実 イ 教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善</p> | |

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

| 項目 | 内容 | 評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等) |
|----------------------------------|---|--|
| 幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策 | <p>(1) 学園内の全ての学校が、年度当初から目指す子ども像・教育目標を共通化</p> <p>(2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け</p> <p>(3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け</p> | <p>(1) 児童生徒の実態や課題などや目指す子ども像、目標方針の共有について ○年度当初の研修会は各校での開催となったが、峰山学園の児童・生徒の実態から明らかにした経営方針を全教職員で確認し、運営ができた。 ○児童・生徒の状況については、各会・部会で共通理解を図り、取組に生かしている。担任会でも、児童の状況について交流を行ったり、指導方法等を学び合ったりしている。 (2) 学校経営及び進行管理 ○月1回の定例経営会議を校舎長会として開催し、学園内の教育課題の把握・整理を行いながら、教育目標・目指す子ども像の実現を目指して保幼小中一貫教育を意識して経営を行うことができた。 ○経営会議で、運営部会、教育課程部会、生徒指導部会、教育支援部会、学習指導部会の取組等を把握することができた。 ○担任会の実践を進めるために、担当校長・教頭、教務主</p> |

| | | |
|-------------------------------------|---|--|
| | | <p>任が担任会に入り、中学校数学科の教員が5・6学年担任会に加わっている。また小中の教務主任が担任会に加わることで、学習指導部会と連携した組織となり、より充実した活動ができた。</p> <p>○担任会が研究組織として機能していくことを年度当初に学習指導部会で確認し活動を進めたことにより、一貫教育の取組の見直しを行うことができた。単元総括テスト作りを通して、単元の指導構想、教材観、評価観、指導力観に繋がる論議を通して教師の指導力向上に繋がる一助となった。また5・6年担任会では、中学校数学科担当の先生からの意見や指導の実態を聞くことができた。小から中に繋がる指導の一貫性をより意識することができた。</p> <p>○1年担任会後半には、こども園から園長、担任が参加し保幼小の接続がスムーズにいくように連携を深めた。接続を意識したこども園の実践から小学校の指導を振り返る機会となった。</p> |
| <p>就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程</p> | <p>(1) 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり</p> <p>(2) 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導</p> <p>(3) 単元総括テストの作成と交流</p> <p>(4) 京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用</p> <p>(5) 学力充実期間等の設定</p> <p>(6) 中1ふりスタ (中学校1年生集中振り返り学習)</p> <p>(7) 全ての学年でのふりスタ</p> <p>(8) 家庭学習ががんばり週間の実施</p> <p>(9) 中学校体験授業</p> <p>(10) 「5年生・6年生の心構え」の検討</p> <p>(11) 二分の一人成人式(小学校4年生)、立志式(中学校2年生)</p> <p>(12) こども園、小学校の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導</p> <p>(13) アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証と改善</p> <p>(14) 不登校にかかる事例研「不登校の子どもと家庭への小中連続した支援の在り方について」の実施</p> | <p>就学前から中学卒業までを見通した一貫した指導の充実と教育課程編成を行う。</p> <p>本年度も、0期、I期～III期をより意識した指導を行うことを年度当初で確認した。各校園では「(0) I期～III期における『目指す姿』(教育課程)を職員室に掲示する等、担任会で峰山学園の児童生徒につける力の検討を行ってきた。このことが、一貫性・系統性のある教育課程による指導につながっていく。</p> <p>(1) 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像の共有</p> <p>○経営会議で決定したことを各校へ持ち帰り、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。</p> <p>(2) 就学前から中学卒業までを見通して一貫した指導について研究を行った。</p> <p>○年間12回校園長会を実施し、連携を深め、10年間を見通した指導について取組を進めることができた。また、教育支援部会へのこども園の参加、1年担任会(こども園の参加)・教育課程会議の取組で、一貫した園児・児童の支援を行うことができるようにしてきた。</p> <p>○●こども園等から小学校へ、小学校から中学校への子どもに関わる情報については、個人情報であることと踏まえた対応と内容については、毎年確認をしてより良いものにしていく必要がある。アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムも1年担任会で検討し改善・実践する。</p> <p>○本年度、教育目標、目指す子ども像の実現を目指して、0期、I期～III期までの指導・支援の在り方について明確にしようとして確認をして教職員が、協働して指導・支援を行ってきた。次年度以降もさらに0期、I期～III期までの指導・支援の在り方について明確にしていく。</p> <p>○指導の重点である確かな学力の育成では、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを各小・中学校で進めることができた。</p> <p>○1中学校4小学校だから実施する必要がある「中学校体験授業」等に取り組むことができた。また、「乗り入れ授業(小中連携加配)」(体育)にも取り組むことができた。</p> <p>●コロナ禍では「小学校合同校外学習」の実施は難しいが、ICT活用等の工夫をして可能な限り小中連携について追究する。</p> <p>○児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。</p> <p>○小中の家庭学習の在り方についてI期の「与えられた課題を確実にやり切る力」からIII期の「授業と関連した自主学習の力」を付ける家庭学習の指導の改善を図った。中学校の実践を参考に小5、小6が使用する「家庭学習週間シート」で目標に向かって自分で家庭学習計画を立てる仕組みを整え実践を進めることができた。</p> |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、豊かな人間関係の構築を目指して学級経営、授業の場で生徒指導の3機能を生かす視点を意識した指導を行い、概ね落ち着いた状況で生活できている。 ○生徒指導部会のアンケートを実施することで児童・生徒の実態をつかみ、SNSに係る指導を小・中学校で進めることができた。 ●情報機器やSNSにかかる指導については、PTAとの連携が今後必要である。 ○「二分の一人式」「立志式」に取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。学園としてねらいや趣旨を共通化して、育成すべき力の実現を目指す。 ○夏季研修会の全体会で教育支援部担当者から、中学校の不登校傾向児童、配慮を要する児童生徒への組織的な対応の具体を共通確認した。情報の接続の重要性、認識の共通理解、対応の一貫性が未然防止に繋がっていることを認識でき、小中の丁寧な連携が成果に繋がっていることを確認できた。 ○部会にはSC、SSWの参加依頼も行き、対応を検討した。 |
| <p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p> | <p>(1) 目指す子ども像の実現・目指す教師像の意識化に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業を通じた研修会 ウ 担任会を通じた研修</p> <p>(2) 「集団の中で豊かに人とかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア 峰山中学校合唱祭 イ 部活動体験 ウ 合同授業・学びの交流等 エ 体育祭等 オ 生徒指導の3機能を生かした「わかる・できる」授業実践 カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○『「わかる」「できる」授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点』『生徒指導の3機能を生かした授業』について小中学校ともに各校で授業研究に取り組み、授業改善を前進させることができた。 ○一部オンライン開催・誌上開催となったが、全教職員の研修会での実践研究及び各部会での実践交流を通して、教職員の交流及び共有化を図ることができた。 ○峰山中学校合唱祭（中止）・クリーンキャンペーン・部活動体験・体育祭・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校への不安を解消したり、自己肯定感を高めたりすることができ、引き続き、取組内容等を検討し実施していく。 ●感染予防が必要な中、小学校合同校外学習・合同授業等を通して小中の交流を深め、豊かな学習を創り上げるために何ができるか探っていく。 ●交流会が実施できない中、保幼小中の教職員及び峰山高等学校との授業研究等を通して今後も連携を深めていく。 |
| <p>家庭、地域との連携、情報発信</p> | <p>(1) 家庭・地域への情報発信 (2) 学校支援ボランティアの活用 (3) 家庭との連携</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○学園の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）と連携した峰山学園PTA統一目標を策定したり、具体的にPTA挨拶運動（峰山学園PTAみんなでおはよう運動及び交通安全指導）を実施したりすることができた。 ○学校運営協議会を通じて学園の取組等を関連機関や地域に発信してもらうことで、学園の取組への理解や安全面での協力が広がりが見られるようになった。 ○学園だより・ホームページ・リーフレット等により学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 ○学園内の教育活動の充実を図るために各校の希望を聞き、地域性を生かした教育活動の展開を目指して積極的に学校支援ボランティア等の活用を図ることができた。コロナ禍で未実施となった取組もあるが人材のパイプが広がった。市民が、学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができた。 ○SNSについて、各小中学校で実態に合わせてPTAと連携して取り組むことができた。今年度はSNS講演会も小学生、中学生、保護者の3部制で実施できた。今後もSNSに関わる指導をPTAと連携して進めていく。 |

4 今年度の成果と課題 改善方策

| 成果と課題 | 改善方策 |
|--|--|
| <p>《成果》</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童生徒、教職員アンケート結果より <ul style="list-style-type: none"> ・峰山学園の保幼小中一貫教育の成果は顕著に現れ、峰山学園の児童生徒の課題解消や軽減等は着実に進んでいる。 峰山学園の教職員のアンケートから、確実に保幼小中一貫教育で目指している一貫した指導が浸透してきていることが伺える。今年度は、秋に授業研究会を実施でき、各校や学年会等で授業について小・中学校の教員が学園の授業改善の目標を意識して研究を進めている状況が確認できた。 学園経営及び進行管理について <ul style="list-style-type: none"> ・経営会議が運営会議、教育課程会議及び生徒指導部、学習指導部などを統括する必要があり、組織改編を行った。 ・担任会の実践を進めるためにより機能的な組織体制にして、担任会がより授業づくりの実践推進を担うよう学習指導部と連携できるようにした。 ・担任会の活動内容（総括テスト、学習の振り返り）を明らかにし、授業改善や学力向上に繋がる実践を取り組むことが出来た。 ・学園が標榜している授業改善の3つの柱（授業を見る視点、生徒指導の3機能、目標と指導と評価の一体化）に焦点化した実践を進めることができた。 10年間を見通した一貫した取組について <ul style="list-style-type: none"> ・「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担任会に位置付け学習指導部と連携しながら（言葉の力の育成：思考する力・判断する力・表現する力）に焦点を当てた評価テストの作成等に取り組むことができた。 ・生徒指導の3機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた。 オンラインではあったが、夏季研修会の全体会の中で、峰山学園が研究指定を受けてから10年間、小中一貫教育に係る取組を展開し、大きな課題であった学力の向上、不登校の改善についての成果を全教職員で確認することができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、「(0)Ⅰ期～Ⅲ期に目指す姿」を強く意識をし、各期に身に付けさせる力を明らかに指導することができた。 ・児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 ・各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、授業にも生徒指導の3機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一成人式」「立志式」にも取り組み、成長を実感し自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。 ・「小中学校で共通確認する指導の視点」に基づき、各校で実態に応じた授業づくりに関わる | <p>《改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度は、現体制（1中学校4小学校2こども園の組織図及び組織体制）で運営していく。 ○担任会の取組の継続・発展 担任会…今年度の体制を維持し次の内容に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> ①学年の学習内容の復習のための課題づくり ②目標と指導と評価の一体化を具体化する総括テストづくりをすることによる指導力の向上を図る。 ③0期～Ⅲ期の指導目標を踏まえた指導の充実を図る。 ○小4（Ⅰ期とⅡ期の節目）に「焦点化して研究推進してきたが、今後それぞれの節をより確かなものにするために研究・実践の幅を広げていく。6・3制のもとで定着している教育課程の意識や行事・取組等を検討し小中一貫した教育課程の無理のない移行を図る。 ○こども園から小学校への連続性、効果的な接続の在り方について今後より一層重点的に取り組み、学園の保幼小一貫した教育の実践を目指して研究を推進していく。 ○小・中学校教員の研修会 授業づくりを中心とした協議を行い、小中学校で指導力の向上を図る。 ○令和4年度の目指す子ども像・教育目標・目指す教師像について、保幼小中一貫教育推進の手引きをもとに検討を行う。 <p>【令和4年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 目指す子ども像 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体） 教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す教師像 教育的愛情と、使命感・情熱に満ちている教師 人間的魅力にあふれている教師 高い「専門性」と「授業力」を持ち、確かな学力をつけることができる教師 児童生徒、保護者、同僚、地域の人から信頼される教師 「京丹後」への理解と愛情と、国際的な視点に立った教育を進めることができる教師 学園経営方針 <ol style="list-style-type: none"> (1)一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童・生徒】 <ul style="list-style-type: none"> ア 自分の将来を展望し、意欲を持って学ぶことができる取組を進める。 イ 自分の思いや考えが表現でき、共に学び、思いやることのできる取組を進める。 ウ 粘り強く挑戦し、自らの心や体を鍛えることのできる取組を進める。 (2)「中学校卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】 <ul style="list-style-type: none"> ア 児童生徒の願い・希望・悩みに正面から向き合い、共感的理解と指導に努める。 イ 「わかる」「できる」授業・生活の創造に取り組む、専門性の向上を図る。 ウ 10年間を見通して、一貫性・系統性のある指導を行う。 エ 互いに学び合い、協働的な教育活動を展開する組織を構築する。 オ 保護者や地域の人達と連携して児童生徒の社会的自立を図る指導を進める。 (3)保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】 <ul style="list-style-type: none"> ア PTA・地域と連携した自己肯定感を高める取組を進める。 イ 保護者・地域へ双方向の情報発信を行う。 |

研究を進め、秋季研修会で小学校2校の授業研究会を行った。具体的な児童生徒の姿から、よりよい授業づくりの在り方について学び合うことができた。協議を通して目指したい指導生徒の姿や授業づくりで大切にしたい視点を明確化したり共有化させたりすることが出来た。

- ・保幼小中一貫教育コーディネーターの役割を明確にし、学園日より・ホームページ・リーフレットの作成を行い、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。
- ・不登校の未然防止に向けて、学園内で気になる子どもの情報交流をすることで、幼児期・学童期の過去の様子や家庭の情報などを得ることができ思春期の時期の変化に即した支援や指導に繋がった。
- ・現場ですぐに活用できる内容として、愛着障害の特徴や種類、それに応じた支援等、重要な事柄をSSWの講義で学ぶことができた。それぞれのステージで移行支援シートを丁寧に作成し、引き継いでいることも不登校の解消につながっている。
- ・SC・SSWの専門的な見立てからも学び、状況改善に向けての取組を進めることができた。
- ・相談部による校内サポートなど学校が組織として継続して支援をすることを推し進めてきた結果、不登校の未然防止につながった。
- ・SNS講演会については、児童生徒向けと保護者向けを実施できた、主催、運営等の役割分担が整った。
- ・コロナ禍ではあったが、ペアやグループでの学習形態を計画的に取り入れることで、子ども達のつながりを育み、学習意欲の向上や不登校の未然防止につながることができた。

《課題》

- 1 令和4年度学園経営に向けて
 - (1) 組織体制及び運営上の改善
 - ・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、0期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を目指した指導をさらに進める。
 - (2) 令和4年度に向けての重点的な課題・取組の方向

【教育目標・目指す子ども像・学園経営方針】

- ・令和4年度についても、学園として教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子」の実現に向けて、PDCAサイクルで、学園経営を行っていく。

【学園指導の重点】

- ・特に「確かな学力の育成」に関する取組では、「目標と指導と評価の一体化」を進めて行く。小小連携で、単元末総括テストの作成・実施・評価・改善に力を入れて取組を更に進める。
- ・「目標と指導と評価の一体化」について、中学校での実践のわかる化を進める。
- ・夏季研修については、教職員の指導力量を高めていく取組の大きな節としていく。特に、保幼小中連携に焦点を当てた取組とする。
- ・授業研究については、学習指導部会が中心となって「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「目標と指導と評価の一体化」「生徒指導の3機能を生かした授業」を基に行う。小中全教職員が授業研究にかかわるためにも、各校で視点を明確にした実践

ウ 市民が学校の教育活動を積極的に支援する取組を進める。

○学園指導の重点

指導の重点「確かな学力の育成(授業研究)」「コミュニケーション能力の育成(生徒指導・特別活動)」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。

(0) I～Ⅲ期における「目指す姿一覧」を意識した指導を今後も積極的に行う。

(1) 確かな学力の育成

生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。(授業研究)

※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。

ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める授業の中で目指す児童生徒の姿 (3目標)

- ①自己決定をしている
- ②自己存在感を感じている
- ③共感的な人間関係をはぐくんでいる

そのための指導方法 (3視点)

- ①主体的に活動する場面が設定された授業
- ②本時の目標が明確で「わかる」授業
- ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業

イ 目標と指導と評価の一体化を進める

(ア) 目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計

(イ) 単元総括テストの蓄積と検証

ウ ICT・ロイロノートの活用をすることにより、生徒指導の3機能(3目標・3観点)を生かすとともに「対話的・主体的で深い学び」の実現を目指した授業づくりを行う。

(2) コミュニケーション能力の育成

確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。(生徒指導・特別活動)

ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動(積極的な生徒指導)

イ 自己肯定感を高める取組(特別活動)

(ア) 学校や地域の一員として主体的に参加する取組

(イ) 集団の中で豊かに人と関わることができる取組

(ウ) 一人一人の居場所を確保し不登校の解消につながる取組

(3) 評価を見通した取組の充実

ア 学園評価・学校評価結果に基づく学園経営の充実

イ 教育評価・指導評価結果に基づく教育実践の改善

○保幼小中一貫教育の具体的な内容

1 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標方針の共有に向けて

- (1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化
- (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け
- (3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け

2 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程

(1) 峰山学園の目指す子ども像を見通した指導と教育課程の作成

ア 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり

イ 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導

| | |
|--|---|
| <p>を積み上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人1台タブレットの導入に伴い、ロイロノート活用の活用が幅広く図られ「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善が行われた。今後は9年間の指導の系統性を整え、さらなる効果的な活用を推進する。 「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」では、「言葉の力の育成」に焦点を当てた実践を進める。 不登校の解消に向けて、今年度の取組を継続するとともに、関係機関との連携を更に深め、個に応じた対応から社会的自立につながる指導を展開する。 生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、コミュニケーション能力を育成し、豊かな人間関係の構築を目指す。同時に、指導者として各学年・発達段階に応じてそのためにどのような手立てが必要か検討していく。 「5・6年生の心構え」について年度初めに共通確認し、学園で足並みをそろえた指導を行うことができた。 特別支援を要する生徒が繰り返し問題行動を起こすなどの特徴が見られる。指導や支援の方法をより一層工夫・連携していく必要がある。 学園評価について、方針に基づいて早い段階から、評価の計画・見直しを持ち、学園学校運営協議会での評価により指導の改善を図る。 教育評価（総括テスト等）から、教育指導を実践していく。ゴールや出口を明らかにすることでより質の高い取組を行う。 保護者、地域の方々の評価については変更を加える。 <p>【保幼小中一貫教育の具体的な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 0期・I期～III期の実践を明確にし、小中一貫教育の姿を確認する。 <p>(3) 令和4年度に向けての年間計画・行事の見直し</p> <p>コロナ禍で制限もあり配慮が必要だが、保幼小中一貫教育の取組を継承・発展する視点と、実態に応じて見直す視点をもつ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・小6児童の不安感や中1生徒の困り感の再検証 ・峰中（中1）ギャップの捉え直し ・単元総括テストの作成と交流と検証 ・京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 ・学力充実期間等 ・乗り入れ授業 ・小学校高学年での一部教科担任制（音楽科） ・中1生集中振り返り学習 ・全ての学年でのふりスタ ・中学校体験授業（年2回） ・二分の一人式（小4）、立志式（中2） <p>ウ 0期I期～III期の目指す姿を達成できる指導について協議、実践していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領で児童生徒を主語にして授業改善の視点が示されていることを踏まえ、現在の指導方法を中心とした「小中学校で共通確認する指導の視点」について見直しを行う。 ・「5・6年生の心構え」については、児童生徒の実態を踏まえ、検討を継続していく。 <p>エ 園小接続を中心とした教育課程の編成と一貫した指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証 <p>3 子ども、教職員の交流と協働</p> <p>(1) 「目指す子ども像」の実現・「目指す教師像」の意識化⇒教職員の協働及び教職員の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業を通じた研修会 ウ 担任会を通じた研修 <p>(2) 「集団の中で豊かに人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 峰山中学校合唱祭 イ 部活動体験 ウ 合同授業・学びの交流等 エ 峰山中学校体育祭 オ 生徒指導の3機能を生かした授業実践 カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組 キ クリーンキャンペーン ク SNS講演会（峰山学園主催、運営：運営会議・峰山学園生徒指導部） <p>4 家庭、地域への積極的な情報発信</p> <p>(1) 峰山学園学校運営協議会による評価の実施と学園の目標、教育活動の保護者・地域住民への積極的な情報発信</p> <p>(2) 中学校区の家庭教育の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）を踏まえた「峰山学園」PTA統一目標の設定</p> <p>(3) 「峰山学園」PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施</p> <p>(4) 学園の教育活動に支援体制（学校支援ボランティア等）の機能化と充実</p> <p>(5) SNS講演会（保護者向け）については、小中一貫校PTAの取組として位置付け、各校PTAの計画等にも組み入れる。地域にも発信し地域と連携した取組に広げていく。</p> |
|--|---|

令和3年度 大宮学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

| |
|--|
| <p>(1) 教育目標 自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成</p> <p>(2) 目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども (知) ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども (徳) ○ 心身を鍛え、活動的な子ども (体) |
|--|

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

| |
|--|
| <p>(1) 経営の重点・連携教育活動の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ①連携・体験活動の充実を経営の重点とし、『ICTを活用した精選(効果的・効率的視点での充実・改善)と教職員のニーズへの対応』をキーワードとする。 ②保幼小、小中へのより円滑な接続のための連携教育活動を新型コロナウイルス感染症の状況を見定めながら実施していく。 <p>(2) 「育成すべき基盤となる力」としての人権教育・特別活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する。 ②「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成のための授業づくりと特別活動の充実を進める。 <p>(3) ICTの積極的活用も含めた連携教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①汽水域を中心とした効率的・効果的な連携教育活動の精選・充実を図る。 ②汽水域以外の連携教育活動を創造する。 <p>(4) 大宮学園授業研究・合同研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を目指した授業研究を行う。 ②全教科・教科外指導力の向上を目指した合同研究(教職員のニーズに応じた研修)を推進する。 <p>(5) 学園経営と各校経営の円滑な推進のための学園組織体制・組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学園経営的会議(経営・運営・教育課程)の効率的な運営を行う。 ②各部会の組織的・効率的な運営を行う。 ③学園予算策定・執行の組織的・効率的な運営を行う。 <p>(6) 外部連携の仕組みの強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学園広報の強化・充実に努める。 ②大宮学園小中一貫校PTA、園所保護者会との効率的な連携を進める。 ③大宮学園学校運営協議会での熟議と具体的活動(見守りとセットのあいさつの取組)を推進する。 |
|--|

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

| 項目 | 内容 | 評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等) |
|----------------------------------|---|---|
| 幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策 | <p>(1) 学園内の全ての園・学校が、教育目標、目指す子ども像を共通化する。</p> <p>(2) 学園内の全ての園・学校が、学園経営計画を各校の経営計画へ位置づける。</p> <p>(3) 学園内の全ての園・学校が、学園の子どもの実態・課題、学園重点方針等を各校の経営計画へ位置づける。</p> <p>(4) 学園保幼小中一貫教育推進部会による理論・実践研究成果を各校に波及させる。</p> | <p>(1) 学園教育目標及び目指す子ども像に向けて、学園内の2園所、3校での共通化に取り組んだ。</p> <p>(2) 学園経営計画を各園所、学校の経営計画に位置付け、経営の充実に取り組んだ。</p> <p>(3) 学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営を統括し、一貫した教育指導・活動の充実に努めた。</p> <p>(4) 最大の課題となる不登校について、共通認識と連携の在り方について協議を重ね、指導支援に生かした。特に、教育支援部会で事例研究を通して不登校への理解と支援の在り方について研修を積み重ねることができた。</p> <p>(5) 引き継ぎシートを活用した児童生徒の支援の引き継ぎを丁寧に行うとともに、SCやSSWの活用を進めた。</p> |

| | | |
|-------------------------------------|---|---|
| <p>就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程</p> | <p>(1) 大中校区保幼小中一貫校教育課程の編成</p> <p>① 汽水域指導プログラムの推進等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での乗り入れ授業の計画・実施（加配の活用） ・5・6年生での一部教科担任制 ・中学校授業体験（年2回） <p>② I期・II期・III期の学習への円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプローチプログラム、小1スタートカリキュラム（5歳児担任・1年担任） ・夢・未来式の実施（小4年生・中3年生） ・小4・中1ふりスタ ・中学校定期テスト模擬体験 ・春季休業中の共通宿題（6年生） <p>③ 家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の統一手引き ・家庭学習がんばり旬間 <p>(2) 学力充実向上に関する取組の進行管理</p> <p>① 学力調査と分析</p> <p>② 学力向上のための授業充実・授業力向上</p> <p>(3) 生徒指導・教育相談に係る情報の共有と連携</p> <p>① 5・6年生の心得、共通の生活の決まり</p> <p>② 情報モラル教室</p> <p>③ 保幼小中連携シート</p> <p>(4) モデルカリキュラムに係る推進</p> | <p>(1) 大中校区保幼小中一貫校教育課程の編成について</p> <p>① 汽水域指導プログラムの推進等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携加配の乗り入れ授業（音楽）と英語専科教員による外国語の授業を実施し、児童の実態把握や指導に効果があった。 ・人権教育加配が小学校での学習補助にあたることで、児童支援や児童の状況把握に効果があった。 ・体験入学や授業体験の実施により、入学への楽しみや期待につなげることができた。 <p>② I期、II期、III期の学習への円滑な接続について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園と小学校との連携のもと、小1プロブレムの解消に向けての取組を行うことができた。 ・小4と中3で、夢・未来式に取り組んだ。 ・6年生を対象に中学校定期テスト模擬体験（数学）を実施し、中学入学後のテストに係る不安解消に向けて取り組んだ。 <p>③ 家庭学習の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引き、家庭学習がんばり旬間により、家庭学習習慣の向上に取り組んだ。 <p>(2) 学力向上に関する取組の進行管理について</p> <p>① 学力充実部に新しく学習指導主任や研究主任を加えて学力分析を行うとともに、視点を明らかにした大宮学園授業研究会を行い、授業づくりに取り組んだ。</p> <p>② 教科指導の連携・接続を目指し、担任会、小中連携による指導研究に取り組んだ。</p> <p>(3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続</p> <p>① 学園として小中各校、一貫校PTAで情報モラル学習を実施し、SNSの安全な利用について学ぶことができた。</p> <p>② 事例研究、引き継ぎシート等の充実に取り組めた。</p> <p>(4) モデルカリキュラムに係る推進について</p> <p>① 学園としてモデルカリキュラムをもとにした授業の実施を行った。（新型コロナの感染状況を注視しながら）</p> <p>② 今後もモデルカリキュラムに係る研究を推進していく必要がある。</p> |
| <p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p> | <p>(1) 連携・体験活動</p> <p>① 人権意見発表会（学校毎）</p> <p>② 合唱祭 ③ 体育祭</p> <p>④ 部活動体験 ⑤ 体験授業</p> <p>⑥ 花いっぱい運動（学校毎）</p> <p>(2) 幼児・児童・生徒交流活動</p> <p>① 児童会・生徒会交流活動</p> <p>② 挨拶運動 ③ 生徒会アドバイス</p> <p>④ 児童会・生徒会スローガン</p> <p>⑤ 園児と中学生との合同避難訓練</p> <p>(3) 教職員の交流と協働</p> <p>① 担任会（小小担任会、1年担任と5歳児担任、6年担任と中1担任）</p> <p>② 授業研究に向けた取組の推進</p> <p>③ 合同研修・実践交流会の実施</p> | <p>(1) 連携、体験活動、幼児・児童・生徒交流について</p> <p>① コロナ感染防止による連携・体験活動の精選や変更を行わざるをえなかった。（合唱祭・体育祭は中学校のみで実施）</p> <p>② 児童会・生徒会交流活動、挨拶運動（ハイタッチモーニング）、部活動体験等、状況を判断しながら実施できた。</p> <p>③ オンラインでの交流も実施でき、今後活用がさらに求められる。</p> <p>(2) 教職員の交流と協働について</p> <p>① 合同授業研究会や子ども園保育所の公開を通じて、幼児から小中学校への接続やその意義、授業研究の一貫性等大きな学びがあった。</p> <p>② 3部会での現状分析、実践交流に取り組んだ。</p> <p>③ 保幼小中教員の交流は一定進んだが、勤務の関係で保育所・子ども園の先生方との交流が難しい。</p> |

| | | |
|-----------------------|---|--|
| <p>家庭、地域との連携、情報発信</p> | <p>(1) 中学校区の家庭教育課題を踏まえた大宮学園 P T A 統一目標の策定 (2) 大宮学園 P T A による「家庭のやぐそく」の取組 (3) 大宮学園 P T A 統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 (4) 大宮学園運営協議会(大宮学園コミュニティ・スクール)への動きづくり (5) 「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発</p> | <p>(1) 大宮学園 P T A の目標策定とともに、配布済の「令和版家庭の心得」を啓蒙することができた。 (2) 大宮学園 P T A 事業計画に基づき、「元気にはよう挨拶運動」や「情報モラル学習会」等、計画的に実施することができた。 (3) 大宮学園運営協議会との協働を進め、「見守りとセットの挨拶の取組」を広く大宮地域に波及できるように取組を進めた。会員の皆様の思いや期待を運営に生かすことができた。 (4) 学園だより、ホームページの更新等で、教育活動の発信に努めた。 (5) 学園評価を実施し、今後に向けた評価をいただいた。</p> |
|-----------------------|---|--|

4 今年度の成果と課題 改善方策

| 成果と課題 | 改善方策 |
|--|---|
| <p>【成果】</p> <p>(1) 学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営の統括、一貫した教育指導・活動を充実させることができた。</p> <p>(2) 経営会議の方針のもと企画運営会議が運営し、教育課程会議等各会議で一致して進めるシステムがさらに機能してきた。</p> <p>(3) すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」の育成に向けて取組を推進することができた。</p> <p>(4) 視点を明確にした授業研究会や夏季研でのこども園保育所の公開を通じて、幼児から小中学校への接続やその意義、授業研究の一貫性等大きな学びがあった。</p> <p>(5) 保幼小中の不登校状況である園児や児童生徒、配慮や支援の必要な子どもの状況を共通認識し、支援の在り方を探ることができた。</p> <p>(6) 不登校及び不登校傾向児童生徒に絞って事例研究を進めることで不登校に陥る背景の多様さと小中学校で配慮すべきポイントについて共通理解を進めることができた。</p> <p>(7) 学園の経営会議(校長)、運営会議(教頭)の両方で担当指導主事から具体的な資料を基に不登校の状況について確認する機会が設けられることで、教育支援部を中心として事例研究を通して不登校児童生徒の理解と支援について研究を深めることができた。</p> <p>(8) 校種間連携の必要性への意識が高まり、大宮中学校の小学校在籍時の欠席状況の情報提供(未然防止の観点)及び不登校傾向となった生徒に絞った小学校在籍時の学習の状況や欠席状況の情報提供(早期対応の観点)が進んだ。</p> <p>(9) 大宮学園運営協議会では、積極的で意義ある取組を進めていただいた。(見守りとセットのあいさつの取組)</p> <p>(10) 新型コロナ感染防止の視点でいろいろな対応が求められる中、経営会議を中心として情報を共有し、共通認識を持って学園経営を行うことができた。</p> | <p>【課題】に対して</p> <p>(1) 学園評価を受け、保幼小中一貫教育の3つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園保幼小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。</p> <p>①市の教育課題改善のため、保幼小中一貫教育の目的についての共通理解を当初全体会で確実に行う。</p> <p>②その具現化に向け焦点化した大宮学園保幼小中一貫教育の重点策定を行う。</p> <p>ア 確かな学力の育成に向けて、「言語活用カリキュラム」の具体的指導の一貫性を図る。</p> <p>イ 人権意識の育成に向けて、「人権教育カリキュラム」を実施する。また、実施に向けた協議を大切にする。</p> <p>ウ ICTの積極的活用も含めた連携・体験活動を充実させる。</p> <p>エ 目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働を進める。</p> <p>(2) 大宮学園保幼小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。</p> <p>①教職員の保幼小中一貫教育の意識を向上させる。事業の継続から指導の一貫性へのステップアップを図る。</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善について、焦点を絞って研究を推進する。</p> <p>③「言語カリキュラム」と「人権カリキュラム」を一貫した指導の内容面として捉え、日々の授業の中で生かしていく。</p> <p>④連携教育活動を効果的・効率的に進める。</p> <p>⑤担任会・教科部会等を効果的・効率的に進める。</p> <p>(3) 不登校にかかる状況の把握、不登校児童生徒への指導支援の在り方と連携について学園として取組を進める。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>(11) コロナ禍ではあったが、小中連携事業の他、小 小連携、幼保連携も可能なことを実施でき、継続し た取組にできた。</p> <p>【課題】</p> <p>(1) 学園評価を受け、保幼小中一貫教育の3つの目的 の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、 大宮学園保幼小中一貫教育の目標、教育指導の重点、 教育指導・活動の充実を図る。</p> <p>(2) 大宮学園保幼小中一貫教育の目標・教育指導の重 点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充 実させるための学園経営の充実を図る。</p> <p>(3) 不登校・特別支援教育・就学指導に係る学園課題 に対して、さらに実践研究を積み重ねる。</p> <p>(4) 教育支援が必要な幼児・児童生徒や、特別支援及 び教育相談における校種間連携の仕組みを整え、校 種間の円滑な接続を推進する。</p> <p>(5) 大宮学園運営協議会（学園コミュニティ・スケー ル）との協働をさらに進め、より地域とともにある 学園（学校）を目指すとともに、地域に根差していく ための工夫を考える。</p> | <p>①児童生徒の円滑な接続のための個別記録の活 用及び不登校・不登校傾向児童生徒に特化した 事例研究を継続して行う。</p> <p>②教育相談、不登校、家庭支援に係る情報交流と 指導の在り方について継続して研究を進める。</p> <p>(4) 保幼小連携事業・保幼中連携事業・小小連携 事業・小中連携事業を通じた接続連携を強化す る。</p> <p>(5) 大宮学園運営協議会の来年度の方向性を踏ま え、来年度当初の協議会で具体的な提案を行い、 活動を通してより地域とともにある学園（学校） を目指す。</p> <p>(6) 新型コロナウイルス感染防止を徹底し、経営会議が各 会議・部会の進捗状況を把握し、事業や取組を推 進していく。</p> |
|---|--|

令和3年度 網野学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

| | |
|---|--|
| 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 み：みんななかよく支え合う子 の：のびのび生き生きやりぬく子 【教育目標】 将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進 | 【知】 意欲的に学習に取り組む子ども 【徳】 規範意識をもち、仲間と支え合う子ども 【体】 粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども |
|---|--|

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

| |
|---|
| (1) 確かな学力の育成 ア 主体的に学ぶ力とコミュニケーション能力の育成 (ア) 生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業の実現 (イ) 指導と評価の充実(指導と評価の一体化) (ウ) ICTの活用による授業改善 (エ) I期、II期、III期のゴールの姿となる指標づくり イ 補充学習の充実 (ア) 基礎基本を定着させるための個別補充学習 ウ 家庭学習の充実 (ア) 授業とつながる自主的な家庭学習の実現 (イ) 家庭と連携した学習習慣の定着の取組み (ウ) 家庭学習の指標づくり (2) 規範意識の醸成 ア 学習規律の確立 イ 生活習慣の確立 (3) 豊かな人間性の育成 ア 自尊感情の醸成 イ コミュニケーション能力の育成 ウ 将来を展望する力の育成 |
|---|

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

| 項目 | 内容 | 評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等) |
|----------------------------------|---|--|
| 幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策 | ア 学園内の全ての学校園所が、教育目標、目指す子ども像の共通化 イ 学園内の全ての学校園所が、学園経営方針・目指す子ども像の経営方針へ位置付け ウ 学園内の全ての学校園所が、「これだけは！」の各学校園所の経営方針へ位置付け | ○学園経営の基本方針に基づいた「重点的な取組み内容」「行動連携」を具現化するために、経営会議で確認したことを、各会議・部会等で年間計画に沿って取り組み、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。また、今年度より事務部会の部長が経営会議に出席し、学園の経営に参画することができた。 ○学園評価アンケートを実施・分析を行い、次年度の計画の改善に活かすことができた。 【網野学園児童生徒アンケートより】 児童生徒アンケート肯定率80%以上の項目数 小1 (19/19) 小2 (10/19) 小3 (16/19) 小4 (18/19) 小5 (12/20) 小6 (19/20) 中1 (15/20) 中2 (14/20) 中3 (15/20) 概ね肯定的に捉えている学年が多い。 ・中学校は授業規律が身に付いてきている。自分で考え行動する力に繋がっており学校としての指導や取組みが成果として表れている。 *学校のきまりを守る。 1年:100% 2年:99% 3年:99% *時間を守る 1年:96% 2年:98% 3年:98% *服装や姿勢 1年:96% 2年:97% 3年:92% ・小学校においては、学年間、各学校間の差が見られる。 ○「網野学園保幼小中一貫教育だより」「網野学園保幼小中一貫教職員だより」「網野学園学校運営協議会だより」を通して、各学校園所・各部会・学校運営協議会の取組みを共有することができた。 |
| 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 | ア 0期、I期、II期、III期の指導目標を踏まえた系統的な指導 ・I期、II期、III期のゴールの姿となる指標づくり | ○児童の実態を学年部会で交流しながら指標について協議し、推進会議を中心にI期、II期、III期のゴールの姿となる指標を作ることができた。 ○小学校から中学校への円滑な接続を目指し、「6年生中学校部活動体験」「6年生中学校授業体験」を行った。今年度は、部活動体験を6月に |

| | | |
|-------------------------|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上システムプログラムの見直しと活用 ・学力充実月間 ・家庭学習の手引きの活用・家庭学習がんばり週間の取組 ・6年生中学校授業体験 ・6年生部活動体験 ・6年生単元総括テスト ・6年生学年末テスト ・6年生春季休業中の課題 ・中1ふりかえり集中学習 ・小4ふりかえり学習 ・京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 <p>イ 落ち着いた環境をつくるための規範意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これだけは!」「これだけは!」(授業編)の取組みの推進 ・生徒指導・教育相談に係る情報共有 ・乗り入れ授業、小小連携授業、小中連携授業 ・アプローチプログラム・スタートカリキュラムの作成と実践、検証 ・長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムの作成 <p>ウ 思いやりをもち仲間と共に生きる人間関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を生かした教育活動 ・アルミ缶回収・ボランティア活動 ・挨拶運動 ・不登校等学校不応への対策及び未然防止 | <p>実施でき、中学校3年生が中心となった活動を体験することができたことで、部活動への不安解消と期待、部活動選択の一助に繋げることができた。また、中学校授業体験はもとより、日々の小中連携加配教員による授業(算数科)を小学5・6年対象に行ったことで、不安を軽減し、中学校への憧れを抱くと同時に学習に向かう力の高まりが見られるようになった。「6年生中学校体育祭取組見学」については中止となったため、映像等で取組みの様子が伝わるように工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルの学習について小学4年生と中学生を対象に、篠原嘉一氏(NIT情報技術推進ネットワーク)を講師にオンラインによる出前授業が実施できた。SNS、ゲーム等の使用におけるトラブルを知ることができ、今後の使用について見直すきっかけとなった。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保幼小連携部で共有して連携を進め、短規モデルプランスタートカリキュラム、短期モデルプランアプローチプログラムの実践や検証を行うことができた。また、網野学園各園所の実態に合わせてカリキュラムの編成を見直すことができた。 ○今年度、保幼小連携部を中心に令和4年度版長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムを作成することができた。 ○第2回全体研修会で各園所の公開保育参観を通して実態を把握し、実践発表を通して教育・保育について教職員一同が共通理解を図ることができた。 ○小中合同アルミ缶回収ボランティアに取り組むことで、子どもたちは網野学園の一員であることを意識することができた。また、中学生が小学校に出向き一緒に活動することで、児童会本部役員にとっては、中学生が自信をもって思いを表現し伝える姿に憧れをもち、目指す姿を学ぶ機会になった。中学生にとっては、小学生が一生懸命に取り組む姿を見て、アルミ缶回収に取り組む意義を考える機会となった。また、小学1年生から6年生までが中学生から小学校時代に頑張ってほしいことを聴くことで、中学生をより身近に感じるすることができた。 ○不登校傾向及び不登校児童生徒について経営会議や運営会議で状況を共有するとともに、教育相談部を中心に事例研究会を行い、具体的な対応について協議することができた。また、園所から小学校へ、小学校から中学校への引継ぎシートで確実に情報を引き継ぎ、スムーズな接続ができるようにしている。今後も、10年間を見通して、学校園所が家庭との連携を進めながら、一人一人の幼児児童生徒が、学校園所に適応できる力を身に付けていけるようにしていく必要がある。 |
| <p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p> | <p>ア 目指す子ども像の実現に向けた教職員の協働及び教職員の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア) 教職員の合同研修会・実践交流の実施 (イ) 授業研究会、園所参観を通じた研修 (ウ) 学年部会を通じた研修 <p>イ 「自尊心」と「コミュニケーション能力」の向上を目的とした交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア) 6年生網野中学校合唱祭参加 (イ) 6年生体育祭取組見学 (ウ) 6年生部活動体験 (エ) 合同校外学習及び学びの交流 (オ) 小中合同交流事業(友だち交流会等) (カ) 小学校体験授業時の1年生との交流 (キ) 5歳児交流会 | <ul style="list-style-type: none"> ○6年生中学校授業体験は、各小学校の児童をグループにして活動させたことで、個々の児童が交流する機会となり、中学校入学後のイメージをより具体的にもつとともに、同学年の仲間を知ることができ不安軽減に繋がった。 ○推進会議が中心となり、「単元構想シート」に基づいた授業改善を各校で進めることができた。網野学園授業研究会を2回実施し、事後研究会とともに実践交流を行い授業づくりについて協議することができた。 ○園所の先生方の授業研究会への参加、第2回全体研修会等での公開保育・実践発表の実施により、就学前から小学校への接続及び連続性のある指導等について網野学園教職員への共通理解を図ることができた。 ○各学校で招聘した講師による講演や研修会へ参加するなど、連携した学びの場を設定すること |

| | | |
|----------------|---|---|
| | | <p>ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保幼小連携部には校長、教頭それぞれ1名が入り円滑な連携を進めることができた。 ○養護部会を必要に応じて開催し、児童生徒の実態等の共有を図ることができた。 |
| 家庭、地域との連携、情報発信 | <p>ア 網野学園学校運営協議会の取組み</p> <p>(ア) 網野学園の教育や子育て環境について学校・家庭・地域が目標や課題を共有・協議し、具体的な取組みを推進して学園の教育環境づくりを進める。</p> <p>(イ) 網野学園保幼小中一貫教育の推進に向け、学校(P T A) 園所(保護者会)、家庭、地域社会が連携・協働して取り組む。</p> <p>イ 京丹後市P T A協議会網野小中一貫校P T Aの取組み</p> <p>(ア) 網野小中一貫校P T Aとして、「学園合同挨拶運動・交通安全運動」等、一体となって取り組む。また、学園の「目指す子ども像」の実現に向け、保護者会とも連携して取り組む。</p> <p>(イ) どの家庭でも、幼児から大切に作る「これだけは！」(家庭編)の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立 ・ 規範意識の基礎の確立 ・ 家庭学習の習慣化 <p>(ウ) 「子育て講演会(ゲーム・ネット講座)」を網野学園と網野学園小中一貫校P T Aと共催で実施する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○網野学園学校運営協議会を計画的に実施し、学校・家庭・地域が一体となった必要な教育支援について意見交流し、学校づくりへの参画意識の高揚に繋がった。 ○学期に一度、網野学園合同挨拶運動・交通安全運動を設定して保護者だけでなく関係団体や地域の方々と協力し、全ての学校で実施することができた。 ○どの家庭でも幼児から大切にする「網野学園『これだけは！』(家庭編)」のリーフレットを保護者に配布し、保護者へ保幼小中一貫教育で大切にしたい視点を知らせていただき、協力していただくことができた。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが中心となり、学園だより、ホームページ、リーフレット等を通して、学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○学校支援ボランティア等を活用し、網野町の住民が教育活動に積極的に参加できる取組みを進めることができた。 ○子育て講演会に篠原嘉一氏(NIT情報技術推進ネットワーク)を講師とし、オンデマンドで動画配信することができ、保護者がSNS等について学べたことは、家庭での生活習慣の確立を図る上で有効であった。来年度は、講師を招聘して講演会を実施したい。 |

4 今年度の成果と課題 改善方策

| 成果と課題 | 改善方策 |
|---|---|
| <p>(1) 組織体制及び運営上の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運営会議を定期開催し、学園内の教育課題を共有し、教育目標・目指す子ども像の実現に向けた経営を行うことができた。また、今年度より事務部長が毎回参加することで、経費等の面からもより一層保幼小中一貫教育を進めることができた。 ○学園経営の基本方針に基づいた「重点的な取り組み内容」「行動連携」を具現化するために、経営会議が中心となり、各会議・部会等で組織的に進めることができた。 ○運営会議、推進会議、領域部会の取組の進捗状況を把握し、成果・課題を整理し、総合調整や改善に努めた。 △各領域部会で、それぞれの課題に沿って計画的に実施することができたが、生活習慣とSNSの関連性等、領域部会等が連携して課題解決に向けて検討していく必要がある。 | <p>(1) 組織体制及び運営上の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経営会議は、今後も、学園内の教育課題、各会議・部会等の動きを把握しながら、年間を通して課題を整理したり、新たな取組みを提起したりして、的確な学園経営を行う。また、各会議・部会担当校長・教頭は、経営会議に連絡報告及び決済を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組みを進める。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが、各学校園所への訪問、各会議・部会への参加を行い、状況把握と内容整理、調整を図る。 ○「確かな学力の育成」に向けた大きな柱として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを中心に研究を深め、実践を積み上げる。 ○網野学園の授業研究のテーマを基盤にして各校の授業改善を図る。なお、授業研究の教科については、それぞれで決定し研究を深める。 ○児童生徒の生活習慣やSNSとの関連性の改善に向けて養護部会と生徒指導部会の連携を図る。 ○保幼小連携部会の担当者が同一校にならないよう調整し体制を組む。 ○令和4年度、第1回研修会(5月2日)第2回研修会(8月18日)第3回研修会(2月17日)の年3回の研修会を節目として研究を深める。 ○第2回全体研修会(夏季)については、網野学園小中学校全教職員で園所参観を行い、幼児の実態把握や教育・保育実践について共有化を図る。また、網野学園教職員が学べる場として講師を招聘し研修を深めていく。 ○学年部会については、年4回実施する。(5月・6月・7月・1月)授業日における開始時刻は午後4時からとするが7月は午後3時からの設定とする。各小学校の授業公開と関連させたり、計画に沿った十分な準備をする等見通しをもったりして運営し、限られた時間の中で学年部会の研修の充実を図る。 ○小5、小6学年部については担任と中学校数学、 |

(2) 重点的な課題・取組について

教育目標・目指す子ども像・学校経営方針について

- 教育目標及び目指す子ども像の実現に向けてPDCAサイクルで学園経営を行うことができた。
- 園所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通した実践研究を意欲的に進めた。また、網野学園全教職員による園所参観及び全体研修会での園所の実践報告を通して、園所の教育・保育の理解を更に進めることができた。
- 中学校卒業までの目指す姿の共有と系統的な教育、一貫した指導の継続を行うため、推進会議をもとに指標づくりをすることができた。
- 重点的な取組内容として、平成28年度より「規範意識の醸成」「確かな学力の育成」「豊かな人間性」に取り組んできた。行動連携「これだけは」については基礎的なことでもあり、網野学園がスタートしてから継続して取り組む中で積み上がりつつある。

確かな学力の育成について

- △「確かな学力の育成」については、網野学園の最重要課題であるため、授業づくりを中心に研究を進めてきた。児童生徒アンケート結果から学習意欲、学習内容の理解については肯定的な評価(90%)が高い。しかし、自分の考えをもち交流することは学校間・学年間に差が見られる。また、家庭学習について小中の接続をより丁寧に指導し、学習時間はもとより、自ら学習する力を育成する必要がある。
- 小学6年生においては、思考力・判断力・表現力を付けるために、単元終了時に学習内容の理解度・定着度の検証や把握をするため、単元総括テストを作成し、実施することができた。
- 推進会議を中心に授業研究会を年2回実施し、学園のテーマである『主体的・対話的で深い学び』の実現を通して確かな学力を育成する」をもとに、授業実践を深めることができた。

英語担当教員、小学校理科専科で構成する。(配置があれば)

5年部会…中学校英語科担当教員・小学校理科専科
6年部会…中学校数学科担当教員

- 学年の課題から必要に応じて学年部会を開催できるものとする。
- 領域部会については、必要に応じて開催する。

(2) 令和4年度に向けての重点的な課題・取組の方向

教育目標・目指す子ども像・学校経営方針について

- 教育目標「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進」及び目指す子ども像の実現に向けて、PDCAサイクルで学園経営を行う。
- 園所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通した実践研究を意欲的に進めていく。また、子どもたちの成長を連続的なものとして捉える際に役立てながら、園所と小学校との連携を一層進める。
- 令和3年度に作成した指標を基に、その実現に向けた経営を行う。

確かな学力の育成について

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン、ゴールの姿をイメージした単元全体を通じた授業づくりについて、研究・実践を推進会議が中心となり進める。なお、学力向上に関する内容について協議する際は、小中連携加配も推進会議に参加する。
- 網野学園「これだけは！」(授業編)から更に進んで、授業づくりの視点や留意点に重点をおいた授業改善を進め、確かな学力の育成を目指す。更には、非認知能力を伸ばすことが認知能力を伸ばすことに繋がることから「学びに向かう力、人間性の涵養」の観点から「主体的に学ぶ力」、「コミュニケーション能力」の育成に視点をおいた授業実践を行う。
- GIGAスクール構想による一人1台のタブレットを活用した授業改善を進め、実践を積み上げる。
- 単元全体を構想することで、授業のゴールの姿を明確にし、子どもが主体となる授業づくりを進める。子どもの活動時間を確保し、学力の向上を目指す。
- 確かな学力を身に付けさせるため、推進会議が中心となり、各校の実態や状況を交流し授業改善に活かす。また、各種テストの分析を丁寧に行い、課題に対して各校の実態に応じた手立てを講じる。
- 学園として、家庭学習・基礎学力の定着に取り組む。特に家庭学習については保護者とも連携し、家庭学習習慣の定着・内容の充実(自主的な学習)を目指した取組みを更に進めていく。
- 小学6年生においては、思考力・判断力・表現力を付けるために、単元終了時に学習内容の理解度・定着度の検証や把握をするため、引き続き単元総括テストを作成し、実施する。
- 小学4年生においては、I期の最終学年であり、基礎基本の定着に向け小4ふりかえり学習を継続して実施する。
- 学園としてI期からIII期までの指導指標を示し、家庭学習における目指す子どもの姿を児童生徒、教職員、保護者が共有し家庭学習に取り組む、確かな学力を付けていく必要がある。また、園所においても保護者の協力を得ながら、家庭学習がんびり週間を同一時期に実施する。

規範意識の醸成について

- 「規範意識の醸成」については、児童生徒及び教職員アンケート結果や児童生徒の状況から中学校においてはほぼ定着（99%）してきている。小学校では、学校間、学年間に差が見られ更に定着させるための取組が必要である。
- △行動連携『どの家庭でも、幼児から大切にす「これだけは！！」（家庭編）』の中の、規範意識の基礎の確立の中で、「テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める」を挙げている。しかし、網野学園生徒指導部のアンケート結果からも、大きな課題になっている。

豊かな人間性について

- △「豊かな人間性」については、アンケート結果から学年が上がるにつれ、自己肯定感や自尊感情にかかわる項目が低くなっている。
- △学園評価アンケートから「自己肯定感」や「将来の夢や目標」をもつ児童生徒の割合が学年が上がるにつれ、減少する傾向にある。
- 不登校傾向児童生徒について毎月挙げるとともに、経営会議、運営会議等で確認し実態交流を行った。
- 引継ぎシートを丁寧に作成し、園所小間、小中間の繋ぎを確実に行うことで不登校の解消に繋げている。
- 教育相談部で事例研修会を実施し、不登校児童の事例をもとに児童生徒とのつながりや家庭支援の手法等を学ぶことができた。また、SCやSSWの専門機関と連携を図り、状況改善に向けての取組を進めることができた。

保幼小中一貫教育の具体的な内容

- 網野学園Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期のゴールの姿を各学年部会で実態交流をもとに育てたい力を確認し、進め会議を中心に指標づくりを行うことができた。
- 新型コロナウイルス感染症予防対策のため、変更を余儀なくされた行事や取組があったが、工夫をしながら多くの事業や行事を実施することができた。
- 保幼小中一貫教育学園コーディネーターが、各会議、各部会等に参加し経営会議での方向性等について把握し、整理したり調整したりしながら、目的に沿った連携や取組を進めることができた。各園所・小学校を訪問し、各校の授業や取組を便り等で発信し学園内の各園所小通学校間をつなぐことができた。
- 保幼小中一貫教育学園コーディネーターが網野学園運営協議会の事務局を務め、地域学校協働本部地域コーディネーターと共に、丁寧な連携を進める中で、保護者・地域の方々の学園運営への参画意識の高揚につながった。

規範意識の醸成について

- 網野学園「これだけは！」、網野学園「これだけは！」（授業編）の見直しと改訂を推進会議を中心に行い、各校で継続して取り組み、落ち着いた環境づくりを進める。
- 情報モラルについての出前授業を小学4年生、中学生、網野学園保護者を対象に網野中学校を会場として実施し、経営会議、運営会議が主体となって運営する。保護者の部（子育て講演会）については、主催は網野学園とし、運営は運営会議が行う。また、PTA及び保護者会とも連携し進める。
- 社会的にもゲームやインターネットの使用による健康被害（ゲーム依存症）が問題になっていることから、自己コントロールができる力を身に付けるために、生徒指導部と養護部が連携しながら、系統的な指導を進める。

豊かな人間性について

- 自己肯定感をもち将来を展望できる力を育むことができるよう、より一層豊かな人間性を育む学習や活動を取り組んでいく必要がある。
- 多様で複雑な不登校の要因や背景をできる限りの確に把握し、切れ目のない組織的な支援をしていく。重点的な取組内容の中の「豊かな人間性の育成」に位置付け、「自立的に生きる基礎の確立」に向けて、家庭と連携し系統的に取組を進める。

保幼小中一貫教育の具体的な内容

- 作成したⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期のゴールとなる「指標」を目指して実践し、改訂を行う。
- 部活動体験は中学3年生が活動している6月に実施する。また、6年生対象入学説明会・中学校授業体験は11月に実施する。
- 5歳児が一堂に会し、他の園所の仲間と交流を深めるため、5歳児交流会を実施する。
- 短期モデルプランアプローチプログラム、短期モデルプランスタートカリキュラムの検証は、保幼小連携部と小1学年部が中心となり行う。
- 長期モデルプランアプローチプログラム・スタートカリキュラムを実践し見直しを行う。
- 各園所は近隣の小学校行事等の見学を通して、子どもたちが小学校施設への出入りや行事を知る機会を設定する。
- 学園の課題である「基本的生活習慣の確立」「規範意識の基礎の確立」「家庭学習の習慣化」について網野学園小中一貫校PTAとして、園所保護者会とも連携し課題解決に向けて取組を進める。
- 就学前から中学校卒業までを見通した家庭との連携を進める上で、園所保護者会との連携を進める。
- 網野学園学校運営協議会での交流・協議を通して、更に学校・家庭・地域が参画意識を高め、一体となって教育力のある学校づくりを目指す。
- 学園評価アンケートについては、指導と評価の一体化の視点から、年度当初に評価内容等の見直しとその周知を行い、目標達成を意識した実践ができるようにするための改善を図る。

令和3年度 丹後学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

| |
|---|
| ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】 |
| ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】 |
| ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】 |
| 教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 |

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

| |
|--|
| ①研究主題を『主体的・対話的で、深い学びの授業づくり ～生徒指導の3機能を生かして～』として、「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」のどの機能をどのように生かすかななどを重視する中で、国語を中心に教科等の特質に応じた見方・考え方を踏まえた「主体的・対話的で、深い学び」となる授業改善を行い、確かな学力の育成につなげる。 |
| ②保育所・こども園・学校間が連携して、就学前から中学校卒業までを通して適時性、一貫性・連続性のある教育課程を編成し、小中合同事業・保幼小接続に係わる事業・小小連携合同事業と3つの事業の充実を目指す。 |
| ③丹後学園の取組や事業等を積極的に発信することで保護者や地域の方の理解を一層深める。 |

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

| 項目 | 内容 | 評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等) |
|----------------------------------|---|--|
| 幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策 | <p>①子どもの交流を図る行事等の実施を通して、「集団生活の中で人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高める。</p> <p>②重点教科を「国語」とし、他教科の指導についても同様に主体的な学びに向けた実践を積み、学年部会では、算数教科の授業づくりも検討・交流し充実させる。</p> <p>③全体研修会、授業を通じた研修会(3回)、学年部会を通じた研修を計画的に実施し、目指す子ども像の実現、目指す教師像の意識化に努める。</p> <p>④月1回の計画的な経営会議(校園所長会議)を開催し、正確な実態把握に基づく方針を策定し、全教職員への情報提供を行う。</p> | <p>○昨年からの新型コロナウイルスの影響で行事に対して制限があり、経営方針や計画について、予定どおりに進めることができなかったが、リモートでの授業や、部活動見学、授業体験等は実施することが出来た。(10月27日の中学校の公開授業は実施できた)また、昨年度、立ち上がった丹後学園学校運営協議会の委員の方々には、挨拶運動や授業や体験活動等の参観をとおして、小中の連携や子どもたちの実態を見ていただく機会となった。</p> <p>○経営会議を定例化し、運営会議・教育課程会議と学力充実部会・教育相談部会・生徒指導部会・保幼小接続部会の取組の進捗や実践後の成果・課題を交流し、今後の方向性を示し取組を進めることができた。</p> <p>○国語を小中がともに重点に置き、授業の公開や事後研が実施できた(小中共に実践してきた説明文について、小中の一貫した指導が確認できた)。</p> <p>●一斉学年部会でICT活用に関わる使用頻度や指導した内容等、中学へ入学するまでの実態を把握しておくことや中学校での定期考査について小学生の不安解消をしていく。(定期考査のガイダンス、体験実施等)</p> <p>《事務局会議(代表・庶務・学園コーディネーター)》</p> <p>○事務局会議を開催し、学園内の教育課題を把握し、教育目標の達成に向け経営会議等の調整・事務作業を行った。</p> <p>○学園経営方針に基づき、運営上の課題の検討や調整を行い、各校での年度初・末全体研修会、夏季研を充実させるために事前準備、事務作業等を進めた。</p> <p>○経営会議の内容について即日コーディネーターがまとめ、各校・園・所に発信した。</p> <p>○教育目標、目指す子ども像を保幼小中で確認し、子どもたちの成長と発達の特徴や課題を共有して適切な指導を継続してきた。また、指導については一貫性や連続性を意識した実践ができた。</p> <p>○各学校等で課題に応じた教育実践を行い、全て</p> |

| | | |
|------------------------------|--|--|
| | | <p>の学校等が中学校を卒業する姿を想定し、生きる力の育成につながる指導ができた。(自立につながる意図的な指導)</p> <p>●次年度さらに保幼小中一貫教育を推進していくため、0期からⅢ期の各段階でつけるべき力の指導方法の適時性や一貫性・連続性の研究をしていくことが必要である。</p> |
| 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 | <p>①就学前から中学校までの一貫した生徒指導、自己有用感を高める生徒指導を進め、コミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>②指導方法の系統性や一貫性を重視するために、「目標と指導と評価の一体化」の観点から国語を研究し、指導の方向を2小学校でそろえる。</p> <p>③総合的な学習の時間を活用した「丹後学」を教育課程に位置づけ、実践研究を進める。</p> <p>④学習指導・生徒指導を大きな柱として、10年間を見通した取組を展開する。</p> <p>⑤小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園と小学校との連携を進める。</p> <p>⑥中1ギャップ解消のため小学6年生と中学生との交流事業や体験学習等を推進する。</p> | <p>○昔話や物語をもとにした創作劇や地域と連携し、地域から学ぶ学習結果の発表は、大きな自信となった。(探求し、伝える内容をわかりやすく工夫した表現や、友達を思いやり協力したり折り合いをつけたりしながら味わう達成感、成就感が次の課題へ挑戦しようとする意欲を高めた。)</p> <p>○「中学校授業体験、部活動見学」「小学校合同校外学習」「丹後こども園・宇川保育所合同での1年生と5歳児のなかよし交流会」等、コロナ禍の制限がある中、効果的に進めることができた。(つけるべき力をつけるべき時期につける、小学生や中学生の自信につながる取組)</p> <p>●育てたい力が、より検証しやすい取組の計画と予想される課題に対する改善策の検討を進めることである。</p> |
| 幼児児童生徒、教職員の交流と協働 | <p>①2小学校が集合して実施する事業と各校で共通して実施する事業を行う。【2小学校合同事業】</p> <p>②教職員全体研修会・授業研究会を年間3回実施するとともに、保幼小接続部会や期別部会・学年部会を開催して、それぞれの課題の改善や解決に向けた取組を実践する。</p> <p>③中学校1年生入学後1カ月ごろの状況及び出口となる中学3年生の授業公開を行い、多様な視点で課題共有すると同時に指導について研究協議を行う。(第Ⅱ期及び中3の公開授業)【小中合同事業】</p> <p>④教職員間…学年部会での授業研究会・統括テストの活用、保幼小接続部会でのスタート研修会【保幼小接続に係わる事業】</p> <p>⑤保幼小の子ども…5歳児と小1年生との交流会(2回) 保幼小の教職員…5歳児と小1担任の夏季研修会、テーマは「話す・聞く」</p> | <p>○小、中学校の授業公開と事後研が実施でき、小学校の指導が中学校でつながり、連続し発展してきていることを振り返る意義ある機会となった。</p> <p>○本年度の夏季研修では、子どもたちに確かな学力と豊かな社会性を身につけることがとても重要であると講演された内容を教職員全体で確認できた。</p> <p>○小小合同行事、小6部活見学、小6授業体験、ふれあい交流会等は中学校生活への不安を解消する機会になった。新たに今年度は、園所の交流行事を行うことができた。</p> <p>●行事の精選や実施形態の工夫が要る。(ICTの活用等)</p> |
| 家庭、地域との連携、情報発信 | <p>①「丹後学園学校運営協議会」の機能化と充実を図る。(年間2回)</p> <p>②「丹後学園だより」等を発行し、保護者や地域に配付することで、理解を得られるようにする。また、各校のホームページにて、取組の状況を発信するように計画する。</p> <p>③学校支援ボランティアの方々による支援をいただき、教育活動の内容充実に努める。</p> | <p>○予定していた年間計画は、延期や中止をせざるを得ない実状もあったが、実施形態や実施期日を変更したり、時間差を設けたり参観等工夫をしながら教育活動を行った。</p> <p>○年度初めに詳細が確定できなかったが、小中一貫校PTAと市教委とともに教育講演会を開催し、子どもの自尊感情を高めることや子育ての基本軸となること等を保護者、地域住民と学ぶことができた。</p> <p>○学校と家庭、地域社会の横の連携を深めるために丹後学園学校運営協議会、町内民生児童委員、主任児童委員、保護司、各種団体の方々に保幼小中一貫教育の支援、協力、理解を得ることができた。</p> <p>●保幼小中一貫教育の成果として顕われた子どもたちの成長を広く発信し、地域住民へ学園のめざすところがさらに浸透するようにさせていくことである。</p> <p>※次年度は、10月28日(月)予定している教育講演会を学園PTA行事として、位置付ける。</p> |

4 今年度の成果と課題 改善方策

| 成果と課題 | 改善方策 |
|--|---|
| <p>今年度の成果</p> <p>①導入準備期間を含め7年間行ってきた実践を活かして、本実施6年目の丹後学園の経営を行った。組織や会議について当初計画したことが、コロナ禍で、変更を余儀なくされたが、安全を優先し、可能な範囲で実施できた。</p> <p>②丹後学園運営協議会（名称：丹後学園教育応援会）を立ち上げて2年目で、地域への啓発に心がけ、限られた参観者であったが、活動が前へ進んだ。</p> <p>③小・中学校だけでなく、こども園・保育所も含めた取組の実践を進め、『主体的・対話的で深い学び』による指導改善をテーマに掲げ、各保園小中のそれぞれの実態に合った研究が進んだ。保育所やこども園の園児の状況を学園として情報共有を行うことができ、保園小の接続に関する学園としての研修が進んだ。</p> <p>④小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園の園児の状況を学園としての情報共有と交流を丁寧に行い、令和元年度の「教育フォーラム」で発信した「丹後学園」の研究の深化・検証の推進を行った。</p> <p>⑤小学校間（校区2小学校）の学年ごとの合同学習、修学旅行等を行い、児童の交流が深まると同時に教員の指導方法等の交流も深めることができた。</p> <p>⑥2学期末に6年生の授業参観と懇談をもつことによって、小中の連携の円滑な接続が組織として積極的にできた。小学校においては、3学期にどのような力をつけて中学校に送り出せばよいのか見通しをもつことができ、中学校においては、余裕をもって各学校の集団の雰囲気や児童の実態や課題などの把握ができ、入学後の見通しがもてた。</p> <p>⑦小学校在籍中15日以上欠席のある児童の個別記録「丹後学園教育相談ファイル」を作成し、実態や指導・支援のあり方等を円滑に中学校に接続する予定である。</p> <p>⑧限られた中であってもリモート研修などの工夫を重ね、小学校と中学校との教職員の意見交流及び合同研修を通して、相互理解を深めることができた。また、実態に応じた指導方法の工夫・改善について、各校ごとの授業研究会を通して研究協議を行い、前進させることができた。また、ゴールとなるめざす中学3年生の姿を共有することができた。</p> <p>⑨昨年に引き続き、算数・数学の指導に加えて、読む力の育成を重点に研究を行うことで、目標と指導と評価の一体化を目指す授業づくりの研究の充実を図ることができた。</p> | <p>○経営会議は、学園内の教育課題、各会議や部会等の活動状況を把握しながら、恒常的に課題を整理や新たな取組を提起し、学園経営を行う。</p> <p>○各会議・部会担当校園所長は、経営会議に事前連絡、事後報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進めていく。</p> <p>○部会は、学力充実部、教育相談部、生徒指導部・保幼小接続部の4部会とする。</p> <p>○教育課程会議兼学力充実部会については、教務主任が担当し、学力の調査・分析や学力・授業力向上を図る計画・実践に関わる進行管理、検証等を行う。（※研究のテーマ「主体的で、深い学びの授業づくり～生徒指導の3機能を生かして～」を追究し、国語を重点教科として論理的に思考し、読む力を高め、適切な判断と表現ができる力をつけることを目指す）</p> <p>○令和3年度と同様に、重点的な取組内容として「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力」「評価を通じた取組の充実」を設定していく。</p> <p>○「確かな学力の育成」に関しては、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についての研究・実践や各教科の目指す資質・能力のために生徒指導の3機能を授業にどのように活かすかを研究する。具体的には、文章を正しく読み取り、じっくり考え、適切な表現ができることをめざす。授業研究の教科として『国語』（児童生徒の実態、課題克服の必要性があるため）。また、算数についても課題克服のため、学年部会で授業づくりを検討したり、総括テストを活用・実践したりして指導の検証や児童の学力実態を把握し、授業改善につなげる。</p> <p>○「コミュニケーション能力」に関しては、発達段階の各期におけるコミュニケーション能力に係る言語活動の評価のポイントを学園で共有し、各園所学校の保育・教育活動、各部会（4部会）の事業内容に、コミュニケーション能力の育成につながる計画を立案し行う。相手を思いやる心や折り合いをつけたり、協調したりする寛容な心の育成が人間関係の基盤となり、良好な関係の構築につなげさせていく。</p> <p>○「目標と指導と評価の一体化」に関しては、学年部会では、課題となる算数の単元に着目し、これまで作成した総括テストの活用及び授業研究を行い、授業改善を図る。また、中学校では授業における指導目標をもとに指導した結果を定期テストで分析し、具体的な改善策を導き実践する。また、市保幼小中一貫教育授業研究については、学園全体で、就学前から10年間の学びを学園として今後どのように進めていくべきか、保幼小中一貫教育モデルカリキュラムに示されている計画や指導に照らし、言語活動や学び方等の中から、本学園が重点としている内容を再整理していく。</p> <p>○学園評価については、2学期末までに児童生徒、保護者、教職員、学校関係者（学校評議委員、学校運営協議会委員、民生児童委員）が、教育目標の達成に関わる内容をアンケートに回答し、その結果を分析する。成果と課題をより明確にさせ、具体性のある改善策を検討していく。</p> <p>○保幼小接続部として、保育所・こども園の保護者に対して、小学校で必要な力や社会性など一緒に学べる機会を設定していく。</p> <p>○小学校で気になる児童が、中学校で適応しにくくなることもあるので、児童の見立てや支援、家庭との連携を大切にして教育相談活動を行い、小学校での様子（本人・家族・医療との連携等）を丁寧に記録に残し、中学校につないでいく。</p> <p>○学園PTAと連携し、「家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭学習習慣の確立を目指した取組を更に進めていく。</p> <p>○ケース会議等を通じて、本人を取り巻く生活環境や保護者の生育歴等の実情を踏まえるとともに、子の将来を見据えた指導の支援策を関係機関と連携を図り、対応していく。</p> |
| <p>今年度の課題</p> <p>①今年度の研究テーマを継承しながらも、児童生徒の実態から、次年度は読む力の育成カリキュラムの系統性の教科研究を深めていく。</p> <p>②学力向上に資するための「モデルカリキュラム」の活用の模範的な研究を進める。</p> | |

令和3年度 弥栄学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

| |
|--|
| <p>教育目標 「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」</p> <p>目指す子ども像 (知) 知識と技を磨き、活用する子 *自ら課題に取り組む (自主的な姿勢) (徳) 自他の良さを知り、共に伸びる子 *仲間と知恵を絞る (対話的な学び) (体) 心身を鍛え、何事もやりぬく子 *解決策を探り、自信をつける (深い学び)</p> |
|--|

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

| |
|--|
| <p>1 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進 ・授業実践力等の向上 (他校種研修、授業研究会、全体研修会等を通じて)</p> <p>2 自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の3機能を生かした実践の推進 ・異年齢の交流活動、自尊感情、自己有用感、上級生への憧憬</p> <p>3 教育活動全体を通して「思いやる心」の育成 ・教科としての道徳の授業改善 ・情報を吟味し精査する力の育成</p> |
|--|

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

| 項目 | 内容 | 評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等) |
|----------------------------------|--|---|
| 幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策 | <p>①学園の組織改編及び進行管理 ・教育課程会議に学力充実部を統合する。 ・特活部を廃止し小中の交流活動の企画立案や連絡調整は運営会議が行う。 ・学年会を学年ごとの開催や、低学年部、中学年部、高学年部の開催など協議内容で変更する。 ・特支担任会を学年会に位置づけるとともに、教育支援部を廃止する。</p> <p>②目指す児童像の実現につながるための子どもの実態把握・分析 ・学力や生活、家庭環境等、より深い子どもの実態把握と分析を進める。</p> <p>③一堂に会した全体研修会の実施 ・4/30 第1回全体研修会 (各校) ・8/19 第2回全体研修会 (弥栄中) ・2/17 第3回全体研修会 (各校)</p> | <p>○令和2年度の総括をもとに学園組織体制の改編を行ったことで各会議や部会ごとの役割分担が明確になった。</p> <p>○各会議や各部で学園内の幼児児童生徒の交流を様々な視点から行うことで、指導や取組みの方向性を決めることに役立った。</p> <p>○第2回の全体研修会では、教育課程会議から児童生徒の学力の実態と分析の報告があり、学力課題と授業改善の方向性について共通理解を深め、学園全体で取り組むことの重要性が再認識できた。</p> <p>●コロナ禍のため、第1回と第3回の全体研修会が紙面による実施となった。学園全体で集まり、学び交流する機会が第2回の一回だけになったのは非常に残念であった。第3回では、不登校に関わる講演を計画していたが中止となり教育相談に関する研修と交流の場を持つことができなくなった。全体研修会が開催できなくても、学園の方針、教育目標、重点課題、取組みの柱等を各学校や園で周知徹底し、学園全体でさらに共通認識を深めていきたい。来年度は、全体会が学園の教職員にとって、さらに実践力を高められる研修の場となるようにする。</p> |
| 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 | <p>①学力向上と授業づくりの取組み ・6/16 第1回合同授業研究会 (弥栄小) ・11/17 市保幼小中一貫教育授業研究会 (弥栄中)</p> <p>②授業改善における各期のゴールの姿の共有 ・『主体的・対話的で深い学び』における目指す姿を活用し、発達段階を踏まえた指導を推進する。</p> <p>③学園教職員による弥栄こども園参観 ・8/17 弥栄こども園参観 (中止)</p> | <p>○6月の合同授業研究会 (弥栄小)、11月の京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会 (弥栄中) では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、「生徒指導の3機能を生かした学級経営」を授業改善に生かしていくために、保幼小中の教員が一緒になって事前研修会を行い、授業づくりを行った。指導の中で保幼小中のそれぞれが大切にしているところを交流しながら指導案づくりをすることができ、発達の段階に応じた小中の継続性のある授業づくりをすることができた。</p> <p>○教育課程会議が作成した0期からⅢ期の「主体的・対話的で深い学び」における目指す姿を踏まえて、2学期からの授業実践のポイントを焦点化することにより、授業改善の視点が明確になった。</p> <p>○学園の児童生徒のアンケートでは、「国語の勉強は好きだ」の肯定的評価が9ポイント、「算数(数学)の勉強は好きだ」の肯定的評価が8ポイント、昨年に比べて増加した。また、「話し合い学習では、司会や記録などの役割を決めて話し合</p> |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| | | <p>っている」の肯定的評価が7ポイント、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的評価が5ポイント昨年比べて増加した。この結果から学習に対する意欲、学習内容の理解が高まり、ペアワークやグループワークが授業に積極的に取り入れられたことで、子ども同士お互いの意見を尊重する態度が育ってきているように考えられる。</p> <p>●コロナ禍で、こども園の参観ができにくい状況にある。こども園の実践を知ることは小中学校においても大切なことであるので、今後も継続して計画していく。</p> |
| <p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p> | <p>①幼児・児童・生徒交流 地域の特性を取り入れ10年間を見通した連続的な活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年交流活動 ・小中連携活動 ・保幼小連携活動 <p>②学年担任会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/20, 8/19, 1/7 計3回 <p>③いじめ、不登校等の解消に向けた教育相談の体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園内の情報共有 ・SCによるストレスマネジメント授業の実施 ・小中連携に係る引継ぎシートの効果的な活用 <p>④情報を吟味し精査する力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘しての学園情報モラル教育を開催する。 | <p>○こども園の年長児と弥栄小、吉野小の1年生が合同交流を行い、一緒に楽しく活動することができた。学園の重点課題や研究主題を踏まえ、系統的な視点を持った園小の接続、小・小の効果的な交流ができた。</p> <p>○弥栄小と吉野小の同学年で交流行事や合同の取組みを実施した。合同の取組みでは、両校の児童に役割を分担するなどして児童が主体的に取り組めるように心がけた。また、児童の実態に応じた「付けたい力」を検討し、交流行事の事前指導に役立った。</p> <p>○学年会では、交流行事や合同の取組みの運営について児童数や児童の実態に応じて、子どもたちに力をつけられるように協議しながら取組みを行った。また、教材研究や授業の指導に関して、授業実践や単元計画、指導方法等を交流し、自校の実践にいかすことができた。</p> <p>○部活動体験（5年：見学、6年：体験）では、中学校の部活動が実際の様子を知り、中学生と交流できたことを大変喜んでいた。入学したらどの部活に入りたい等、中学への入学に対する期待を寄せる声もきけた。中学校に入学することに対する不安の一つに先輩との関係をあげられるが、実際に部活動で中学生と交流することで、先輩のやさしさに触れ不安の軽減につながった。中学生にとっても、自尊感情、自己有用感を感じられる生徒指導の3機能をいかす取組みになった。</p> <p>○今年度、小学6年生の中学校授業体験は、実技(体育)と5教科(英語または数学のどちらか選択)を実施した。中学校の体育館や教室で授業体験を行うことで、中学校の授業の雰囲気に触れ、中学校入学が楽しみであると期待を高めた。</p> <p>○経営会議をはじめ、各会議、各部会で園児、児童、生徒の状況(生徒指導の状況、不登校、家庭環境等)を交流し、学園全体で情報を共有し各校、園での指導にいかした。</p> <p>○スクールカウンセラーによるストレスマネジメントの授業や、児童生徒や保護者に対するカウンセリングの実施により、学園全体の園児、児童、生徒や保護者の様子を把握して頂いている。そのうえで、教育相談部会へ出席していただき、専門的な助言や見立てによって、子どもや保護者への対応や不登校の未然防止につなげた。</p> <p>○引継ぎシート等をもとに小中の連携や交流を密にして、配慮を要する生徒への丁寧な対応をすることができた。</p> <p>○情報モラル学習会では、発達の段階に応じた講演をいただき、児童生徒のみならず教師も、情報モラルに関する多くの学びを得ることができた。中学生の中には、講演のメモを家に持ち帰り、保護者に対してスマホの設定について注意喚起するなど、効果は絶大なものであった。</p> <p>●コロナ禍で保幼小中の交流行事の多くを変更や中止せざるを得なかった。交流行事は小学校入学や中学校入学に対する子どもたちの不安を軽減することに大きな役割を果たしていただいただけに、入学後の子どもたちの様子をこれまで以上に丁寧な対応が必要である。</p> |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| <p>家庭、地域との連携、情報発信</p> | <p>①家庭、地域との連携・情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥栄学園運営協議会との地域連携・教育環境づくりを進める。 ・弥栄学園便り等による広報活動を積極的に行う。 ・学校行事等において学校支援ボランティアを積極的に活用することを通して交流を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○弥栄学園運営協議会の活動が2年目となった。コロナ禍で学園の取組みを参観していただく機会が限られていたが、熱心に参加していただき、地域の方として学校の外から見た弥栄学園について貴重な意見を頂くことができた。 ○地域のボランティアの方々に、こども園や各学校の教育活動や交流事業に快く多くの支援を頂くことができた。子どもたちと地域の方々との交流や学園に対する理解が深まり、学園・家庭・地域が連携した「横の連携」を深めることができた。 ○こども園、各学校が、たよりやホームページで取組みを発信するとともに、保幼小中一貫コーディネーターが学園だよりの発信や弥栄学園運営協議会の取組みをコーディネートして、広く学園の活動について啓発を行った。 ●学園の活動や教育目標に対してさらなる理解や協力を得るために、啓発活動と同時に運営協議会と学園PTAと連携した活動にも取り組んでいきたい。 |
|-----------------------|---|---|

4 今年度の成果と課題 改善方策

| 成果と課題 | 改善方策 |
|---|--|
| <p>1 弥栄学園経営及び進行管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数部門を統合して本学園の規模に応じた組織改編を行った。その結果、ライン組織が明確になって各会議が組織的に機能し、経営会議のスムーズな進行管理につながった。 ●年3回の全体研修会は、教職員の共通理解と相互信頼をもたらし、協働体制を固める原動力になるものである。これを最大限に重視して学園経営に反映させたかったが、今年度も感染症対策等のため開催直前の変更し、集合型の研修会は1回のみとなった。 <p>2 授業づくりの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画通り年2回の授業研究会を実施することができた。学園の研究を整理し、授業実践につなげる大切な取組みとなった。今年度は教育課程会議がリーダーシップを発揮し、事前研において園小中教員が指導案作成に携わることができた。 ●教育課程会議が中心となり、研究授業に至るまでの日程や研究の方向付け、実践と検証、まとめと今後の課題など、研究を推進するための具体的な計画を綿密に立てる必要がある。 <p>3 交流連携の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流・連携しやすい校園数等をいかし、今年度も園児・児童・生徒の交流活動を計画した。残念ながら感染症等の影響でいくつかの交流活動が中止等になったが、教育活動の連続性・協働性につながっているものと考えた。 ●例年通りの活動とならないように目的や交流活動の経緯等を担当者間で共通理解しなければならない。 <p>4 いじめ・不登校に関する情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経営会議をはじめ、各会議、各部会で子どもの状況（生徒指導の状況、不登校、家庭環境等）を交流することで、一人一人の不応の要因になっている悩みや困難の解決、障害の克服に向けて組織的な援助・指導につなげている。 ●学校における教育相談の対象は、不応や問題行動等のある子どもではなく、すべての子どもであることを念頭に、学習指導や生徒指導等に教育相談の機能を生かすように努めなければならない。 <p>5 家庭、地域への啓発、情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こども園、小学校、中学校がそれぞれに、たよりやホームページで各校園の取組みを発信するとともに、学園ニュース（教職員向け）、保幼小中一貫教育だよりの（保護者、地域向け）や学園ホームページでタイムリーに情報を発信し、学園の動きを広報した。また、学園のリーフレットを作成し、保護者や弥栄学園運営協議会、その他地域の方々に配布したり、弥栄学園運営協議会で学園の活動を紹介したりして、弥栄学園の活動についての啓発を行った。 ●行事の参観の中止や延期等により、子どもたちの様子が地域・保護者に伝わりにくくなっていることがアンケート結果から明確となった。 | <p>1 経営会議においては、学園の組織が効果的に機能するように連絡調整、伝達、諮問等を明確にした会議運営を行う。全体研修会の開催は、コロナ禍を想定してオンライン開催も計画しておく。</p> <p>2 これまでの弥栄学園の授業改善や令和3年度の京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会で得られた成果の蓄積をいかして、引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりに弥栄学園全体で取り組む。</p> <p>3 連携活動の取組みにあたっての目的を明確化するとともに関係者で共有し、学園全体の取組みとなるようにする。</p> <p>4 いじめ、不登校等の解消に向けて学園の教育相談機能をさらに充実させる。（教育相談に対する教員一人一人の意識を高めるための研修会の企画等）</p> <p>5 コロナ禍を想定してより積極的な公開や情報発信を工夫する。</p> |

令和3年度 久美浜学園保幼小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

| |
|---|
| <p>[教育目標] 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成」</p> <p>[目指す子ども像] (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども</p> |
|---|

2 保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 中期的な展望(取組の見通し)

| 年度 | 教職員の意識 | 学力 | ギャップ(不登校) |
|--------------|--|------------------------------|-----------------------|
| R3 (6年次) | ・新学習指導要領への対応 ・学力向上の方策を全職員で検討 | 学力向上試案の策定(教育課程会議) | 接続期の校種間連携充実事例研の継続 |
| R4 (7年次) | 学力向上の方策を全職員で検討・実践 新学習指導要領で求められている資質・能力の育成 | 学力向上方策の実践、改善(全学年) | 学校に起因する不登校人数の減少事例研の継続 |
| R5 (8年次) | ↓ | ↓ | 早期対応、情報共有の徹底(全職員の共有) |
| R6 (9年次) | ↓ | 府・全国学力テスト・調査 全学年平均以上(学園) | ↓ |
| R7 (10年次) | 久美浜学園保幼小中一貫教育の継続した取組の整理とまとめ 次の10年を見通し新たな取組の構築 | 府・全国学力テスト・調査 全学年平均以上(全学校) | 早期対応、情報共有の徹底(全職員の共有) |

(2) 重点目標

「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

(3) 指導の重点

『学力向上』①基礎・基本の徹底 ②主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) ③家庭学習時間の確保

(4) 取組の柱

| |
|---|
| <p>ア 10年間(就学前から中学校卒業まで)の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任をもつという意識の向上</p> <p>(ア) 久美浜学園全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。(対話と理解)</p> <p>(イ) 目指す授業として、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識する。その上で、学園テーマとして、「主体的に学ぶ力の伸長」を設定し、すべての教職員で幼児児童生徒が自らの主体的に学ぶ力を伸ばすための教育活動を進める。</p> <p>イ 各校園所における規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校(園)づくり、授業づくり</p> <p>(ア) 生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした「わかる授業」により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育てる。</p> <p>(イ) 各学校の重点研究をもとに、各学年単位をベースに授業研究を進める。特に「主体的に学びに向かう力」を育成する授業づくりの取組を進める。</p> <p>(ウ) 基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付けきるとともに、当たり前のことが当たり前にできる雰囲気づくりを進める。</p> <p>ウ 子どもの交流行事並びに教科指導交流の推進による行動連携強化</p> <p>(ア) 共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける保幼小、小小、小中における交流行事・授業</p> <p>(イ) 豊かな教科指導を目指す指導交流(保幼小連携、小小連携、小中連携)</p> <p>エ 保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組を進める。</p> <p>(ア) PTA、学校運営協議会、地域学校協働本部事業との連携</p> <p>(イ) 家庭学習時間の確保に向けた連携</p> |
|---|

3 保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

| 項目 | 内容 | 評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等) |
|---------------------------------------|---|--|
| <p>幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有</p> | <p>(1) 経営会議を中心に組織的且つ丁寧な、実態や課題、目標、方針等の共通認識を図り、久美浜学園としての共通確認・共有を図る。</p> <p>ア 年度当初の学園全体会での提起と全体研修会での全教職員による協議を通して、共有を進める。</p> <p>イ 年3回の公開授業と交流会で、教職員同士の「理解と対話」の充</p> | <p>○久美浜学園7校園が1つの目標に向かう中で、本年度も教職員が交流する機会が少なかったが、ICT活用や取組の工夫により、教職員及び児童生徒園児の交流を確実に実施し、「理解と対話」の継続を図ることができた。</p> <p>○10月のみの授業公開・交流会となったが、保幼小中の教職員による貴重な対面での協議を行うことで、協働的な指導の充実に向けたよい機会となった。</p> |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| | <p>実を図る。</p> <p>(2) 保幼・小・中で共通指導内容を確認し、PDCAで改善を図りながら共通理解を深める。</p> <p>(1) 子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育課程編成 ア 考えを深め、コミュニケーション能力を高める学習の推進 イ 郷土への愛着と誇りをもち、人とつながる力を育てる学習の推進 ウ 保幼小の接続を中心とした教育課程編成</p> <p>(2) 重点指導 ア 学力向上 (ア) 授業規律の確立 (イ) 基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり イ 不登校の解消 (ア) 規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立 (イ) 学級活動の充実と児童会・生徒会活動等自主活動の活性化 (ウ) 自尊感情の高揚 (エ) 保幼・小・中の連携強化 ウ 今日の課題(情報機器の安全な取り扱い) (ア) 「法やルールに関する教育」の推進 (イ) 人権教育の推進</p> | <p>○共通指導事項を確認し、指導を継続していく。今後も、具体的な実践共有の場である連携部会の運営のあり方等を改善しつつ、引き続き目標やめあて、指導内容を振り返りながら進めていく。</p> <p>○学園テーマ「主体的に学ぶ力の伸長」を各校で追求し、ICTを活用した授業づくりを進め、学園公開授業及び各小中学校で研究成果を共有することができた。</p> <p>○ICTを活用した授業づくりについて、どの場面で、どのように使うのか、各校で研究を進めた。今後は授業スタイルの中にICTを組み入れ、より効果的な活用についての研究を深める。</p> <p>○学園独自で作成したアプローチプログラム、小1スタートカリキュラムの実施状況を検証し、よりよいプログラム等になるように改善した。</p> <p>○拡大教育課程会議の新設や「学力向上プログラム」の検討等、付きたい力の明確化・具体化を検討することができた。次年度は、その検証と実践を進めていく。</p> <p>○久美浜学園「身に付けたい言語能力表」や小中共同指導事項を確認・検討して取り組んだ。</p> <p>○PTA・保護者を巻き込んだ久美浜学園共通の「家庭学習がんばり週間」の取組を進めることで、学習習慣の定着を進めた。</p> <p>○教育課程会議では家庭学習時間の確保、養護部会ではメディアに係る保健指導系統表の作成、生徒指導部では情報機器に関するアンケートを行い、メディア・コントロールを学園全体で進めた。</p> <p>○教育相談部会では、学園全体概要をまとめ、学園全体で共有できた。また、その傾向から今後の取組を考えるよい機会となった。</p> <p>○学校生活の充実感を味わわせることや基本的な生活習慣の確立を各校で図ること、教育相談部における事例研を通して、不登校の未然防止、解消に取り組んだ。</p> <p>○情報機器の望ましい活用(情報モラル)のための特別講演会を小3・4年生、中学1・2年生対象に実施した。</p> |
| <p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p> | <p>(1) 全体会、全体研修会、学校園公開授業と分散会、学力・授業づくり部会、生徒指導・不登校防止部会、学年部会を中心とした教職員の交流と協働 ア 中学校卒業時の生徒の姿を常に意識した協議 イ 児童生徒の実態交流に基づく具体的な取組の推進 ウ 「主体的に学ぶ力の伸長」の系統性を意識した指導を目指す授業研究</p> <p>(2) 学校、校種間をまたがった指導の推進 ア 小小連携、小中連携、専科教育、出前授業等、人的交流をもとにした協働 イ 振り返りスタディ等指導面での協働</p> <p>(3) 幼児児童生徒の行動連携 ア 保幼の連携 イ 保幼小の連携 ウ 小小連携 エ 小中連携</p> | <p>○全体会・公開授業・交流会等の教職員の行動連携の取組は限られたが、少人数で集まる部会を中心に実施した。夏季全体研修会では、「開かれた教育課程」に向けて、教職員の地域への具体的な理解を図ることができた。保幼小中の指導の連続性をより確かにするために、実際に子どもの姿を見ることができ、教職員の交流を次年度以降も継続的に計画していく。</p> <p>○回数は限られたが、各校の授業研究会の案内を发出し、相互参観ができた。また、ICTの活用について、教育課程会議で各校の取組を集約し、学園だより等によって情報発信することで、各校の実践を広めることができた。</p> <p>○保幼小連携では、幼児児童との交流ができず、体験入学も短時間での実施となった。保幼小の連携の重要性を鑑み、連携のあり方を検討していく必要がある。</p> <p>○小小連携事業では、同学年によるオンラインを活用した交流も実施し、コロナ禍の中での3小学校による連携のあり方を模索することができた。</p> <p>○小中連携では、部活動及び授業体験のみの実施となったが、児童アンケートから「不安の解消」につながる回答が多かった。</p> <p>○児童会・生徒会の合同会議は、オンラインと対面による会議で計2回実施できた。また、合同挨拶運動でも、「おはよう消毒」等、工夫のある取組を行った。</p> |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| <p>家庭、地域との連携、情報発信</p> | <p>(1) 久美浜学園小中一貫教育に係る目標、活動等の広報及び啓発アタよりの発行(学期1~2回程度)、有線放送による取組紹介リーフレットの作成(2月保護者参観等で配布、説明)ウ ホームページによる広報活動(久美浜学園のページ作成)</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立に向けた共通指導の確認と指導の推進</p> <p>(3) 学校運営協議会の取組を通した「久美浜を支える人」の協議</p> <p>(4) 地域学校協働本部事業の積極的な活用等による久美浜町民の学校教育活動への参加と積極的支援</p> <p>(5) 久美浜学園PTA・保護者会との連携による家庭教育支援</p> | <p>○コーディネーターの活動により、様々な取組を様々な機会を通じて広報できた。保護者アンケートでは、学園取組に対する肯定的な意見が増えている。しかし、今年度は事業の中止等があり、分からないという意見もあった。</p> <p>○コロナ禍により、ボランティアの皆さんの活動や6つの地区区長会等への発信等が実施できなかったが、次年度も、学園活動への協力や周知を引き続き行っていく。</p> <p>○学校運営協議会は3回実施し、学園基本方針を説明した。3つの部会で「久美浜を支える人づくり」について各団体との協議し、学校から児童生徒の課題について提起した。また、夏季全体研修会では、協議会会長の講話等により、教職員の地域への具体的な理解を進めることができた。</p> <p>○久美浜学園独自のPTA・保護者会が一緒に取り組むことで、より多くの家庭との連携が進められた。「あいさつ運動」「家庭学習ががんばり週間」等10年間を見通した取組に一歩ずつつながってきている。</p> |
|-----------------------|---|---|

4 今年度の成果と課題 改善方策

| 成果と課題 | 改善方策 |
|---|--|
| <p>○これまでの5年間の活動や実践を整理し、本年度(6年次)からは新たな中期展望を設定し取組を進めることができた。年度ごとに丁寧に評価しながら、実践と検証を続けていく。</p> <p>○コロナ禍の中で、ICT活用や取組の工夫により、教職員及び児童生徒園児の交流を実施し、理解と対話の継続を図ることができた。</p> <p>○学力向上に係って、教育課程拡大会議を開催し、中学校における現状や課題から、付けたい力について協議することができた。</p> <p>○テーマ「主体的に学ぶ力の伸長」を目指し、授業公開・交流会を実施し、ICTを活用した授業研究を深めることができた。また、各校研究の共通視点でもあり、教職員の意識も向上できた。</p> <p>○経営会議の方針のもと、企画運営会議が事業を運営し、教育課程会議が学習指導等に関する内容の具現化を図り、相互に共有して進める運営の機能化を図ることができた。</p> <p>○コーディネーターの活躍により、広報・会議のまとめ・事業後の児童生徒・保護者アンケート等、幼小中のつなぎや周知が更に進んだ。</p> <p>○4PTAと3保育所園・こども園の保護者会も一緒に活動でき、学園PTA・保護者会の基盤がより確かなものになった。</p> <p>○学校運営協議会で「久美浜を支える人」について、3つの部会で学校からの課題を提起して話し合った。また、夏季全体研修会では、教職員の地域への具体的な理解が進んだ。</p> <p>○共同事務室の取組として、小学校入学用品や返金規定、備品等の共通化・共用化、各種業務の見直し等を進めることができた。</p> <p>△「主体性」「ICT活用」等を視点とした授業改善について、各校の研究成果や学園授業研究成果をまとめ、分析、検証を行う。</p> <p>△幼児教育・保育における取組について学び、幼児から小学校への接続やその意義についての研修機会を確保する必要がある。</p> <p>△久美浜学園の児童生徒の課題として、不登校の増加がある。学園全体の概要や傾向は共有することはできたが、具体的な成果につなげることができなかった。</p> <p>△連携部会の取組は回数が限られている中で、ミッションを成果が見えるところまで高めることは難しかった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで積み上げてきた保幼小中教員の「対話と理解」をベースに、保幼小中一貫教育推進計画の共通理解を図る。また、学校園所公開や交流会を引き続き進める中で、保幼小中に係る共通視点を明確にした指導方法等の継続性について、研修及び協議を行っていく。 ・学力向上について、拡大教育課程会議において、生徒実態や課題を共有するとともに、解消のための具体的な方策を検討する。また、「学力向上プログラム」へ落とし込み、検証と実践を積み重ねていく。 ・研究テーマや学力向上、系統的な指導等の具現化を目指し、部会内容や体制の工夫、ミッションの具体化・焦点化、実践の検証の見える化等、連携部会の運営を工夫する。 ・「主体性」「ICT活用」等を視点とした授業改善について、各校の研究成果や学園授業研究成果をまとめ、分析、検証を行う。 ・授業研究に踏み込むため、各校重点研究における研究授業に参加しやすくするために、教育課程会議が主となって日程調整を行う。 ・児童生徒の生徒指導上の課題や不登校の状況から、学園全体での醸成すべき視点(非認知的能力等)を見出す必要がある。また、肯定的評価を基盤として、学園の教職員の指導観をすり合わせ共通化していく。 ・教育相談部では、傾向把握や未然防止、初期対応について、スクールカウンセラー等の講師を招聘する等、より実践的な研修を行い、各校内へも広めていく。 ・校種間での情報連携や家庭支援連携を進め、不登校の未然防止や早期対応に努める。 ・園所の「目指す10の姿及びそれに向けた取組や保育」を理解するとともに、保幼小の連携の深化を進める。 ・指導方法の具体的な継続性を図るため、保幼小のアプローチ・プログラムやスタート・カリキュラムのほか、小中間の教育課程上の様々なギャップの解消に取り組むため授業スタイルの確立も進める。 ・行動連携事業は、オンラインを活用した実施方法を引き続き検討する。 ・運営面では、これまで進めてきた部会・会議や事業が制限される状況で、改めて事業等の意義について再確認でき、改善・精選を行っていく。 |

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔京丹後市立峰山こども園〕

| こども園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度こども園経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|--|--|
| <p>“笑顔でつながろう。心とこころ!!” ～はなそう・つたえよう・みんなのおもい～</p> <p>(1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。</p> <p>(2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。</p> <p>(3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p> | | <p>○保護者と連携を持ちながら、園児自らが感染症予防に進んで取り組んでいけるように安心・安全な生活や活動をすることができた。</p> <p>○様々な実体験や感動体験を通して、学びに向かう姿勢や豊かな言葉力に繋げることができた。</p> <p>○園児の主体的な活動を認め、言葉で伝えたり聞いたりしながら協同活動を進めたことで、達成感や満足感を味わい自己肯定感に繋げていくことができた。</p> <p>△開かれた園として地域への情報発信が、ホームページのみで十分とは言えなかった。</p> <p>△職員全員での研修時間の確保が難しく、資質向上に努めることができなかった。</p> | <p>・園児自らが健康や生活の仕方に関心を持ち、リズムある生活が習慣になるようにする。</p> <p>・様々な体験を通して、豊かな感性や言葉の力を養う。</p> <p>・園児の主体的に取り組む姿を認めながら、他者と関わる力を育てる。</p> <p>・保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。</p> <p>・地域社会に開かれた園として、情報発信に努める。</p> <p>・滑らかな接続ができるように、峰山学園(保幼小中一貫教育)の連携を深める。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続) | <p>『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子どもの育成</p> <p>・意欲を持って学ぼうとする力の育成</p> <p>・コミュニケーション能力の育成と適切な人間関係の育成</p> <p>・園小の円滑な育成</p> | <p>・峰山学園経営会議を通して園児・児童の実態を交流する中で共通の目標を持ち、ことば力・聞く力・話す力を育てる教育・保育を進める。</p> <p>・中学校卒業までを見通した、一貫した指導を共有する。</p> <p>・小1スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの検証を行いながら実践を重ねる。</p> <p>・私立園との交流会や峰山学園担任会を通して、教育・保育内容の共通理解を深める。</p> | <p>○経営会議の中で各学校や他園の状況を聞くことで、自園で進めている教育・保育の成果や課題を明確にすることができた。言葉の力の大切さ、やり遂げる満足感、自己肯定感が持てる活動など、職員間で話し合いを深め、実践へとつなげることができた。</p> <p>○参観や担任会など、限られた時間ではあったが、園児や児童、生徒の状況を知り、縦の繋がりとして学ぶことができた。教育フォーラムでは公開保育を行い、自園においての教育・保育を改めて振り返る良い機会となり、学びと実践につなげることができた。</p> <p>○私立園とは学園や市の担任会を通して、互いの情報交流や保育内容を学び合うことで実践に活かすことができた。</p> <p>△感染症拡大防止により様々な研修や交流が中止となり、Zoomや書類のみの報告となった。他校の活動や取り組みなど、直接、意見を聞くことができず、学びを深める所まで行かなかった。</p> |

| | | | |
|----------------------|--|--|--|
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ・感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。 ・基本的な生活習慣や態度を育てる。 ・自分の思いや考えを表現したり行動したりできる力を養う。 ・日常的に園内外での安心・安全に過ごす姿勢・態度を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内外の自然の中で発見や感動体験を増やし、考えながら遊ぶ機会を持つ。 ・あいさつデーを設定し、挨拶をすることの大切さを知らせる。 ・登園時間や園児の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 ・生活点検表などを活用し、生活習慣を整える。 ・活動や行事に向けての話し合いの時間や場を持つ。 ・散歩・交通教室などで交通ルール・集団でのルールをともに考えたり知らせたりする。また、様々な場面で交通安全や危機管理について学び合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○様々な体験が学びに繋がり、感動体験を通して、学びに向かう力や豊かな言葉の力に繋げることができた。 ○感染拡大防止による生活様式に子ども達も順応しながら進んで感染防止に努め、安全で安心した生活を送ることができた。 ○子ども達の主体的な活動を大切に、思いや考えを言葉で伝えたり聞いたりしながら協同活動を進めることで達成感や満足感を味わい、自己肯定感につながっている。 △毎月1日はあいさつデーとしたことで、人との関わりや言葉の大切さを意識する機会にはなったようだが、実際に進んで挨拶をする姿にはつながらなかった。 △交通ルールモデル園となることで、5歳児を中心に合図の理解はできるようになったが、散歩に行く機会があまりもてず、体験を通しての安全指導が不十分であった。 |
| 子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いに寄り添いながら相談がしやすい雰囲気をつくり丁寧に対応をする。 ・園児の実態を把握し、保護者との連携を丁寧に行い、個々に合った支援や対応をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○担任からの状況報告や連絡・相談を園全体で連携し、適切に対応することができた。 △コロナ感染予防での緊急事態宣言やまん延防止対策のため、園を開放する場を制限したり保護者同士が交流したりする機会があまりもてなかった。 |
| 研修 (教員の資質向上・人権教育) | <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実を図り、保育教諭の資質向上(人権を含む)に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画により保育教諭の資質能力の向上を目指した研修に取り組む。 (公開保育・担任会・事例研修) ・園内研修の内容を工夫し、研修の充実を図る。 (職員会議を利用する等、時間の確保に努める。) | <ul style="list-style-type: none"> ○感染拡大防止の観点から研修等の中止やWeb研修となることが多かったが、正職員・会計年度職員の積極的な参加ができた。園内でDVD視聴や紙面での意見交流、教育フォーラムでの公開保育や担任会での研修を活かし、園での教育・保育の振り返りや学びにつなげることができた。 △日々の教育・保育活動の中で、全職員で園内研修などをする時間や場を作りことが難しいため、内容や状況に合わせてグループ会議を進めてきたが、そのための会議時間の組み方や意見をまとめていくのに時間がかかった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・峰山学園の一員としてこども園の情報を経営会議の中で積極的に伝え、一貫教育での縦の繋がりを大切にしながら連携を深めていく。 ・PDCAサイクルに基づいた質の高い教育・保育の実践に努めていく。 ・思いや考えを出し合いながら、身近な人と関わり、実体験や感動体験を大切に、生活や活動を進めていく。 ・開かれたこども園として、日々の活動や行事の実施の仕方など工夫し、保護者や地域の方と共に教育・保育や活動を進めていく。 ・安全教育や危機管理について、園児と共に学びながら、安心安全な園づくりに努めていく。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立大宮こども園]

| こども園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度こども園経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|---|--|
| 人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全に活動する子ども ・身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子ども ・人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子ども ・素直で思いやりがあり積極的に関わり合う子ども | | ○大宮学園の教育の推進により、保育所・こども園・小中連携活動の充実を図ることができた。 ○主体的な活動や体験活動の充実、心の教育の充実により、生きる力の基盤となる力の育成を図ることができた。 ○大宮こども園の教育活動を丁寧にホームページやたより等で発信し、教育活動への理解を広げることができた。 △園外・地域活動・保護者との活動・子育て支援活動等が、コロナ対応により縮小となった。 | ・アプローチプログラム改善、園小連携活動、共同研修を進め、園小の効果的接続を充実させる。 ・日常教育・保育、異年齢交流、体験活動の充実をさせ、生き生きと遊ぶ力、言葉で伝え合う力、互いに思いやり協同する力を育成する。 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に係る理論及び実践についての研修を充実させ、指導力向上を図る。 ・家庭・地域との連携を密にし、教育・保育活動や子育て支援の充実を図る。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続) | ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を高め、生きる力を育成する。 ・幼児教育から小学校教育への円滑な接続のために、園小による教育活動や研修を充実させる。 ・大宮学園「家庭の心得」の理解を得て、各家庭での取組を進める。 | ・言葉を介し、人の心を豊かに感じる場面を大切にす る挨拶、当番・飼育栽培・体験活動、異年齢交流に 取り組む。 ・年間を通して、小1プロブレム解消に向けた園小連 携活動、園小の円滑な接続を図るためのアプローチ プログラムに取り組む。 ・具体的な課題を共有するために、保護者会と連携、 園だより、懇談会、子育て支援等に取り組む。 | ○挨拶、当番・飼育栽培・体験活動、異年齢交流で、言葉を介して互いに関わり合う場面を充実させることにより、互いを思いやる会話が増え、友達を大切に開く姿に広がりが見られるようになった。 ○コロナ感染防止を図りながら小1プロブレム解消のための園小連携活動、大宮学園のアプローチプログラムに基づいた教育活動を進め、小学校入学に向けての心構えを育てることができた。 ○年間を通して、保護者会連携、園だより、懇談会、子育て相談、連絡ノート等を活用し、園生活の様子や子育て状況を共有することにより、各家庭への子育て支援を進めるとともに、共通課題である生活リズムに対する意識を高めることができた。 |
| 教育課程 | ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 ・身近な環境や自然に自ら関わり、事象に関心を持ち、発見や考えたことを生活に取り入れようとす力を育成する。 | ・体を大切にするに関心を持ち、方法を身に付けるための健康・安全教育、食育に取り組む。 ・発見や感動を体験させるため、園内外の自然や自然物との関わる活動に取り組む。 ・室内外の遊具や用具を使い、友達と関わったり体を動かしたりすることを楽しくめるようにする。 | ○生活習慣や規律の習得では、日々の健康チェックにより自己の体調を知ったり、食育活動では、栄養士から体の働き・栄養などを学んだり、栽培活動を通して主体的な行動が見られるなど、健康な体について意識するようになってきた。 ○同年齢・異年齢で泥んこ遊び、自然物制作、色水遊び、サーキット、築山すべり等に取り組み、体を動かすことを楽しみ、発見や感動を豊かに言葉や体で表現し、友達と関わりながら夢中になって活動を進めていく子どもの姿が見られるようになった。 |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力、思いやる心、豊かな人間関係を結ぶ力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力を高めるために、表現を楽しむ活動、思を伝え合う活動、話し合い活動に取り組む。 ・楽しさや嬉しさ、葛藤・折り合うことを経験するための、集団遊びや異年齢交流に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○発表会での創作劇やお話づくりなどで表現活動を楽しみ、保育者・友達と思いを伝え話し合う中で、言葉を介して意思の疎通を図ることができた。 子ども達は、日を追うごとに自分らしい言葉で思いを伝え、誘い合い遊びの輪が広がってきている。 ○感情的な行き違いや欲求の対立に丁寧に関わり、振り返りや話し合いを充実させることにより、互いに思いを受け止めたり折り合いを付けたりしながら解決策を見つけていこうとするようになった。 △コロナ感染防止のため、活動や行事を中止・延期・縮小せざるを得ず、全園児で行う予定であった運動会・発表会など学年別で行うなど、異年齢交流の場が少なかった。 |
| 子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の子育ての不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができるように家庭教育支援や子育て支援を充実する。 ・社会環境や家庭環境の変化を理解し、対応しながら保育を充実する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育への支援を充実させるため、懇談会・たよりや子育て相談・ドキュメンテーション等に取り組む。 ・発達特性や成長に応じた、保護者に寄り添った子育て支援に取り組む。 ・子育て支援センターや一時預かり保育・預かり保育を周知する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○懇談会・たより・ドキュメンテーション等、園から丁寧な発信を行うことで、「大宮こども園」の教育・保育への理解が広がり、家庭・地域との連携を充実させることができた。 ○子育て相談を丁寧に進めることにより、個に応じた子育て支援を進めることができた。 ○社会・家庭環境の変化への対応を図るための情報発信に努め、子育て支援施策への理解を広げることができた。 △保護者との直接会話の機会の減少により、日々のタイムリーな子育て支援が十分には実施できなかった。 |
| 家庭・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実する。 ・地域の環境や人材を活用し、体験活動を充実する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園からの丁寧な発信や連携の工夫を行う。 (園だより・クラスだより・ホームページ・懇談会・参観・電話連絡等) ・保護者会・活動支援ボランティアの協力を得て、園周辺自然環境・施設を活用した園外教育活動に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ対応を図りながら、園と家庭、保護者同士の連携の方法を工夫し、保護者会の運営や活動を充実させるための支援を行い、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めていくことができた。 △コロナ対応により、地域連携では、田んぼでの泥の感触遊び、地域の施設では、老人とのふれあい交流などを実施することができなかった。また、園外活動や地域ボランティアの活用による絵本の読み聞かせなどを縮小せざるを得なかった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ○言葉を介した関わり合う教育活動を充実させ、大宮学園で進める基盤となる、「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図る。 ○園小の円滑な接続の実効性を高めるため、アプローチプログラム改善、園小連携活動・指導方法に係る共同研修の充実を図る。 ○心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもを育成するための日常的教育活動・異年齢活動・体験活動の充実を図る。 ○コロナ対応により縮小した園外教育活動・地域連携活動、小中一貫教育活動、保護者連携活動、子育て支援等、教育活動、子育て支援の充実を図る。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、5領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力の向上、教育活動の充実を図る。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立網野こども園]

| こども園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度こども園経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|---|
| <p>『園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気で主体的に活動する子どもの育成 ・みんななかよく思いやりのある子どもの育成 ・伸び伸び生き生きやりぬく子どもの育成 <p><テーマ> 『どきどき わくわく きらっ! ひとりひとりがかがやいて』</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・経営会議で学園としての方向性や課題等、共通理解したことを職員に報告したり、園で話し合ったりすることはできたが、全職員で「幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿」を検証するまでには至らなかった。 ・コロナ対策を行いながら、同学年、異年齢での関わりやつながりがもてる活動を進めてきたことで、園児の中には、主体的に生活や活動を進めようとする姿が見られた。 ・全クラスの懇談会や個人面談等、日と時間を考慮して開催したところ、多くの参加があった。園や家庭での様子を伝え合ったり、保護者の悩みを共有し話し合えたりした。 ・家庭との連携を密にしなが生活習慣の大切さを伝えてはきたものの、登園が遅くなるまた、朝食を摂らない等の現状があり、引き続きの啓発が必要である。 ・園内研修の機会は少なかったが、OJT を大切にするスタンスで日々の保育の悩みや要支援児への関わり方等を話し合い、資質向上に努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・網野学園の課題や取組み等を園内で共通理解するとともに、学園独自のアプローチプログラムの検証と今年度作成予定の長期モデルプランの検討をする。 ・コロナ対策を講じながら、活動や行事の在り方を全職員で検討するとともに、園児の主体性を重視した教育保育を進める。 ・園児の成長を願い、保護者の思いや悩みを共有しながら子育て支援を行う。 ・健康的な生活習慣の自立と園内外での安全指導や安全対策に万全を尽くす。 ・園児理解を基盤とした教育・保育を目指す上で、職員同志の同僚性や OJT の充実を図る。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続) | <ul style="list-style-type: none"> ・「網野学園」の教育目標をもとに、基本方針や取組内容を理解しながら教育・保育を進める。(確かな学力の育成・規範意識の醸成・豊かな人間性等) ・園児と児童の交流の機会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・経営計画を全職員で読み取り、園での遊びや活動の中にどのように組み入れていくのかを職員間で検討し、3つの資質能力が育成されるよう実践していく。 ・アプローチプログラム等を活用して「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を検証する場を設定するとともに、園児と児童の交流や教育内容の共有化に向けた取組みを進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○研究主題やその捉え方、仮説等に基づいて実践したり、教育・保育計画を手に取りながら、取組内容の共通理解をしたりする等、基本方針をベースに教育・保育を進めることができた。 △出前講座や教育フォーラムの資料をもとに園内研修をしたが、3つの資質能力を取り立てて実践につなげることはできなかった。 ○長期モデルプランを作成するにあたり、園と小学校との教育の具体的な内容を改めて確認する中で、共通理解をすることができた。 ○コロナ禍であったが、学習発表会のリハーサル見学は、5歳児にとって自園の発表会に対する刺激となった。 |

| | | | |
|-------------------------|--|---|--|
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい園生活を過ごせるようにする。 ・主体的な活動、対話的な活動をくり広げられるような環境づくりをする。 ・人とつながり合うことの喜びを味わえるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中の学びを見据えながら、集団の中で一人一人が生き生きと園生活を過ごすことができるような環境を整え、実践する。(園生活の充実) ・生活習慣の確立を基盤に、安心安定した園生活になるよう園児と保育教諭等の信頼関係を図る。(心の居場所づくり) ・園児が主体的に協同的な遊びを展開したり、知的好奇心を揺り動かしたりしながら遊ぶことができるような環境の工夫や援助をする。(遊びの充実) ・友達のよさや友達と一緒に過ごす心地よさを感じられるような取組みをする。(同年齢・異年齢児との関わり、言葉でのやりとり等) | <ul style="list-style-type: none"> ○園児の姿をベースに、遊びや環境構成の在り方の重要性を職員全体で確認し、学びを実践につなげることができた。 ○網野学園の『家庭学習頑張り週間』を機に、生活習慣づくりと読み聞かせの大切さが保護者意識につながり、効果的であった。 ○運動会や発表会に向かって取り組むプロセスの中で、日々の遊びを生かすことができた。常に遊びの重要性を感じ、つなげていった成果である。 △感染対策を講じながら、できる限り異年齢の関わりを意識して来たが、3学期後半はコロナ感染を避けるため、年齢ごとの生活を余儀なくされた。 |
| 子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携し、「共育て」を目指す。 ・未就園の親子の保育体験を行い、子育ての安心安定を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に園児の様子を知らせ、成長や課題を共有し、子育てに関することを共に考える場をつくる。(園だより、クラスだより、懇談会等) ・日頃から保護者の話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決に向けて進めていく。 ・「園開放日」や子育て支援センターでの親子の情報を基に、保護者同士が交流できる場を設定し、お互いが楽しんだり悩みを交流したりできるような雰囲気をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○クラス懇談会や参観日、運動会や発表会等、感染対策を講じながら実施することができた。園児の様子を実際に参観することで、保護者は園生活に対する安心感を持ち、園児の確かな成長を感じとっていたようである。 △来園者を温かく迎えることで、職員との話のしやすさを感じられたようだったが、コロナ禍で、園開放の参加は少なく、保護者同士の交流はできなかった。 |
| (A)研修 (教員の資質向上・人権教育) | <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修やチーム研修等を通して、全職員の資質向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、京丹後市の指導の重点、網野こども園教育・保育計画等を読み解き、教育保育の重要事項を共通理解する。 ・網野こども園の教育・保育について全職員を対象に園内研修を実施し、教育や保育の在り方について発信する。 ・園全体の教育・保育の質が向上するように、同僚性、OJT、ToDo リストを最大限に活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○指導計画の検討や反省、毎日の朝礼時等に、園での喫緊的課題や今後の対策等を管理職の立場から職員に伝えてきた。園内研修をする機会は少なかったが、それに準ずる成果はあったと感じる。 △要支援児への支援策や遊びの捉え方、環境構成等、様々なことについて日々職員間でやり取りしやすい雰囲気をつくってきた。しかし、保育教諭によって感覚や意識の差があり、OJTの成果が積み上がりにくかった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度作成した網野学園長期モデルプランをもとに、再度、既存のアプローチプログラムを見直し、3つの資質能力を視点とした実践研究をする。また、小学校教育との具体的で明確なつながりを理解することで、教育保育の質の向上を図る。 ・今年度のコロナ感染拡大から見出した取組みを来年度の年間行事計画等に反映させ、見通しをもった教育保育活動につなげる。 ・子育て支援の充実を図るため、要支援児の主訴を踏まえた適切な個別支援をしたり、心から保護者に寄り添ったりして園児や保護者のウェルビーイングにつながるよう努める。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔京丹後市立丹後こども園〕

| こども園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度こども園経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 主体的に環境に関わり自分で考え判断し行動する園児を育む。 遊びや生活の中で様々な体験をしながら、ものの見方や思いやりの気持ちを育む。 地域とともにある園づくりを進める。 保育教諭同士が互いに学び合える組織づくりを進める。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○フィジカルディスタンスを考えながら園生活を過ごした。生活の仕方や活動内容は、その都度、職員間で精査できた。 ○園児が興味をもって体を使った遊びが出来るよう環境を整え、それぞれの年齢で活動を進めることができた。 ○コロナ禍で生活様式が一遍する中、園児が安心安定の中で生活できることを最重要と考え、丁寧な関わりと園児の話を十分聞き、気持ちに寄り添うことに心掛けた。 △新型コロナウイルス感染症予防のため、各学年での活動が中心となり異年齢活動を進めることが出来なかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭との信頼関係を基に、園児が主体的に人、もの、自然に関わり、伸び伸びと園生活を送れるような環境づくりに努める。 ・様々な活動や体験を通して、体を動かす楽しさを味わい、主体的に取り組もうとする意欲を育む。また、その中で自分も友達も大切にする教育・保育を実践する。 ・丹後学園内で校種間連携を深め、連続した園児の発達や学びとなるようにする。 ・地域の自然に接したり、また、人との交流を通して豊かな心を育む。 ・幼児期に育みたい資質・能力を踏まえ、園児一人一人の成長を見据えた教育・保育を進める。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続) | <ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園の教育目標を踏まえ、学園の経営方針に基づき研究や取組を進める。 ・保幼小接続部会を通して、小学校との連携を密にスムーズな接続を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園保幼小中一貫教育に関する会議や公開保育等に積極的に参加し、学園の教育目標や各校の取組について理解を深める。 ・保幼小連絡会の中で園児の情報を伝え、小学校教育につなげるための連絡シートをよりよいものにするため、見直しや改善を行う。 ・アプローチプログラムやスタートカリキュラム等を活用して、教育・保育内容を検証しながら取組を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> △新型コロナウイルスの影響で、各校園所の行事等の取組の制限から参観する機会が少なく、系統的な指導を見ることができなかった。 ○丹後学園内で発行された学園ニュースを職員が読むことで各校の様子や授業の取組内容など、重要なポイントを知ることができよかった。 △新型コロナウイルス感染予防の為、保幼小接続部会議を開くことができず、連絡シートの改善には至らなかった。 ○入学して間もない1年生の授業参観を通して、1年生の様子を共有できてよかった。また、丹後学園で検討してきたスタートカリキュラムを活用し、こども園で育んできた学びが小学校に繋がっていることが良く分かった。 |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安定の中で、園生活が送れるように関わる。 ・友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえる環境づくりをする。 ・異年齢活動を通して、いたわりの気持ちや憧れの気持ちを育む。 ・自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉で表現する力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園児や保護者に丁寧な挨拶や対応を行い、居心地のよい環境づくりや関わりを進めていく。 ・体操、マラソン、サーキット遊び等友達と一緒に体を使った遊びを積極的に取り入れ、健康な体づくりをする。 ・栽培活動、チーム活動、クッキング、散歩等で異年齢交流を行い、憧れやいたわりの気持ち、心の葛藤を経験させる。 ・園内外の自然体験を通して、感じたことや考えたことを言葉で表現することを楽しめるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○朝、職員が玄関で登園してきた園児とその保護者を明るく迎え入れるようにしてきたことで、登園時の姿から体調や心情を知ることができ、より丁寧に関わることが園児の安心安定した生活につながった。 ○健康な体づくりを行うため、気候や発達に合わせた活動を行うことができた。異年齢児での活動はコロナ感染対策を考えると出来ないことが多かったが、『見て・真似て・やってみよう』とする憧れの気持ちをもたせることができた。 ○いろいろな人やものに関わる中で、自分の気持ちや考えを伝える経験や自分の気持ちに折り合いをつける経験を積み重ねてきたことで、思いやりの気持ちを育むことができた。 |
| 子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・園児や家庭にとって効果的な支援を行う。 ・未就園児の子育ての不安を図り、不安を解消する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が、園児の成長に気付き、子育ての喜びを感じられるように園だよりやクラスだよりの発行と日々の連絡や相談を丁寧に行う。 ・子育てに悩みや不安の相談、疲れを抱えている保護者へのリフレッシュ支援を行う。(預かり保育、一時預かり保育制度の活用) ・子育ての楽しさや難しさ等が相談できるように、未就園児の親子が交流できる時間や場を設定する。(地域子育て支援センター・こども園開放等) | <ul style="list-style-type: none"> ○クラスだよりは園児の様子を写真で載せ、カラー印刷で発行した。カラー刷りは子どもの様子や表情がよくわかり保護者に好評だった。 ○一時預かり保育や預かり保育利用が多く、子育て負担の軽減につながる支援が出来た。 ○子育て支援センターの利用者が多く、未就園児の親子の憩いの場(心地よい場)を提供することができた。 △コロナ禍のため、園児と保護者・未就園児の交流をもつことができなかった。 |
| 家庭・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康な体に必要な生活習慣や態度を身に付けるため、家庭と連携をする。 ・地域のよさを活かした教育保育活動を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の園児の生活環境を把握し、家庭や学校等と連携を図りながら、個々に応じた指導を行う。 ・園児が健康で安全な生活が送れるように家庭に協力を求め進める。(健康チェック、生活点検、感染症予防対策等) ・丹後地域のいろいろな場所に出掛け、自然に触れながら地域の人の話を聞き、行事の伝承や活動に興味や関心をもたせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者の協力で年間を通して健康チェック(体温測定)を行うことができた。日々の体調の変化にも気付くことができ、様々な感染症の流行も防ぐことができた。 ○幼児は生活点検表を付けることで、生活習慣を身に付けるための意識づけを行うことができた。また、園児の生活状況を知ることで個別に助言や指導をすることができた。 ○散歩や遠足で、地域の様子や神社の伝説を聞いたり、御参りの仕方などを教わったりして地域のことを知るきっかけになった。 △コロナ禍での緊急事態宣言やまん延防止のため、いろいろな人と交流する活動ができなかった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が安心安定できる環境を整え、意欲的に遊ぶ園児を育成する。 ・いろいろな人やものに関わる中でコミュニケーション能力の育成を図る。 ・様々な地域の特色を教育・保育活動に活かし、豊かな心と健康な体を育む。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔京丹後市立弥栄こども園〕

| こども園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度こども園経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|---|
| <p>「みんな だいすき つながるえがお」 ～やってみたい!もっとやりたい! 夢中になって遊ぶこどもをめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ・生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康な心と体を育てる。 ・身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○行事や遊びを見直すことで、子ども達が遊びを考え、主体的に活動する姿が見られるようになった。 ○子どもの日々の活動や遊びの様子を、クラス懇談会、毎月のクラス便り、行事の掲示等で知らせることができた。 △小学校との連携では、それぞれのカリキュラムを通してお互いが学びあえる研修まで進めることができなかった。 △園生活や遊びが十分に楽しめるように9時までの登園を伝えているが、家庭の生活リズムの捉えの違いから登園が遅く、遊びに入れない子どももいた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけ、見通しをもった生活を送ることができるように関わる。 ・園児自らが周囲の環境に関わり、活動を展開する充実感を味わいながら発達に必要な経験を積み重ねるための環境構成や援助を行う。 ・いろいろな人との関係を築くために、あいさつや言葉の大切さについて理解させる。 ・園の情報を積極的に発信し、家庭・学校及び関係機関、地域との連携を行い、充実した教育保育を進める。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続) | <p>『弥栄学園』の連携 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの児童生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分からやってみたいという意欲をもって取り組む子ども(知) ○思いやりのある子ども(徳) ○進んで体を鍛える子ども(体) | <ul style="list-style-type: none"> ・学園経営会議に出席し、園児・児童・生徒の実態を把握し、共通の課題について取り組み、また個に応じた支援を行う。 ・小学校、中学校と連携し、系統的な指導を行うために、園児・児童・生徒間の交流や教職員の合同研修会等を行う。 ・小学校への滑らかな接続ができるようにアプローチプログラムの検証を行い、共有し合える場を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学園経営会議や電話などで、言葉(話し方・伝え方)や不登校について、情報のやり取りを行い、個に合った支援を進めていくことができた。 ○合同研修(授業研究会)に参加し、共に授業の進め方について系統的な視点をもって教育・保育を進められるような話し合いを持つことができた。 △一年生との遊びの交流はできたが、コロナ感染予防(緊急事態宣言・まん延防止等)のため予定していた教職員への公開保育や生活科の授業体験ができなかった。 ○保幼小合同会議でアプローチプログラムの検証を行うことで、こども園の教育・保育を知ってもらうことができた。 |
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を身につけ、見通しをもって行動する園児を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園児一人一人の生活実態や発達に応じて、必要な生活や活動の習慣を身に付けるための環境構成や支援方法を考え、実践を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○活動やコロナ感染予防のため、生活点検表を毎日付け、提出することで、園児自身が健康であることの確認ができたり、その行動を保育者に認めてもらったりすることで、生活習慣が身に付き、自信となっている園児が増えてきた。 |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ○園児自らが主体的に生活や遊びができるようにする。 ○他の園児と関わる機会を大切に、人と関わる楽しさを経験させる。 ○安心安定した中で、感性や表現力を豊かにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内外の自然の中で、五感が感じられるような経験ができる機会をもち、感動を言葉や行動にできるようにする。 ・園児の行動やつぶやきに耳を傾け、友達との遊びにつながるように職員間での情報交換や環境づくりを行う。 ・感じたことや考えたことを伝えることができるように、絵本や物語等の読み聞かせから、表現の仕方等を知らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭が園児の発想を丁寧に受け止め、共に遊び、面白さを伝えながら、遊びを工夫していくことで、園児はイメージを膨らませ、遊びを発展させ楽しむことができるようになってきた。 ○園児の現状に合わせ、一つ一つの行事を全職員で見直し確認していくことで、園児・職員の動きに変化が見られ、自然と異年齢児と関わる姿が見られ、目的を持って遊ぶようになってきた。 △日々の活動の振り返りでは、捉え方の不十分さから園児の遊びが広がらないこともあった。 △情緒の安定を図るため、絵本や物語等の読み聞かせや個々への関わりを持ってきたが落ち着いて聞けない園児もいる。 |
| 子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭での子育ての不安に寄り添い、楽しく子育てができるように支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育てを楽しむことができるように、保護者の話に耳を傾け、成長を共に喜び合えるような場や時間を設ける。(登降園時、懇談会、園開放等) ・親子の会話や触れ合いの時間がもてるように、絵本の貸し出しを行う。 ・未就園児の保護者が、育児を楽しんで行えるよう相談に乗ったり、遊んだりできるよう地域子育て支援センターや園を開放する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ感染予防の為、日々の様子を伝える時間が短くなったが、毎月のクラス便りや個人懇談会などで園児の活動や様子を伝えることができた。 ○絵本の貸し出しを毎週行うことで、家庭での親子の触れ合いのきっかけとなり、返却時には園児の嬉しそうな表情や言葉を聞くことができた。 ○支援センターの登録者が毎月増えてきている。気軽に相談できる雰囲気を作ってきたことで利用者同士の会話も増え、楽しむ姿を見せている。 |
| 家庭・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者との連絡・報告を適切に行い、協力関係を築く。 ○地域の伝統的な生活や行事を知りいろいろな経験をさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園の方針や活動の様子を伝えるために、園だよりやホームページを充実させる。 ・祖父母や地域の社会人講師を迎え、経験したことを伝えてもらったり、触れ合ったりして経験を豊かにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○園だよりやクラスだより、ホームページなどに活動の様子を写真やエピソードを添え、具体的に伝えることができた。 ○散歩に出かけた際には、地域の人と挨拶を交わし、田畑のことを質問したり、話をしたことをきっかけに園の栽培活動の指導に来てもらったり、国営農地での芋ほり、また、琴と絵本の読み聞かせなどで表現の仕方を知り、様々な人と触れ合ったり体験したりすることができた。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ○公開保育などを通してこども園の教育・保育を伝え、つながりのある教育活動を充実させながら弥栄学園の目指す子ども像の育成に努める。 ○地域に根ざした教育・保育が充実していくように、コロナ感染予防対策を講じながら地域の人とふれあう機会を増やし、次への活動へつなげる。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、一人一人の育ちや発達に合わせた援助・支援の充実・環境構成をしていく。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立かぶと山こども園]

| こども園経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度こども園経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|--|---|
| <p>こども園教育目標 「元気な体と豊かな心、生きる力を持った たくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》 ～いっぱい遊ぼう！一緒に遊ぼう！ 友達っていいな～</p> <p>1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。</p> <p>2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にすることを育てる。</p> <p>3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現する力を育てる。</p> | | <p>○久美浜学園の会議を通して子どもの実態を交流することで、指導や支援の仕方について共通理解することができた。また、保幼合同研修会として初任者教諭の公開保育を行い、質の向上に引き続き校種間の連携を大切にしていきたい。</p> <p>○全園児が園周辺の自然環境を取り入れた遊びや活動を進めることができた。</p> <p>△全身を使った遊びの環境を活用し、落ち着いて話を聞いたり、集中して取り組んだりする園児を育成する。</p> <p>○職員が温かい雰囲気の中で保護者を受け入れるように努めてきたことで、信頼関係が構築されていった。</p> <p>△安心安全な教育・保育を進めるため、状況に応じて危機を回避する対策を見直す。</p> <p>△コロナ禍での保護者や地域を巻き込んだ体験活動を模索していく。</p> | <p>・一人一人が安心して自己発揮できる環境や関わりを工夫し、自己肯定感を育む。</p> <p>・身近な自然を活用した遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境を工夫し、豊かな感性や表現力を養う。</p> <p>・友達と関わったり協同的な遊びや活動を繰り返したりしながら、豊かな人間性の基礎を培う。</p> <p>・地域の人や自然、文化に触れる機会を設け、生活体験や社会体験を豊かにする。</p> <p>・安心安全な環境のもと教育・保育の向上に努める。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続) | <p>・久美浜学園の教育目標、目指す子ども像に向けて、基本方針を理解して取組を進める。</p> <p>・保育所、園、小学校と連携し、相互理解を深めながら一貫性・連続性のある指導に努める。</p> | <p>・積極的に小中一貫教育に関する会議や研修に参加し、久美浜学園の指導の重点や取組の柱とする内容を全職員で共通理解する。</p> <p>・他園所や小学校と合同研修の場(公開校、交流会、研修会等)を設けて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、一貫性・連続性のある指導へつなげる。</p> <p>・コロナ禍でも園児と児童の交流が深まるよう学校行事(運動会、学習発表会、マラソン大会など)の交流の仕方を、リモートや手紙のやり取り、写真の活用等工夫して行っていく。</p> | <p>○久美浜学園年度末全大会において、他校種の先生方へ園所の乳幼児教育・保育について伝え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有や乳幼児教育・保育の連続性・内容や指導への理解につなげることができた。</p> <p>○町内3園所で行った公開保育が、自園の保育を振り返り、久美浜学園の指導の重点や取組を職員間で共通理解する機会となった。</p> <p>△5歳児が小学校入学に向け、コロナ禍でも学校生活への期待がもてるような工夫や交流の場をもつことができなかった。</p> |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 教育課程 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい園生活を繰り広げる。 ・主体的、協同的に活動する力を育てる。 ・人とつながりあうことの喜びを味わい、人と関わる力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園児一人一人の生活背景を理解し、肯定的に園児の姿を受け止め、自信をもって自己を発揮できるようにする。 ・「こども園で～がしたい」「友達と～が遊びたい」と思えるような居心地がよく、夢中になって遊ぶことができる環境づくりを行う。 ・身近な自然や自然物を取り込んでの感動体験を増やし、考えながら遊ぶ機会を取り入れて活動する。 ・コロナ禍での異年齢児や地域との交流を行い、遊びや体験を通して人を思いやる気持ちや人と関わる楽しさを感じられるように進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○保育者が園児一人一人のよさと課題に寄り添い受け止めることで、丁寧な支援を行うことができた。また、友達よさを認め合う時間（振り返り）を設けたことで、自信をもって伸び伸びと自己発揮できる姿へとつながった。 △職員間で遊びを深められる環境について学び合う時間がしっかりもてなかったため、夢中になって遊ぶ環境づくりが十分に整えられなかった。 ○地域や保護者、社会人講師の支援を受け、自然環境を生かした保育を進め、色々な感動体験を味わう機会をもつことができた。 ○コロナ禍でも、異年齢の交流を意識した生活や遊びを進めてきたことで、自然な形で友達を思いやる姿を見せるようになってきた。 |
| 子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が安心して子育てができるように支援する。 ・家庭の教育力向上を図るとともに家庭と連携し、「共育で」を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が話しやすい雰囲気を中心掛け、何気ない話や相談に耳を傾ける。 ・未就園児や在園児の親子が楽しい雰囲気の中で交流できる場を設定し、子育ての楽しさを伝える。 ・保護者に園児の様子を伝えるため、参観やたより、ホームページ、ドキュメンテーション等で信頼される園づくりに努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○送迎時や参観などの機会を捉え、丁寧にコミュニケーションをとってきたことにより、少しずつ保護者と信頼関係を育むことができた。 △支援センターでは、コロナ禍での配慮のもと親子で遊ぶことができたが、園内での親子交流など子育てを共有できる場はもつことができなかった。 ○ホームページや写真の掲示・面談などをこまめに行うことで、保護者と子どもの育ちや園での様子を共有することができた。 |
| 危機管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故や感染症対策を徹底し、発生を防止する。 ・全職員が危機管理意識をもち安心・安全な環境と保育を努める。 ・園児自らが危機回避するための安全教育を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が危機管理意識をもち、日々丁寧に園児の様子を観察し、報告・連絡・相談等を行い、保育体制を確立していく。 ・全職員が園児の心と体が傷つかないよう配慮した環境づくりや言葉掛け・関わりのもち方を学ぶため、園内研修を設定する。 ・園児自らが危険回避する意識を高める。(毎月の避難訓練や防災、交通教室の参加、また健康に関する話を定期的に取り入れ実践していく) | <ul style="list-style-type: none"> △職員の報告・連絡・相談等、共通の理解のために短時間ではあるが終礼の時間を当ててきたが、できないことが多かった。 ○人権教育について参考資料の配布や園内研修を行い、園児への言葉掛けや接し方について日々、振り返りながら考える機会をもつことができた。 ○地域の駐在所による交通教室や防犯訓練等を行い、一人一人が自分の命は自分で守るという意識をもち、安全に過ごすよう努めた。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・本園の教育・保育計画を見直すとともに、市や学園で掲げている教育方針等を職員間で共通理解し、実践を積み上げていく。 ・久美浜学園の取組を保護者に周知し、小中一貫教育への理解を深められるよう努める。 ・園児が自然体験や環境学習を進めていく中で、SDGsが意識できるような保育を重ねる。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--------------|---|--|
| <p>社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら主体的に生きることができる力を育てる。</p> <p>1 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。</p> <p>2 よりよい生き方・在り方を深く考え、自律的に行動する力を育てる。</p> <p>3 学んだことを生かして、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度を育てる。</p> | | <p>○児童が自ら考え諸問題を主体的に解決する学級活動、特別活動の取組が進展した。結果として、児童の良好な関係性や自律的な判断力・行動力が高まった。</p> <p>○不登校(傾向)児童への支援、愛着形成不全等の心理的課題や発達障害等への支援が進展した。結果として、学校不適応(特に不登校)が改善した。</p> <p>△基礎的・基本的な知識や技能等の学力を高めることは、やや不十分であった。</p> | <p>全ての児童がつながりながら、将来の社会的な自立を目指して力を伸ばし合う学校づくりを行う。そのため、</p> <p>○学び合える子 ○自分で考え行動する子</p> <p>○仲間と力を使える子</p> <p>を目指す児童像とし、身に付けさせる力の具体的目標を6点設定して学校経営を進める。</p> <p>それらに取り組む重点的な場として「①授業改善 ②特別活動 ③児童支援」を置き、目標の達成に迫る。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程 学習指導 | <p>①かかわり合いの中で学ばせる。伝え合い、話し合い、学び合いによる教科指導をする。</p> <p>②非認知的能力を育成する授業づくりを重点に位置づけ、組織的に実践的な研修を行う。</p> <p>③授業づくり月間等を設定して、すべての教員がオープン授業等による日常的なスキルアップに取り組む。</p> <p>④児童の学び合いを深めるために、電子黒板やタブレット端末等のICT機器を活用する。</p> <p>⑤指導教諭による専科授業・TT授業により、指導教諭の指導力を普及する。</p> | <p>○話し合いや教え合いなどによる主体的・対話的な学習形態が日常的になった。結果として、児童アンケートで「授業がよく分かる」「自分の考えを伝えている」がともに90%となるなど、児童は学習を概ね肯定的に評価している。</p> <p>○電子黒板やタブレット等のICT機器の日常的な活用が進み、学び合いの質が向上した。</p> <p>○各教員が年間に複数回の授業公開を行い、指導力を高め合うことができた。</p> <p>△三密回避の授業のため、話し合いや教え合いなどの量の確保が困難で、「話し合うと学習がよく分かる」85%にとどまるなど、昨年度以上の進展は見られなかった。</p> |
| | 生徒指導 | <p>○多様な児童が認め合い育ち合う力をはぐくむ指導を通して、共感的な人間関係を醸成する。</p> <p>○組織的な児童支援を通して、不登校や不適応、いじめを未然防止する。</p> | <p>①児童が自ら決定し、話し合い、問題を解決する自律的で問題解決的な学級経営や特別活動を行う。</p> <p>②本校が付けたい力と「各学年で目指す姿(峰山学園共通)」を学級経営に位置付け、実現を目指して取り組む。</p> <p>③不登校や学校不適応を未然防止するため、毎週1回の児童支援会議を中核に置き、学習指導・教育相談・特別支援等の多面から計画的・組織的に児童支援を行う。</p> <p>④スクールカウンセラー、関係機関、医療、福祉等との情報連携・行動連携を強化する。</p> |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 健康（体育）・安全 | <p>○感染症予防に自ら取り組む態度と基本的な生活習慣を高める。</p> <p>○交通事故防止を徹底し、児童の安全を守る。</p> | <p>①新型コロナウイルスをはじめとした感染症に関する知識や生活様式、基本的な生活習慣の大切さに関する授業を、すべての学年で継続的に行う。</p> <p>②家庭やPTA、峰山学園と連携し、SNS・ゲーム等による生活の乱れや安全上の問題に対して、児童・保護者の学習・研修・啓発を進める。</p> <p>③PTAや地域の安全ボランティア組織等と連携し、登下校の安全確保と事故防止の取組を行う。</p> | <p>○新型コロナウイルスに関する科学的な知識や予防について学ぶ授業を毎学期行うとともに、校内での感染防止対策を徹底した。その結果、児童の感染確認はあったものの、校内での大規模な拡大には至らなかった。</p> <p>○PTA、ボランティア組織による地域ぐるみでの登下校見守りが毎日行われ、児童の無事故が継続できた。</p> <p>△SNS等でのトラブルはなかったものの、ネット視聴により生活が乱れる児童が増加している。</p> |
| 特別支援教育 | <p>○将来の社会参加に向けた自立を支援するという立場から、児童一人一人の教育的ニーズを整理し、すべての児童が自分らしさを伸ばし合える環境をつくる。</p> | <p>①どの児童もわかりやすい一斉指導や、どの児童も参加できる集団活動を目指して授業や行事をつくる。</p> <p>②特別支援教育コーディネーターと児童支援部会を中核に置き、通常の学級における支援を強化する。</p> <p>③本校独自の特別支援教室を設置し、個別支援を行う。</p> <p>④特別支援学級児童一人一人に応じた教育課程を編成・実施するとともに、交流・共同学習の質を高める。</p> <p>⑤保護者と定期的な懇談を行い、合意形成を図りながら、一人一人に応じた合理的配慮を行う。</p> | <p>○学びにくさや集団参加の苦手さなどがある児童に対して、行事設計の工夫、個別支援や合理的配慮を徹底した。結果、すべての行事等に当該児童が参加できた。</p> <p>○「先生は自分のよさを分かってくれる」「先生は気軽に相談できる」と感じている児童が94%となった。</p> <p>○特別支援学級独自の生活単元学習や自立活動などを創意工夫することにより、児童が着実に能力を伸ばし、特別支援学級や特別支援教育への理解と信頼、評価が高まった。</p> <p>△愛着形成に課題のある児童や、厳しい状況に置かれている家庭への支援をさらに工夫する必要がある。</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>○保護者や地域社会との連携・協働を通して、教育活動を工夫改善し、児童の学びを深める。</p> | <p>①地域性を生かし地域の人材を活用した特色ある学習活動を創意工夫して実施する。</p> <p>②学校の方針や情報、教育活動を様々な手段で発信する。</p> <p>③学校評議員、学校関係者評価委員、学校（学園）運営協議会の意見・評価から学校経営等を改善する。</p> <p>④大学等の研究機関と連携した実践研究を行う。</p> | <p>○峰小ガイドブック、各種たより、ホームページ等での情報の積極発信が信頼を得た。ホームページを毎日更新し、1日1000アクセスを超えるようになった。</p> <p>△新型コロナウイルス感染防止対策のために、保護者、地域人材、学校評価関係者等の来校が制限され、連携の量が十分に確保できなかった。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>(1) 学び合う学習指導、育ち合う学級経営が適切に進められるよう、校内や峰山学園での研修を一層充実する。</p> <p>(2) 児童の自律的・自治的な活動をさらに進め、自ら考え判断し、協働し、挑戦する力を高める。</p> <p>(3) すべての児童に学校での学びを保障する観点から、一人一人の児童や家庭の状況を的確に把握・共有し、関係機関と連携したチーム支援を一層強化する。</p> <p>(4) こども園や中学校との連携を強化し、長期的に個々の児童の成長発達を見ることができるようにする。</p> | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立いさなご小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--------------|---|--|
| 教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども | | 規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして「深い学び」を目指す指導の在り方について研究が進んだ。「分かる・できる」授業づくりと「お互いを認め合う」学級づくりを土台とし、今年度も「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け、コミュニケーション能力の育成を柱として教育活動を進める。 | 目指す子ども像を具体化する重点 1 自ら考え判断し、表現する力を向上させる。 2 自らの時間と力を周りの人々のためにもつがい、他者に貢献する態度を育てる。 3 自らの目標を設定し、自分で調整しながら根気強く、やり抜く力を育てる。 4 保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程 学習指導 | 1 コミュニケーション能力の育成を柱とし、ねらいが明確で児童が分かる授業を研究授業等によって教員が学び合う。深い学びになる「指導」と「評価」の研究を通して新学習指導要領において育成を目指す資質・能力について理解する。 2 学びの自立を目指すため、発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。 | ○コミュニケーション力を伸ばすため、どのように授業を構想するかを授業研究によって学び合えた。 ○峰山学園の家庭学習頑張り週間と合わせ、本校では旬間として年3回取り組んだ。自分で学習計画を立てて学習を進められる児童が増えた。 |
| | 生徒指導 | 1 支援を必要とする児童へのきめ細かな目標設定を行う。 2 自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高め、学び合う集団(学級)をつくる。 3 自分の力と自分の時間を周りの人のために使うことを価値付けする。 | ○支援を要する児童のエピソード記録を週1回教員で共有し、組織的に支援を行うことができた。 ○月・学期1回の保護者面談を継続し保護者とともに目標を共有して支援をすすめることができた。必要に応じて臨床心理士の助言を求めた。 ○言葉や行動を「つなぎ」「応える」ことを続け、相手意識を高めることができた。 |

| | | | |
|---------------|---|---|--|
| 健康（体育）・安全 | <p>1 全校的な感染症予防や体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、自分自身の身体に関心を持たせる。</p> <p>2 困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育成するために、自分で目標設定できる力を付ける。</p> | <p>1 体育部、健康安全部等が中心となり、感染症予防の取組を継続的に行い、保護者にも啓発することで身体への関心を高める。また、体育の授業と連動させた持久走や縄跳びを継続的に実施し、体力向上と粘り強く頑張ろうとする態度を高める。</p> <p>2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。</p> | <p>○「いさなご小学校感染症予防マニュアル」を作成し、状況の変化に併せて更新し教育活動を行うことができた。</p> <p>○学期・取組ごとに自分の目標を設定し、取組過程を丁寧に扱い意欲を高められた。</p> <p>△コロナ禍のため、全校的な取組を実施できなかったが、活動人数や方法などを工夫することにより体力向上に努めた。</p> |
| 人権教育 | <p>1 規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動できるようにする。</p> <p>2 発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。</p> | <p>1 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他者への思いやり」についての指導を重視する。</p> <p>2 互いの個性や価値観の違いを認め、得意なこと認め、さらに伸ばす指導を行う。</p> | <p>○新型コロナウイルス感染症についての指導により、悲しい思いをする事象は見られなかった。</p> <p>△年間を通して友達、自分を大切にしている指導を行った。自分がしていることがいじめにつながることへの意識は低い。その気付きを高めるためにも、教職員の人権に対する研修を充実させる。</p> |
| 研修（資質向上） | <p>1 職員の指導力向上に向けた研修を積極的に進める。</p> <p>2 峰山学園が目指す保幼小中 10 年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。</p> | <p>1 峰山学園における研修会、校内の授業研修会等とおして、職員の指導力向上に向けた研修を行う。適宜、評価を行い、日々の実践と結びつけた価値づけを行う。</p> <p>2 峰山学園の「(0)Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿」を共有し、その実現に向けた取組のあり方(Ⅰ期前半、後半、Ⅱ期における指導のポイント)について研修を進める。</p> | <p>○全ての教員が校内授業公開を1回以上実施し、事後研究会を行い、互いの指導力向上に努めることができた。</p> <p>○峰山学園Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿」を意識した指導を行うため、改めて「目指す姿」達成のために必要なことを研修できた。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員が一人一人の様子を細かに把握し、お互いを認め合う学級経営を土台として「分かる・できる」授業づくりとを進める。 ・将来の社会的自立に向けて、学習指導要領で示されている各教科における「育成を目指す資質・能力」を明確にし、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指して研究を深めていく。 ・外部機関と連携して指導の方向性を明確にし、個に応じた支援を進める。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立しんざん小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|---|---|
| 1 一人ひとりが自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】 | | ○確かな学力の育成に向け、模擬授業を柱にして新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究会を行うことができた。 ○苦手のある児童への専門機関と連携した指導・支援を行うとともに、適切な就学指導につなぐことができた。 ○生徒指導の三機能を生かした学級経営により落ち着いた教育環境づくりができ「学校が楽しい」と思う児童が増えた。 △不登校傾向や不登校の児童へ外部の専門機関と連携し、家庭との連携も進めてきたが、改善つなぐとは言いえない。 | 【笑顔あふれる楽しい学校】 ～わくわく Let's アップデート～ ◇やればできる自分に出会う（一人で） ◇みんなで学ぶから深まる（みんなで） を大切にして、学園評価・学校評価の結果に基づく教育実践の改善を図り、学校経営を充実させ、地域・保護者から信頼される学校を目指す。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程学習指導 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を組織的に進める。 2 豊かな人間関係を構築し、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。 3 児童実態を的確に把握し学力向上に向けた組織的な研究を行う。 | 1 授業の中で積極的に ICT 活用を進める。使うことで慣れることと、その積み重ねからの効果の共有をねらいとする。 2 主体的・対話的で深い学びの実現のための校内研修会やグループ研究を計画的に実施し、模擬授業を指導力向上の場として取り組みを進める。 3 指導と評価の一体化による、指導の工夫・改善を行う。 4 言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を目指し児童に自己肯定感を育む。生徒指導の三機能を生かした授業づくりを学園組織と連動し追求する。 | ○一人1台の端末を使うことに慣れ、興味を高め、効果的な活用を模索し学びを深めることができた。 ○模擬授業を学びの柱として、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究会を行うことができた。 △児童アンケートの「学習がわかる」の項目では93%の肯定的な回答があったが、7%の児童への手立てを進める必要がある。 ○「自分にはよいところがある」の項目では、肯定的な回答が93%で昨年度より10%の伸びが見られた。 |
| | 生徒指導 1 いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。 2 生徒指導の三機能を生かした授業作り、学級経営を行う事で、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、豊かな人間関係を築く力を育む。 | 1 児童の内面理解や安心して学べる教室環境を築くための職員研修を実施する。 2 気になる児童の様子や事象に関して素早く反応し、「報告・連絡・相談」ができる職員の体制を築き、不登校の解決と未然防止、いじめの防止等に努める。 3 「なぜ、何のために」を大切に規範意識や集団生活上に必要なマナーや行動について考えさせ、行動できる力を培う。 4 道徳教育、人権教育、特別支援教育の視点を大事にした取組を組織的に進める。(児童会の取組、日々の授業) | ○生徒指導の三機能を生かした学級経営により、落ち着いた教育環境づくりができた。「学校が楽しい」の項目では、96%が肯定的回答だった。 △不登校傾向への対応は、教育相談部を中心に組織的な支援を行っているが、継続的な取組が必要である。また、いじめアンケートの結果は、丁寧に聞き取り等を行い、早期の解決を図った。 ○「なぜ、何のために」を考えさせる指導により、「ルールを守っている」の項目では、97%の児童が肯定的回答であった。 |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 健康（体育）・安全 | <ol style="list-style-type: none"> 1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体力作り、スポーツに親しむ能力や態度を育成する。 2 家庭・地域との連携を図り安心安全な登下校を目指す。 3 基礎的な生活習慣の確立を目指す。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 朝マラソン、朝縄跳び、日々の体育等を通し基礎体力の向上を図る。 2 発達段階に応じて薬物乱用教室、非行防止教室、SNSに関わる教室に取り組む。保護者への啓発を行う。 3 安全ボランティアと連携し見守り活動を充実する。 4 「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した「生き生き頑張る週間」を設定し生活習慣を確立する。 5 栄養教諭による「食」に関する講話を給食試食会の際に設定し、家庭の意識化を図る。 | <p>△運動面でも多くの制限があり、十分な成果につながったとは言えない。</p> <p>○薬物乱用防止教室、非行防止教室、SNS講習会等を計画的に実施した。</p> <p>○今年度も安全ボランティアの皆さんに見守り活動を大変充実していただいた。</p> <p>△生活習慣の確立では、特に「早寝」において保護者アンケートでは肯定的回答が80%を下回っており、改善の取組が必要である。</p> |
| 特別支援教育 | <ol style="list-style-type: none"> 1 障害への理解、多様性を認め合い、好ましい人間関係を築く。 2 発達障害等の特性に応じた個別の支援のあり方を組織的に検討する。 3 自閉・情緒学級を強みにし、特別支援教育の視点を全教育課程に反映させる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 合理的配慮を含めた個別のニーズに応じた支援を目指し、専門機関と連携し検討、改善を加えていく。 2 保護者との定期的な懇談のもとに親の願いを反映させた支援計画を作成し、児童の発達を促す。 3 専門機関と連携し、様々な障害に対する理解教育を進める。見える障害、見えない障害等、様々な視点から理解教育を進める。 4 特別支援学級児童や学級に対する理解教育を取組や行事と関連させて行う。 | <p>○苦手のある児童への専門機関と連携した取組を進め、指導・支援を行った。</p> <p>○定期的な面談等を行い、適切で効果的な支援の検討をし、取組を進めた。</p> <p>○専門機関と連携し、理解教育を進めることができた。</p> <p>△次年度に向けて、さらに特別支援学級ならではの支援や指導のあり方を追究し、3つの学級存在が全校の児童にとってもプラスとなるような教育活動を進めていく。</p> |
| 研修（資質向上の取組） | <ol style="list-style-type: none"> 1 保幼小中一貫教育において峰山学園の「Ⅰ～Ⅲ期における『目指す姿』一覧」を教職員が共通理解し、体系的な指導を積み上げる。 2 初任者研修を活用し、教師の指導力向上を目指す。 3 教師力の向上に向けた研修や教師の学び合いを重視し教師としての資質能力の向上を図る。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 校内研修会で峰山学園が目指す「Ⅰ～Ⅲ期における『目指す姿』一覧」の共通理解を図った上で、学級経営方針を4つの柱で立案し実践を進める。 2 視点を明確に持ち組織的に授業研究を推進する。（児童同士の対話に焦点化） 3 校内での初任者研修を通して、全ての教職員が再認識をしたり日々の指導に生かしたりできるよう工夫する。 4 新学習指導要領全面実施に係るカリキュラムマネジメントの視点や評価について研修を深め、検証・改善を進める。校内研修会が教師の学び合いの場になるよう企画運営させることで、各主任の力量アップを図る。 | <p>○峰山学園が目指す「Ⅰ～Ⅲ期における『目指す姿』一覧」の4つの柱を学級経営方針に反映させ、実践を進めることができた。</p> <p>○確かな学力の育成に向け、重点教科を算数科とし、指導と評価の一体化を目指した。各テスト結果は概ね平均程度であった。</p> <p>○次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業の指定校として、実践研究を行った。生き生きと英語を話す児童の姿が見られるようになった。</p> <p>△ペアやグループでの活動に制限があり、目指す授業スタイルにはたどり着けなかった。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや電子黒板、デジタル教科書等、ICT活用によるGIGAスクール構想への対応を考慮した研修（授業研究）を、年間計画をもとに全教職員で組織的に進める。 ・組織的・協働的な取組を大切にされた学校運営を行い、地域・保護者から信頼される学校づくりをさらに進めていく。 ・各種学力テストや児童・保護者アンケート等の項目を学校経営方針とつなぎ、教育活動の充実を図る。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立長岡小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|----------|---|--|---|
| <p>「峰山学園」経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して学校教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に迫る。</p> <p>〈目指す子ども像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども | | <p>○全教科・領域の授業において、UDと生徒指導の3機能の視点を大切にし、目標と指導と評価が一体化を図る指導について研究を推進した。</p> <p>○特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭との連携も含め取組を進めた。</p> <p>△主体的に自分の考えを表現し伝え合う力を付ける。</p> <p>△各家庭・PTAと連携し、児童の家庭生活における課題を共有し、家庭学習の習慣化を図る取組をさらに進める。</p> <p>△学校行事や児童会行事等で付けたい力を明確に取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりを進める。</p> | | <p>つながる笑顔があふれる学校づくり「ながおか大作戦」</p> <p>ななかよし ががんばる おおもいやり かかんがえる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 質の高い学力・コミュニケーション能力の育成 2 一人一人を大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導 3 人を思いやる豊かな人間性の育成 4 たくましく健やかな心身の育成 5 安心・安全で信頼される学校づくり <p>～レッツゴー！あしたへ～</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | | 成果と課題(自己評価)(案) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・市小研、学園保幼小中一貫教育の研究と連動し「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。『豊かにつながり、学び合う中で育まれる確かな学び』～課題に向き合い、聴き合い、深め合う子ども達の姿を目指して～」を研究主題とし、算数科授業を軸に、「主体的に学ぶ力」「非認知能力」を育む研究を進める。 ・学習指導要領の理念のもと、児童実態に応じた目標を設定し、評価まで見通した授業づくりを行う。 ・ノート指導、トークタイム等の工夫、各期のねらいや接続を意識した系統性のある指導を進める。 ・全校で週2回(月・木)のドリルタイム、週1回(火)補習の活用・充実を図る。放課後補習では、「ジュニアわくわくスタディ」等を活用する。 ・学園家庭学習がんだり週間の活用と補習の充実 ・ICTの利活用 | | <p>○低・高学年グループで授業研究を進め、峰山学園秋季研修会を節として、協働的に授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した。児童が考えを対話により深めたり、友達の考えを認めたりなど、つながりの中で主体的に学ぶ姿が見られた。</p> <p>○毎週木曜日のトークタイムの充実を図り、児童の表現力、コミュニケーション能力を高めた。</p> <p>○家庭学習がんだり週間を2週間の取組とし、自主学习等のノートを担当以外も見て言葉かけをし、意欲向上と内容充実につなげた。</p> <p>△タブレット活用が進み、高学年を中心にロイロノートで提出・交流をし、ドリルパークの漢字や計算の学習に取り組むなど、個別最適な学び、協働的な学びを追究するツールとしてきた。さらに、タブレットの活用を進め、家庭学習の習慣化や内容の充実を図る。</p> |
| | 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・人を思いやる豊かな人間性の育成 ・不登校、いじめ等さまざまな課題に対するきめ細かな生徒指導の展開 | | <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業や生徒指導の3機能を活かし積極的な生徒指導を行い、安心できる居場所のある学校、学級づくりを進める。</p> <p>・魅力ある学校づくりを行うとともに、誰もが自他の笑顔があふれることを願いつながることができる取組を充実させることにより、全員登校5割以上を目指す。</p> <p>・生徒指導部、教育相談部、いじめ防止委員会の機能化を図り、未然防止、早期発見、早期解消を目指す。</p> |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成 ・危機管理の充実と安心・安全な学校づくり、環境整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実と取組を推進する。 ・目標を明確に体力づくりの取組を充実する。 ・PTAのテーマにある「早寝、早起き、朝ごはん」を児童自身にも意識させ、生活がんばり週間を活用しながら、家庭と連携して健康的な生活習慣を確立する。 ・生命やからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度を育成する。 特に、新型コロナウイルス感染予防については 主体的に取り組むことができるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実及び、SC・SSWの活用等の取組を推進することができた。 △健康的な生活習慣の確立が困難な児童に対して、家庭と連携し組織的に、食・睡眠など個別のニーズに応じた指導・支援をさらに進める必要がある。 ○感染予防対策について、朝会・学級指導・保健だよりなど多様な発信をすることができた。 |
| 人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のよさを認め合うとともに、多様性を受け入れ誰とでも仲良くできる児童の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教科道徳、人権学習等で豊かな人間性を育むとともに、異年齢活動を通して、温かいつながりをつくり居心地のよい学校・学級づくりを進める。 ・人権旬間（6月前半～後半）、人権月間（11月下旬～1月中旬）で課題に応じたテーマを設け取り組む。 ・人権問題学習では、身の回りの生活の中から課題を見つけ教材化、各教科や道徳における人権学習を進め普遍的・個別的なアプローチを行う。学校・学級だより等や授業公開を通して保護者等に啓発・発信をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○人権旬間・月間に、学級の実態に応じた目標や具体的な取組を行い、人権朝会等で交流・振り返りを行うことにより「人権を大切にす」学校づくりができた。 ○人権講話により車いすスポーツについて知るとともに体験もでき、障害についての理解とちがいを認め合うことについて考えることにつながった。 △感染予防のため、人権学習の授業公開ができなかったが、コロナ関連の人権も含めて発信していく。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の特性を踏まえて、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般における UD のよさを活かした指導を充実し、誰もが安心できる学習環境づくりを推進する。 ・行事や体験活動を工夫し自己肯定感を向上させる。 ・コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制の構築及び他機関との連携を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> △学校生活全般において UD のよさを活かした指導を充実し、安心できる学習環境づくりをさらに推進する。 ○コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制の構築及び他機関との連携を深めた。 △児童・保護者に対し、さらに特別支援教育について啓発する必要がある。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 児童の学力向上をめざし、よりよい生活習慣を確立し心身ともに健やかな児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように、組織的・協働的に研究を推進する。 2 全ての児童に対して個別の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 3 児童の実態を家庭と学校で共有し、よりよい生活習慣を身に付けさせ、SNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「主体的に取り組む家庭学習」「よい睡眠」「よい食事」が自分の未来をつくることを児童が理解できる取組を進める。 「今の自分が未来の自分をつくっている」→「今何をすべきか」「なぜしなくてはならないか」→「主体的に動く」 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮第一小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|---|
| <p>「学校教育目標」(長期目標)</p> <p>◆自他を尊重し、自ら学ぶ こどもの育成</p> <p>「目指す学校像」</p> <p>◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校</p> <p style="text-align: right;">【児童】</p> <p>◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校</p> <p style="text-align: right;">【教職員】</p> <p>◇安心して子どもを任せられる学校【保護者】</p> <p>◇他地域に誇れる地域とともにある学校</p> <p style="text-align: right;">【地域の方】</p> | | <p>○△単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい授業を年間を通して確実に進めることができた。さらに、学習上配慮を要する児童等への具体的な手立てを明確にした指導支援について進めていく必要がある。</p> <p>○学力の基盤となる協調性・自制心・やり抜く力について、人権にかかわる取り組みや日頃の特別活動、各担任等の指導支援によって、全体としては積極的に育成に努めることができている。</p> <p>△学級経営上一部社会的行動がとりにくい児童がある。また、不登校についても、組織的な対応をしながら大きく改善した児童がいる半面、様々な要因から内面的な困難さのある児童もある。</p> | <p>「子ども一人一人の居場所を大事にする中で、生きる力・自立する力をつけることを意識して学校経営を行う」</p> <p>① 多様性を積極的に肯定する。</p> <p>② 一人で全部完全な人間でない、補い合うことができるからチームのメリットがあると考える。</p> <p>③ みんなが安心して気持ちよく働ける職場にする。</p> <p>経営のキーワード</p> <p>「チーム第一小 ー協働し、子どもの力を伸ばすことで自らの人間力を高めるー」</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| <p>教育課程 学習指導</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50px;">142 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・読む力・書く力・確実に計算する力等、基礎学力を定着させるため、単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい授業を計画的に進める。 ・知識・技能を用いて活用する力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を積極的に進める。 ・感情をコントロールする(協調性)、集団の中で自分を律する(自制心)、自主的に粘り強く取り組む(やり抜く力)態度を積極的に育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導部、研究推進委員会を中心に、基礎学力の定着のため、単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい(具体的手立てのある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。12月のDRTの標準得点において昨年度より伸ばすことを目指す。 ・身に付けた知識・技能を用いて考える力(活用する力)を育成するため、研究推進委員会が中心となって「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を特別活動・教科の授業研究の視点とし、日々の授業の中での積極的な実践につなげる。また、ICTを活用した授業改善を進める。 ・協調性・自制心・やり抜く力を育成するため、指導のねらいを明確にした学級、学校の取組及び日々の指導を発達段階に応じて意図的・計画的に推進する。生徒指導の3機能を生かした学級経営をすすめるとともに、特別支援教育の視点を大事に居場所のある学校となるよう取り組む。 | <p>○2～6年のDRTの結果、昨年比同等以上が国語215人66.8%、算数251人78.0%となり、全体としてテストに現れる力を多くの子が伸ばすことができた。一方で、昨年比下がった児童への対応も含めて進めていく。また、知識・技能等の学力を定着させるための取組として、授業における理解の工夫や定着のための取組など時間が限られている中で進められている。</p> <p>○話し合い活動について各学級で研究を進め力をつけ、各教科での学習に生かしていくことができている。また、ICTの活用がどの学級でも日常のこととなりつつあり、表現方法の広がりや思考を深めるツールとして活用できている。</p> <p>○日々の学級経営の中で、肯定的な評価を大切に自己肯定感を高める雰囲気作りが進められた。その結果、各学級で発達段階に応じて協調性・自制心・やり抜く力などを身に付けることができている。</p> <p>※DRT 全体の状況から指導方法を、個別の結果から指導内容を見つめなおしていく。</p> <p>※話し合い活動の技能を全学級で高め、各教科で進めている授業改善につなげていく。</p> <p>※3つの力の育成につながる指導・支援がどのようなものか、考え方や実践を交流し学びあいたい。</p> |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた「友だちと互いに理解し、信頼し、助け合う」気持ちを育成する指導を進める。 ・「不登校」、「いじめ」等の諸課題に対し、自己肯定感を高める等、未然防止の視点での積極的な生徒指導を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動、学級活動、道徳科を中心に全教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「主として人とかかわりに関すること」「友情・信頼」についての指導を重視する。 ・教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的・継続的に伝えていくことで、自己肯定感を高め、自分の特徴に気付き、長所を伸ばそうとする態度を促進させる。その結果として、学校・学級に一人一人の居場所があるように丁寧な取組を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○特別活動の様々な取組を通して、自分と他との関係を考え、折り合いをつけることの大切さを学ぶことができた。その結果として、学級や異年齢集団等での互いを大切にしたいという思いや行動が高まっている。 ○不登校傾向を表す児童に早く気づき、その対応を組織的に行うことができた。その中では、常に居場所の確保に努め、また保護者とともに歩むことを大切にしている。 ※来年度のスタートに当たって、クラス替えの場合を除いて、今年の積み上げがリセットされることなく進められるように工夫する。 ※来年も続くと考えられるコロナ禍でも何とか学校の良さを伝えられるように工夫していく。 |
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、体力づくりの推進と学校を休まない意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業と連動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組を行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすることで、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○非常に厳しいコロナ禍での教育活動であるが、全職員で情報共有をしながら進めることができています。学校閉鎖や学級閉鎖も経験したが、その都度、全職員で対応や感染防止の取組を進めることができた。 ※コロナ禍による体力・心理両面からくる影響に対して、可能なことでの取組を検討していく。 |
| 特色ある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の研究校として、社会的自立を目指した教育活動の在り方について、特別活動の分野から研修と実践を重ねる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や児童会活動等の授業や活動の考え方や指導の在り方について理論研究を進める。 ・すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級となる人間関係づくりの指導方法を発達年齢に応じて身につける。 ・本年度の府小研 2 年次研究発表会及び令和 4 年度近畿特別活動研究大会の準備を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○本校の重点研究を通して、今現在の子どもの生活や人間関係を豊かにすることにつながっていると実感している。 ○研究推進部の丁寧な計画と推進によって、見通しを持った取り組みとなっている。 ※すべての学級で研究が実践につながるような研究を来年度 3 年次の研究を通じて高めていきたい。 |
| 地域とともにある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中一貫教育の推進による PTA・保護者会、地域の関係機関、こども園、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学園の保幼小中一貫教育にかかわる取組のねらいをより明確にし確実に実施するとともに、中学校卒業時を見通した教育活動を推進する。 ・本校 PTA や学園学校運営協議会との連携を通して、保護者や地域と一体となった取組を計画的に実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○大宮学園の保幼小中一貫教育の取組を通して、接続を大切にしている。 ○学校運営協議会を中心に、地域の方々との連携がよく進み、安全や挨拶の取組など大きな支えになっている。 ※教職員の相互理解や指導の一貫性を着実に進めるとともに、地域や保護者の方と連携した取組となるよう進めていく。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 来年度も DRT の結果で前年度よりも更に、個々・全体の標準得点を伸ばすことを目指す。 (2) 話し合い活動のスキルを全学級で伸ばし、各教科の学習に生かすとともに、肯定的な雰囲気と居場所のある学級づくりを進める。 (3) コロナ禍における様々なリスクを減らすための取組を進めるとともに、心身ともに豊かな成長を伸ばせるように何が出来るかを考えて取り組む。 (4) 地域と家庭との連携をベースに、様々な意見をもとにより良い教育活動が進むよう、発信と改善を進める。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮南小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|---|--|
| 大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 大宮南小学校 目指す学校像 (1) 学級づくりを基盤にして、質の高い授業づくりを迫及する学校 (2) 全ての児童が大切に育てられている人権の風土のある学校 (3) 家庭・地域と共にある信頼される学校 | | ○教育スローガンの下、児童にも教職員にも、具体的に目指す児童像の在り方を示すことにより、コロナ禍の中でも、児童は意欲的主体的に学校生活を楽しんだ。 ○肯定的な評価を大切にすることにより、互いに思いやりながら学校生活を送り、不登校傾向の児童も改善した。 ○関係諸機関と連携しながら、個に応じた指導の方法を探り、粘り強く指導をしたがまだ課題が残っている。 | ○大宮南小学校本年度の教育スローガン 「学び・つながり・挑戦する」 知 主体的に勉強する子 ～学ぶ～ 徳 自分も友達も大切にすることにより、互いに思いやりながら学校生活を送り、不登校傾向の児童も改善した。 体 たくましくチャレンジする子 ～挑戦する～ |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程 学習指導 【主体的に勉強する子】 ①基礎学力の向上を目指した授業づくり ②「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善 ③言語活動の充実を目指した授業づくり ④授業とリンクした家庭学習の更なる充実 | ・個に応じたきめ細やかな指導やドリルタイムやステップ等を利用した反復学習を進める。 ・算数科を重点とし、研究授業を柱として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。 ・大宮学園「言語活用カリキュラム」を活用した取組を進める。 ・家庭学習がんばり旬間を設定したり、大宮学園「家庭学習の手引き」を活用したりすることで、家庭学習を充実させる。 | ○本校を会場として大宮学園授業研究会を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現による算数科の授業改善を行うことができた。それ以降も、自校で研究を継続することができた。 ○大宮学園「言語活用カリキュラム」に加え、本校独自の『話し合いのポイント』を作成し、話し合い活動の充実を図った。 △下校の時刻の繰上げに伴い、放課後補習の時間の確保が難しい。反復学習のための時間確保が必要である。 △家庭学習頑張り旬間がマンネリ化している。更なる充実を図っていく必要がある。 |
| | 生徒指導 【自分も友達も大切にすることにより、互いに思いやりながら学校生活を送り、不登校傾向の児童も改善した。】 ①「自他を大切にすることにより、互いに思いやりながら学校生活を送り、不登校傾向の児童も改善した。」を育成するための教育活動の充実 ②いじめの防止・不登校の未然防止を徹底させる。 ③規範意識の向上 ④ふるさと・人を大切にする心の育成 | ・大宮学園「人権教育カリキュラム」を活用し人権意識を育成したり、人権学習の充実を図ったりする。 ・生徒指導の三機能を生かした授業改善により、授業づくりと学級づくりの一体化を図り、学級経営力の向上を目指す。 ・いじめを許さない心、思いやる心を醸成し、明日も行きたくなる学校づくりを進める。 ・自分から進んで挨拶ができる子を育てる。 ・自分で正しく判断し行動できる子どもを育てる。 ・地域の人材から学ぶなど、丹後学を進める。 | ○全教職員で全児童を優しく包み込むことのできる学校にするため、肯定的評価を大切にし、教職員同士が互いに認め合い、繋がり合えるよう職場を作り方を大切にしたい。 ○授業の中に生徒指導の3機能を取り入れ、お互いに認め合うことのできる学級を作っていた。 ○いじめの早期発見、不登校の未然防止に向けて、連絡・報告・相談を大切にし、組織的に解決策を考えることができた。 ○学校が楽しいという児童がほとんどである。また、不登校傾向の児童を早期に発見し、個を大切にする指導をすることで、毎日全児童が元気に登校している。 |

| | | | |
|---------------|--|---|---|
| 健康（体育）・安全 | <p>【たくましくチャレンジする子】</p> <p>①体力向上の取組</p> <p>②基本的な生活習慣の確立</p> <p>③健康安全教育の充実</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストなどを活用し、児童の体力・運動能力の実態を把握し、全校的な体力づくりの取組を進める。 ・家庭と連携し早寝・早起き・朝ごはん等の基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。 ・災害や事件・事故、感染症から身を守るための健康安全教育を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○三密を避けるための創意工夫をしながら、マラソン大会や運動会、体力作りの取組を実施することができた。 ○安心安全な学校生活を送ることができるよう、「新しい生活様式」に基づいた感染症対策を行うことができた。 △コロナ禍の中、体力作りに制限がかかり、計画通りに取組を進めることができなかった。 |
| ⑤ 特別支援教育 | ①特別な教育支援の必要な児童へのニーズに合わせた支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や発達段階を的確に把握し、適切な教育課程を編成すると共に、個別的教育計画を立てて指導する。 ・児童・保護者のニーズに合わせた個別的教育支援計画を作成し、保護者と連携した指導や支援を進める。 ・校内教育支援部が機能化する体制づくりを整えるとともに、外部機関も利用し、特別支援に関する理解を深める。 ・全校児童の相互理解と互いに学び合う好ましい人間関係を育成し、多様性を認め合うことができる学校風土づくりをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する児童の支援の方法について、学校での見える実態のみならず、家庭環境や児童の内面理解等も大切にし、関係諸機関と連携し、組織的協働的な話し合いを大切にしながら互いに考えることができた。 ○保護者との面談や会話を大切にし、保護者の思いや考えを受け入れながら、学校としての指導・支援の方法を伝える等、家庭と連携しながら支援を行っていった。 △保護者と学校の連携のみでは、家庭環境的に支えきれない家庭が複数あるので、要対協等関係諸機関と連携しながらの取組が必要である。 |
| ① 開かれた学校づくり | <p>保護者・地域から愛され信頼される学校</p> <p>①地域と共にある学校</p> <p>②教師力の向上</p> <p>③組織的・協働的な推進体制の確立</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより・HP・学級通信等を活用し、学校の様子を発信していく。 ・PTA や大宮南小子ども見守り隊と連携し、児童の安全確保のための環境づくりを推進する。 ・教師力の向上を図り、信頼される教員を目指す。 ・教育目標・教育スローガンの具現化に向けての協働的な組織体制を設定し、信頼される学校を作っていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○担任と保護者との連絡を大切にしたり、各クラス学級通信等を活用し丁寧に学級の取組や児童の様子について知らせたりするなど、家庭との連携を大切にした。 ○行事や取組みのお知らせや変更について、学校だよりやHP、PTA メールで丁寧にお知らせすることができ、計画の見通しや変更を丁寧に連絡することができた。 ○安全ボランティアの立ち番及び教職員やPTAの安全パトロールにより、安全に登下校することができた。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全体で「主体的・対話的で深い学び」を大切にし、変動の多い社会の中でも、臨機応変に対応し、主体的・協働的に創意工夫することできる力を育てていく。 ・「ICTを活用する力」等今求められている力と従来からなされてきた普遍的な力を両輪にした教育活動を進めていく。読書指導を大切にして、本好きな児童を育てる。 ・感染症対策や健康安全教育を行い安心安全な学校を基盤とし、その時の情勢を把握しつつ、子ども達につけたい力を明確にし共通理解しながら、見通しをもち創意工夫した教育活動を展開していく。 ・関係諸機関と連携しながら、配慮の要する児童の実態を掴んだり家庭や保護者の状況を把握したりすることで、個に応じた指導の方法を見つけ、粘り強く支援や指導をする。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--------------|--|--|
| 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。 | | ○目標達成のための活動を仕組み、運営すること意識し、教育活動を推進することができた。 ○授業改善や家庭への啓発などの取組を通し、意欲的に学習に向かえる児童が増えた。 △児童の自己肯定感が低い。 △「振り返り」を含むPDCAサイクルの技術的な研修の積み上げはできたが、効果や生かし方についての検証が不十分であった。 | 1 網野学園保幼小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推進するとともに、全教職員が学校経営に参画する。 2 「自分も友達も大切にできる子」の育成を目指し、「友達と考えを交流することができる」「自分や友達の良いところを見つけることができる」「いろいろなことに挑戦し、次につながることをキーワードとした学校経営をする。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程 学習指導 | 1 学習意欲を喚起する授業展開とねらいが明確で「わかる・できる授業」と、身に付けた知識・技能を活用し考え、友達と交流する中で、さらに深めることができる授業の実践研究を行う。 2 個の興味や理解に応じた授業が進められるよう、積極的にICTを活用する。 3 多様な学習形態や学力補充・家庭学習などにより、基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 4 振り返りを通してより学びを確かにし、体験活動を経験値として積み上げていき、次につなげられるような活動を仕組む。 | ○「見通す・振り返り」に特化して研究を進め「わかる・できる授業」を目指す授業改善に生かすことができた。 ○全学級でICTを活用した授業を進め全学級で積極的に活用した。 ○TT授業、習熟別授業、個別指導を行い、児童への学習支援を進めることができた。 △効率的なICTの活用については、個に応じた指導や支援には更なる研究が必要である。 △体験活動を通じた経験値の積み上げに関しては、成果については共有することができなかった。 |
| | 生徒指導 | 1 自他ともに大切にすることを育てる。 2 教育相談を基盤にした生徒指導を充実させる。 3 発達段階に応じた「思いやりの心」の心を育成する指導を進める。 | ○不登校傾向児童の対応方法や本人を含む家族への支援について、専門家の意見を参考にしながら方針を立て確認しながら進めることができた。 ○複数の部が連携し方針立てを行い事前の家庭との連携では複数体制で対応することができた。 △様々な活動を通し自己肯定感は高まってきているものの、まだ高学年を中心に低さが見られるため、更に意識した取組や活動が必要である。 △規範意識に課題が見られ指導に繋がれなかった。 |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| 健康（体育）・安全 | <ol style="list-style-type: none"> 1 体を動かすことの心地よさを感じる指導を推進する。 2 積極的にチャレンジし、自らの成長につながっていることを実感する指導を進める。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた目標や短期（各単元）目標を設定させ、自信をつけさせたり、次の活動への意欲を高めたりする。 2 目標が達成できるよう支援を行い、達成感や取り組んだことに対する充実感が得られる取組を仕組む。また、児童の相互評価と指導者による適切な評価と価値付けを行う。 3 振り返りを行い、自他の成長に気づくことで、より確かな学びとする。 | <p>○体育でも「見通し」「振り返り」を行うことで、目標設定の具体化や自分の成長を振り返ることに繋げることができ、意識を高めることができた。</p> <p>○ICT機器活用により、個別の課題設定や相互評価、個別指導を効率的に行うことができ、学習意欲の喚起、指導と評価の一体に繋げることができた。</p> <p>△一部児童に目標に対する意識の低さや前向きにチャレンジすることへの消極的な姿が見られた。課題分析の甘さと指導の工夫が十分ではなかった。</p> |
| 研修（教職員の資質向上） | <ol style="list-style-type: none"> 1 「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた教員研修を充実させる。 2 プロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）手法を活用し、学校経営参画を促す。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 研究推進部を中心に授業改善を行う。また、効果的な ICT 活用を目指し、研究授業・公開授業を行い学び合う。 2 課題の抽出、設定、解決方法などの決定・取組過程を全教職員がかかわることで、主体的な課題解決、学校経営参画に向けた動きを作る。 3 教科担任制を通し、カリキュラムマネジメント強化、学校経営参画意識向上と経営力強化を目指す。 | <p>○研究推進部を中心とし、単元構想を基にした授業改善を進めることができた。本校オリジナルの構想シートを活用し、該当単元を中心とした全体的な学習活動を見通すことができることに繋げることができた。</p> <p>○時間割調整の難しさはあったが、授業時間やカリキュラムマネジメントの意識が高まった。</p> <p>○全学級で ICT を活用した授業を進め、長期欠席児童へのオンライン授業の提供も行うことができた。</p> <p>△課題の整理と解決に向けて PCM 手法を十分に活用することができなかった。</p> |
| 特色ある学校づくり | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の歴史、文化を大切にし、愛着をもたせる。 2 地域人材を積極的に活用する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の歴史や文化、特色を生かす教材研究を行う。 2 地域の人材を生かした体験活動を充実させる。 3 「地域からの学びは地域に返す」ことを活動理念とし、地域への愛着を育てる。 | <p>○地域の歴史、産業を生かした学習活動ができた。</p> <p>○地域の高校生と共に海岸清掃と漂着物観察を行い、その結果を地元と台湾の高校生と交流することができ、児童の課題意識が高まった。</p> <p>○地域教材の開発を進めることができた。</p> <p>△保護者や関係者に対して学級・学校通信等を通し発信することができたが、地域への発信が不十分であった。</p> <p>△地域教材の開発を進めてきたが、実際の学習活動に生かし切れていない部分があった。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向児童・要配慮児童・家庭への支援方法の更なる充実 ・授業改善、学力充実に繋ぐタブレットの有効活用の研究と検証 ・非認知能力の育成を目指した授業改善と研究 | | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の充実 ・自己肯定感を高める指導・支援方法の更なる研修と実践 ・地域教材の開発と運用と地域人材の活用、地域への情報発信 |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|----------|--|---|
| 網野学園保幼小中一貫教育の目標から「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成」 【目指す子ども像】 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子 | | ○スキルタイムや回復指導等による基礎基本の定着。 △思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための授業改善と毎日の自主学習習慣の定着。 ○組織的対応によるいじめや問題事象の早期発見・早期解決、及び家庭との連携による登校渋り、不登校の未然防止。 △積極的な生徒指導及び他学年とのつながりの弱さ。 △SNSの使用についての系統的な指導と家庭との連携。 ○地域との連携による安心・安全な登下校。 △学校公開機会の減少。 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) (1) 授業改善を進め、確かな学力を育成する。 【よく学ぶ学校】 (2) 互いの違いを認め合い、仲間とつながることのできる力を育成する。 【いごこの良い学校】 (3) 生き生きと元気に、仲間と共に粘り強く最後までやり抜く力を育成する。 【毎日登校できる学校】 (4) 地域と連携し、全校児童が安心して学校生活を送り、力を最大限発揮できる教育環境をつくる。 【信頼される学校】 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ペア、グループ学習等の活用や生徒指導の3機能を大切にした授業づくりを行い、仲間と共に課題を解決できる学び合える集団を育成する。 各時間のねらいを達成できる「わかる」「できる」授業づくりを進め、基礎基本(読み・書き・計算等)を定着させる。 網野学園と校内の研究を連動させ、単元構想のもと、指導と評価の一体化を目指した授業改善を行う。 ICTの効果的な活用等により「主体的、対話的で深い学び」による確かな学力を育む。 網野学園の学力充実月間や家庭学習頑張り週間を基盤にして、家庭と連携しながら家庭学習習慣の確立を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループ学習を通して、「わからない」「教えて」と言えるようになったり、課題に対してあきらめず粘り強く取り組みたりすることができるようになった。 ○学園の授業研究会に向け、学び合える授業づくりについて研究を進め、児童が主体的に学習に向かえる課題設定の在り方や単元全体でつけるべき力について深めることができた。 ○DRT テスト等の分析結果より明確になった課題の回復をドリル学習等で実施し、基礎基本の習得につなげることができた。 △感染対策としてペアやグループ学習が短時間に限られたため、深まりのある学習を行うことが難しかった。 △家庭学習頑張り週間には保護者の協力を得ながら目標を達成できたが、期間以外にも自主的に取り組む力を付ける必要がある。 |
| | 生徒指導 | 【いごこの良い学校】 <ul style="list-style-type: none"> 互いの良さでつながれる学級集団、人間関係の構築 規律を守り、いじめ・暴言等を許さない機運の醸成 「いじめ」等、問題事象の早期発見・早期解決 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の関りや異年齢活動の中で、生徒指導の3機能や言葉で伝え合うことの大切さを意識した指導を行う。 道徳教育や人権教育の充実に努め、いじめや暴言・暴力等を許さない機運を高める。 行事や取組のねらい、過程、振り返りを大切にすることで価値づけを行うとともに、仲間とつながることの大切さを学ばせる。 網野学園「これだけは」(授業規律確立と規範意識醸成)等で、ルールを守ることや当たり前前のできることを大切さを考えさせ、行動実践に繋がられるようにする。 いじめ、問題事象等の対応は、窓口を一本化し、事実を正確に確認した上で迅速、丁寧、組織的な対応を行う。 |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 健康（体育）・安全 | <p>【毎日登校できる学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携による基本的な生活習慣の育成 ・目標に向かって意欲的に頑張る力（非認知能力）の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の児童の様子を把握し、担任や該当分掌と連携した指導や取組を行い、より安全な登下校の確保や登校しぶり傾向の早期発見・早期解決を行う。 ・家庭支援の必要な児童については、ケース会議やSC、SSWの活用により、個に応じたきめ細やかな支援を行える体制を構築する。 ・非行防止教室、薬物乱用防止教室、自転車教室等により安全についての意識を高める。 ・網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、生活リズムの確立、ゲームやSNSの使用についてのルール作り等、家庭やPTAと連携する。 ・目標に向かってやり切ることや粘り強く取り組むことへの価値づけや肯定的評価を大切に、非認知能力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○登校指導や下校時のパトロール等で実態を把握し、課題に対する指導を行ったことで改善が見られるようになってきた。 ○配慮を要する児童や支援を要する家庭に対してケース会議やSC・SSWの活用、専門機関等との連携を行うことで、児童の安定に繋げることができた。 ○学習や行事等で肯定的評価を大切にしたり、個人内評価を大切にしたりしたことで、粘り強く最後までやり切ろうとする姿が見られた。 <p>△網野学園情報機器アンケートより、情報機器の使用（時間、頻度等）について課題があったが、児童自らが主体的に考え、使用について見直すまでの指導が不十分だった。</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>【信頼される学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域、関係機関との連携を大切にしたい学校経営 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの小さな変化を見逃さず、きめ細やかに家庭と連携する。 ・PTA役員等との情報共有を丁寧に行い課題解決に努める。 ・地域人材を生かした教育活動や見守り活動を進める。 ・学級だより、学校だより、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○全校児童を全教職員で見ることによって児童の小さな変化に気づき、課題解決に向け家庭と連携することができた。 ○学校公開する機会が減ったため、ホームページで学校の様子を見てもらえるよう更新を行い、発信することができた。 * 1日平均閲覧数 約600回 ○読み聞かせやミシン、書道等の学習や登下校の見守り活動等に地域人材を積極的に活用し教育活動を進めることができた。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細やかな支援体制の構築 ・多様性の理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細やかで適切な指導支援を行い社会的自立ができる力を身に付けさせる。 ・特別支援コーディネーターを中心として、児童の実態把握、指導の方向性を確認し、組織的な指導を行う。 ・特別支援教育を基盤とし、互いの良さや違い、多様性を認め合い、つながりを大切にできる学級経営を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○個々の児童への適切な支援を行えるよう特別支援教育コーディネーターを中心として部会やケース会議を適宜もち組織的に進め、適切な支援を行うことができた。 ○取組や行事等を通して、一人一人の良さや違いに気づいたり、互いの考えや意見の違いを認め合えたりする関係を育むことができた。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成 2 コミュニケーション力の育成 3 特別支援教育の充実 4 PTA・地域との連携による安全な教育環境づくり 5 働き方改革の推進 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|----------|--|--|
| 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。 | | ○外国語教育を重点に研究を進め、子どもたちのコミュニケーション力が向上し、他教科及び学級や全校での活動等、様々な場面において生かすことができた。 ○特別支援教育に視点を当て、落ち着いた学級経営を継続することで、学校全体の安定を築くことができた。 ○健康管理及び感染症対策を実施したことで、全員出席の日が大幅に増え、健康な心と体につながることができた。 △新学習指導要領のめざす授業改善や基盤となる学級経営力等教職員自らの力量を更に高めていく必要がある。 | 生き生きと学び、いつでもどこでも児童が輝く楽しい学校～島小の子どもたち成長のために～チーム島小 1 全ての教育活動において短期目標（合言葉）を位置づけ、「島小システム」による学校経営を進める。 2 教職員が安心して気持ちよく働ける職場にするとともに適材適所で校務を分掌させ、相互に関わり合いながら組織的に機能させる。 3 児童一人一人の力を伸ばすための学習指導力や学級経営力を高める努力をする。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！」を実践し、随時、肯定的評価を入れながら全校でやり切る。特に、授業編の3つの柱を授業研究会や日頃の授業とも連動させ、学びを深める。 ・「読む・聞く・話す・書く」の活動を授業の中で丁寧に進め、じっくり考える力を伸ばす。 ・学園の取組と連動して、家庭学習頑張り週間を実施し、効果を高める。自主的に学習する力を伸ばす。 | <ul style="list-style-type: none"> ○網野学園「これだけは！」を実践するため「ATV」「BMW」の合言葉を基に、児童の変容に繋げた。 ○ICT 機器を活用し、視覚的な支援をしながら授業改善を行うことができた。 ○自主勉強の有効性を実感し意欲的な学習に繋げた。 △今後も落ち着いた学級経営を継続するとともに、主体的に学び合う力を向上させていく。 |
| | 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！」を基に、気持ちよく生活するための必要なマナーやルールを考えて行動できる力、相手を思いやる心の育成を進める。 ・生徒指導の3機能を生かし「いじめ」「不登校」などの諸課題に対し、未然防止に向けて日常的な指導や相談活動を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導の3機能を意識した授業づくり、学級づくりを行い、つながりを広めたり深めたりする取組を進めた。 ○2 カ月スパンの「合い言葉」は、児童及び教職員に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○全教職員で全児童を観ていくことを基本とし、共通理解のもと一致した指導をすることで、安定した学級・学校となってきた。 ○年度当初、学校に来にくい児童が見られたが、家庭と連携を進めながら改善した。今後も各機関や家庭と連携し丁寧に指導を続けていく。 |

| | | | |
|---------------|---|---|--|
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！」（家庭編）に基づく取組を、他校と連携し進める。 ・健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、様々な取組を通して粘り強く活動する心を育てる。 ・安全な生活を営むための対応力を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・網野学園「これだけは！」（家庭編）に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・当たり前のことが当たり前でできる子どもを育てるために、基本的な生活習慣や日常的な学校生活、家庭学習等1日の流れの確立を目指して粘り強い声掛けと保護者連携を進める。 ・苦手なことでも互いに励まし合い粘り強く頑張ったことが「よかった」と実感できる取組を仕組み、自尊感情を高める。 ・日々の生活・活動を通して「安全」について事例を教材化して考えさせ、正しく判断できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ感染症対策として行っていた手洗い・換気について意識化が高まり欠席日数の減少に繋がった。（全児童登校 110 日 2/28 現在出席停止含まない） ○学期に1回ずつ行われる学級懇談会で生活点検の結果やゲーム・SNSに関する内容を取り入れて交流することができた。 △年3回生活点検を実施したが、課題のある児童が固定化してきている。今後、睡眠時間・メディアコントロール等の改善に向けて継続的な取組が必要である。 |
| 研修（資質向上の取組） | <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行うため校内研究・研修の充実を図る。 ・特別支援教育の視点を基に、児童理解の力量を高めるとともに、支援を必要としている児童に対して、組織的な取組を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育を研究の柱とし、「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子どもの姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 ・評価の在り方について実践をしながら研究を進める。国立政策研究所研究協力校として進めていく。 ・ICTを活用した授業を実践するため研修を充実させ授業改善を図る。 ・児童の実態把握を行いながら、外部の専門機関と連携し特性についての知見を広げる。また、特別支援教育の視点を生かした指導・支援を行い一人一人の自立を目指した取組を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」について研修を深め、指導の在り方を協議し互いに学び合うことができた。 △更に授業改善を進めていくとともに、1人1台の端末を利用した授業改善を図る必要がある。 ○直山視学官に授業参観及び講義をしていただき意欲と授業改善に繋がった。 ○医療機関やSCやSSWと連携しながら、児童の見方や対応の仕方等、継続的な取組を丁寧に進めた。 |
| 特色ある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・網野学園保幼小中一貫教育を基に、中学校卒業時の姿を明確にしながら教育活動を推進する。 ・学園で連携しながら外国語教育を推進したり豊かな体験を基にした国際理解教育を実践したりする。 ・地域に学び地域とともに歩む学校にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の島小システムや方向性を継続し内容の充実を図る。特に、学園の教職員で常に交流しながら目指す姿の指標を検討し、本校の教育活動においても常に意識していく。 ・外国語教育で付けたコミュニケーション力を他教科や領域に生かし、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを進める。 ・教科や総合的な学習の時間等において、「琴引き浜」等様々な地域の資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々との交流や学びを大切にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身に付けたコミュニケーション能力を様々な場面で発揮し、自分の思いや考えを堂々と表現できる児童が増えた。 ○高学年の様子から刺激を受け取り入れる学年が多く、学びが全校に広がった。 △コロナ感染症対策のため学ぶ機会が制限され、思うように総合的な学習等を進めることができなかった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 新設される自閉・情緒学級を学校教育の軸にして教育的ニーズに応じた支援を適切に進める。 2 「主体的・対話的で深い学び」について更に研究を進め、学力向上を目指した授業改善及び1人1台の端末を活用し子ども達の能力・適性や興味関心に応じた最適な学びと協働的な学びを充実させる。また、教員のICT活用能力の向上を目指す。 3 網野学園の教育活動の積み重ねを土台として、小小連携・小中連携を充実させ、より具体的で焦点化した取組を通して一歩ずつ改善していく。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立橋小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|---|---|--|
| <p>【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども</p> | | <p>○地域のつながりを大切に活動をし、児童に豊かな体験を通じた学びの場を設定することができた。 ○働き方改革を具体的に進め、会議の精選やペーパーレス化、休憩時間の確保ができた。 ○児童の興味関心を大切に学習の展開を進めてきた。 △学習内容を定着させるための時間を位置付ける等、単元として授業を構想することに課題が残った。 △児童の自己肯定感や、主体性が低い。 △校内の授業研究として、研究授業を通じた協議の場が少なく、研究テーマの具体化が弱かった。 △保護者対応等の初期対応に課題があり、より組織的に、ていねいに進める必要があった。</p> | <p>【教育活動の目標】 「つながり、たくましく生き抜く 輝かにたちっ子」の育成 ～智恵を磨き、場を大切に、何事もやり抜く～ 【教育活動の具現化に向け】たちばな、つながり、プロジェクト た：つながろう、たくましく生き生きと ち：智恵をみがこう：知・主体的な学習者の育成 ば：場を大切にしよう：徳・豊かな人間関係を築く児童の育成 な：何事もやりぬこう：体・強い心と体をもつ児童の育成 「風通しの良い職員室」 「主体的・対話的で深い学びの授業改善」 「働き方改革の推進」「学校・家庭・地域の連携」</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 152 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | <p>教育課程学習指導</p> <p>1 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に学び、将来に夢と希望をもつ児童を育てる。 2 主体的・対話的で深い学びの具現化に向け、学級づくりと授業づくりを連動させ、言語活動を充実させる。</p> | <p>1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を行う。 ・算数科を重点教科とし、研究推進部を中心とした組織的な授業研究を進める。 ・単元構想シートを活用した授業づくりを行う。 ・ICTの活用により、児童の興味関心を引き出す授業展開を工夫する。 2 学力向上の取組を進める。 ・担任と専科教員、特別支援教育指導員、スクールサポーターの連携や、外部資源の活用により、個に応じた効果的な指導を行う。</p> | <p>○校内と網野学園の授業研究会を合わせて4回実施し、授業づくりについての研究を深めた。 ○ICTを活用した授業改善や休業中のオンライン授業等を実施し、校内で成果を共有できた。 ○地域の人材を活用した補習や、特別支援教育に関わる人的資源の活用により個に応じた指導を充実させた。 △学年により国語・算数の学力課題が大きく、十分な課題解決には至らなかった。学力の二極化に対して、下位層への補習等の場を設定しているが、授業との連携等で課題が残り、十分な成果が上げられなかった。</p> |
| | <p>生徒指導</p> <p>1 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。</p> | <p>1 豊かな人間性を育てる。 ・生徒指導の三機能を働かせた授業や、学級経営を行う。 ・考える道徳の授業を通して多面的・多角的な考え方を育てたり、人権学習の充実を図ったりすることで豊かな人間性を培う。 ・地域とのつながりや外部講師等の活用により多様な人との関わりから豊かな人間性の素地を養う。 2 認め合える集団づくり ・特別活動部や生徒指導部の連携した取組によって、異年齢集団活動を通じた豊かな関わりを経験させる。 ・認め合える集団づくりを通して、児童の自己肯定感を高める。 3 教育相談部、生徒指導部等の連携、機能化を図り、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・解消を行う。</p> | <p>○登下校の見守り活動をはじめとする支援をいただいた地域の方への感謝の気持ちを伝える場を設定し、地域とのつながりを大切にしたい人間性の育成に努めた。 ○コロナ禍により縮小とはなったが、運動会や大縄大会の取組を通して学年を越えた人間関係づくりを進め、上級生をモデルとした規範意識や人間性の育成に努めた。 △主体的な児童の育成のため、自己決定の場を効果的に設定することや、自立と支援の使い分けを明確に意識する必要があった。 ○△登校渋りのあった児童2名について教育相談部を</p> |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 健康（体育）・安全 | 1 何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。 | 1 体力の向上 ・体力づくりの取組などを通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。 2 主体的な児童の育成 ・児童が挑戦できる場の設定や、目標をもって取り組むための支援や肯定的な評価を大切にしたい取組を進める。 ・振り返りの場を大切に、主体的な姿を価値付けることで次への意欲を高める。 3 健康の維持 ・生徒指導部や養護教諭等が連携し、生活リズムを整える取組を進めるとともに、生活習慣等に課題のある児童や家庭に対して丁寧な支援を行う。 | ○中間休みを活用して目標をもったマラソン練習や縄跳び等、体力づくりの取組を進めた。 ○学校行事に向けた取組では、日々の振り返り活動を大切に児童の主体的な取組を進めた。 ○長期休業期間明けには、生活点検の取組を行い、家庭と連携して規則正しい生活習慣づくりを進めた。生活習慣に課題のある児童には、保護者面談の設定等を設定して改善に努めた。 △密を避ける等、コロナ禍への対応により体力づくりの取組や体育での運動量を十分に確保することができなかった。 ○△新型コロナウイルス感染予防について指導し、基本的な予防習慣を身に付けさせるよう努めた。しかし、低学年での確実な実施には課題が残った。 |
| 人権教育 | 1 道徳や人権学習を充実させ、コロナ禍における | 1 人権教育年間計画に沿った学習を進め、個別の人権問題にも触れる機会を大切にする。 2 教職員の人権意識を高め、コロナ禍における人権的配慮についても意識した学習をすすめる。 | ○年2回設定している人権旬間には、学級内の人間関係の見直しや課題解決に向けた話し合いだけでなく、人権教育年間計画に沿って個別の人権問題（LGBT等）にも触れる学習を設定して取り組んだ。 ○新型コロナウイルス感染症の拡大による人権侵害が起こらないよう、各学級での事前指導や個人情報管理に努めた。 ○△小規模校のため、人間関係の固定化が見られ、機会毎に改善の取組を行ったが、指導の継続が必要である。 |
| 研修（資質向上の取組） | 1 学校課題を踏まえた研修を行い、克服を日指す。 | 1 学校課題を焦点化し、共有化するための研修と、課題解決のための主体的な関りを生み出す研修の場を設定する。 | ○学力課題に対して、授業改善につながる研究を進めるとともに、診断テスト等の結果から課題を整理し、克服に向けた計画の立案等を行った。 ○特別支援教育に関わる指導や支援について、児童の実態交流や、理論研修により充実を図った。 △少人数のため、授業と学力実態の把握、指導の改善等を短いサイクルで行っていきたい。 △特別支援教育指導員のような専門性の高い教員を活用した研修を設定できず、残念であった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | ・特別支援教育の充実と、理解教育を進めることで、児童が安心して学べる環境を整える。 ・教職員の人権感覚を高め、人権学習を柱としたより良い人間関係づくりの取組を進める。 ・児童の自己決定の場を効果的に設定し、主体的な活動の場を生み出せるよう行事・取組を工夫する。 ・校内の授業研究組織を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 ・基礎的・基本的な内容の定着を図り、学力課題の克服を目指す。 ・ICTを活用した授業改善や、コロナ禍における家庭教育・オンライン授業等の充実に努める。 ・来年度2月に予定されている本校での網野学園授業研究会の場を活かし、研究推進部を中心とした授業改善の動きを活性化させる。 | | |

(別紙様式1)

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後小学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--------------|--|--|
| 教育目標 (丹後学園共通) 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、 未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 <目指す学校像> 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校 | | ○「食育」を各教科・領域に関連付け、食に対する望ましい知識と実践力を身に付けさせるために児童実態に即して低、中、高学年の授業研究を進めることができた。 ○データに基づく研究をすることで、丹後小学校の実態に基づいた具体的な学力向上の改善策を考えることができた。 △学力向上を目指して、個別指導に取り組んだが学習の定着に課題が残った。 △教育相談部を中心に面談を実施し不登校の未然防止に努力を重ねてきたが、組織的に取り組む点等で課題を残した。 | ・再配置3年目となる丹後小学校が、安定した学校運営ができるように教職員全員でベクトルを合わせて取り組む。 ・令和3年の京都府学校給食研究会研究推進委嘱校研究発表に向けて、令和2年度の成果を活かしつつ教職員一人ひとりが積極的に研究を進めていけるように、組織的に学校経営を進める。 ・ICT機器を効果的に活用した授業づくりを進める。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題 (自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程 学習指導 | ・「主体的・対話的で深い学びのある」授業を目指して、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業づくりを進める。 ・各教科の授業において、自分の考えの発言や対話、言語活動を重視した指導を行う。 ・令和3年の京都府学校給食研究会研究推進委嘱校研究発表に向けて、特に「食に関する指導」を中心に引き続き研究を進めていく。 ・タブレット・電子黒板等のICT機器を効果的に活用した授業づくりを進める。 | ○授業研究部を中心に、全学年で研究授業を行うなど学力向上に向けて全教職員で取り組めた。ICT機器を活用した授業づくりも大きく進んだ。 ○京都府学校給食研究発表に向けて全教職員で力を合わせて取り組むことができた。この取組で教職員が1つになる事等ができ、大きな成果が得られた。児童への給食アンケートなどからでも成果が見られた。 △引き続き、学力向上に向けての様々な取組を進める必要がある。 |
| | 生徒指導 | ・丹後学園の生活のきまりを守り、教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、意識して伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・いじめ・不登校の未然防止及び解消のために教育相談部を中心に面談等の実施を行うとともに情報を共有し、組織的な対応をチームで行う。 | ○学校全体が落ち着き、子ども達の挨拶の声が大きくなるなど児童の変容が見られた。 ○特別活動部を中心に、異年齢活動を行う事で、お互いの学年が学び合える良いサイクルとなった。 △教育相談部を中心に面談を実施し、不登校の未然防止や解消に努力を重ねてきたが、引き続き組織的に取り組む必要がある。 |

| | | | |
|---------------|---|---|---|
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。 ・困難なことにも粘り強く挑戦していこうとする態度を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・期間を決め計画的に体力向上の取組を体育の授業と連動させながら実施する。 ・新型コロナウイルス感染症の影響等で運動不足にならないように、全学年体育の時間にサーキットトレーニングを継続して行う。 ・学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○中間休みの体力づくりでは、3密を避けるために3グループに分けて、ストレッチ、リズム運動、5分間走のエクササイズタイムに取り組んだ。 ○校内マラソン大会において、目標を持たせながら取り組めた。当日は、参加者全員が走り切ることができた。 △コロナ禍で運動会やスケート教室、駅伝大会や等が中止となったり、大縄大会等の異年齢活動等が規制せざるを得なかった。 |
| 危機管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・3つの安全（生活・交通・災害）を大切にし、安心安全な学校生活を送らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時のにこにこカーの運行や、学校支援ボランティアとの連携により安全な登下校につなげる。 ・登下校のみならず、校外のきまりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。 ・校内の危険箇所点検を行い、適宜、修繕などを行うことで教育環境を整える。 ・新型コロナウイルス感染予防の対策を徹底し、児童が安心して学校生活が送れるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○感染予防に向けて、年間を通して全校舎の換気や消毒を行い、マスクの着用や手洗いなどの感染予防に努めてきた。 ○登下校時等に、にこにこカーによる校区内の巡回指導や学校支援ボランティアとの連携を行う事により、交通事故の発生を抑えることができた。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧で分かりやすいタイムリーな情報発信を行う。 ・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する。 ・無理のないPTA活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。また関係諸機関等との連絡を密に取り協力を得る。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 ・読み聞かせボランティア・図書館指導員により、読書への興味を高め本好きな児童を増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子をタイムリーに積極的に発信する事ができた。 ○△コロナ禍の中で、多くのPTA行事などが中止せざるを得ない中ではあったが、できる形で工夫してPTA活動を行う事が出来た。 △緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、外部人材の活用がかなり制限された。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を生かした「主体的・対話的で、深い学びの授業づくり」をすすめる。 ・児童の主体的な活動を通して、意欲と自己肯定感を高める。 ・丹後学園の指導の重点でもあるコミュニケーション能力の育成をさらにすすめる。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立宇川小学校 〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) | |
|--|----------|--|--|---|--|
| <p>夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成</p> <p>○目指す子ども像 (1)言葉で伝え合い、主体的に学ぶ子(知) (2)自分を大切にし、人を思いやれる子(徳) (3)粘り強く身体を鍛える子(体)</p> | | <p>○重点教科を国語科とし、学力の伸長を目指した授業研究をはじめとする取組を実施できた。また、読書活動の推進や家庭と保護者と連携した家庭学習定着の取組など学力の基盤づくりにも積極的に取り組んだ。少人数の良さを生かした学級経営や全校体制での教育活動を推進できた。</p> <p>△学力についてはまだまだ課題が大きい。引き続き、誰もがわかる喜びやできる楽しさを享受できるような授業改善を追究するとともに、ICT利活用による新しい学習形態についても研究を進める必要がある。</p> <p>○素直で優しい児童の育成が進んでいる一方、積極性に欠けたり指示待ち傾向が見られたりするところは、今後の課題である。</p> <p>△コロナ禍にあって学園・地域と連携した取組には一定の制約がかかり、例年通りにできないことが多々あった。</p> | | <p>◇へき地・小規模校の特性を生かし、地域と連携した特色ある学校づくりを行う。</p> <p>◇新学習指導要領の目指す学力の定着を目指し、さらにICT機器を利活用した授業改善に全校体制で取り組む。また、学力の基盤づくりの取組を引き続き行う。</p> <p>◇子どもたちにとって安心・安全な居心地の良い学校運営に努める。(いじめの解消、不登校の未然防止)</p> <p>◇特別活動や異年齢活動など子どもたちが活躍できる場面において、主体性・積極性を育み、互いを思いあえる楽しい教育活動を推進する。</p> <p>◇丹後学園として縦横の連携を大切にしながら、0～Ⅲ期までを見通した保幼小中一貫教育を推進する。</p> | |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | | 成果と課題(自己評価) | |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程学習指導 | <p>1 国語科を重点教科とした授業研究を全学年で実施し、成果と手法を全ての授業実践に波及させることで、児童一人ひとりの確かな学力を育成するための授業改善を進める。</p> <p>2 個々の学力課題を丁寧に分析し、児童の困り感に寄り添った指導を推進する。</p> <p>3 読書活動、家庭学習、ドリルタイムの充実などを図り、学力のベースづくりを継続的に行う。</p> | | <p>○全学年において研究授業を実施し、指導の系統性を確かめながら深く読み取る国語科の指導方法とタブレット端末の活用について研究を深められた。</p> <p>○“かがやきノート”や“計算チャレンジ”に取り組んだ。家庭学習の取り組み方に向上が見られたり、計算力向上の学級目標を達成できた学級が多くあったりした。</p> <p>△全校的には『読むこと』に関する課題がまだ残る。より効果的な授業改善を進める。</p> | |
| | 生徒指導 | <p>1 特別活動や異年齢集団活動を通して、互いを認め合うことのできる望ましい人間関係を構築させる。</p> <p>2 人権に関する研修を充実させアンテナを高く張りつつ、いじめ防止基本方針に則った取組を年間を通じて行うことで、いじめの早期発見・解消と安心できる友達関係を構築させる。</p> <p>3 あらゆる場面で規範意識の醸成を図る指導を取り入れる。</p> | | <p>○異年齢集団活動を年間通して計画的に仕掛け、学年間での交流や協力する取組を行い、豊かな人間関係づくりを進めることができた。</p> <p>○定例のいじめ対策委員会では、アンケートや日常の観察を元に児童の様子を共通確認し、いじめの芽を摘むよう組織的に行動できた。</p> <p>△自己肯定感が低かったり自己表現が苦手な児童に対して、より対策を工夫したりする必要がある。</p> | |

| | | | |
|---------------|--|---|---|
| 健康(体育)安全 | <p>1 体力の向上と基本的な生活習慣づくり</p> <p>2 安全に生活するための知識と判断力を身につけさせる。</p> <p>3 将来の夢や希望に向かって何事にも粘り強く取り組むことのできるこころとからだを育てる。</p> | <p>1 全校一斉での体力づくりの取組や外遊びの奨励、体育科の指導を通して運動に親しみ、体を動かすことで体力の向上を図る。「げんき貯金」の取組を計画的に行い、望ましい生活習慣を身につけさせる。</p> <p>2 日常の学校生活の中で健康に関する取組を継続して行い、健康に関する知識と判断力を身につけさせる。</p> <p>3 キャリアパスポートなどの活用で、自分の将来に目を向けさせ、目標に向かって日々努力する大切さに気づかせる。</p> | <p>○中間マラソンや中間なわとびに取り組み、校内タイムトライアルや短縄発表会に向けてスキルや体力の向上を全校体制で進めた。遠泳大会は校内水泳検定として実施し、スキルと泳力の向上を図りほぼ全員が目標を達成できた。</p> <p>○“げんき貯金”の取組では、一人ひとりの課題に目を向けながら基本的な生活習慣の確立を図り、結果について学年ごとにお便りで啓発した。</p> <p>△外遊びをする児童が少ない。</p> |
| 特別支援教育 | <p>1 個別の教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に推進する。</p> <p>2 理解教育を推進する。</p> | <p>1 サポート委員会(特別支援教育部+教育相談部)を中心にした組織的で継続的な支援体制と見守り活動を行う。</p> <p>2 個別の指導計画・支援計画等に基づいた指導を、年間を通して行う。</p> <p>3 関係機関との連携を密に取りながら、支援の必要な児童に対する効果的な指導について研修を進める。</p> | <p>○配慮を要する児童について組織的に把握するとともに、指導方法について共通確認して指導した。</p> <p>○学校・家庭からの児童支援について、懇談の機会を持ち合理的な配慮について同一歩調で進められた。</p> <p>△個別に支援が必要な児童に対し、体制的に支援の幅が広げられなかった。</p> |
| 特色ある学校づくり | <p>1 僻地・小規模校の特性を生かして地域と連携した教育活動を進め、ふるさとを愛し未来を展望できる児童を育成する。</p> | <p>1 総合的な学習の時間や生活科の授業などに地域教材・地域人材などを活用した学習を取り入れる。地域とのかかわりを学習活動に位置付け、地域社会との交流や情報発信に努める。</p> | <p>○「児童の学びを止めない」を合言葉に、ほぼ全ての行事を中止にすることなく、できる形で実施し、児童の達成感や満足感が得られるよう、小規模校ならではの工夫ができた。</p> <p>○タブレット端末の活用について、授業内だけでなく家庭への持ち帰りも全学年で推進した。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>◇児童一人ひとりの丁寧な状況分析をもとにした学びについて研究推進する。</p> <p>◇今年度もコロナによる教育活動の制限などがあり、地域との交流や校外での学びの機会が持ちにくい状況が続いた。今年のようにできる形を模索しながら『児童の学びを止めない』教育活動を進める。</p> <p>◇ICT活用をさらに推進し、丹後学園での連携を重視しながら、へき地・小規模校ならではの取組を推進する。</p> | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立吉野小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--------------|--|---|
| 1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図るために、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級づくりを推進する。 2 確かな学びの力と豊かな人間性を育み、一人一人が大切にされる「心の教育」の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の保幼小中一貫教育を校種間における様々な取組等を充実させながら推進する。 5 ICTを効果的に活用し、授業改善を図る。 | | ○どの学年も、生徒指導の3機能を生かし、落ち着いた学級経営と授業づくりを進めることができた。 ○コロナ禍ではあったが、学園の授業研究会の取組を活用したり、外部講師を招いたりして校内研修を充実させることにより、教員の人材育成・授業改善に努めることができた。 ○学習評価の在り方に関する校内研を実施し、新学習指導要領に示された目標を意識して児童の学習評価をすることができた。 △児童の読解力を高めるために、さらに読書活動の充実を図る。 △ICTの効果的な使い方を交流し、日常的に授業の中で有効に活用していく。 | 1 落ち着いた学級経営と効果的な授業づくりを進めるために、生徒指導の3機能を意識した授業を行う。 2 主体的・対話的で深い学びにつながる授業を行い、児童の学力の向上を図る。 3 家庭・地域・関係機関との連携を深め、特色ある学校作りを進め、郷土を愛する心を育てることにより「生きる力」の育成に努める。 4 ICTの効果的な活用をすることにより、ユニバーサルデザインの授業を行い、発達課題のある児童も意欲的に学習に向かえるようにする。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程 学習指導 | 1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を一体化させた指導を推進する。 (1) 特に1学期は授業スタイルの定着とともに、落ち着いた学習環境を整える。 (2) 授業づくりを通して学習意欲の向上を図る。 2 主体的・対話的で深い学びの授業づくりの実践を進め、教員の指導力の向上を図る。 (1) ICTの効果的な活用を研究する。 (2) 出前講座を活用する。 | ○●どの学年も、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを意識して取り組み、概ね落ち着いた学級経営を行うことができたが、一部の学年で、2学期終わり頃より教員と児童の関係がうまく結ばなくなり、生徒指導部を中心に、全校体制で関係が改善するように努めてきた。来年度はさらに児童理解を図り、指導方法について研修を行うようにする。 ○全学級研究授業に取り組むことができた。また、センターの出前講座を2度実施し、授業づくりの具体について学ぶことができた。 ○●ICTの活用については、どの学年もできたが、さらに効果的な活用については、今後も引き続き研究を続ける必要がある。 ○読み聞かせ・本の紹介などの取組を進め、読書に親しむ児童が増えた。 |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 生徒指導 | <p>1 生徒指導の3機能を生かした学級経営の推進</p> <p>2 いじめ・不登校の未然防止</p> <p>3 良好な人間関係づくり</p> | <p>1 自尊感情の育成 生徒指導部を中心に生徒指導の3機能を生かした学級経営を意識した取組を行う。</p> <p>2 いじめ等の未然防止・規範意識の高揚 (1) 教職員の人権意識を高める研修をする。(児童の実態交流を通して) (2) 情報モラルの指導・法やルールに関する教育等を行う。</p> <p>3 望ましい集団活動や体験活動を通して、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> | <p>○生徒指導部を中心に、生徒指導の3機能を生かした学級経営についての校内研修を行い、指導の経過を交流することで、若い教員の人材育成をすることができた。</p> <p>○●いじめの早期発見に努めることができたが、取組を進めても、改善に長期間かかる事象もあった。</p> <p>○情報モラルの学習は、講師を招き全校で実施することができ、身近なゲームなどについても、具体的に学ばせることができた。</p> <p>●コロナ禍で実施できない活動もあったが、できる範囲で行事や異年齢活動を行い、学年の枠を超えた集団活動に取り組むことができ、コミュニケーション能力を育てることができた。</p> |
| 健康(体育)・安全 | <p>1 食育・健康な心と体づくりの取組推進</p> <p>2 危機管理意識の高揚と事故の未然防止</p> | <p>1 コロナウイルス感染対策を徹底させ、食育の推進と、年間を通じた体力づくりを進める。</p> <p>2 校内研修を行い、教職員の危機管理意識を高めるとともに、報告・連絡・相談体制の徹底を図り、早期発見・早期対応に努める。</p> | <p>○コロナウイルス感染対策を徹底させることにより、検温・マスクの着用・手指の消毒などを習慣化させることができた。</p> <p>○児童の些細な変化を共有することにより、組織で対応することができた。</p> |
| 特別支援教育 | <p>1 特別な教育支援が必要な児童の課題・障害に応じた支援や、指導方法の改善</p> <p>2 家庭や関係機関との連携</p> | <p>1 必要な児童の教育支援計画・個別の指導計画を整備し、保護者と共通確認のもと指導に当たる。</p> <p>2 理解教育を計画的に進めるとともに、特別支援教育に関わる研修を行い、児童の指導に生かす。</p> | <p>○必要な児童について、複数で定期的な保護者面談を行い、外部専門機関との連携を図り指導にあたることができた。</p> <p>○特別支援コーディネーターを中心に、理解教育を進めることができた。</p> <p>●特別支援の必要な児童が、年々増える傾向にある本校では、保護者・外部専門機関との連携がさらに必要である。</p> |
| 特色ある学校づくり | <p>家庭・地域との連携を深め、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。</p> | <p>1 地域の伝統や校風を大切にし、本校の特色である異年齢集団活動の充実を図り、教育活動に生かす。</p> <p>2 郷土への愛着と誇りを育む。 (1) 保護者・地域人材の積極的な活用を図る。 (2) 丹後学を通して総合的な学習の時間を充実させ、郷土を愛する心を養う。</p> | <p>○●家庭・地域の協力を得て、田植えなど異年齢で体験できた行事もあるが、新型コロナウイルス感染予防のため、体験できなかったこともあった。しかし、できる範囲で郷土を愛する心を育てるために、農業・丹後ちりめん・赤米など、地域人材に指導を受けながら総合的な学習を進めることができた。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>・生徒指導の3機能を生かした授業づくりを通して、安定した学級経営ができるように組織で取組を進める。</p> <p>・ICTの効果的な活用をさらに進め、授業改善を図る。</p> <p>・発達課題のある児童に対して、外部専門機関との連携を図り、本校の実態に応じた適切な特別支援教育を進められるようにする。</p> | | |

(別紙様式1)

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) | |
|---|--------------|--|---|--|--|
| <p>「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子 | | <p>○単元に効果的に位置付けた言語活動を推進し、校内の掲示物や児童発表にはその成果がよく表れた。</p> <p>△園小連携の交流活動では、小学校側の指導の視点から活動を進めたため、年長児側からの交流の目的が不明確となった。</p> <p>○生徒指導の3機能を重視した特別活動を実施することで、学級内のコミュニケーションが深まり、問題事象は例年より減少した。</p> <p>○「感染症対策の基本」を作成し、「授業や活動を通じて定着させる」ことで、健康に関する児童の意識が高まり、体調不良による欠席者は例年より減少した。</p> <p>△コロナ禍で SUN・インターネット利用者が増え、それによるトラブルや睡眠不足等の問題が起こっている。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成 2 いじめ・不登校の未然防止 3 健やかな身体の育成 4 特別支援教育の充実 5 特色ある学校づくり | |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | | 成果と課題(自己評価) | |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程 学習指導 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学力実態と課題に応じて個に応じた指導の充実 2 各教科等における言語活動の充実 3 学園課題・学校課題克服に向けた保幼小中一貫教育の推進 4 効果的なICT利活用の推進 | <ol style="list-style-type: none"> ① 学力調査における質問紙調査と教科結果の関連性・学力結果の推移等を分析し、支援が必要な児童により重点的な指導を行う等の効果的な指導を推進する。 ② 子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む授業を推進する。 ③ 教科間や学級間を越えた意図的、計画的な言語活動を推進する。 ④ 保幼小中一貫教育の接続学年における一貫性・連続性のある指導を推進する。 ⑤ 教育活動の基盤的なツールとして活用できることを目指し、児童がICTを日常的に活用できる環境づくりと並行してICTを活用した授業づくりを推進する。 | <p>○各種学力検査結果を分析し、課題を中心に教員全体で共通理解を図り、学力補充の取組につなげた。</p> <p>○どの学級も単元のまとめ学習には言語活動を取り入れることが多かった。そのため学級間で学習のまとめを発表し合う等の取組が頻繁に行われた。</p> <p>○どの学級もタブレットを活用した授業に取り組み、すべての児童がタブレットの活用に慣れ親しんだ。特に高学年においては、その長所を生かして授業以外の活動にも活用していた。</p> <p>△保幼小中一貫教育の1・6学年の交流活動は、目的が明確なため、コロナ禍においても内容を工夫しながら実施することができた。しかし、他学年については目的が曖昧になり活動ありきの交流となった。</p> | |
| | 生徒指導 | <ol style="list-style-type: none"> 1 自己有用感の育成 2 不登校やいじめの未然防止、解決に向けた早期発見・早期対応 | <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒指導の3機能を生かした学級経営を基盤に、自分の存在が確認でき、自己有用感を高め合えるような異年齢関係を育てる取組を推進する。 ② 日常的に会議や職員室で児童の実態交流を行い、児童の不適応を少しでも早く発見し、問題が複雑かつ困難になる前に、チームによる支援につなげる。 ③ 保護者面談・家庭訪問等を積極的に行うことを通して直接、間接に信頼関係を積み重ね、問題行動の早期発見・早期対応につなげる。 ④ 気になる児童については、積極的にアセスメント(見立て)を行い、なぜそのような状態に至ったのか、児童の示す行動や背景や要因、情報を収集して分析し、明らかにする。 | <p>○学校行事を中心に異年齢集団による取組を感染症対策を講じながら工夫して実施した。学級経営の成果が各取組で生かされるとともに、各取組が学級児童の仲間意識をさらに高めるといったサイクルにつながった。</p> <p>○職員会議では毎回児童の実態交流を行い、報告された児童については教育相談部等の対応につなげた。</p> <p>△本校の問題事象の多くは、発達障害に係る場合が多い。今後も教員の専門的知識・技能の向上を図ると同時に丁寧な対応等を進めていく必要がある。</p> | |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 健康（体育）・安全 | 1 体力づくりの推進 2 健康課題への対応 | ① 自己のめあてをもって楽しく安心して運動に取り組めることを基本にした運動量のある体育授業を推進する。 ② 新体力テスト結果の分析から本校における課題を把握し、課題となる運動能力を高めるための取組を推進する。 ③ 感染症対策を切り口に、健康に関する事項についての正しい知識とそれに基づく望ましい行動化を目指し、全ての教育活動に感染症対策の視点を取り入れた取組を推進する。 | ○本校の実態に応じた「感染症対策の基本」を学級指導や特別活動等の行事や取組に反映させた。「授業や活動を通じて理解させ定着を図る」ことで、健康に関する児童の意識が高まった。 ○運動等が制限される中でも、体育においては活動内容を工夫して一定の運動量を確保することができた。 △新体力テストの分析が十分行えなかったため、課題となる運動能力を高めるための視点を教科体育に計画的に取り入れることができなかった。 |
| 特別支援教育 | 1 切れ目ない支援の充実 2 バランスの良い集団指導と個別支援の充実 | ① 個別の指導計画、個別の教育支援計画を活用し、学校と保護者が将来を見据え、協働して児童を支えるための指導・支援を進めるとともに、学級担任以外の教員等と共通理解を図り、その協力を求めるための効果的なツールとして活用を図る。 ② 中学校への適切な引継ぎを進めるために、関係教職員による互いの学校見学や、児童・保護者の中学校見学等の機会を設ける。 ③ 日常的に通常学級担任等と通級指導担当と情報を共有し、通級による指導を通常学級での指導に生かす視点を持つ。 ④ 生徒指導部と連携し、未然防止の観点から個別支援と集団指導の 2 つの視点での対応を進めるとともに、発達障害等について考慮すべき事象に関しては、指導により自覚を促すやり方ではなく、きっかけや前後関係も含めて要因を分析し、児童の適切な行動変容へとつなげる。 | ○SSW、SC 等の活用による多角的なアセスメントを行うことで、児童への対応の幅が広がっており、教員の人材育成の場となっている。 ○中学校と定期的に情報交換を行い、支援体制の状況把握に努めた。進学における引継ぎについては、管理職と連携して関係者による連携や相談・検査・保護者懇談等が年間を通して実施できるようにする。 △問題事象等が発生すれば、多くの教職員が関り丁寧に対応できるが、その過程では行為や該当児童に日が行きがちで、対処療法的な指導となっている。 |
| 特色ある学校づくり | 1 郷上の素材を生かした学習活動の推進 | ① 地元産食材や郷土食に係る学校給食を切り口に、食に関する知識や体験を広げ、食の選択や判断ができる力を育成するための取組を推進する。 ② 地域学習や地域人材を活用することを通して、学校と連携・協働する。 | ○感染症対策のため地域人材の活用等に一定の制限はあったが、総合的な学習の時間や社会科等でどの学年も地域人材を活用した学習活動を計画し、その成果を発表会等で報告することができた。 △感染症対策もあり、計画していた食に関する取組が年間を通して実施できなかった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | ①働きがいがあり、かつ健康的な職場づくりを進める。 ②信頼される学校づくりに向けた情報発信、迅速・誠実・丁寧な対応を心がけるとともに、危機管理意識を全教職員がしっかり持ち、日々の教育活動に取り組む。 ③保幼小中一貫教育を最大限活用して不登校の未然防止や予防を意識した学校の取組を進める。 | | |

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|---|---|
| 教育目標【久美浜学園全体】 「ふるさとを愛し 意欲的に学び やさしい心 をもち 根気強く努力する子どもの育成」 目指す子ども像【久美浜学園全体】 (1) 意欲的に質の高い学力を身に付けようとする子ども(知) (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心を持つ子ども(徳) (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども(体) 重点目標【久美浜学園全体】 「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」 ～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～ 指導の重点『学力の向上』 ①基礎・基本の徹底 ②主体的に学ぶ力の伸長 ③家庭学習時間の確保 校訓「一生懸命」を意識した教育活動の推進 | | 「目標の明確化」「相互の関わり」「肯定的評価」を常に意識する。 ○落ち着いた学習環境づくりを基本とし、学習内容の基礎基本の定着を図ることができた。また、ICTの活用等による学習意欲の向上や視覚支援等の指導の工夫を見出すなど、授業改善を進めることができた。 ○学校に来にくい児童についても、落ち着いた学級経営や家庭との連携を丁寧に進める中で、改善が見られる児童が増加した。 △「学力の向上」及び「主体的に学ぶ力」の育成を目指し、生徒指導の三機能を生かした学級づくり、学習内容を確実に定着させる授業づくりを行う。 △教職員の授業準備や研修の内容充実、時間確保を進め、教職員自らの授業実践力や学級経営力の向上を進める。 | 目指す学校像【久美浜小学校】 「児童の学びを高め合い、家庭・地域とつながる学校」 目指す児童像【久美浜小学校】 「つながり、たくましく 生きぬく」久美っ子 ～将来の社会的自立へ～ 特色ある学校、を目指す。 ①「 主体的・意欲的に学習する児童 」の育成 =「主体的な学び」 ・「対話する力」を「深い学び」へ ・「わかった喜び」を大切にする授業づくり ②「 地域とともにある学校 」づくり ・子どもの元気を地域に ・学校、社会教育、地域との連携、協働(PTA、公民館、区等) ・「久美浜を支える人づくり」の取組 ③ 本物に触れ、出逢う「社会に開かれた教育課程」推進 ・外部の方の支援、出前授業、本物にふれる体験等 ・ICT(電子黒板、タブレット等)を効果的に活用した授業 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題 |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程学習指導 「主体的・意欲的に学習する児童」の育成を目指す ・「対話する力」を「深い学び」へ ・「わかった喜び」を大切にする授業づくり | 「主体的・意欲的に学習する児童へ」 ①「主体的な学び」を目指し、その根本となる基礎基本の定着を図る「わかる授業づくり」 ②ICT(タブレット)の活用等に関連付けた研究を目指す。 ③見える学力としての12月のDRTの結果(標準得点)を昨年度よりも学級平均の向上並びに個人別に伸ばす。 ④「 本物に触れ、出逢う【社会に開かれた教育課程】 」外部の方の支援、出前授業、本物にふれる体験等 ⑤地域の人的物的資源を有効に活用させていただく。クラブ活動、授業の外部講師、学習支援ボランティア等 | ○10月学園授業研究会を通して授業改善を図り、授業力向上の学び合いを深め、研究が進んだ。 ○「 本物に触れる教育 」を推進(地域人材を講師に招待) ○「 社会に開かれた教育課程 」の実現に向け、外部の方の声を学校経営に生かすことができた。(学校評議員、民生委員、保護者の声) ○学校目標を常に振り返り進行管理を行った。: 毎月評価 △コロナ禍で1、3学期と外部の方の学校への規制がかかり人的資源の有効活用が困難であった。さらなる授業改善の推進、課題解決学習につながる個別指導を図っていく。今後、地域資源を有効に子ども達に還元していく。 |
| | 生徒指導 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。 | 生徒指導3機能を土台とした学級経営指導の重点化～五作り～「学び高め合う授業」と「支え認め合う学級」 ① 生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業作り ② 児童の居場所・絆づくり(集団、体験活動) ③ 不登校傾向、いじめ等を全校一致した組織的指導 ④ 特性、学習進度に応じた個別最適な学びの場作り | ○学校目標「 つながり 」と学級経営、学校行事が一致した協働的な動きができ、学校が1つの方向で動くことができつつある。結果、児童、教職員とも2語のキーワードを意識できた。○不登校傾向児童がゼロのまま今年度も推移し、教室へ向かうことができた。○家庭的に支援を要する子も学校に慣れ、教室では楽しく過ごせた。○いじめ事象もなく一定安定し全教職員できめ細かな指導ができつつある。△あいさつを身に付けることができなかった。(地域の方からの声) △コロナ禍で互いに協働し合う行事活動が制限され、自治的な活動が抑制された。 |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 健康（体育）・安全 | 何事も最後まであきらめずにやり通すたくましい強い心を育てる。 | 目指す児童「たくましい 久美っ子」につながる具体策 ①掃除を協力してする子どもを育てる。・根気強く、一つのことを最後まで協力して行う態度を育てる。 ②日常生活を当たり前になり切る子どもを育てる。 ・基本的な生活習慣、家庭学習、日常的な学校生活等、 ③いろいろな事に挑戦し目標を持って取り組む子どもを育てる。（校内外各種大会、コンクール等） ④運動に親しみ、体力の向上を図る。（朝マラソン等） ⑤家庭と連携し、基本的な生活習慣、望ましい食習慣の育成を図る。 | ○「あいすつくろうよ」等キャッチフレーズで伝統的な生徒指導の取組が本校の強みとして生かされはじめある生活を過ごした。 ○全児童が長欠なし、不登校傾向なし等安定した出席日数であった。（昨年度に続き、長欠児童の報告なし） ○安心安全な環境作りが進んだ。（事故災害報告なし等） ○人間関係を良好に保った。（学校評価アンケート高い率） △コロナの影響で、マラソン、駅伝、大縄跳び、朝の体力作り等体力向上策が制限された。 △学園の家庭学習ががんばり週間、長期休業後の生活習慣が課題に残り連携を一層図る必要がある。 |
| 開かれた学校づくり | 社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラムマネジメントの推進を図り「地域とともに育つ学校」を目指す。 | 特色ある学校「地域とともにある学校」づくり ①子どもの元気を地域に発信する ②学校、社会教育、地域との連携、協働（PTA、公民館、民生委員、区等） ③「久美浜を支える人づくり」の取組 ④情報を関係機関、家庭・地域に適切に提供し信頼される学校づくり | ○「地域とともにある学校作り」が2学期は若干進んだ。 ・外部講師の依頼（水源の森調査活動、牡蠣の学習、しめ縄作り、チーム遠足時の校外での学習、保育所との連携、お茶会、読書ボランティア 他）地域に子ども達の元気を発信 ○職員研修で「地域」をテーマに学園全体での研修が深まった。 △コロナ禍の影響を受けたが、社会に開かれた教育課程を次年度生活科、総合を核に一層進めていく。 |
| 特色ある学校づくり | 学園目標「ふるさとを愛す」学校として、「家庭・地域とつながる学校」を目指す。 | ①家庭・地域社会と連携を図り、教育活動の推進、健全育成に努める。 ②学校や担任の教育方針（願い）が一層見える学校だよりや学級通信になるようにする。HPの更新を定期的に行う。また、授業参観、PTA会議、懇談会等で積極的に情報の公開を行う。 ③「久美っ子見守り隊」の活動の充実・発展をめざす。 ④外部アンケート、学校評議員会議等を行い、学校運営の改善に生かす。 ⑤チーム教職員、協働性の推進に向け、「目指す児童像」に向けPDCAサイクルで検証。 ⑥新型コロナウイルス感染症に配慮し今年度ならではの有機的な実践。 ⑦児童主体の企画・運営を率先し取り組ませる。 | ○区長会、自治会、民生委員、公民館各種地域の団体との連携協働が進み、学校と地域とのつながりが深まった。 ○ホームページ更新を2学期以降進めアクセス数がアップした。 △今後も家庭との連携を丁寧に進める。（学校評価アンケート 授業の様子がわかりにくい評価が15%低下） △授業参観が年間2回の実施に終わり、コロナの影響で保護者理解が弱く次年度に課題を残した。 △児童会行事のさらなる斬新な動きの発信と更新 △ホームページ更新を進める。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 目指す児童 「つながり、たくましく、輝く 久美っ子」像の具現化 ～令和4年度～ 目指す児童に向けて 重点 生活・総合の研究推進を核に、全ての教育活動において、「つながり、たくましく、輝く」久美っ子を育み、将来の社会的自立へ強みを生かす久美小 1. 地域・保護者の支えを生かした教育活動の推進（下記：「本物に触れ、出会う教育課程」） ：生活総合で外へ発信、外から中へ（クラブ活動も、読書ボラ、保護者授業、見守り隊、等） 2. 安定した学級経営を進める。 ： 生徒指導の3機能を生かす 3. 特性を踏まえた支援の充実 ： 個別最適な学び 指導の個別化 + 学習の個性化 4. 斬新で、支え・相談し合える風通しの良い職員室を目指す。 5. ICT活用を今まで以上に推進 ： 例 家庭とオンライン、児童朝会、健康教育、保護者アンケート 6. 不登校傾向のゼロ維持のスキルを継続発展 ： 皆で個々の児童を見る | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立高龍小学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--------------|--|---|
| 意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 — 1 基礎・基本の徹底 2 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) 3 家庭学習時間の確保 | | ○学級経営や授業が成り立たなくなる状況から一定脱することができ、落ち着いて話を聞いたり我慢強く学習に向かったりできるようになってきた。 △学級や児童によって学力の差が大きく、引き続き、児童が分かる・できる授業づくりの推進と、基礎的学力の定着が重要課題である。 △児童の指導をめぐる保護者対応で困難になるケースがあった。 | ◎ 『しっかり勉強・やさしい言葉』+考えて行動 ○ 安心感のある学校 …勉強が分かる・できる、いじめがない ○ 期待感のある学校 …学校が楽しい、友達と遊べる ○ 考える力を伸ばす …自ら学ぶ・友達と関わる授業、読書 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程 学習指導 | ①タブレット端末や電子黒板等、ICTを有効に活用し、学習課題に見通しを持ったり、授業の終末でできたことを振り返ったりして、学力の定着を図る。 ②朝ドリル、放課後補習を設定し、全校体制で基礎学力の伸長を図る。また、ジュニアわくわくスタディ、学習支援ボランティアを有効に活用する。 ③校内・学園での授業公開、研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを進め、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。 | ○令和2年度より学園で先行してタブレット端末を活用しており一人一台端末へスムーズに移行できた。児童、教員のICT活用のスキルが高まっている。 ○府学力診断テスト、CRT等において、基礎学力の充実の一定の成果が見られた。 ○低・中・高学年の算数科の授業研究、各ブロックの授業公開の取組により授業力の向上につながった。 △学年末に行ったDRTにおいては各学年で国語の課題が顕著に表れた。指導を見直すことや児童の、読む力、書く力、話す力等を高める授業や全校的な取組が必要である。 |
| | 生徒指導 | ①自分や友達のよさを認め合い、伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ②友達の名前を正しく呼び、発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する。 | ○生徒指導部会で児童課題を共有し、各学期に全校目標を設定し、目標⇒取組⇒振り返りのサイクルで取り組んだ。全体的に落ち着いた学校生活や児童が考えて行動することにつながった。 ○教員の児童に対する肯定的で前向きな声かけを継続して行うことで、一人一人の児童の自己肯定感を高めることにつながった。 ○いじめ防止委員会を定例的に行い児童の気になる様子を共有した。また、いじめアンケート結果を全体で共有し早期発見や未然防止につながった。 △不登校児童(傾向を含む)については個別にケース会議を開きSC、SSW等と連携しながら取り組んでいるが、より深刻になっているケースもあり課題を残している。 |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 健康（体育）・安全 | <p>①感染症予防を基盤として、全校体力づくりの取組、運動会、マラソン大会等の行事等を通して、体力向上を図ったり、粘り強く挑戦する心と体を養ったりする。</p> | <p>①感染症予防については、保護者・家庭に理解を得て、引き続き基本的な予防を、管理職が養護教諭と連携し責任を持って全校体制で行う。また、スクールサポートスタッフも有効に活用する。</p> <p>②インターネット、情報機器の使用について、情報モラル教育、各種資料の活用等を行い、家庭と連携して望ましい使い方を指導する。</p> | <p>○感染症予防については、これまでの経験を生かし、運営会議（三者）で方針を検討し全体で共通理解を図りながら進めることで、全体的には大きな混乱を招くことなく対応できた。</p> <p>△タブレット端末の家庭での活用も進んだ。今後も児童への適切な活用に関する指導と共に、教職員の情報モラルの研修も必要である。</p> |
| (A) 人権教育 | <p>①教職員の人権意識の向上を図り、一人一人の児童を大切にしたい教育活動を推進する。</p> <p>②人権学習の授業実践力を向上させる。</p> | <p>①職場人権研修担当を中心として、人権研修ハンドブック、コンプライアンスハンドブック等を活用した研修を充実させる。</p> <p>②人権月間を設定し、人権学習の指導内容について交流するとともに、校内、保護者に対して授業公開を行う。</p> | <p>○「やさしい言葉」を設定し年間を通して意識して生活することで、児童のトラブルは減っている。</p> <p>○人権月間を設定して保護者等へ授業を公開した。また、校内研修を行い様々な人権課題について学んだり児童の課題を共有したりした。</p> |
| (B) 特別支援教育 | <p>①特別支援教育を学校経営の重点課題に位置付け、児童の課題に応じた特別支援教育を推進する。</p> | <p>①新規開設した「自閉症・情緒」特別支援学級の指導について、全教職員で理解を深めるために研修を行う。特別支援教育コーディネーターを中心に、教育支援部会を定例化し、児童の実態・課題を見落とさないようにする。</p> | <p>○新設した特別支援学級（自閉症・情緒）については、特別支援教育コーディネーター、担任、管理職を中心に、保護者と連携しながらスムーズにスタートできた。該当児童の確かな成長にもつながった。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の「読む力」「書く力」「伝える力」等々を高める授業づくりを進めたい。 ・一人一人の児童が学年や発達等に応じて、自分で「考えて行動する力」を伸ばしていける指導・支援を継続して行いたい。 ・不登校児童について、保護者や関係機関と連携して、安心感のある居場所づくりに引き続き取り組みたい。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立かぶと山小学校〕

| 学校経営方針（中期経営目標） | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点（短期経営目標） |
|--|--|--|--|
| 1 久美浜学園教育目標 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心もち、根気強く努力する子どもの育成」 2 めざす児童像 (1) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (2) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (3) 心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子 | | ◇「深い学び」につながる授業改善を行う。そのために単元や1時間の授業でつける力、ねらいを明確にして実践する。(ICTを活用した授業づくり) ◇安定した学級経営を行い、不登校未然防止、早期対応につなげる。 ◇特別活動を中心として児童の豊かな人間関係づくりに努め、自分の思いを伝える力を伸ばす指導を継続させる。 ◇個に応じた支援の在り方を進めていくため、外部機関と連携し指導の方向性を明確にする。 | 教育活動推進のためのキーワード「尊重・協働・サポート」 1 目標・目的を明確にした上で具体的方策を考え、評価を踏まえた具体的な改善策の検討を重視する。(組織や過程を活かした意思決定を大切にす。) 2 子どもの「素敵な心」に寄り添い、互いに尊重し合い、正しい価値が通る落ち着いた学級経営を大切にする。 3 肯定的評価や指導のあり方等、教育活動を進める指導観について学び合い、教職員がコミュニケーションを大切にしていく。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題（自己評価） |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程学習指導 ○学力向上を図る学校づくり (1) 主体的な学びに向けた授業づくり (2) 基礎基本の定着を図る取組の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 単元を見通して、学習内容(ねらい)の理解を明確にした「わかる」授業づくりを推進する。 基礎基本の定着や思考・表現・判断力を充実させる学習活動を推進する。(ICTを活用した授業展開の工夫等) 学習規律(話す聞く等)の定着に向けた取組を充実する。 ドリルパーク等のタブレットを活用したドリル学習を行う。 家庭との連携を密にした学習習慣及び生活習慣を確立する。 | 【学力向上を図る学校づくり】 ○児童同士の考えを伝え合う活動により、ねらいに即した学び合いの大切さが明らかになった。 ○一部の学年では、算数科において習熟度別グループ学習を実施し、より丁寧な個別の学習指導を行うことができた。 ○タブレットのドリルパークを活用し、児童一人一人が自ら進んで取り組むことができた。 ○1月実施のDRTの結果は、どの学年も全国平均を上回ることができた。 △今後も落ち着いた学級経営を継続し、安心感の中で主体的に学ぶ力を向上させる。 |
| | 生徒指導 ○居心地のよい学校づくり (1) 安心と安定のある学級経営の充実 (2) 望ましい人間関係を築く力の育成 (3) 「いじめ」「不登校」等の未然防止に向けた日常的な指導及び相談活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の三機能(自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場)を活かした学級経営を推進する。 日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さやがんばりを認め合える集団づくりを行う。 全校的な異年齢活動の取組等の節目づくりを行い、好ましい人間関係を育成する。(かかわり合う中で価値を見出したり、高学年のリーダー性を発揮させたりする。) 的確な児童の日常的に状況を把握し、組織体制の中で情報の共有や見立て、方針を確認し取り組んでいくことで、「いじめ」や「不登校」の早期対応を行う。 | 【居心地のよい学校づくり】 ○問題事象もほぼなく、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができた。 ○数少ない異年齢活動において、児童相互の「かかわり合い」に視点を当てた取組を行い、周りの成長を共に喜び合う姿を多く見ることができた。 △不登校傾向児童に対して、取組の方針を家庭と共有して取り組むことができたが、引き続き、見立てと取組の工夫を検討しながら、継続的に取り組む必要がある。 △児童が安心できる学級づくりを継続する。 |

| | | | |
|---------------|---|---|--|
| 健康（体育）・安全 | ○規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の体力づくり（マラソン）を計画的に実施する。 ・家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。（学園の課題に応じたメディアコントロールの指導を行う。） ・登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々と連携した取組を進める。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等） | <ul style="list-style-type: none"> ○「苦手な子も挑戦できる」ことをキーワードにした朝マラソンを行い、ペア学年で励まし合いながら取り組むことができた。 ○定期的（学期1回）に生活習慣を見直す機会を持ち、メディアコントロールにおいても各学年の指導系統表を作成することができた。 △登下校では、安全ボランティアの方にお世話になっているが、猿や熊等の出没に対する対応も行政との連携も取りつつ考えていく必要がある。 |
| 特別支援教育 | ○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・配慮を必要とする児童の状況やその支援のあり方について、継続的に共通理解をしたり校内研修で深めたりする。 ・スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、市臨床心理士等との外部との連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。 ・丁寧に継続的な面談を通して、保護者と支援の方向性や今後の進路についても確認し合い、適切な就学指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童の支援に対して、保護者と継続的な面談を行い、具体的な状況や取組を共有し、適切な就学に結び付けることができた。 ○保護者にスクールカウンセラー等との面談をつなげることで、保護者の不安の解消や継続的な支援に結び付けることができた。 △今後も、支援の必要な児童に対して、保護者と支援の方向性や具体的な取組を共有し、共に考える姿勢を継続していく。 |
| 開かれた学校づくり | ○家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校づくり （1）意欲的に教育活動を推進する教職員の資質・能力の向上 （2）家庭や地域と協働する学校づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 ・学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。 ・学校評価や保護者アンケート、行事や取組の感想を活用し改善に活かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを活用して、地域の方とのつながりを広げる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で安易に中止とするのではなく、延期や縮小しながらも取組を何とか実施したいという学校の姿勢が実施後の感想から表れていた。 ○コロナ禍もあり来校する機会がないため、不定期ではあるが105回のHP更新を行い、6362件のアクセスがあった。（2/25現在） ○保護者アンケートを11月に早期に実施することで、学校評価に活かし、次年度に向けた改善につなげることができた。 △総合的な学習の時間等の教科を活かし、さらなる地域教材や人材を活用した学習活動を推進する。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの久美浜学園の教育活動の積み重ねを土台として、「主体性」を発揮するための土台となる「安心感」を醸成させる。まずは、各学級において、「安心・安定した学級経営」「基礎学力の定着」について具体的に取り組み、一步ずつの改善を目指す。 2 「児童相互とのかかわり合い」を教育活動の重点的な視点として位置付けると共に、その指導を積み重ねることで、児童の「主体性」の基盤となる「安心感」の醸成を目指す。 3 本校の課題である「不登校」の解消に向けて、①「かかわり合い」を通じた安心感の醸成、②「基礎学力」の定着、③継続的な状況把握と具体的な見立ての検討、を取り組んでいく。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立峰山中学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|--|--|
| <p>【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成</p> <p>【めざす生徒像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 <p>【重点課題】(社会的自立につなぐ教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためのICTを活用した授業改善の推進と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 | | <p>【授業改善と学力の向上】</p> <p>○コロナ禍の条件の中であったが、ペアやグループでの対話型学習も大切にし、学びの集団作りを進めることで、意欲の向上や深い学びにつながる生徒の姿が見られた。</p> <p>△大きな集団に対する不適応感を示す生徒にも寄り添いながら、生徒の可能性を引き出す学びの実現を図る必要がある。</p> <p>【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】</p> <p>○不登校出現率の減少を重点として取り組み、元年度出現率 3.56%から 2年度 2.39%に減少させることができた。</p> <p>△しかし、不登校の解消に至らない生徒もおり、社会的自立に向けた組織的な取組の展開が今後も重要である。</p> | <p>1 授業改善と学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の全面実施を受け、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。特に生徒の「学びに向かう力」を高めるためのICT等を活用した環境整備や教師の適切な指導力の向上を図る。 ・「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」の研究成果を学校全体で共有し、教科の指導に生かす。 ・社会的自立につなぐための基礎学力の定着を全生徒に徹底する。 <p>2 豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性を育成するために教職員の人権感覚を高め、すべての生徒を大切にする言動の徹底に努める。 ・「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組を展開する。 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中 各学園の 一貫教育の 諸計画及び 重点等を 基礎として | 教育課程 学習指導 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の『自ら』学ぶ力高める環境整備や授業研究を推進する。 ・社会的自立の基礎となる学力の定着に向けた教育活動の徹底を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台のタブレット端末の活用等、ICT機器を有効に活用する環境を整備するとともに、「学びに向かう力」を高める授業研究を推進する。 ・基礎学力を定着させるための授業や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の実践を展開する。 | <p>○生徒をつなぐ授業改善を進めることにより学習意欲が高まり、「学習に意欲的に取り組んでいますか。」という問いに90%の生徒が肯定的に答えている。特に3年生は昨年度78%から91%へと大きく改善した。</p> <p>○3学期は「ハートフル♡スタディ」を週2回実施し、基礎学力の向上に努め、力を発揮させることができた。</p> |
| | 生徒指導 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を生かした学級経営を柱とし問題行動の未然防止と不登校の解消に努める。 ・いじめの早期発見・早期対応・未然防止への組織的取組の展開を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営への支援を組織的・計画的に展開する。 ・いじめアンケートの確実な実施とともに早期発見に向けた二者面談を計画的に実施する。 ・不登校の解消と未然防止に向け、SCやSSWを含む組織的な教育相談体制を確立し、具体的な方針を立て実践する。 | <p>○子ども達をつなぎ、寄り添う指導を展開することにより、新規不登校の出現を抑えることができ、不登校の出現率も2.18%と低い数字を維持できている。</p> <p>△全体的には落ち着いた学校生活を送れているが、個々の生徒が抱える課題も様々であり、対応の難しさから問題行動の件数が増加することとなった。</p> |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健教育と管理の徹底を図る。 ・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・確実な日々の健康観察と感染症予防対策の徹底を図る。 ・交通安全指導を繰り返し行い、交通事故防止に努める。 ・主体的に部活動に取り組むための指導を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○緊急事態宣言中は生徒昇降口での毎朝の検温を実施する等、感染症予防対策を徹底することができた。その結果、校内での感染を未然に防止することにつながった。 ○交通事故対策を年間を通じて実施する中で、大きな事故の発生は防ぐことができた。 △コロナの関係もあり、部活動を十分に実施できず残念であった。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある生徒への理解を深め、指導方法を研究する。 ・家庭、地域、関係機関との連携を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級が5学級になったことを受け、より一層特別支援教育の研修を積むとともに、聴覚障害のある生徒の進学・社会的自立を見据えた教育支援を組織的に展開する。 ・個別の教育支援計画等の活用を充実させ、生徒支援を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○今年度から支援学級主任の立場を明らかにし、企画会議にも参加する中で、組織的な運営ができたことは今後の大きな指針となった。 △個々の課題に応じた支援を積み上げることができ、伸びた生徒も多くいるが、社会的自立を見据えた時に、進学校との連携をさらに進める必要を感じている。 |
| 人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題についての理解や認識・実践力を高める。 ・教職員の人権意識の高揚を図るための手立てを組織的に展開する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中の活動や取組の中で人権問題に関する部分に視点を当て、人権問題の解決につながる行動力を培う。 ・各種会議の中で教職員の言動について振り返る機会を設け、生徒がのびのびと学べる環境作りを常に大切にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の言動については、機会ある毎に振り返り、常に「傾聴と対話」を意識した指導を心がけた結果、生徒達とは良好な関係が築けている。 △教職員の人権意識を更に高めるため、いろいろな人権問題について日常的に関心を持ち、その解決に向けた構想を持つ中で、指導力の向上を図りたい。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ① 「令和の日本型学校教育」への理解を深め、全ての子ども達の可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するために、ICT環境の適切な活用について、教職員の力量形成を図る。また、常に「探求」を意識した教育活動を展開し、教科横断的な視点で子ども達が、「新たな価値を生み出す」ような教育活動を展開する。 ② 人権が尊重される学校環境を整えるとともに、子ども達個々の課題に応じた指導の幅を広げるための研修を積み重ね、「傾聴と対話」を第一とした教育を推進する。 | | |

(別紙様式1)

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|-----------------------------|----------------------------------|---|---|
| 1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 | | ○視点を明確にした合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前研や事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。 | 1 質の高い学力の育成 |
| 2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 | | ○授業を公開し、お互いの授業から「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに生かすことができた。 | ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善・授業づくり |
| 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 | | ○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組の充実を進めた。 | ・生徒指導の三機能を生かした基礎・基本の定着 |
| 4 信頼され、開かれた学校づくり | | ○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化に努めた。 | 2 生徒指導の充実、不登校の未然防止と丁寧な支援 |
| 5 教職員の資質能力の向上 | | ○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、全校で取組を進めることができた。 | 3 人権教育を基盤とした指導の展開 |
| 6 大宮学園保幼小中一貫教育の推進 | | △新規不登校生徒もあり、不登校の生徒の出現率は依然高い。最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。 | 4 特別支援教育の充実 |
| | | | ・校内体制の充実と機能化 |
| | | | 5 個に応じた指導の充実 |
| | | | ・信頼される学校づくり |
| | | | ・家庭及び地域との相互連携の推進 |
| | | | 6 大宮学園運営協議会との協働 |
| | | | ・外部関係機関との連携強化 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として | 教育課程学習指導 | ・大宮学園合同授業研究及び合同研修会、校内授業研究を授業改善につなげる。 | ○視点を明確にした合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前研や事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。 |
| | ・小中の接続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善 | ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 | ○各種学力検査の結果を分析し、校内研修で交流協議を行った。授業改善や補充学習に生かすことで基礎学力の定着と向上が見受けられた。 |
| | ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する授業づくり | ・各種テストの分析を補充指導に生かし、基礎基本の定着と根気強く取り組む力の育成を図る。 | ○「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。 |
| | ・丹後学の研究と推進 | ・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 | ○ICTの効果的な活用に向けた校内研修を充実し、主体的で対話的で深い学びにつながる授業づくりを進めた。 |
| | ・家庭学習の習慣化に向けた取組の推進 | ・全教科を通して言語活動カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 | △各生徒の学習状況を把握し、支援の在り方について共通確認し、個別の指導を充実する中で基礎学力の定着を図る。 |
| | | ・ICTを効果的に活用するための研修を計画的に行い、授業の工夫・改善に積極的に生かす。 | |
| | | ・地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。 | |
| | | ・家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。 | |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中の合同生指部会の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・学園人権・生指・特活部会での連携と情報共有に努める。 ・毎週金曜日に生徒指導部会を開催し、日々の情報共有と指導の方向性を確認し指導の一致を図る。 ・不登校生徒の状況把握に努め、未然防止、初期対応を丁寧に行う。また、毎週の教育相談部会の機能化を図り、指導・支援を組織的に行う。 ・SC・SSW、関係機関との連携を強化する。 ・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取組を生徒の動きづくりと関連させながら行う。 ・研修を通して教職員の人権意識の醸成を図り、人権教育をすべての指導の基盤にし、教育活動を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士、生徒と教師の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組を充実させた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化、一致した指導・支援に努めた。 ○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、生徒の動きづくりと併せて取組を進めることができた。 △新規不登校生徒もおり、不登校の生徒の出現率は依然高い。最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。また、引きこもりを出さないよう関係機関と連携していく。 |
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実 ・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施 ・健康教育の充実 ・部活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を徹底し、安心安全な環境づくりを進める。 ・危機意識の醸成を図り、自らを守る行動を考えさせる。 ・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため、部活動指導を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナ感染拡大に危機感を持ち、感染防止を徹底させ、安心安全な環境づくりを進めることに努めた。 ○生徒会及び専門委員会活動の活性化を進め、学校生活の向上とともに、校則について生徒と共に見直しを行った。 ○部活動の縦のつながりを大切にして取組を進めた。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育資源の教育活動への活用 ・各関係機関との連携と協働 ・学園運営協議会（コミュニティ・スクール）との協働 | <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターと連携し、大宮学園学校運営協議会（学園コミュニティ・スクール）との協働を具体的に進める。 ・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○京丹後警察と連携して交通安全の取組（自転車利用安全推進員）を地域に発信できた。 ○学園運営協議会との「見守り」とセットの「あいさつ」の取組をPTAや地域の方々とも連携しながら行えた。 △コロナの関係で地域への公開ができなかった。 |
| 危機管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の視点に立った指導の展開 ・人材育成の推進 ・コンプライアンス遵守の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度の「不適切な指導」に係る教訓を実践に生かす。 ・人権教育の研修を計画的に行い、常に共通確認した「大切にしたい指導」に立ち返り、指導や支援にあたる。 ・小さな変化への気づきを大切にし、報告、連絡、相談を徹底させる。 ・学年及び分掌主任の育成を図り、組織的に実践を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○その都度、人権を大切にしたい指導・支援になっているかを振り返りながら危機意識を持った実践を継続できた。 △生徒への指導支援の初動を大切にするとともに、生徒やその保護者の思いに寄り添った指導支援を丁寧に積み上げていく。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 大宮学園保幼小中一貫教育の重点である「連携・体験活動の充実」、特に「ICTも活用した精選と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 2 学力分析を指導改善に生かすとともに、校内研修や学園の授業研究を通して、指導の工夫・改善に取り組む。また、ICT（タブレットを活用したロイロノートやミライシード等）の活用を効果的に進め授業の工夫改善を図る。 3 大きな学校課題である「不登校」の未然防止、早期対応、改善に向けて、生徒指導及び教育相談機能の強化を継続し、組織的にあたる。 4 大宮学園運営協議会との連携、協働を一層進め、より地域とともにある学校・学園を目指す。 5 新型コロナの感染防止を徹底するとともに、生徒にとって安心で安全な学校を地域とともに作る。 | | |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| 健康（体育）・安全 | <ol style="list-style-type: none"> 1 体力の向上を図る。 2 望ましい食習慣を身に付けさせる。 3 安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種体力テスト等の結果を踏まえ、健康増進・体力向上の取組も定期的を実施する。 ・毎月の食育の日、給食週間の取組をさらに充実させる。 ・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、自他の生命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。 | <p>△コロナ禍による部活動の活動制限により、十分な練習時間の確保ができなかった。</p> <p>○給食の時間の校内放送、食育の日の取組、啓発資料の掲示等により、食育を充実させることができた。</p> <p>○津波を想定した高台避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室、「ゲーム・ネット講座」を実施し、安全に対する意識の向上と危機回避能力の向上に努めた。</p> |
| 特別支援教育 | <ol style="list-style-type: none"> 1 校内支援体制の機能化を図る。 2 個々の生徒や保護者のニーズを把握し、支援を充実させる。 3 個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会および特別支援教育部会の一層の機能化を図る。 ・生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り連携した支援の継続に努める。 ・生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実し、有効な手立てを蓄積する。 | <p>○校内教育支援委員会や特別支援教育部会の機能化を図り、関係機関の助言を踏まえた支援に努めた。</p> <p>○個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、保護者と連携を図りながら支援の充実に努めた。</p> <p>○相談活動により学習や生活上の困難さを把握し、支援を継続することで、学校不適應の未然防止にもつながった。</p> |
| 開かれた学校づくり | <ol style="list-style-type: none"> 1 信頼される学校づくりを推進する。 2 双方向の情報交流を活かし、学校改善を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努める。 ・たより、HP等を活用して情報発信に努め、積極的に学校公開を実施し、地域との連携を深める。 ・網野学園学校運営協議会、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、PTAとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組の改善を図る。 | <p>○保護者からの連絡・問い合わせ、生徒の学校生活上の課題等に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努めた。</p> <p>○コロナ禍で行事や授業の参観等の機会が減少する中、学校だより、HP、網野学園だよりを活用し、本校の教育活動や生徒の取組状況等を積極的に発信した。</p> <p>○網野学園学校運営協議会において、網野学園の取組に支援をいただいた。また、PTA本部役員会と連携・協力を図り、本校の教育活動を進めることができた。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」という指導観のもと、「つながろう仲間と つなげよう心を！」を教職員・生徒の合言葉とし、常につながりを意識させる中で学びに向かわせるとともに、安心・安全な学校生活、安定した学校を維持・向上させる。 ・各分掌との連携・協働的な実践を通して、自己肯定感の醸成、学校不適應の未然防止等に引き続き取り組む。 ・生徒一人1台のタブレットを活用した授業を行い、生徒がより授業内容が理解でき学習に対する意欲がもてる効果的な活用方法の研究を行う。 | | |

(別紙様式1)

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|--|--|--|---|
| <p>開校8年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。</p> <p>生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性を信じそれに果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。</p> | | <p>「本気で本物を創る」「本気で本物に挑戦する」という合言葉を学校風土として確立させ、落ち着いた学校生活に取り組むとともに、学習、部活動、様々な行事・取組で力を発揮した。仲間を思いやる校風もしっかりしたものとなってきた。さらに、新たな時代に対応できる自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力をつけさせたい。</p> | <p>個々の生徒が自分にとっての本物(進むべき方向性)を定め、創造し生き生きと挑戦する学校にする</p> <p>～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にさらに進める～</p> <p>○生徒の個性発掘へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。</p> <p>○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | <p>教育課程 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの個性を認め合い、互いが高まり合うコミュニケーション能力の育成を図る。 GIGAスクール構想に則った一貫性・連続性のある教育課程を編成し、カリキュラム開発を行う。 基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 全ての教科でタブレットなどのICT機器の活用のスキルを高め、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、多様な学習形態の創出に努める。 新しい評価観点に基づいた目標と指導と評価の一体化した取組を、ICT活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 通年のドリル学習の一層の内容充実を図り、授業内容や家庭学習課題と関連付けるなど工夫し、継続的に取り組ませる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○タブレット活用などは、教科授業に限らず、生徒会の議案書や選挙公報などのペーパーレス化、タブレットを持ち帰っての家庭での動画視聴など、特別活動も含めて多様な学習形態を創造することで、生徒の自己有用感や共感的態度の育成などにつながった。 ○校内研修で3観点の関連や育成する資質能力をはっきりとさせ、評価材料の蓄積をICT活用と並行して授業内の活動で行い、指導と評価の一体化が進んだ。 ○通年のドリル学習の実施教科をこれまでの国数英に社理を加えて5教科とし、基礎基本問題を繰り返し、授業での学習内容定着が図れた。1・2年の少人数学級授業に加えて、3年英語も習熟度別少人数授業やTT指導を行い、個に応じた指導の充実が図れた。 |
| | <p>生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間を思いやる校風の充実を図り、居場所づくりや絆づくりを推進し、不登校の未然防止に努める。 育てたい力を共有し、教職員の学級経営力の向上を図る。 安心できる仲間関係を築かせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・業間指導における生徒への寄り添い指導を全教職員で丁寧に行い、教育相談月間などで生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・生徒の協働的な活動の場の充実を図り、「将来の社会的自立」に向けた生きて働く指導を進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果等を基に積極的な組織的対応・指導に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○全教職員での業間指導を年間通して実施するとともに、2分前着席を行うことで、学習規律の安定を生み出し、生徒にとって安心安全な学校生活につながり、心の安定につながった。 ○立会演説会や立志式、合唱祭の中間交流会など、コロナ禍の制限下であっても、オンラインや録画、規模縮小などの工夫で、異年齢の意見交流や決意の交流、丹後中の伝統に触れる機会を大切にすることで、生徒の視野を広げる活動を進めた。 ○毎週のいじめ防止対策委員会・生徒指導部会・教育相談部会で、検討した週ごとの指導の方向性を全教員へ発信し、学校全体で指導にあたることができた。学期ごとの全教員による「相談タイム」やいじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、不登校・いじめの未然防止、早期対応につながった。 |

| | | | |
|---------------|---|--|---|
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育て、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たな価値を生み出すことへの挑戦を続け、体育系・文化系部活動にかかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後学園一貫 PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動（NHD）や登下校指導を継続する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、コロナ感染など対応など感染症予防など衛生面からも常に危機意識を持ち指導にあたる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で活動の制限がある中ではあったが、各種大会や試合、発表や作品の出展等、日々の頑張りを発信する場として、限られた時間を大切にして取り組む姿勢が生まれてきている。礼儀などを学ばせる場として部活動の指導にあたることを継続し、上位入賞を果たす部活や、文化面での入賞も多くあり、成果がみられた。 ○丹後学園 P T A・丹後学園運営協議会等の協力を得て、あいさつ運動（NHD）や登下校指導は計画通り実施できた。また、子育て教育講演会を行い、子どもたちの教育環境づくりや保護者同士の連携が図れた。 △喫緊かつ重要な課題として、子どもたちを取りまく SNS に関する指導があげられる。コロナ禍の関係で、各校園所で、可能な範囲で実施した。感染症予防に係る新しい学校生活様式は、定着できている。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への学校公開等を計画的に行い、開校 8 年日の教育を理解していただく機会とする。 ・学校・家庭・地域との相互の連携を図り、生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動の場面を見ていただく機会を、保護者の方だけでなく、丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただくご意見や感想を学校経営に活かす。 ・地域の取組への積極的な参加や、学校だより等の地域への回覧・全戸配布や、学校ホームページを最大限活用して中学校の状況を伝えると同時に丹後保幼小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> △学校や学園の行事や取組を広く案内するという計画は実施できなかった。丹後学園運営協議会の委員や保護者に限っての案内となるが多かったが、可能な範囲での参観はいただいた。学校での生徒の頑張りを励ましていただくような環境づくりに努めたが、感染症防止のため制限の中での参観となった。 ○来校いただけない分、学園HPや学園だよりなどでの参観していただく予定であった行事内容の発信に努めることができた。 △学校支援ボランティアの方々に継続して行っていただけという、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努めたが、実施は不十分であった。 |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育をベースとして、生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・丹後学園や関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の課題に応じた指導・支援を、保幼小中の一貫性・連続性を大切に行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても全教職員で課題共有を大切にし、校内委員会などの組織的な適切な支援を実施する。 ・丹後学園内の連携や専門的見立てなどをもとに、校内研や研修会などの充実を図り、また、切れ目なく学ぶことができる教育を進め、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしなが、的確な個々の課題をすべての教員が共有し、応じた指導や支援を行うことができた。参観や懇談など小中の接続を丁寧に行い、個々の生徒の良さや課題を共有し、適切な支援につながる連携ができた。 △関係医療機関等との連携や、校内ケース会議の充実を図るなど、支援の充実のための環境づくりと指導の充実を更に進めていく。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症防止を最優先に行い、地域に開かれた学校づくりをさらに進め、地域からの支援などが反映できるような仕組みを考えていく。 ・丹後学園の保幼小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かし、学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努めるとともに、系統的な読む力の育成を重点研究テーマとして進めていく。 ・ICT機器を活用した教材開発や本年度より実施となった学習指導要領に基づく評価の研究を深める授業改善を進める。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立弥栄中学校 〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|---|--|
| 1 全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。 2 主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。 3 基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。 4 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育てていく。 5 未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。 | | ICT機器の活用や、授業形態の工夫により意欲的に学習に取り組む生徒がふえた。また、繰り返しの学習の取組みで、基礎基本の定着が進んだ。しかし、自分の考えや思いを発信したり、学んだことを活用、応用する点で弱い部分が見られる。 二者面談の取組みや、業間の意図的な生徒との関わり、組織的な生徒の実態把握と指導方針の共有により、全体的に落ち着いた学校生活がおこなわれている。自分に自信が持てず、自己肯定感が低かったり、家庭環境や発達の問題から不安定になる生徒も見られるため、専門性に基いた指導が必要である。 | 1 教職員研修等、学校全体の指導力向上の取組みを通じた人材育成 2 基礎基本の定着と、主体的・対話的で深い学びのための課題解決型学習の推進 3 特別支援教育の充実 4 学校の組織的指導力の向上 |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として | 教育課程学習指導 ・主体的、対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり | ・ICT機器の積極的な活用 ・課題解決型学習の推進 ・学園授業研究会の実施と指導方法の改善 ・終SHR時の延長学習、教え合い学習での基礎基本の定着 | ○課題解決型学習に取り組むことで、他者の意見をふまえ、自分の思いや考えを発信することができた。 ○授業での電子黒板、タブレットの利用、オンラインでの集会等、ICT機器の活用が進んだ。 ○京丹後市や学園の授業研究会の取組みで授業改善が進んだ。 ○教え合い学習の取組みで、生徒同士、教師と生徒の学習を通しての信頼関係の深まりと基礎学力の高まりにつながった。 △学力の2極化が進む中、基礎学力定着の効果的な取組みを継続的に行う必要がある。 |
| | 生徒指導 ・いじめ、不登校の未然防止のための信頼関係づくりと丁寧な対応 ・生徒指導の3機能を生かした実践の推進と自尊感情の醸成 | ・業間の関わりや二者面談等、生徒との信頼関係を構築するための活動の推進 ・定例のいじめ防止対策委員会、生徒指導部会、教育相談部会で実態把握と組織的な対応や指導の方針立て ・いじめアンケート等、各種アンケートによる実態把握、早期発見、早期対応 ・人間関係づくりや自己肯定感を高める取組みの推進 ・ベテラン、中堅教員による学級経営や行事の取組みに関する研修 ・SC、SSW、その他専門機関を活用した指導と教職員の研修 | ○生徒との関わりやアンケート等で実態把握、情報共有を行い、生徒指導、不登校等に対する早期対応や指導を行った。 ○ベテラン教員による学級経営の研修で、指導のポイントを共有し指導力の向上と人材育成につなげた。 △多様化する生徒、複雑化する教育課題に対して、さらに組織的な対応や、専門機関の活用を推進していく。 |

| | | | |
|---------------|---|---|--|
| 健康（体育）・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 部活動の充実 ・ 保健、安全教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動や保健指導による健康的な体力づくりと基本的な生活習慣の確立 ・ 薬物乱用防止教室、性に関する学習、感染症予防等の指導による自分を守るための自律的な態度の育成 | <p>○情報モラル学習会は、生徒自身が自らの行動を振り返る機会となり、非常に効果的であった。</p> <p>△コロナ禍の行動制限により、生活リズムの乱れや体力低下が懸念される。継続して自律的な態度の育成に努める。</p> |
| 特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援に関する専門的な知識と指導法の習得 ・ 特別支援コーディネーターによる推進体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の指導助言や研修による、特別支援に関する理解と適切な指導法の習得 ・ 気になる生徒の状況を把握し、適切に対応するため、特別支援コーディネーターが、学年や分掌をつなぐ組織体制の推進 | <p>○気になる生徒の状況を定期的に交流し、一人ひとりであった対応や指導について共通確認を行った。</p> <p>△適切な対応や指導のため、研修や実践を通して、教職員の更なる知識や指導力を高めなくてはならない。</p> |
| 研修（資質向上の取組み） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修による指導力の向上 ・ 研修会への参加と伝達講習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決や指導力向上のための校内研修の実施 ・ 各種研修会への参加、専門機関との連携と本校教職員へのフィードバック | <p>○教育課題に応じて専門家を招いたり、校内の人材を活用したりして、知識と指導力を高める取組みを継続する。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> 1 授業研究会や課題解決型学習の取組みの成果を今年度のもので終わらせないよう、今後も継続した授業改善の取組みを行う。 2 基礎学力の定着、適切な人間関係による自尊感情、自己肯定感を醸成する指導を授業や学校行事、部活動等あらゆる教育活動の中でバランスよく行う。 3 現代の生徒の思いや悩みを的確に受け止められるよう、研修と実践を行い指導力の向上と人材育成に努める。 | | |

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|--|---|
| <p><久美浜学園> 指導の重点: 学力向上</p> <p>(1) 基礎・基本の徹底</p> <p>(2) 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり)</p> <p>(3) 家庭学習時間の確保</p> <p>◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前なのが当たり前でできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にす学校を目指す。</p> <p>◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。</p> <p>1 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上</p> <p>2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上</p> <p>3 不登校の未然防止と不登校(傾向)生徒の改善</p> <p>4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立</p> <p>5 新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」</p> | | <p>○校内行事の抜本的な再編成を断行し、教育活動相互の関連性と教育効果を優先した取組とした。「総合的な学習の時間」の発表は、生き方学習や丹後学、学級活動、合唱の取組などを、キャリア教育の視点で統合させた「キャリアフェスティバル」として開催し、地域の方にも講師で参加していただいた。</p> <p>○2年間にわたる授業づくりやICTに係る重点研究を、市教育フォーラムにおいて成果発表できた。</p> <p>○コロナ差別や中傷に関する人権教育を重点的に展開した。また、2学期には仲間を思いやったり、いじめを起こさない学級づくりの取組を行ったりすることにより、生徒の意識が変容した。</p> <p>△不登校の未然防止や個別の指導を継続したが、固定化、長期化が改善されず、出現率が増加した。関係機関との連携強化を含めた、さらなる未然防止の取組が課題である。</p> <p>△感染防止に係る措置により、部活動や朝練習の停止、各種大会の中止など、年間通して制限された活動となった。また、学校公開等の機会も減少した。</p> <p>○学校運営協議会の初年度の活動や方針を、市教育フォーラムでの報告や学校行事への支援・参加により、学校内外に発信することができた。</p> | <p>1 保幼小中一貫教育の一層の推進</p> <p>学園の教育目標に基づいた保幼小中一貫教育を一層推進することにより、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上や不登校の未然防止に努めるとともに、研究授業を含む全体研修や個別研修を充実させる。</p> <p>2 教職員の資質向上</p> <p>教員の人材育成に重点を置き、各コーディネーターがマネジメントし、各分掌を横断的に連結させることにより学校組織力を強化するとともに、日頃の実践や研修をとおして、個々の教師力の向上を図る。</p> <p>3 キャリア教育の充実</p> <p>学校運営協議会を軸とした地域連携を強化し、学園内、地域、高等学校と密接に連携したキャリア教育を充実させることにより、総合的な学習の時間のみならず、丹後学、道徳、進路指導、人権教育、各教科等において、自分のふるさとや持続可能な社会、進路や将来について考えさせる機会を意識的・総合的に設定する。</p> <p>以上、1～3を教職員の協働により複層的且つ具体的に展開し充実させていくことにより、学校全体の肯定感の醸成や望ましい生活環境の整備を進めていく。</p> |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題(自己評価) |
| <p>幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p> <p>教育課程 学習指導</p> | <p>◇根拠ある学力分析の上に立った学力向上・授業づくり・ICT活用の取組</p> <p>(1) 全教員による「主体的に学ぶ力を伸ばすための、ICTを活用した授業づくり」の展開</p> <p>(2) 保幼小中一貫教育を軸とした中学校教育の展開</p> | <p>◇学習指導要領完全実施に伴う授業改善と評価研究</p> <p>◇久美浜学園教育課程会議を軸とした「各期における確かな学力の定着を目指した学力向上プログラムの構築」</p> <p>◇数的評価が可能な各学年の学力検査における学力向上を目指した方策づくり</p> <p>◇「CBT調査システム構築・活用実証研究」と各教科におけるタブレットを活用した各種テストの開発</p> <p>◇保幼小中一貫教育についての再学習と協働した展開</p> <p>◇小学校英語専科・文科省理科専科による小中一貫の視点での学力向上及び生徒指導の推進</p> | <p>△全体的に学力は向上したが、教科や校種を越えた根拠ある学力分析と具体的手立ての立案、改善には課題が残った。</p> <p>○新中学校学習指導要領完全実施に伴う研修や説明を丁寧に行った。</p> <p>○ICTを活用した授業実践が大きく前進し、授業研究会も盛んに行われた。</p> |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| 生徒指導 | <p>◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題の解決に向けた取組</p> <p>(1) 「生徒指導の一体的展開」のための組織改編と強化</p> <p>(2) いじめの撲滅に向けた取組推進</p> <p>(3) 人権を尊重できる学校づくりの取組推進</p> | <p>◇生徒指導及び教育相談の機能を統合した、全教職員で不登校解消に取り組むための組織の再編成</p> <p>◇いじめ防止基本方針の理解の徹底と保護者への広報</p> <p>◇場面指導や聞き取りと、心に迫る組織的生徒指導との要素分離、生徒指導の三機能を踏まえた指導の展開</p> <p>◇同和問題や、ハラスメント、体罰、職場人権等、法令遵守に関わる事項や人権にかかわる研修の定期的開催</p> <p>◇生徒や教員の個人情報の掲載や連絡網の配付などの廃止、新たな「文書規定・個人情報保護ガイドライン」の策定等、個人情報の保護を徹底する取組</p> <p>◇ジェンダーに係る慣行の見直しと制服等の見直し</p> | <p>○穏やかで落ち着いて学校生活を送ることのできる環境が整ったことにより、学習に主体的に取り組むことができた。</p> <p>△別室指導が充実し、改善傾向の生徒も増加した一方で、新たに1年生の新規不登校の欠席が増加し出現率は横ばいの状況のまま推移した。</p> <p>○効率的に方針立てするための組織改革を行うとともに、個別のケース会議をもって対応にあたることができ、関係機関との連携やカウンセラーの支援要請などを円滑に行えた。</p> <p>○ジェンダー平等やLGBTQに関する指導が充実できたとともに、スラックスの導入など新年度に向けた制服改定を進めることができた。</p> |
| 健康(体育)・安全 | <p>◇新型コロナウイルス感染症感染防止の取組徹底及び健康・安全教育の充実</p> | <p>◇緊急時対応訓練の実施(土砂災害、火災、不審者、地震)</p> <p>◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニュアルの徹底</p> <p>◇健康・安全に関する教育の充実</p> | <p>○新型コロナウイルス感染症に係る感染防止の取組を教職員及び生徒が一体となり、タブレットによる毎日の健康観察や消毒作業などを日常的に徹底することができた。</p> |
| 特別支援教育 | <p>1 校内指導体制の機能化</p> <p>2 特別に支援を要する生徒に対する個に応じた指導の充実</p> | <p>◇アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援の実施、自立活動に係る研修充実</p> <p>◇支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積</p> <p>◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談</p> <p>◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化</p> | <p>○コーディネーターが中心となり、諸計画書類等の整備や校内研修などを進めることができた。</p> <p>○よさのうみ支援センターの巡回相談の活用などにより、特別支援教育の視点に立った生徒指導や学校教育の見直しを図ることができた。</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>◇キャリア教育の横断的展開と地域連携の強化</p> <p>(1) 学校運営協議会を窓口とした校内教育活動の展開</p> <p>(2) 危機管理の徹底と正常な教育活動の維持</p> <p>◇「新・チーム久美中」の組織力を発揮するための改革の断行</p> | <p>◇学校運営協議会を校内の教育活動の依頼・選定窓口とした地域人材の積極的な活用</p> <p>◇市民・町民に開かれた学校を目指した久美浜学園としての活動・成果の積極的発信</p> <p>◇地元の高等学校を身近に感じることのできる久美浜学園が協働した合同プロジェクトの推進</p> <p>◇危機管理の徹底と、ウィズコロナにおける正常な教育活動の維持・継続</p> <p>◇働きやすい職場と保護者・市民の信託に応え信用される学校づくりの取組</p> <p>◇生徒指導や学習評価など教育活動全般における、説明責任を果たせる根拠ある指導の徹底</p> | <p>○久美浜学園の夏季全体研修会のテーマをコミュニティ・スクールに置き、講義や学校運営協議会や地元高等学校からの課題提起を行うことにより、地域に溶け込んだ今後の学校教育の在り方について全教職員が学ぶ機会となった。</p> <p>△コロナ禍において長期にわたって活動制限が行われたため、学校公開や諸関係団体との連携会議を行うことができなかった。また、学校行事についても保護者や地域への公開が困難であった。</p> |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <p>・「学びの保障」と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進</p> <p>・地域に貢献できる人材の育成を目指した「久美浜ならではの教育」と「開かれた教育課程」を進めるための戦略的カリキュラムマネジメントの推進</p> <p>・価値観の変化への対応と多様性へのさらなる寛容性を具現化するための教育活動の精選と新たな生徒指導及び教育相談の充実</p> | | |